公営住宅　２種中耐平和団地

９号棟新築工事

図面リスト

NO.	図面名称	SCALE
	(意匠)	
A－1	表紙	—
2	図面リスト	—
3	工事仕様書(1)	—
4	〃 (2)	—
5	〃 (3)	—
6	全体配置図，附近見取図	1:500 1:10000
7	配置図，仮囲1図	1:300
8	面積表(1)，住環構成表	1:200
9	面積表(2)	〃
10	建物概要，仕上表	—
11	内部仕上表(身障者住戸タイプ)	—
A－12	平面図，屋根伏図	1:100
13	立面図，断面図	〃
A－14	平面詳細図 (2DK－A)	1:30
15	〃 (2DK－B)	〃
16	〃 (2DK－C)	〃
17	〃 (身障者住戸)	〃
18	〃 (3DK－C)	〃
19	〃 (3DK－E)	〃
A－20	断面詳細図 (1)	1:30
21	〃 (2)	〃
22	〃 (3)	〃
23	〃 (4)	〃
24	〃 (5)	〃
25	〃 (6)	〃
26	〃 (7)	〃
27	〃 (8)	〃
28	〃 (9)	〃
29	〃 (10)	〃
A－30	展開図 (2DK－A・B) (1)	1:50
31	〃 (2DK－A・B) (2)	〃

NO.	図面名称	SCALE
A－32	展開図(2DK－C)	1:50
33	〃 (身障者住戸)	〃
34	〃 (3DK－C) (1)	〃
35	〃 (3DK－C) (2)	〃
36	〃 (3DK－E)	〃
A－37	床伏図，天井伏図(2DK－A)	1:50
38	〃 (2DK－B)	〃
39	〃 (2DK－C)	〃
40	〃 (身障者住戸)	〃
41	〃 (3DK－C)	〃
42	〃 (3DK－E)	〃
A－43	階段詳細図	1:50
A－44	建築案内図	1:100
45	建具数量表 建具表(1)	1:50
46	建具表(2)	〃
47	〃 (3)	〃
A－48	特殊詳細図(1)	図示
49	〃 (2)	〃
50	〃 (3)	〃
51	〃 (4)	〃
52	〃 (5)	〃
53	〃 (6)	〃
54	〃 (7)	〃
55	〃 (8)	〃
56	〃 (9)	〃
57	特別〃	〃
A－58	パネル伏図 (2DK－A) (1)	1:50
59	〃 (〃) (2)	〃
60	〃 (2DK－B) (1)	〃

NO.	図面名称	SCALE
A－61	パネル伏図 (2DK－B) (2)	1:50
62	〃 (2DK－C) (1)	〃
63	〃 (〃) (2)	〃
64	〃 (身障者住戸) (1)	〃
65	〃 (〃) (2)	〃
66	〃 (3DK－C) (1)	〃
67	〃 (〃) (2)	〃
68	〃 (3DK－E) (1)	〃
69	〃 (〃) (2)	〃
A－70	給排図(浴室ユニット) (1)	1:10, 1:20
71	〃 (〃) (2)	〃
72	〃 (〃) (3)	1:20
73	〃 (〃) (4)	1:1
74	〃 (〃) (5)	1:20
75	〃 (〃) (6)	〃
A－76	把申課スリーブ図	1:20 1:2
		1:100

NO.	図面名称	SCALE
	(構造)	
S－1	一般共通事項	—
2	ボーリング柱状図	—
3	杭・基礎伏図，1~3階床伏図	1:100
4	屋根伏図	〃
5	基礎配筋図他	1:40
6	床版配筋リスト，壁詳細図	〃
7	床版配筋詳細図	〃
8	壁平面配筋図 (2DK－A)	〃
9	〃 (2DK－B・C)	〃
10	〃 (身障者住戸)	〃
11	〃 (3DK－C)	〃
12	〃 (3DK－E)	〃
13	壁配筋詳細図(1)	〃
14	〃 (2)	〃
15	〃 (3)	〃
16	〃 (4)	〃
17	〃 (5)	〃
18	〃 (6)	〃
19	〃 (7)	〃
20	〃 (8)	〃
21	〃 (9)	〃
22	〃 (10)	〃
23	階段配筋詳細図他	〃

工事仕様書

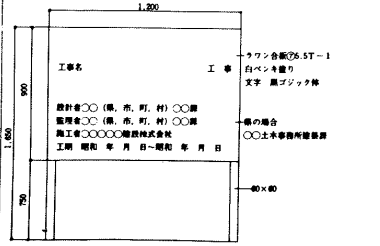
1．建築工事の仕様書は公共住宅建設工事共通仕様書（昭和57年度版）の該当箇所及び追加項目を適用する。
2．共通仕様書のうち、特記によるものと、その他必要な事項を特記事項とする。
3．特記事項を適用するもの。　昭和57年度公共住宅建設工事共通仕様書を補足する。
(1) 項目は番号に○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項は、◉印のついたものを適用する。
　◉印と9印のある場合は●印のあるものを適用する。
　◉印と◎印のある場合は●に適用する。
(3) 施工管領者、施工図、留置通礼の納期日は監員の指示による。
4．前金払
　契約金額 100万円以上の工事にあっては、10分の4を超えない範囲内に額り前金払を請求することができる。
5．部分払
　本工事で前金払を行ったものについては部分払は1回、前金払がなされていないものは2回を越えて部分払をすることは出来ないものとする。
6．部分払対象品目
　工事現場に搬入した工事材料のうち次のものは部分払の対象とする。（ただし、監督職員の検査に合格したものであって、確認写真及び出来高等の確認があるものに限る。）
　1．仮設工事　2．土工事　3．地業工事　4．コンクリート工事　5．型枠工事　6．鉄筋工事　7．鉄骨工事　8．既製コンクリート工事　9．防水工事　10．石工事　11．タイル工事　12．木工事　13．金属工事　14．左官工事　15．建具工事　16．塩具工事　17．内外装工事　18．仕上げユニット、その他工事　19．PC工法による工事　20．外構整備工事
7．工事着手から工事完成まで大気汚染に留意すること。

1章 一般共通事項

①	1．1．2	設計図書	設計図書の優先順位：現場説明書、特記仕様書、設計図（標準図以外のもの）、設計図（標準図）、設計書、仕様書
②	1．3．1	足場・その他	3節 仮設物その他 2．足場、残橋、リフトなどの設置：※建築工事
③	1．3．4	監督員事務所	監督員事務所の規模、仕上げ、備品など：• 1号（10㎡程度） • 2号（20㎡程度） ○3号（35㎡程度） • 4号（65㎡程度） • 設けない

名称	仕上げその他
床	板張り又はビニル床タイル張り
内壁・天井	合板又はせっこうボード張り、合成樹脂エマルジョンペイント塗り
扉	着色鉄板又は鉄板張り調合ペイント塗り
休憩室	畳敷き

監督員事務所には、監督員の指示を受け、電灯、給排水その他設備を設け、必要に応じて下記の備品などを置く。
• 机・いす • 書だな • 黒板・個団板 • 掲示針・寄せ針
• ゴム長ぐつ • 雨がっぱ • 保護帽 • 懐中電灯
• 加入電話の付属電話機（調査省が、本電話線を設置する場合）
• 女個ロッカ・暖房器・消火器・救急具・掲示具

④	1．3．5	調兵者事務所その他	3．表示板の大きさなど（色・書体）： 
⑤	1．7．1	記録	7節 記録 3．工事記録写真の撮影時期、箇所など：下記のものを監督員に提出する。

区分	分類・規格	部数	部板の大きさ（mm）
着工前及び工事中	モノクロームサービス版	1部	84×36以上
完成時	◉カラー • 学乳版	• 2部・3部	• 90×120以上
	• キャビネ版	• 2部・3部	
	○サービス版	• 2部・3部	• 84×36以上
	• 4ツ切	• 2部・3部	• 45×60以上
	カラースライド	1部	84×36以上

章	項	目	特記事項（適用箇所）
	⑥	1．7．2 しゅん工図その他	◉柱、柱、床配筋等の拡大写真は全景を撮影し、拡大写真の位置が確認できるものとする。 ◎拡大写真は寸法の確認を容易にするため、鋼、鋼及び高さの寸法が1枚の写真で判定できるようスケールを添え、明瞭に撮影する。 ○配筋の拡大写真は鉄筋の被覆を確保したのち撮影する。 ◎部分払い請求の場合、出来形写真（外部2面、内部 面）を提出すること。 ◉完成写真は全景を2面（南東、北東）撮影し、カラー写真（75× 110） ◎完成写真の室内写真は各室内を（ 面）撮影し、カラー写真（サービス版）を提出する。 ◉特殊図面写真説明各用は対称物の全景を撮影し、カラー写真（75× 110）を2部提出する。 ◎地盤工事の工事写真は各工事場所毎に撮影（団地名、街水名、寸法を表示）し、カラー写真（サービス版）をアルバム作成の上、1部提出する。[illegible] しゅん工図の内容：※必要 • 不要 しゅん工図の種類：• 配置図 • 屋外附帯図 • 全体配置 • 平面図 ※給排水衛生ガス設備図 • 電気設備図 • 図面作成：• 監督員の指示を受け、指定された用紙に書き、部図を提出する。 •
1 一般共通事項	①	1．1．2	1節 一般事項 設備工事、電気設備工事、機械設備工事などが別契約の場合の工事区分 設備工事との取合 施工範囲（下記の通り） ※鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型わく、及びスリーブ ※壁、天井の仮込箇所の下地材 これらの補助は、標準詳細図などのとおりとし本工事とする。なお、細部については監督員の指示による。
2 仮設工事	①	2．2．2	2節 掘削り、やり形、足場その他 ベンチマークの設置方法：※コンクリート杭 • 鋲定物 •
	②	2．2．4	縄張図：※3節による。
	③	仮設物その他	
	④	工事用水	雨内既存の施設 • 利用できる（※有償 • 無償） • 利用できない
	⑤	工事用電力	雨内既存の施設 • 利用できる（※有償 • 無償） • 利用できない
	⑥	仮設間	◉要 • 不要
	⑦	仮囲い、ネット囲	◉要 • 不要
		保護ネット、シート	◉要 • 不要
3 土工事	①	3．3．3	2節 掘り切り及び埋戻し
	②	埋戻し及び盛土 3．3．6 不用土処分	1．1階床下の盛土：※掘り切り発生土 ⑦ • 高砂土⑦ 地下室などの埋戻し土：※掘り切り発生土 • 高砂土 不用土処分：※監督員と協議し、敷地内に処分 、 • 場外自由処分 • 場外指定地処分
4 地業工事	①	4．1．1	1節 一般事項 4．試験杭：※打込み杭の中最初の1本は試験杭と兼用 図 [illegible] • 国示の 径 本、L＝ 22 m、ター 300 mm プレボーリング掘削深さ GL－ m
	②	4．2．2 一般事項	試験個所の選用：• する ◎しない
	③	4．2．4 材料	載荷試験の選用：• する ◎しない

2．国示の 60 本、L＝ 20 m、ター 300 mm
プレボーリング掘削深さ GL－ m

くいの種類	規格・材質など	長さ(m)	断面寸法(mm)	長期設計支持力 t/本	継手及び端手形状	先端部形状及び補強
• 遠心力鉄筋コンクリートくい	JIS規格品 ※1種・2種				※なし ○あり	※標そく形 • ( )
◎プレストレストコンクリートくい	JIS規格品 ※A種・B種・C種	20	300Φ	35t/本	※標準式 • ( )	※標そく形大人形 • ( )
• 高強度プレストレストコンクリートくい	プレストレス鋼材 ( )					
• 鋼管ぐい	※2種(STK41) • ( )				※あり（4.2.2図4.2.2表による） • なし	※開放管（4.2.1図及び4.2.1表による） • ( )
• H形鋼ぐい	※2種（SS41） • ( )				※あり • なし	

④ 4．2．5 杭打ち試験
⑤ 4．2．6 支持力の算定
⑥ 4．2．7 工法
⑦ 4．2．8 継手
⑧ 4．2．10 施工精度
9 その他工法
10 4．3．3 例例
11 4．3．4 試験個所及び支持地盤の確認
12 4．3．5 工法
13 4．3．7 継手

① 試験杭の位置、杭の個数、寸法：※図面による •

支持力の算定：※昭和66年1月29日建設省告示第 111号

(1)施工法の種類：◎直打工法 • プレボーリング併用工法
　プレボーリングの深さ：• GL－ m（オーガー径 mm）
(2) ハンマーの種別、容量：※ジーゼルハンマー • 13型 • 22型 • 25型 •
　やぐら：※3点支持クローラークレーン •
① 杭の継手の工法：※アーク溶接による継杭継手
5．掘杭の現場継手の形状：掘管杭の場合 ※4．2．2図及び4．2．2表 •
施工精度：[illegible]
　図示による

3節 埋込み杭（セメントミルク工法）地業

1．杭 例：[illegible]
2．セメント[illegible]
3．試験掘削：[illegible]

(1) 施工責者：•
※4．2．3による

章	項	目	特記事項（適用箇所）
5 コンクリート工事	①	5．1．2 設計基準強度	1節 一般事項 普通コンクリート

設計基準強度Fc（kg／cm²）	適用箇所
※ 210	
• 180	
•	

	②	5．1．3 コンクリートの普通種別	普通種別：※Ⅰ種 • Ⅱ種 5．1．1表
	3	5．1．4 軽量コンクリートの種別	軽量コンクリートの種別：• ※1種 • 2種 設計基準強度Fc（kg／cm²）：※150 • 180 • 210 所要気乾単位容積重量：
	④	5．2．1 セメント	2節 材料 セメント：※普通ポルトランドセメント • 混合セメントのA種 • 早強ポルトランドセメント
	⑤	5．2．2 骨材	2．骨材の品質 (6) 細骨材の塩分含有量の限度：※0.04%以下 • 0.04を越え 0.1%以下のものは監督員の承諾を得て使用できる。
	⑥	5．2．4 混和材料	混和剤：※コンクリート個造所の仕様 AE剤又はAE減水剤標準形 • AE剤 個造所 竹本油脂（チューポールC）山宗化学KK（ヴィンソル） • AE減水剤 • 山陽国策パルプKK（サンダーK）日本シーカKK（プラスチリットNC）日曹マスタービルダーZKK（ポゾリス№70）個武薬品工業KK（パリックS）竹本油脂（チューポールEX）
	⑦	防錆剤	混和材：※フライアッシュ（JIS A 6201） • （ ） • 使う ○使わない 個造所
	⑧	5．3．2 単位セメント量など	3節 調合一般 3．混和剤の種類：※3の1に(2) •
	⑨	5．3．4 空気量	所要空気量：※普通コンクリートは4％ • ※軽量コンクリートは5％ •
	⑩	温度補正	※要 • 不要。
	⑪	5．4．3 レデーミクストコンクリートの呼び強度の選定	4節 レデーミクストコンクリート 1．レデーミクストコンクリートの種別：※JIS A 5308の標準品 ◎特注品
	12	5．8．1 締固め	8節 寒中コンクリート
	13	5．8．6 養生	2．寒中コンクリートの適用：
	⑭	5．9．2 材料	2．初期養生 (2)初期養生期間：※5.8.2 表により定め、養生打切りは、5.8.5 の1による試験を行って…
	⑮	5．9．3 設計基準強度	9節 鉄筋コンクリート 1．捨てコンクリート、防水押さえコンクリートの組骨材の最大寸法：※25mm

2．設計基準強度：

種別	設計基準強度Fc（kg／cm²）	適用箇所
◎A種	180	土間、掘石、側溝、間知石積みの基礎
◎B種	150	捨てコンクリート、配管埋設コンクリート、防水押さえコンクリート

	○		11節 コンクリート仕上げなど
	16	5．11．5 塗装、吹付け及び張り下地	1．コンクリート面の処置：※5.11.2表
6 左官	①	6．2．1 塗仲及びモルタル	2節 材料及び調合 2．モルタルの種別：• A種 ※B種 6．2．1表

	14	施工精度	※4．2．10による
	15	4．4．4 材料その他	4節 場所打ちコンクリート杭地業 1．鉄筋 (1) 異形鉄筋の種別：※SD 30 • SD 35 2．コンクリート (1) (2) 水セメント比などの種別：• A種 • B種 ※普通工法の場合の水セメント比などの種別：• A種 • B種
	16	4．4．6 工法	掘削の工法：• アースドリル工法 • リバース工法 • オールケーシング工法 • 深礎工法
	17	その他	掘削深さ（m） •
			断面寸法（m） •
			長期設計支持力（t／本） •
	18	4．4．8 施工精度	4．2．10による。
	19	4．5．2 一般事項	5節 杭の載荷試験 2．載荷重（最大荷重） • 載荷方法 • サイクル数 • 3．試験杭の位置 • 図面による 放置期間 ※放置期間は1L (2)、(3) •
	20	4．8．1 材料	8節 捨てコンクリート地業 1．コンクリートの種別：• A種 ※B種 •135kg／㎥ 5．9．1表 2．コンクリートの厚さ：※60mm ◎（ ）
			9節 玉石、割り石コンクリート地業
	21	4．9．1 材料	2．• A種 ※B種

枠工事	①	6．2．2 組立て	8．打放しコンクリートの出隅部分の面取り材の形状：※監督員の指示
	②	6．3．1 型枠の取外し	3節 型枠の存置期間
	④	6．3．2 支柱の盛りかえ	2．型枠の最小存置期間：※6.3.1 表及び6.3.2 表
			1．支柱の盛りかえ：※各上階において、底版下及び小梁下の支柱に適用する

7 鉄筋工事	①	7．1．1 異形鉄筋	1節 材料

種類	種別	径（mm）及び使用箇所
異形鉄筋	※SD30	D10～D19
	• SD35	
	•	

7．1．1表

種類	種別	径（mm）及び使用箇所
丸鋼	※A種	
	• B種	

	②	7．1．2 丸鋼	

形状	◎正方形 • 長方形
寸法	• 50 • 75 ◎100 • 150 •
鉄線の径	• 2.6 • 3.2 • 4.0 • 5.0 ◎6.0 •

	③	7．1．3 溶接金網	
	⑥	7．2．1 組立	2節 加工及び組立て 4．鉄筋の継手：※重ね継手 • ガス圧接（径 19mm以上）
	⑤	7．2．2 鉄筋のかぶり厚さ	作業者の技能資格、：• NAK1種、※NAK2種、• NAK3種 2．7.2.5 表以外で耐久上不利な箇所及びその最小かぶり厚さ：•
	6	7．2．3 柱	3．型分を含む骨材を使用する場合のかぶり厚さ：• 表面仕 40mm
	7	7．2．4 大梁	2．型枠 (1) 種類：•
	8	7．2．8 壁	(2) 型面の組立ての形の種別：※(4)、(6)、(9)
	9	7．2．9 床版	1．大梁面の勾配と定着 (1) 一般事項 (6) 張にハンチをつける場合の傾斜：※1：1
	10	7．2．10 梁貫通孔の補強	2．あばら筋、腹筋及び幅止め筋 (1) あばら筋：•
			4．壁開口部の補強 (1) 壁開口部の補強：※7.2.7 表A形
			3．はね出し床版の場合の配筋：※(1)、(2)、(3)
			(1) 一個部分の主筋の径、本数：•
			(2) 出隅部分の主筋の径、本数：◎ よD13－5本
			5．その他の補強
			(3) 土間コンクリートに補強筋を入れる場合の形：• A型
			梁貫通孔の補強：※示による。

8 鉄骨工事	①	8．1．4 施工精度	1節 一般事項 施工精度：※日本建築学会制定の「鉄骨工事精度基準」による
	②	8．2．1 鋼材	2節 材料 1．鋼材の材質、JIS マーク表示品の指定：

材質	※SS41 •
規格	※JIS規格品 • JIS規格適合品（※試験を行う） • 試験を行わない

	③	8．2．2 高力ボルト	3．特殊高力ボルト (1) 特殊高力ボルトの種類：• ( )
	④	8．2．3 溶接材料	セットの種類など：※JIS型の2個同等（F10T）
	⑤	8．2．6 ターンバックル	2．鋼杭ネストの製造所： 1．ターンバックルの例：※JIS A 5541の1種 • 2種
	⑥	8．5．9 溶接完了後の検査	5節 溶接接合 1． (4) 放射線試験、マクロ試験：※行わない • 行う
	⑦	8．7．2 ボルトの締付け及び埋込み	(5) (4) 超音波探傷試験：※行わない • 行う
	⑧	8．7．4 柱底ならし仕上げ	(5) 検取率、検取方法：※(1)、(2)として標準仕様 •

7節 アンカーボルト

2．ボルトの締付及び埋込み工法：• A種 ※B種 • C種 8．7．1表
3．柱底モルタルを無収縮モルタルとする場合の無収縮モルタルの製造所：
4．ならしモルタル工法：• A種 ※B種 8．7．2表

9節 鉄筋コンクリート造

9 既製コンクリート	①	9．1．2 材料	1節 普通コンクリートブロック積み（壁造） 1．ブロック

種別	◎C種開発品 • C種適合品
厚さ（%）	◎ 100 • 120 • 150 • 190

	②	9．1．5 コンクリートの調合	3．鉄筋：※異形鉄筋のSD30 • SR24 • 2．設計基準強度（Fc）：※180kg／㎠
	③	9．1．6 施工	3．各部の施工 (1) 壁の配筋：※9．1．4参

2節　補強コンクリートブロック積み（耐力壁）

ブロックの厚さ（%）：　•C種 150　•C種 190　•

3．各部の配筋
(1) 壁の配筋：　※9．1．4表
(2) 交差部，端部（開口部を含む）の配筋，取合い部：　※9．2．1図
4．まぐさの配筋：　※9．1．7図，9．1．5図

2節　アスファルト防水

種別：　•屋根保護防水層（密着工法）　•屋根保護防水層（絶縁工法）　•屋根露出防水層（絶縁工法－1）　•屋根保護防水層（絶縁工法－2）　•断熱防水工法

2．アスファルトフェルト：　※30kg品　•40kg品
アスファルトルーフィング：　※35kg品　•45kg品
6．アスファルト：　※屋根防水は3層，地下防水は1層又は3層　•
8．砂付きルーフィング：　※JIS A 6007の440kg品
屋根が無機質の砂付きルーフィング：
屋根が合成繊維の砂付きルーフィング：

1．押さえコンクリート
(1) コンクリートの種別：　•A種　※B種　5．9．1表
2．伸縮目地
(2) 伸縮目地の調査：　※構造25mmの合成樹脂発泡材の目地板…　•

1．材料
(1) 断熱材の厚さ，熱伝導抵抗，含水率など，
測に定める試験の適用：　•付則－1の試験を適用する　•適用しない
(2) 伸縮目地材：　※メーカー仕様　•

防水工事の施工については，10年間の保証書を提出すること。ただし，保証は充填書と施工業者の過等とする。

3節　塗膜防水

1．主材料：

4節　合成高分子ルーフィング防水

1．ルーフィング
(1) ルーフィングの製造所：
(2) ルーフィングの種類，厚さ：　•

5節　シーリング材

3．シーリング用材料の種別，目地寸法：　•A種　•B種　◎C種（石材用ノンワーキング）
※D種　•E種　•F種　10．5．1表
4．接着性試験の適用：　•する　•しない

2節　テラゾブロック張り

1．磨石の種類，大きさ：　※大理石の厚さ12mm以下，花こう岩で6mm以下…　•
製造所

3節　張　石　張　り

1．磨石の磨き仕上げ：　※細磨き（荒ずり）…　•
3．コンクリート
(2) 裏面等に使用する磨石の種類：　※花こう岩で大きさ4㎡以下　•

4節　壁石及び階段石

1．石の品質：　•1等品　※2等品　•3等品
2．仕上げの種類：　※粗磨き　•

5節　テラゾタイル張り

テラゾタイルの種類，形状，寸法：　•300形（　石）　•400形（　石）

1節　一　般　事　項

工法の種別：

工法の種別		
壁	外壁	壁	• 密着張り
			• 圧着張り
			• 改良積上げ張り
		ユニット	• 圧着張り
		タイル張り	• 改良積上げ張り
	内壁		• 接着剤張り
			• 圧着張り
			• 積上げ張り
		ユニット	• 圧着張り
		タイル張り	• 改良積上げ張り
			• 接着剤張り
床			• ドライタイプ（クリンカータイル…）
			◎ウエットタイプ（一般タイル…）

2節　陶磁器質タイル張り

1．タイルの形状，寸法：

陶工箇所	形状寸法(mm)	きじ	うわぐすり	その他
	• 25×25	磁器質	無	釉
一般壁	◎ 108×25	磁器質		ドンスサップ
保育用水飲場	◎ 100×100	磁器質		
	•			
	• 100×100	陶器質	陶	釉
	•			
	•			

2．役物の使用：
役物使用カ所

内　曲	※出隅　天端のみ使用
外　曲	※使用しない　•使用する

3．伸縮目地
(1) 伸縮目地の位置：　※具機構造部の取合い部，構造上の要所及び図示による　•
(2) 伸縮目地の寸法：　※幅10mm以上×深さ7mm以上　•
4．壁タイル
(9) 張掛り
ﾛｰﾀﾙﾀｲﾙの張付けモルタル：　※プレミックス（既調合）モルタル　•
(10) 試験掘り，接着力試験，抽取り検査：　※しない　•する

3節　陶磁器質タイル型枠先付け

種別：　•タイルシート法　•目地ます法　•桟木法

1．タイルのきじ質：　•磁器質　•せっ器質
3．タイル
(4) 色物：　•使う　•使わない
(7) ｷｰ ﾎﾞ板の種類：　※6．2．1表のB種又は金属製タイル先付け用パネル　•
(8) 伸縮（調整，8面接開）目地のシーリング用材料：（10．5．1表のC種）　•A種
•B種　•C種　•D種　•E種　•F種　10．5．1表
1．目地割り及び伸縮目地
(2) 伸縮目地の位置：　※12．3．3表…　•図示による
(4) 伸縮目地用シーリングの目地寸法：　※幅20mm以上，深さ10mm以上　•

4節　れんが積み

普通れんがの種類：　※1種　•2種　•3種

2．普通れんが積み
(1) れん積み：　※半枚積み　•

1節　一　般　事　項

1．13．1．1表　個種及び品等：　※各部の選定　◎磁器質（衛生陶器）
13．1．2表　製品規格，化粧厚様：　※ヘムロック，シトカスプールスの無節　•
2．個種の代用を認正する場合13．1．3表：　•
※変え掛り化粧材は仕上がりする法とする。
13．1．4表の接付け金物の接着剤：　※エポキシ樹脂系のもので，次の(1)，(2)…　•

防あり処理：　•する　•しない
製造所：
白あり防除工事については，5年間の保証書を提出すること。

11節　屋根野地，新張りその他

13．11．1表の（注）野地板に合板を用いる場合の材料：　※コンクリート型押用合板（JASの2種）　•

2節　表　面　処　理

3．鉄の亜鉛めっきの種別等

施工箇所	亜鉛めっきの種類	付着量の種別
	◎ A種	◎ A種　※ B種　（一面の付着量）
	• B種	• A種　※ B種　• C種
	• C種	亜鉛付着量（片面g／㎡）• 20・30・40・50

(3) 表面処理亜鉛めっき鉄板
(4) 亜鉛の最少付着量：　•
5．型枠ﾃﾞｰﾀ部の試験の適用：　•する　•しない

3節　長尺亜鉛鉄板ぶき

1．屋根よき形式：　•瓦棒葺（心木なし）　•平葺　•
2．屋根よき工法を定める専門業者：　•三晃金属工業㈱　•富士建工業㈱　•大興電材㈱
1．長尺亜鉛鉄板：　※着色亜鉛鉄板のコイル　•片面着色亜鉛鉄板　•両面着色亜鉛鉄板
•亜鉛鉄板
2．長尺亜鉛鉄板の厚さ：　•0．27　•0．3　•0．35　※0．4　•0．5　•0．6
5．下ふき材料（アスファルトルーフィング kg／21m）：　※22kg品　•35kg品　•45kg品
折板：　形状，折板の高さ（
材　　種：　※片面着色亜鉛鉄板　•両面着色亜鉛鉄板　•亜鉛鉄板
亜鉛鉄板の厚さ（mm）：　•0．8　•1．0　•1．2　•1．6
軒先面戸：　※あり　•なし
軒先フレーム：　※あり　•なし

4節　と　い

1．といその他の材種　•配管用鋼管　※硬質塩化ビニール管（VP）
•硬質塩化ビニール管（VU）　14．4．1表
2．とい受け金物：　亜鉛めっきを行った鋼板とし，14．4．2表及び14．4．3表　※ステンレス製
1．端どい受け金物の形式：　丁番作り…　•ステンレス　SUS304

1．端末：　※冷間締合，被着剤を用いる

2．防　露
(1) 防　露：　※14．4．4表
(2) 断熱層の厚さ：　※20mm
雨樋口の位置：　•設けない　※設ける（図示）

小林鉄機㈱　ネオソン㈱　㈱屋根作所　第一機材㈱　㈱長谷川鉄工所　関西鋼板㈱
VP管のオススメ理由(例)　ホタルVP管(ホタル)　7つの理由(例)
5節　硬質塩化ビニル管下地

2．スタッド，ランナーの種類：　※14．5．1表　•

6節　硬質塩化ビニル天井下地

2．野縁などの種類：　※14．6．1表の室内は19形，屋外は25形　•

7節　雑　金　物

2．材料及び工法
1　材料の種別，寸法形状，表面処理：　◎アルミ合金製
手すり取付け方法：　※BL製品，及びBL製品以外，共に固定はアンカー方式とし，施工前の承認を得ること。
材料及び工法
(1) 材料の種別：　※ステンレス鋼　•鋼　SUS304
(2) 表面処理：　•A種　•B種　14．2．1表
1．材種，形状，寸法など：　◎ステンレス鋼（SUS－304）　•
•ビニールタイヤ又は合成ゴム入り　•タイヤなし　•
•中
1．材質，形状，寸法：　※ステンレス日地棒4mm×12mm（並行）　•

材質，寸法，形状，施工箇所：　※ステンレス鋼　•アルミニューム　•
コーナピース　高さ：　※1800まで　•天井まで
材質：　※アルミ鋳　•アルミダイキャスト鋳　•
形式：　◎回転型物干金物（可動式）
•固定型物干金物　（固定式）

2節　モルタル塗り

4．塩分含有量：　※0．04%以下　•
6．保水剤は，12．2．1の7の2による。
2．保水剤の製造所：　石膏壁塗KK（石膏）KK日本セメント防水剤製造所（ウォータイトB剤）
ベストンKK（ベストンB）マダナ工業KK（マダナー塗2号）KK油脂
化工社（マノール防水用）KKイノウエポンド（新ジストン）大阪防水
防水モルタル塗りについては，元請業者と工事保証書者連帯による10年間の保証書を提出すること。

5節　人造石塗り

2．磨石の種類：

仕上げの種類	磨石の種別	施工箇所
•とぎ出し	カナリヤ，寒水，錦文…	
•洗出し	•	
•小たたき類	•	

5．目地の有無：　•あり　•なし

6節　現場テラゾ塗り

※15．5．1による。

7節　各種吹付け

3．補修シーリング用材料：　•A種　•B種　•C種　※D種　•E種　10．5．1表

JISA6915硬練品

塗付工法	塗さ（mm）	目地の種類	上塗材
※吹付工法	※ 5 •	• 吹放し　• 凸部処理	• 光沢　• つや消し
• こて塗り工法	※ 8 •	• ひき起し　• 凸部処理	• 光沢　• つや消し

2．材料
(1) 種別：外部用　◎A種　•B種
内部用　•A種　•B種
2．材料
種類：　•E　•RE　•C　•RS　15．7．8表
3．仕上げなど
仕上げ材塗りの種別：　•メタリック　•光沢　•つや消し
1．適用箇所
(2) 種類及び吹付け厚さ：　※吹付け厚さ5mm
•セメント系　•粘着材系　•合成樹脂エマルション系

2節　塗地ごしらえ

鉄面の素地ごしらえ：　◎A種　※B種

4節　合成樹脂調合ペイント塗り（S，O，P塗り）

亜鉛めっき面の塗り工程　16．4．3表
（注）1．工程2の種別：　◎A種　•B種　•船舟さび止めペイント
•塩化ゴム樹脂ペイント
•塩素化クロム酸鉛さび止めペイント
•シアナミド鉛さび止めペイント
鉄部の塗り工程：　16．4．2表

塗料	摘要
•船舟さび止めペイント（•1種，•2種）	鉄骨鋼造物，屋外用鉄きく，手すり，タンクの類
•亜鉛化鉛さび止めペイント（•1種，•2種）	
•塩素性クロム酸鉛さび止めペイント（•1種，•2種）	
•シアナミド鉛さび止めペイント（•1種，•2種）	

5節　クリヤラッカー塗り（L，C塗り）

塗り工程：　•A種　※B種　16．5．1表

7節　塩化ビニル系塗料塗り（V，E塗り，A，E塗り）

2．塩化ビニル樹脂エナメル：　※JIS K 5582の1種　•2種　•3種

10節　有光沢合成樹脂エマルションペイント塗り（G，P塗り）

材料の製造所：（株）神東塗料　アロ樹脂(例)

11節　マスチック塗材ローラ塗り

2．材料の製造所：

1．

種別	•A種　•B種　•C種
工種3の仕上材の種類	•複層形　•エマルション形
凸部処理	•凸部処理をする　•しない

1節　一　般　事　項

1．防火戸の指定：　•

2節　アルミニウム合金製建具

2．アルミニウム合金製建具：　※BLマーク表示品　◎BL製品とする
1．17．2．1表のその他の材料
小ねじ：　※JIS G 4303のSUS 305
木ねじ，ナット，リベットの類：　※JIS G 4308のSUS 305
1．性能の種別の区分：　17．2．3表

強さ（kg／㎡）	• A（160）	• B（200）	• C（240）	◎D（280）	• E（360）
気密（㎥／㎡・h）	• N	• A（120）	• B（30）	◎C（ 8）	• D（ 2）
水密（kg／㎡）	• N	• A（ 10）	• B（ 15）	• C（ 25）	◎D（ 35）	◎E（ 50）
耐風	• N	• A（ 25）	• B（ 30）	• C（ 35）	• D（ 40）
防火	• N	• A	• B		

8．水切り板の有無：　•有　•無
1．取付け
(2) 取付け方法：　※現場組付け　•現場先付け　•工場額作組先付け
3．網戸の使用方法による区分：　※外開納りの可動式　•
4．網の材質：　◎合成樹脂製　◎ステンレス製　•ガラス繊維入り合成樹脂製

3節　鋼製建具

2．鋼製建具（BL認定のあるもの）について：　※BLマーク表示品　•
◎BL認定鋼製建具にカバー(補助扉)を取付(例)、P5

4節　木製建具

2．合　板
(1)

材料	板	※ラワン　•国内産樹種　•
	芯	※17．4．2表

6．紙ようす面
(1) 在来ようすの開閉紙の仕上げ：　※17．4．5表のA種　•B種　•C種
17．4．5表
開閉寸の寸法：　•16．5×21（mm）
中骨の骨子の寸法：　•12×13．5（mm）
引手受，錠子の寸法：　•12×13．5　中3本（中1本は引き手上）（22）×13．5（mm）
引手受板の寸法：　•板厚13．5（mm）

5節　シャッター

1．シャッター　開閉機械による種類：　•上部電動式（手動併用）　※手動式
強度による種類：　•50　※65　•80
シャッターケース：　•露出る　•露出ない
ガイドレール　ステンレス鋼帯8．5mm（中柱は除く）
中柱（鋼製）内法高2．5m以上鋼管型
座板（外部）ステンレス鋼　2L－5×40×40
塗装：　※鋼材塗装　•電蝕塗装
操作スイッチ及び2次側配線は本工事に含む
強度による種類：　•30　※80　•
機能による種類：　•防火シャッター　•防煙シャッター
防煙シャッターは，自動閉鎖装置及び煙感知器連動とし，遮蔽制御盤及び煙感知器は別途とする。
シャッターケース（防火，防煙以外の場合）：　•露出る　•設けない
開閉機械による種類：　※上部電動式（手動併用）　•上部手動式　•下部手動式
操作スイッチ及び2次側配線は本工事に含む（簡易省令第2563号による）
8．材　料
2：
ガイドレール：　•
まぐさ：　•
座板又は座板の当み板：　•
開閉機（下部手動式）のカバー：　•
スイッチボックス類の材質：　•
12　電動シャッター　自動扉　電動シャッター，自動扉の施工範囲は下記による。
自動扉の電源スイッチ以降の配線工事（配管及び位置ボックスは別途工事とする）
電動シャッターの操作スイッチ以降，シャッター制御盤までの配線工事（配管及び位置ボックスは別途とする。）
機器付属の操作盤内に電動機保護用開閉器及び運用開コンセントを設置。

6節　建具用金物

14　5．丁番の寸法：　•開面による
7．マスターキー：　•不要　※要　　ケ所　•
コンストラクションキー：　※不要　•要　　ケ所　•
15　1．丁番：　※JIS A 5501の厚ロスチンレスヘアライン仕上げ…　•
寸法：　※開面による
2．ドアクローザ：　※BLマーク表示品（•1型　•2型）　•
16　建具金物　建具金物
ドアチェック：　※握持型　•機械型
◎ストップ付き　※ストップなし
ピボットヒンジ：　※わく付き　•床付き
17　製造所：　•BL製品

7節　ガラス

18　17．7．1　1．ガラスの厚さ：　※開面による

建具の種類	材質
鋼製	•パテ（※1種　•2種）シーリング材C種
アルミニウム製	•ガスケット　※シーリング材C種　•パテ（•1種　※2種）
ステンレス製	•シーリング材C種　•パテ（※1種　•2種）
木製	※パテ（木製建具，鏡具用ガラスパテ）

1節　一　般　事　項

19　内装　1　18．1．1　1．一般事項
補）個付け時の寸法が広い場合の施工：　※開造程の仕様による

外装工事

2節　塗形石綿スレート ぎ(外壁を含む)

1．スレート
(1)種類：種類　・大波　・中波　・小波　・リブ板
　　色　・大波　・中波　・小波　・リブ板
1．施工地域：　・仮乳地域（適用事内全域）
　・多雪地域（ボルト締めの工法は特殊フックとする。）（適用、北部地域）
3．出　調：　・

3節　壁　塗　装　(別途工事)

1．壁のＪＩＳ Ａ 5902の等級：　※ヘラ引き、2回　・
2．(2) 窯業系下地の種類：　※18．3．1 表　・
・壁は完成検査から1年以内に微型鋼、ダニ目（通称ケナミダニ）等発生した場合は直ちに徹底処理する。

4節　フローリングボード張り

2．種類、等級、寸法：　※18．4．1 表　・
4．塗装：　※オイルステイン着色のうえワックス塗り　・

5節　複合フローリング張り

1．天然水化繊複合フローリング：　※2の標準仕組　・
特殊加工化繊複合フローリング：　※3の標準仕組　・4の標準仕組　・

6節　ビニル床シート張り

1．

種　別	厚　さ　(mm)				色　柄
ビニル床シート　※住宅用　・一般用	・1.5	・2.0	◉2.5	・3.0	◉無地(ノンスキッド)　・織模

7節　合成樹脂系複合床材張り

1．現場の種類：　・A種　※B種

8節　ビニル床タイル張り

1．ビニル床タイル
(2)

種別その他	厚　さ　(mm)
※ビニル床タイル（半硬質）	※2　・3
ビニル床タイル（軟　質）	※2　・3

2．ビニル巾木：

材　質	厚　さ　(mm)	高　さ　(mm)
※軟質　・硬質	※2　・	・60　※75　・100

9節　合成樹脂塗り床

1．・弾性ウレタン塗り床　厚さ(mm)：　※2　・　18．9．1 表
　　表面仕上：　※平滑仕上　・防滑仕上　・つや消し仕上げ
　　製造所：
2．エポキシ樹脂塗り床　厚さ(mm)：　・
　　表面仕上：　※防滑仕上　・滑し製べり仕上げ　・レジンモルタル仕上げ
　　製造所：
(3) 補修ガラスクロス：　※補強EP-21A、積層数は1層　・

10節　石こうボード、その他のボード及び合板張り

3．普通合板
5．機能合板

材種	張り方	厚さ	工法
合板	生地のまま又は透明塗料塗りの場合 ※ラワン　・（　）	・2.7　・3 ・4　・5.5　・9　・12	・A種 ※B種
	不透明塗料塗りの場合、押入床　※しな　・（　）	・4 ・6　・9　・12	※B種

4．特殊加工化粧合板

工法	施工箇所	タイプ、厚さ
※A種　・B種		・W・BW・・2.7・3・3.2 ・4・4.2・4.8・5・5.5・6
※A種　・B種		・　・

6．化粧石こうボードの止付け：　※カラー釘　※ステンレス釘
・石綿けい酸カルシウム板の止付け：　・
・木毛板の止付け：　・
4．ボード類、合板などの張付け　18．10．5 表
(2)

材種	施工箇所	張り方	厚さ(mm)	工法
せっこうボード	壁	・下張り　※突付け	・9　・12	・A種※B種
		・上張り　・突付け　・目透し	・9　※12	・A種※B種
		・目地処理　テーパー付　・9　※12		
	天井	・下張り　※突付け	※9　・12	・A種※B種
		・上張り　・突付け　※目透し	※9　・12	・A種※B種
		・目地処理　テーパー付　※9　・12		
化粧せっこうボード		・突付け　※目透し	※9	・A種※B種
石綿セメント板（平　板）			・5　・6	・A種※B種
石綿セメント板（フレキシブル板）			・3　◉4　・6　・8	・A種※B種
石綿けい酸カルシウム板			・4・5◉6・8・10・12	・A種※B種
木毛セメント板			中級 ・20　・25　・30	
パーティクルボード			・10・12・15・18・20	
硬質繊維板			・3.5・5・7・9・12・15	

17 天井目地　※目地巾4～6mm、目地底紙テープ貼　・

11節　壁張り

施工箇所	品　質	規　定	耐火性能の識別
強化石膏（住宅、JIS A 6901		特定天井	・1級 ◉2級 ・4級
表面 断熱等			・1級 ・2級 ・4級
			・1級 ・2級 ・4級
			・1級 ・2級 ・4級

接着剤：　※標準仕様　・
製造所：
19 18．11．2　2．合板張り、石こうボードなどの裏目の処置：　※セメントフィラー　・
20 下地処置
クロス直貼工法　・壁等　・張り替クロス　・責任施工とする
製造所：

13節　カーペット敷き

3．タフテッドカーペットの種別：　・A種　・B種
7．下敷き材：　・
1．敷込み工法：　※グリッパー工法　・全面接着工法

14節　断熱及び防露工法

材料種別

材料種別	厚さ(mm)	備考
(3) フォームポリスチレンボードの種類：※ＪＩＳＡ9511の1号…2号・3号・4号	◉30◉35・50	
(5) グラスウール保温板の種類：※1号96K（24kg/㎥）	・25・40・50	
(7) グラスウールマットの区分：※48K区分Ⅱ	・45	
(8) ポリエチレンフィルム　・※1種（厚さ0.1mm）	・	

24 18．14．3　1．壁の工法：　・
工　法　3．工　法：　※標準(1)~(4)　・

15節　壁下パネル

25 18．15．2　1．木毛セメント板系：　※標準寸法、重量　・
材　料　2．木片セメント板系：　※同上　・
3．発泡プラスチック系の製造所：

16節　内装プレハブ工法

26 18．16．3　7．金属材料
材　料　(3) 鋼板の表面処理：　※ＪＩＳＨ8610の2種3級
27 18．16．4　製作、組立て及び工法：　製造所：

1節　浴室ユニット

① 18．1．1　2．浴室ユニットの製造所：　※ＢＬマーク表示品　（浴槽、FRP製基礎を含む）

タイプ	呼　称		
⊙A	⊙1116	・1117	・1216
・B	・1116	・1117	・1216

② 18．1．2　散水試験：　試験の適用：　・する　・しない
③ 18．1．3　試験の適用：　⊙する　・しない
④ 18．2．1　材料その他　カーテンレール　材質：・アルミニウム　※ステンレス鋼　SUS430
形状：⊙C型　・W型　⊙D型　・I型
⑤ 19．3．1　キッチンセビネット　流し台、コンロ台、つり戸棚、キッチンセビネット：　※ＢＬマーク表示品　・
⑥ 19．3．2　集合郵便受箱：　※ＢＬマーク表示品（　I型 5人用　）SUS304
⑦ 19．3．3　室名札及び掲示板その他

品　目	材　質	寸　法	形状その他
※室名札	プラスチック	270×130	公共住宅型　プラスチック SK602－P型　数字のり付
※掲示板	枠ステンレス 合板ラシャ貼又はOP塗	550×430	公共住宅型 SK 401型
・黒板	木製、枠・		下枠付、色ミドリ
※階数表示板	プラスチック 階数化粧文字	180φ	公共住宅型 SK601型ゼロ文字
⊙収納棚子	スチール 枠ステンレス、（国家検定合格品）	800×600	収納ハンガー、棚子　収納型
⊙タオル掛	ステンレスパイプ	・300φ 13φ ・300φ 9.5φ	ブラケット(ABS樹脂)付 SUS430
⊙水切棚	ステンレスパイプ	・W=900 2段用 ・W=1200 3段用	SUS304
⑨湯沸器取付板	木製	・国家による	OP
・洗面所鏡扉	ブラケットスチール製	200×150	ステンレスビス止め
⊙鏡　扉	(カンナ面仲)（バランス張仲) プレキャスト	250×250 345×235	
・床改メ口	鉄・アルミ製	※650×450 ・800×800	UP仕上とする
・屋上改メ口	・ステンレス製	・公開型 ※非公開型(P900×900)	
・パイプシャフト・機器点検口	・鋼板製	・400㎜パイプシャフト ・450㎜(機器型)	ｶﾁﾔﾏｰ(錠)6A-400ﾌﾟﾗｲﾏｰ30、6A-500ﾌﾟﾗｲﾏｰ30
⊙標　準	⊙標準による。		
・　・	モザイクタイル（陶器）	・国家による	壁面に2ヶ所タイル貼
⊙玄関風除室		・100㎡	玄関製作例(6帖) H.P 600×1274 2ヶ所 H.L 600×1274 2ヶ所
⊙五型レセプター		・100㎡	

⊙御玄関口　・200×300　※K-0812アサヒ同等品以上

4節　貫通孔その他

19 19．4．3　スリーブの材種：　・鋼管　・硬質塩化ビニール管　・亜鉛鉄板　・つば付き鋼管
材　料　※鉄テープ

20 PC工法による工事

1節　一　般　事　項

1 20．1．2　別契約工事の場合の工事区分：　※(1)送り2標準　・
調達監督工事　(2) 穴埋め：　・

2節　PC板製作に使用する材料及び部品

2 20．2．2　3．鋼材の材質：　・
鋼　材

3節　PC板の製作

3 20．3．8　2．タイル張り仕上げ
表面仕上げ　(2) 製造方法：　※先付け工法

4節　PC板の運搬及び組立て

4 20．5．6　2．PC板のき裂及び破損の検査時の判定並びに補修方法：　・
PC板組立て時の検査

5節　溶　接　接　合

5 20．6．6　溶接の水平ドライジョイントに用いる添えプレートの材質：　・
添えプレート
6 20．6．7　11．フレアグルーブ溶接の余盛：　・
溶　接　施　工　13．超音波探傷試験
(1) 試験の適用：　・

7節　ジョイント用コンクリート

7 20．7．1　1．設計基準強度：　※210kg／㎠　・
調合及び管理

8節　防　水　処　理

8 20．8．2　(1) ジョイント用テープ状シールの製造所：　・
材料及び工法　(2) 液状シール材の製造所：　・

21 外構整備工事

2節　舗　装　工　事

1 21．2．2　1．材　料
路　床　(1) 路盤等に用いる材料：　※川砂又は海砂
(2) 路上開削等に用いる材料：　・
2．工　法　・
(3) 盛土材料：　・
3．支持力比（CBR）試験の適用：　・する　※しない
2 21．2．3　1．材料の種別、呼び名：　※21．2．1表のクラッシャーランのC－40又はクラッシャーランスラグのCS－40
路　盤　4．支持力係数試験
(1) 支持力係数試験を行う場合、所要指示力係数：　・
(2) 支持力係数試験を行う場合、試験箇所数：　・
3 21．2．4　1．材　料
コンクリート舗装　(2) 冬季に施工する場合で早強セメントを用いる場合：　※使用しない　・
(5) 溶接金網の網目

形　状	・正方形	・長方形
寸　法	・50	・75　・100　・150
鉄線の径	・2.6	・3.2　・4.0　・5.0　・6.0

4 21．2．5　2．配合その他
アスファルト舗装　(1) 加熱混合物の種類：　※密粒度アスファルト混合物（13）
・細粒度アスファルト混合物（13）
3．工　法
(3) シールコートの適用：　※する　・しない
4．切取り検査
(1) コアの採取数：　・
(2) アスファルト混合物の抽出試験：　※しない　・
5 21．2．6　1．
平板舗装

種　別	・コンクリート平板	・カラー平板	・人工大理石平板（・床出し平板）
寸　法			

6 21．2．7　2．工　法
敷ぎょ、縁石及び側溝　(2) 平敷き
(4) 敷込み工法：　※砂で敷込む工法　・
1．材　料
(1)

種　別	形　状	呼　び
・側　溝	U　型	・150　・180　・240　・300A　・360A　・450　・600　・300B　・360B　・300C
・　・	L　型	・250B　・300　・350
・　・	V　型	
・コンクリート縁		※参車境界ブロック　・A　・B　・C
・　・		・地先境界ブロック　・A　・B　・C

(2) コンクリートの設計基準強度：　※5．9．1表の A種　・B種
(3) 塗装の材料：　※4．7．1 切り込み砂利又は切り込み砕石　・
ＪＩＳＫ5665トラフィックペイント溶着（ガラスビーズ15%展入）幅150　厚1.5mm
7 白線引き

3節　排　水　工　事

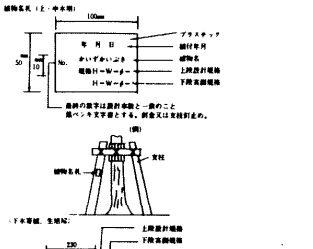
8 21．3．3　2．鉄　筋：　・A種　※B種　7．1．1表
材　料　4．排水管、その他：
・遠心力鉄筋コンクリート管　φ
・鉄筋コンクリート管　φ
・陶　管　φ
・硬質塩化ビニール管　φ
・陶　管　φ
・遠心力鉄筋コンクリート管の継手　・カラー接合　※ソケット接合
6．側溝の形状、寸法：　・
7．排水ます、ふたの種類

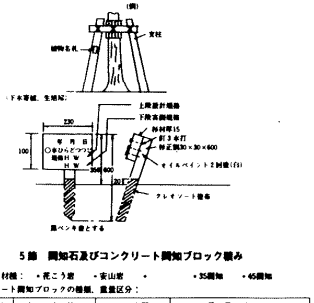
種　別	・排水ます・側溝用・集水用	・コンクリート製蓋	・グレーチング蓋	・鋳鉄製蓋	・
寸　法					

9 21．3．4　管　材　8．地盤の材料：　※4．7．1 切り込み砂利又は砕込み砕石
10 工　法　・タイヤマスの遊きは図示または現場に合せる。土留壁Bは水下管底より100とする。
1．一般事項
(4) 埋戻し土：　※根切り土の中の良質土　・

4節　植　栽　工　事

11 21．4．1　1．材　料
植　栽　(5) 植込み用土：　※現場発生土の良質土　・
2．工　法
(3) 支　柱
(イ) 種　類：　・三脚　・四脚　・鳥居脚　・布掛け　・
(ロ) 防腐処理：　※防腐剤塗り　・焼丸太
3．植木の移植
(2) 活着率：　・
4．補植規定
(1) 補植期間：　※引渡しの日から1年　・
保証書　・提出する
12 21．4．2　1．材　料
芝張り、吹付け法面　(1) 芝
その他　(4) 芝の種類：　※こうらい芝　・野芝
(6) 土壌改良用植物及び適用：　※する（　　）　・しない
2．工　法
(1) 芝張り
(イ) 工法：　※平地は目地張り、切り土のり面はべた張り、盛土のり面は筋芝張り
(ロ) 客土：　※する（厚100）　・しない
(2) 吹付け法面
(イ) 散性及び硬度の調定：　・する　・しない
(ロ) 種子の量：　・　g／㎡
(ハ) 養護管生：　※する　・しない
13 水　路　・舗装にあたって、品質、寸法、形状及び施設位置は監督員の承認を受けて施工する。
14 階　段　・舗装施工時、施工前の地面（法かず、段数、勾配）を打ち
15 階　段　・支柱のある場合には プラスチックプレート(白) に黒ペンキで樹木名を記入して街止めのこと。
・支柱のない場合には上記プラスチックプレート(白) を杭に街止めとする（下図参照のこと）





5節　間知石及びコンクリート間知ブロック積み

16 21．5．2　1．間知石の材種：　・花こう岩　・安山岩　・　・35間知　・45間知
材　料　3．コンクリート間知ブロックの種類、重量区分：

形　状	高さ×巾×控え	kg／個	重量区分
※長方形			A
・正方形			A
・正六形			A

4．地盤の材料：　※4．6．1 割り石　・玉石　・砂利
17 21．5．3　5．基礎コンクリート：　※A種　・B種　5．9．1表
工　法　高込みコンクリート：　※A種　※B種　5．9．1表
3．
(2) 積み方：　※谷積み　・布積み　・　・練り積み　・から積み
(3) 目地切：　・する　・しない
(11) 伸縮目地の材種：　・
厚さ：　・

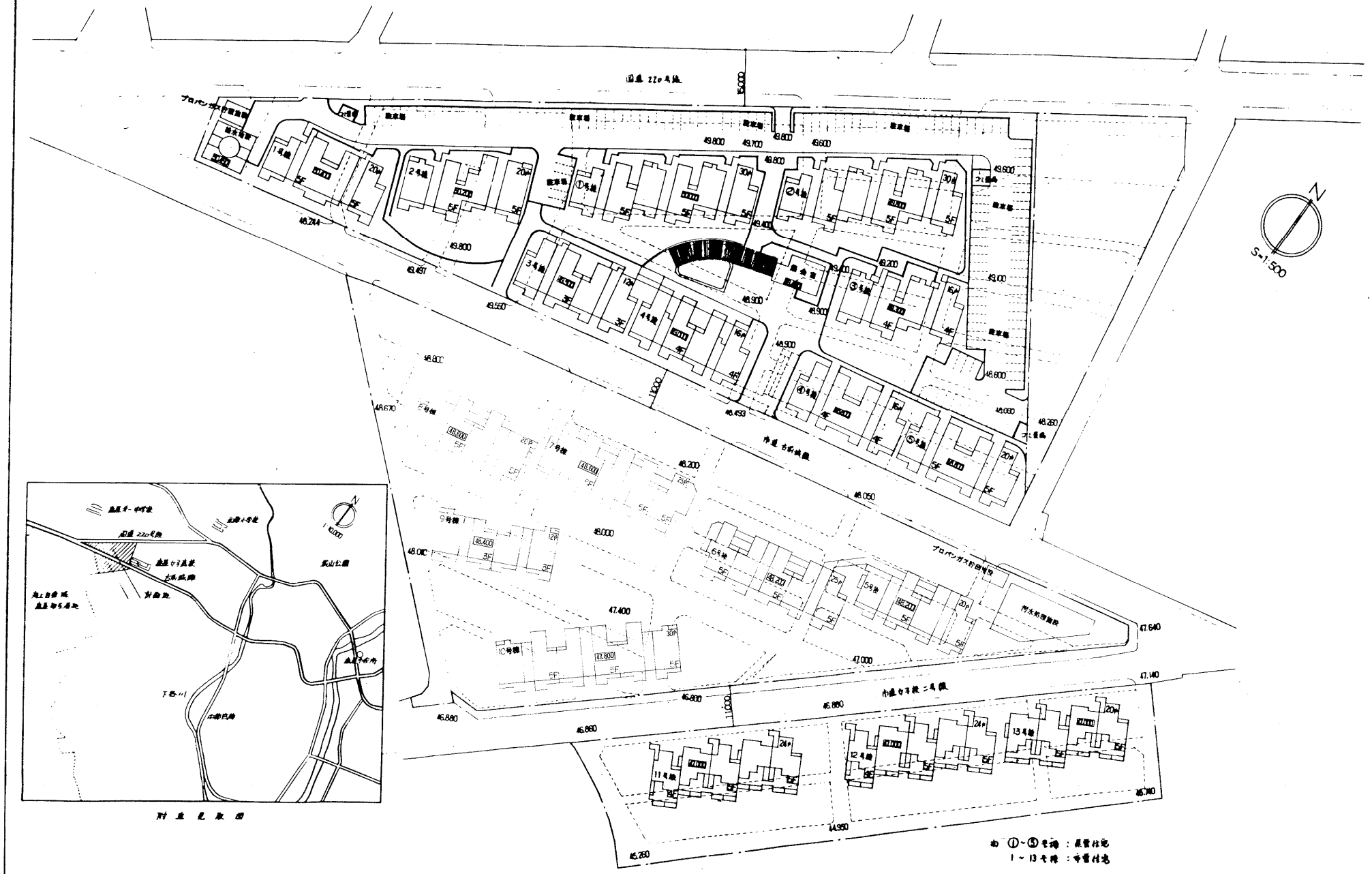
6節　砂　利　敷　き

18 21．6．1　砂利敷きの種別：　道路　※A種　・B種
材料及び敷利　敷物周囲その他　・A種　※B種　21．6．1表

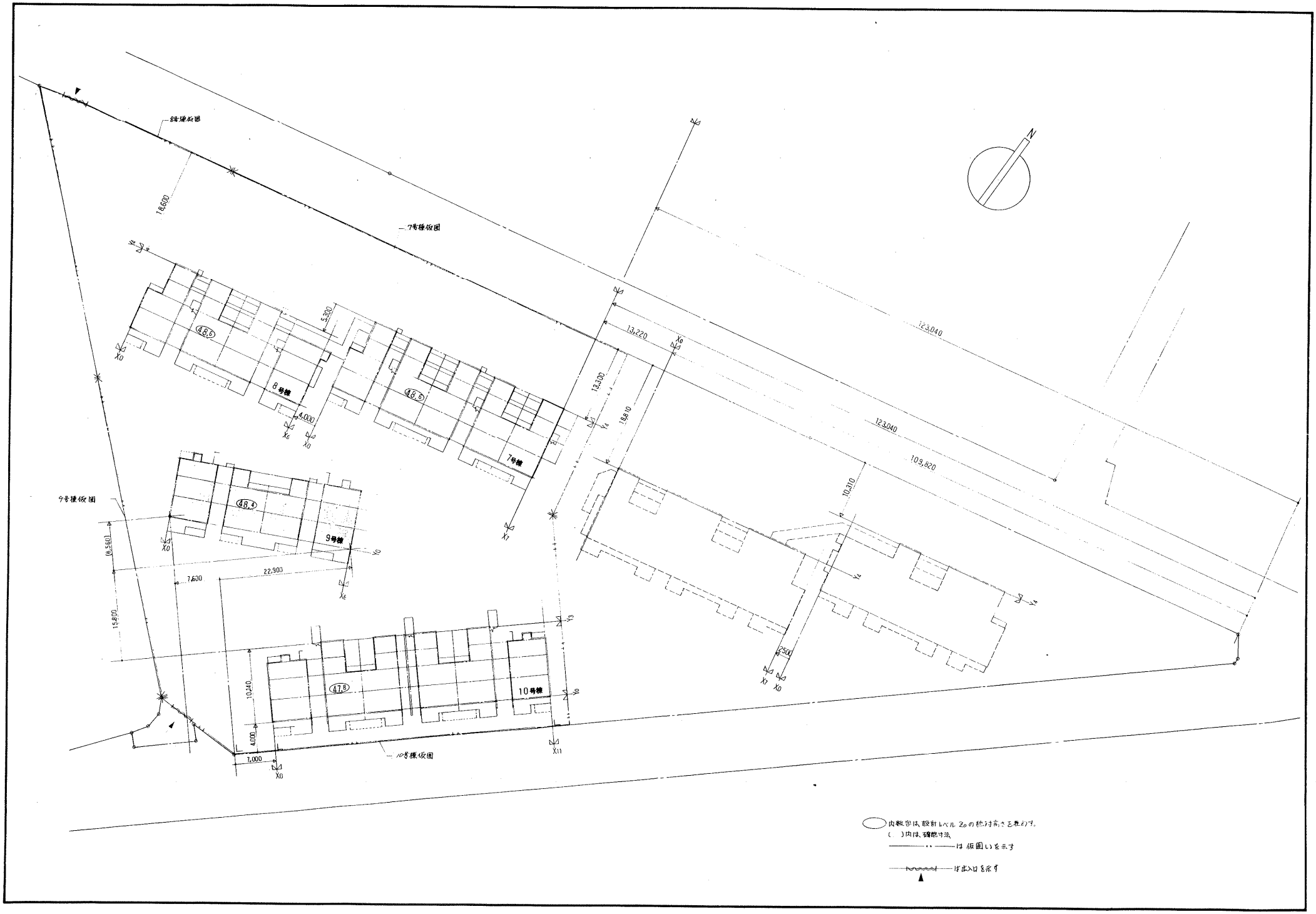
7節　境　地境界石標

19 21．7．1　1．石標の種別：　※A種　・B種（　　）　21．7．1表
材料及び工法

項　目	特　記　付　随　事　項
承　認　事　項	・実施工程表　・下請業者名簿（主要材料表）　・現寸図（額付、サッシュ等）及び施工図 ・レディミクストコンクリート調合表　・アスフィルト配合設計報告書　・仮設工事計画図（仮設建物）
材料承認及び検査	・木材、内外装材、左官材、木製建具（フスマ共）、器具金物、一般鋼金物、鋼子、防府更本、塗装塗装塗（原、資、開）、接し台
試験報告書	・鉄筋・レディミックスコンクリート・コンクリートブロック・瓦打　・アスファルト混和検査
各種検査用具	・バケツ、懐中電灯、金槌、木槌、手鉋、錐石、ハシゴ、ドライバー（＋、－）、チョーク、下げ振りレベル、スコップ、ツルハシ、スチールテープ30m以上（概念は監督員の指示による）散水用ホース30m程度
工事報告	・引渡ししない（自由処分）　・引渡しを要するもの（場所　　）
発生材の処理	・試験杭打の結果により、監督員の指示に基づき、本杭を決定し搬入する。
秋の搬入	・施工者（有資格者）で施出すること。
消防設備等施工届出書	



附 近 見 取 図


8号棟仮囲
7号棟仮囲
9号棟仮囲
10号棟仮囲
16,600
123,040
13,220
13,300
188.10
109,820
10,310
2,500
5,300
4,000
(48.6)
8号棟
(48.6)
7号棟
(48.4)
9号棟
(8,560)
7,600
22,900
15,800
(47.8)
10号棟
10,410
4,000
7,000
N
内数字は、設計レベル Z0 の絶対高さを表わす。
( ) 内は、確認寸法
は 仮囲いを示す
は出入口を示す

面積表

	9 号 棟
建 築 面 積	317.290 M²
延べ面積(公住法)	865.166 M²
延べ面積(基準法)	870.050 M²

住戸別面積表

	住 棟 番 号	住戸専用部分	バルコニー部分	共 用 部 分	公住法による合計
身障者住戸	9 号 棟	① 66.788	[26] 5.296	8.296	80.380
2DK－A	〃	② 52.811	[22] 4.956	8.296	66.063
2DK－B	〃	③ 52.624	[21] 4.987	8.296	65.907
2DK－C	〃	④ 52.556	[23] 4.992	8.296	65.844
3DK－C	〃	⑤ 64.477	[24] 4.453	8.296	77.226
3DK－E	〃	⑥ 64.409	[25] 4.458	8.296	77.163

階別面積表

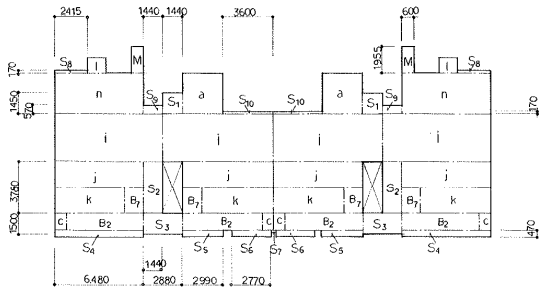
		身障者	2A	2B	2C	3C	3E	合計	住戸専用部分	バルコニー部分 公住法	バルコニー部分 基準法	共用部分 ポーチ	共用部分 P.S	共用部分 階段(集合郵便受)	共用部分 合計	合計 公住法	合計 基準法
9号棟	1F	2	2					4	239.198	20.504	27.264	4.830	4.872	3.518	13.220	272.922	279.682
	2F			2		2		4	234.202	18.880	27.264	9.660	5.040	24.220	38.920	292.002	300.386
	3F				2		2	4	233.930	18.900	8.640	26.806	1.080	19.526	47.412	300.242	289.982
	合計	2	2	2	2	2	2	12	707.330	58.284	63.168	41.294	10.992	47.264	99.552	865.166	870.050

階別面積計算根拠

	階	項目		計算根拠式		
9号棟	3F	住戸専用部分		(④+⑥)×2	= (52.556+64.409)×2	= 233.930
		バルコニー部分	公住法	([23]+[25])×2	= (4.992+4.458)×2	= 18.900
			基準法	(42+42)×2	= (2.160+2.160)×2	= 8.640
		ポーチ		(ｱ+ｱ)×2	= (6.707+6.707)×2	= 26.806
		P.S		(ｲ+ｲ)×2	= (0.270+0.270)×2	= 1.080
		階段		Ⓟ×2	= 12.110×2	= 24.220
	2F	住戸専用部分		(③+⑤)×2	= (52.624+64.477)×2	= 234.202
		バルコニー部分	公住法	([21]+[24])×2	= (4.987+4.453)×2	= 18.880
			基準法	(41+41)×2	= (6.816+6.816)×2	= 27.264
		ポーチ		(ｳ+ｳ)×2	= (2.415+2.415)×2	= 9.660
		P.S		(ｷ+ｷ)×2	= (1.260+1.260)×2	= 5.040
		階段		Ⓟ2×2	= 9.763×2	= 19.526
	1F	住戸専用部分		(①+②)×2	= (66.788+52.811)×2	= 239.198
		バルコニー部分	公住法	([26]+[22])×2	= (5.296+4.956)×2	= 20.504
			基準法	(41+41)×2	= (6.816+6.816)×2	= 27.264
		ポーチ		ｳ×2	= 2.415×2	= 4.830
		P.S		(ｳ+ｲ)×2	= (1.364+1.072)×2	= 4.872
		集合郵便受		Ⓟ3×2	= 1.759×2	= 3.518

備考
- 公住法床面積は住戸専用部分,バルコニー部分(×1/3)共用部分の合計である。
- 基準法床面積は,住戸専用部分,三方を壁で囲まれたバルコニー部分,共用部分(階段,スラブ)の合計である。
- 集計表の数値は,算定表の数値の小数第4位以下を切り捨てて計算している。

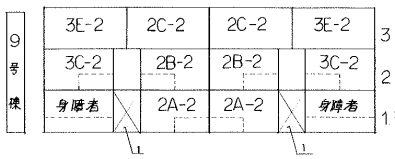
建築面積算定表



a		8.2944	× 2	=	16.5888
c		0.9600	× 4	=	3.8400
i		27.5616	× 4	=	110.2464
j		10.109925	× 4	=	40.4397
k		6.8607	× 4	=	27.4428
l		1.4850	× 2	=	2.9700
n		18.6624	× 2	=	37.3248
B_2		6.8160	× 4	=	27.2640
B_7		2.477	× 4	=	9.9080
S_1	1.450	× 1.440	× 2	=	4.1760
S_2	3.780	× 1.440	× 2	=	10.8964
S_3	1.500	× 2.880	× 2	=	8.6400
S_4	0.470	× 6.480	× 2	=	6.0912
S_5	0.470	× 2.990	× 2	=	2.8106
S_6	0.470	× 2.770	× 2	=	2.6038
S_7	0.050	× 0.500	× 1	=	0.0250
S_8	0.170	× 2.415	× 2	=	0.8211
S_9	0.570	× 1.440	× 2	=	1.6416
S_{10}	0.170	× 3.600	× 2	=	1.2240
M	1.955	× 0.600	× 2	=	2.3460

= 317.2902 M²

住棟構成表

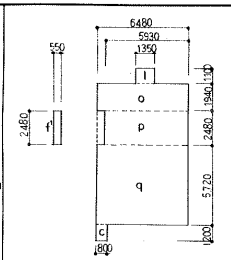


棟番号	種別	住戸タイプ	共用部タイプ	戸当り延べ面積	戸数		延べ床面積	偏差 基準法	偏差 バルコニー部分	合計
9号棟	2種	身障者	1	80.380	2	12	160.760	66.788	5.296	72.084
		2A	1	66.063	2		132.126	52.811	4.956	57.767
		2B	1	65.907	2		131.814	52.624	4.987	57.611
		2C	1	65.844	2		131.688	52.556	4.992	57.548
		3C	1	77.226	2		154.452	64.477	4.453	68.930
		3E	1	77.163	2		154.326	64.409	4.458	68.869
	合計						865.166			

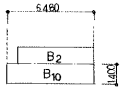
共用部タイプ別面積
1 = 8.296

面積算定表

身障者住戸

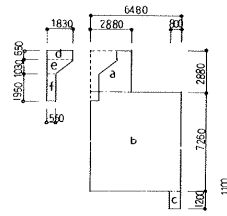


住戸専用部分
(c+l+o+p+q) = 66.7682 ——— ①
ポーチ部分
= 0.
PS部分
f' = 1.3640 ——— ㋐

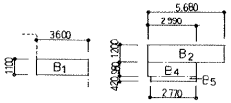


c	=	0.9600	B2	= 6.8160	公住法床面積
f'= 2.480 × 0.550	=	1.3640	B10= 1.400 × 6.480	= 9.0720	(B2+B10) × 1/3 = 5.2960 — 26
l	=	1.4850			基準法床面積
o= 1.940 × 6.480	=	12.5712			B2 = 6.8160 — 41
p= 2.480 × 5.930	=	14.7064			
q= 5.720 × 6.480	=	37.0656			

2DK-A

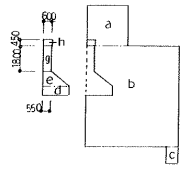


住戸専用部分
(a+b+c) - (d+e+f) = 52.8115 ——— ②
ポーチ部分
d+e = 2.4152 ——— ㋖
PS部分
f = 1.0725 ——— ㋕

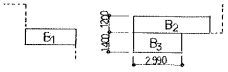


a= 2.880 × 2.880	=	8.2944	B1 = 1.100 × 3.600	= 3.9600	公住法床面積
b= 7.280 × 6.480	=	47.0448	B2 = 1.200 × 5.680	= 6.8160	(B1+B2+B4+B5) × 1/3 = 4.956533 — 22
c= 1.200 × 0.800	=	0.9600	B4 = 0.980 × 2.550	= 2.5302	
d= 0.650 × 1.830	=	1.1895	B5 = 0.420 × 2.770	= 1.1634	基準法床面積
e= 1.90×(1.830+0.950)×1/2	=	1.2257			B2 = 6.8160 — 41
f= 1.950 × 0.550	=	1.0725			

2DK-B

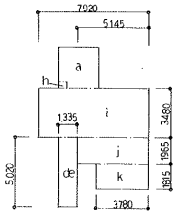


住戸専用部分
(a+b+c) - (d+e+g+h) = 52.6240 ——— ③
ポーチ部分
d+e = 2.4152 ——— ㋖
PS部分
g+h = 1.2600 ——— ㋔

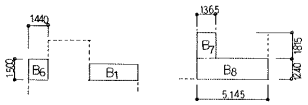


a	=	8.2944	B1	= 3.9600	公住法床面積
b	=	47.0448	B2	= 6.8160	(B1+B2+B3) × 1/3 = 4.98737 — 21
c	=	0.9600	B3 = 1.400 × 2.990	= 4.1860	
d	=	1.1895			基準法床面積
e	=	1.2257			B2 = 6.8160 — 41
g= 1.800 × 0.550	=	0.9900			
h= 0.450 × 0.600	=	0.2700			

2DK-C

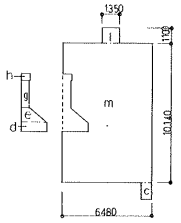


住戸専用部分
(a+i+j+k) - h = 52.55662 ——— ㋑
ポーチ部分
de = 6.7017 ——— ㋒
PS部分
h = 0.2700 ——— ㋖

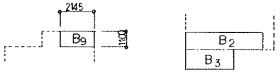


a =		8.2944	B1	= 3.9600	公住法床面積
h =		0.2700	Db = 1.500 × 1.440	= 2.1600	(D1+B6+B7+Db) × 1/3 = 4.989426 — 23
i = 3.480 × 7.920	=	27.5616	B7 = 1.815 × 1.365	= 2.477475	基準法床面積
j = 1.965 × 5.145	=	10.105925	B8 = 1.240 × 5.145	= 6.3798	B6 = 2.1600 — 42
k = 1.815 × 3.780	=	6.8607			
de= 5.020 × 1.335	=	6.7017			

3DK-C

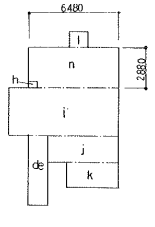


住戸専用部分
(c+l+m) - (d+e+g+h) = 64.4770 ——— ⑤
ポーチ部分
d+e = 2.4152 ——— ㋖
PS部分
g+h = 1.2600 ——— ㋔

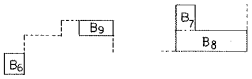


c	=	0.9600	B2	= 6.8160	公住法床面積
d	=	1.1895		= 4.1860	(B2+B3+B9) × 1/3 = 4.458833 — 24
e	=	1.2257	B9 = 2.145 × 1.100	= 2.3595	基準法床面積
g	=	0.9900			B2 = 6.8160 — 41
h	=	0.2700			
l = 1.350 × 1.100	=	1.4850			
m = 6.480 × 10.140	=	65.7072			

3DK-E



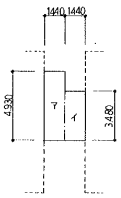
住戸専用部分
(j+k+l+n) - h = 64.409625 ——— ⑥
ポーチ部分
de = 6.7017 ——— ㋒
PS部分
h = 0.2700 ——— ㋖



h =		0.2700	B6	= 2.1600	公住法床面積
j =		27.5616	B7	= 2.477475	(B6+B7+B8+B9) 1/3 = 4.458925 — 25
j =		10.105925	B8	= 6.3798	基準法床面積
k =		6.8607	B9	= 2.3595	B6 = 2.1600 — 42
l =		1.4850			
n= 6.480 × 2.880	=	18.6624			
de	=	6.7017			

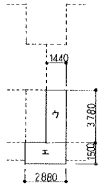
市営住宅平和団地 9号棟共用部分面積算定

2階



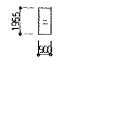
ア. 4.930 × 1.440 = 7.0992
イ. 3.480 × 1.440 = 5.0112
ア + イ = 12.1104 — ㋑

3階



ウ 3.780 × 1.440 = 5.4432
エ 1.500 × 2.880 = 4.3200
ウ + エ = 9.7632 — ㋒

集合郵便受け箱算定



l = 1.965 × 0.800 = 1.7595 — ㋖

注：各住棟の各階段室に設置

構造概要

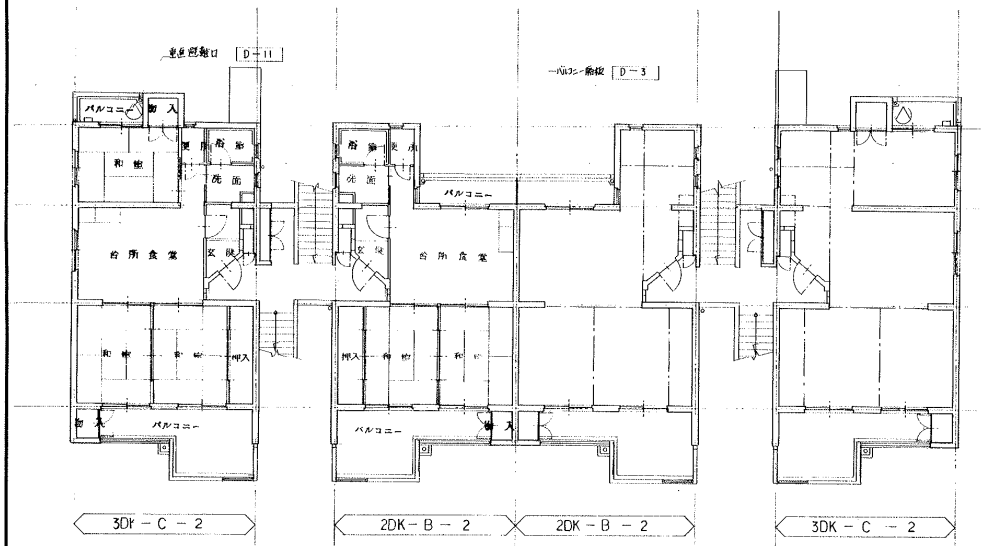
基礎	壁	床	屋根	備考
鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	外部建具の鉄製部分の塗装 和室；ＣＬ（クリアーラッカー）塗 台所・便所・浴室その他湿気の多い箇所；ＳＯＰ（合成樹脂調合ペイント）塗

外部仕上表

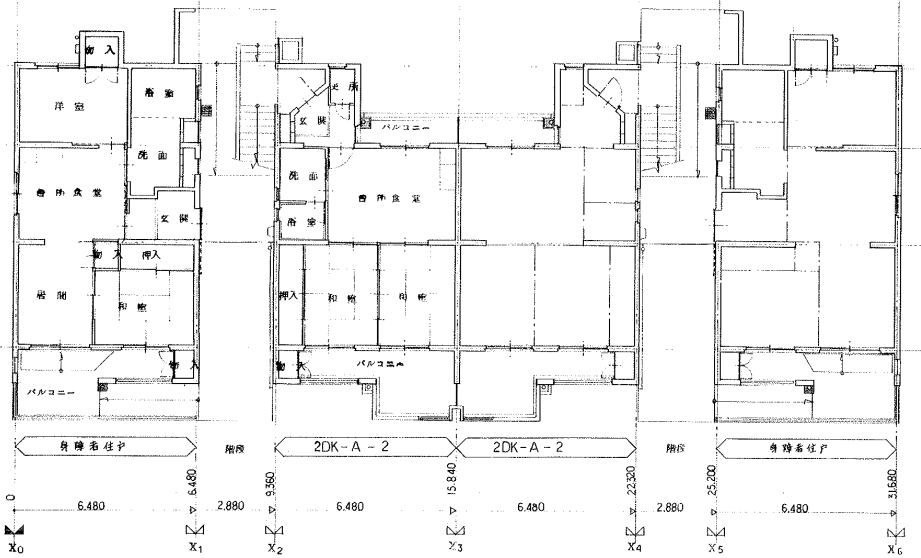
腰	壁	屋根	庇，窓手摺	笠石，飾り柱	玄関ポーチ	階段室，3階廊下	バルコニー	テラス	備考
コンクリート打放し t=650	コンクリート打放しの上ジレン吹付 一部コンクリート打放しの上GP	防水コンクリート（ゴム）密着工法 上アスファルト防水とGP 表面仕上 ・屋上屋根コンクリート打放しの上GP 上記コンクリート直均押えの上GP 除ける際、雨戸当り部 笠石：防水モルタル混和 壁：コンクリート打放し 天井：コンクリート打放しの上GP	笠石：コンクリート打放しの上GP 一部 石張仕上げの上GP 上面：コンクリート直均押えの上GP 窓手摺：アルミ合金（ブロンズ） 庇等：アルミ合金（ブロンズ）	笠石：カラーUP 100㎜ 7mP 20㎜ 飾り柱：防水モルタル塗 庇：防水モルタル塗 庇部：防水モルタル混 外面：コンクリート打放しの上GP 仕上：コンクリート打放し 下面：コンクリート直均押えの上GP 上裏：コンクリート打放しの上GP 立ち上がり：100㎜厚 7mP 20㎜ 中はり：100㎜厚 7mP 20㎜ モールドライン：150㎜厚 7mP 20㎜	床：モルタル塗 一部 階：防水モルタル塗 笠石上下端が室内の場合は 塗装無のこと 防水モルタル塗 巾木：長い側に 壁：コンクリート打放しの上ジレン吹付 天井：コンクリート打放しの上GP 笠石より上階が室内の場合は 石張仮置3（厚石割れ保存25）GP	1階通路部床：コンクリート直均押え 竪穴：コンクリート打放し 階段部床：防水モルタル塗 一部 塗膜防水とし、防水モルタル塗 ノンスリップ：ステンレス幅 W=80 段：防水モルタル塗 壁：張り積壁：コンクリート打放しの上GP 一部ジレン吹付 笠石：コンクリート打放しの上GP 巾木：コンクリート打放しのエリミ吹付 天井：コンクリート打放しの上GP 笠石より上階が室内の場合は 石張仮置3（厚石割れ保存25）GP 手摺：笠木：コンクリート直均押えの上GP （鉄筋手摺）：笠石部分も含め処理 （壁手摺）：階段と同様 3階部：床：コンクリート直均押え 壁：手摺りは、階段と同様	床：コンクリート直均押え（排水勾配に応じ勾配） 竪穴：コンクリート打放し 手摺壁：コンクリート打放しの上GP 一部ジレン吹付 手摺天端：コンクリート直均押えの上GP 笠石：コンクリート打放しの上GP 一部ジレン吹付 袖壁手摺：アルミ合金（ブロンズ） 天井：コンクリート打放しの上GP 巾木：コンクリート打放しのエリミ吹付 室外機置台：アングル（錆落後ボンセ） 物干金物 雨水排水口 1階 住戸よりバルコニー：集水桝 溝蓋共 避難梯子掛：アングル（SUS304）	床：コンクリート直均押え、排水勾配に応じ勾配 一部 木押縁（断熱化粧） 手摺壁：コンクリート打放しの上GP 一部ジレン吹付 手摺天端：コンクリート直均押えの上GP 笠石：コンクリート打放しの上GP 室外機置台：アングル（錆落後ボンセ） 物干金物：塩ビパイプ（錆落後ボンセ） 門扉：アルミ合金（ブロンズ）	笠石板：御影石 厚20 笠石先端：面取り 笠石裏：水切り溝 笠石目地：シリコーン 笠石伸縮目地：10㎜ 笠石割付：1枚物 笠石勾配：1/100 笠石長さ：1枚物 笠石幅：壁芯より 笠石厚： 笠石材質： 笠石仕上： 笠石施工： 笠石備考： 笠石形状： 笠石寸法： 笠石数量： 笠石記号： 笠石図面： 笠石写真： 笠石その他： 笠石： 笠石： 笠石

内部仕上表（身障者住戸）

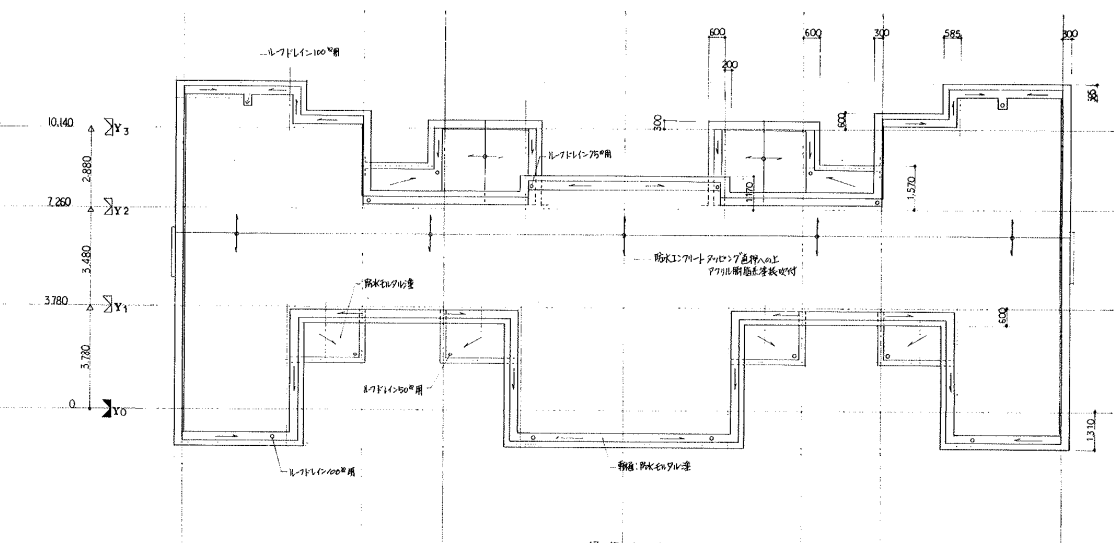
場所 / 室名	下地材	床 仕上	巾木 仕上	巾木 塗装	腰壁 仕上	腰壁 塗装	壁 仕上	壁 塗装	天井 仕上	天井 塗装	備考
玄関	木造		木製 H=55	S.O.P							・ステンレス笠木 W=40
	RC造	薄打コンクリート後研磨仕上塩ビシンスリップシート2.5㎜貼	塩ビノンスリップシート貼t=2.5㎜ H=20～25				モルタルの上20㎜金鏝押え	EP-Ⅱ	化粧パネル（ジプトーン模様）		
玄関ホール	木造		木製 H=55	S.O.P			素地パネル①	EP-Ⅱ			・有効巾種口 450㎜
	RC造	発泡プラスチック系パネル①の上 化粧合板t=15貼					モルタルの上20㎜金鏝押え	〃	化粧パネル（ジプトーン模様）		
台所・食堂	木造		キックプレート H=495				素地パネル①，	EP-Ⅰ			D.C置流し台（L=1200，排水ライザー位置付 パワフル水栓） D.C置コンロ台（L=600，パワフル水栓）
	RC造	発泡プラスチック系パネル①の上 化粧合板t=15貼					モルタルの20㎜金鏝押え，一部防露壁①	EP-Ⅰ 一部GP	化粧パネル（ジプトーン模様）		冷却棚（L=900）水切棚（L=900），換気扇取付PL穴，　北壁換気レジスター100㎜ カーテンレール(W)　万目的Wスリーブ(VP25+カバー付)
和室	木造		タタミ寄せ				化粧パネル①				カーテンレール(W)，設備用スリーブ，室内機用取付インサート，北壁レジスター100㎜
	RC造	発泡プラスチック系パネル②の上 タタミ敷					化粧パネル，一部化粧パネル②		化粧パネル（杉柾模様）		一部付鴨居，万目的スリーブ
洋室	木造		キックプレート H=495								カーテンレール(W)　設備用スリーブ，北壁レジスター100㎜，万目的スリーブ(VP25+カバー付)
	RC造	発泡プラスチック系パネル①の上 化粧合板t=15貼					素地パネル①，一部素地パネル②の上面ポビニルクロス貼		化粧パネル（ジプトーン模様）		
居間	木造		キックプレート H=495 （一部 H=400）								カーテンレール(W)，北壁レジスター100㎜，ポンプ収納 ステンレス
	RC造	発泡プラスチック系パネル①の上 化粧合板t=15貼					素地パネル①，一部素地パネル②の上面ポビニルクロス貼		化粧パネル（ジプトーン模様）		
便所・洗面	木造								化粧ケイ酸カルシウム板t=4㎜	GP	ステンレス手摺(可般付)　ステンレス手摺(便所用・洗面用)
	RC造	薄打コンクリート後50㎜止 50角タイル貼					100角タイル貼				タオル掛け(L=500)
浴室	木造										
	RC造	浴室用露止シート防水張(ロングループ)ノンスリップ種3.2㎜貼	浴室用露止シート防水張(ロングループ)ノンスリップ種3.2㎜貼 H=200				100角タイル貼		パスリーブ貼		ステンレス手摺(L=600，1000，　900+600) 浴槽（FBS 1200 ）　フロアタ（YUK 120）
押入（天袋）	木造	パネル②	樹布張				素地パネル①				中棚　枕棚(パネル工事)
	RC造								コンクリート打放シ		
物入	木造	パネル②	樹布張				素地パネル①		素地パネル		中棚（パネル工事）
	RC造	パネル②	樹布張				素地パネル②		素地パネル		中棚（　〃　）
物入（外部）	木造										
	RC造	防水モルタル塗					コンクリート打放シ		コンクリート打放シ		可動棚1段（パネル工事），北壁換気レジスター100㎜
M.B，P.S	木造										
	RC造	モルタル塗					コンクリート打放シ		コンクリート打放シ		
バルコニー	木造										
	RC造	コンクリート金鏝押え（スロープ，コンクリート ホーキ目仕上）	コンクリート打放シ				コンクリート打放シ止 サシ取付		コンクリート打放シ止 GP塗		汚レミバルコニー物干金物(公団型 L=980)，室外機用取付インサート，ステンレス手摺，



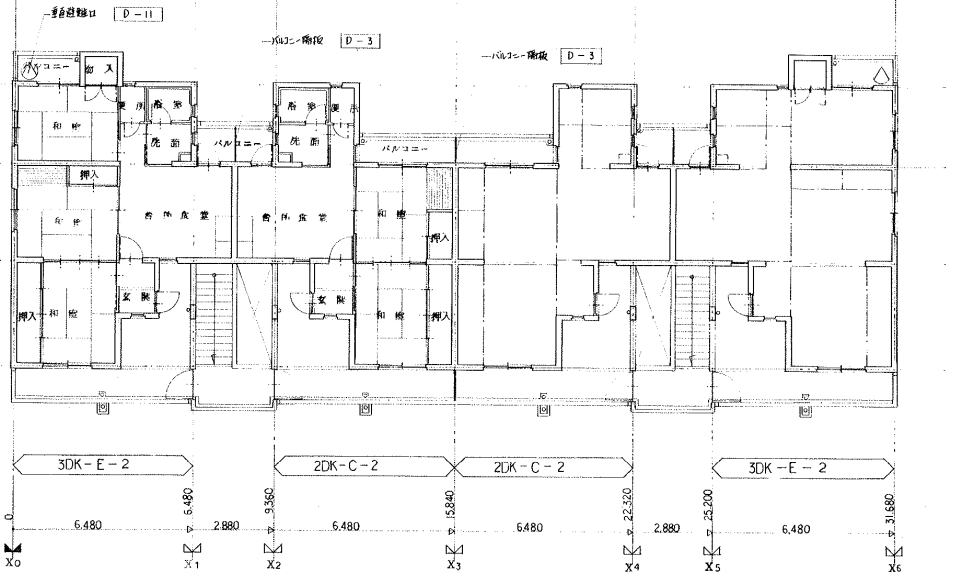
2階 平面図



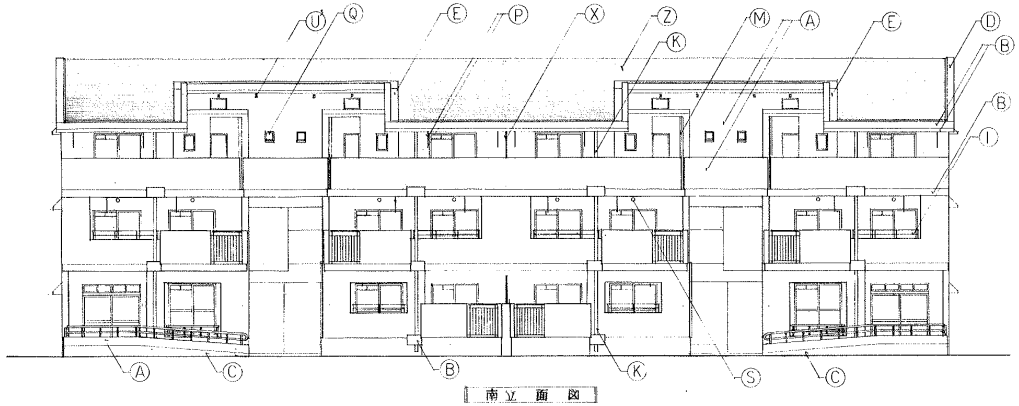
1階 平面図

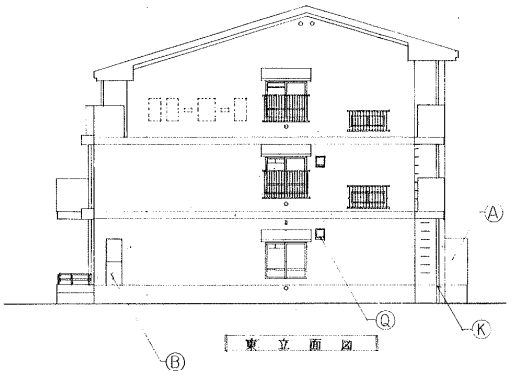


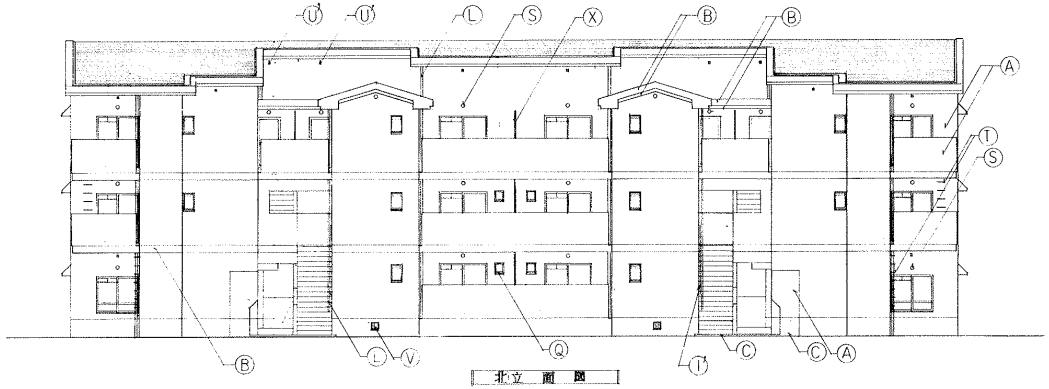
屋根伏図

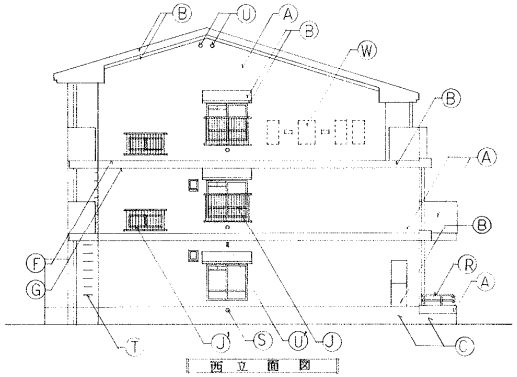


3階 平面図

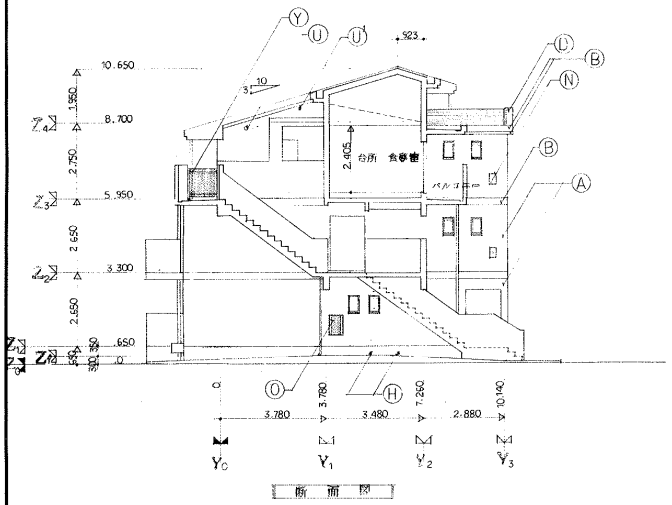

南立面図

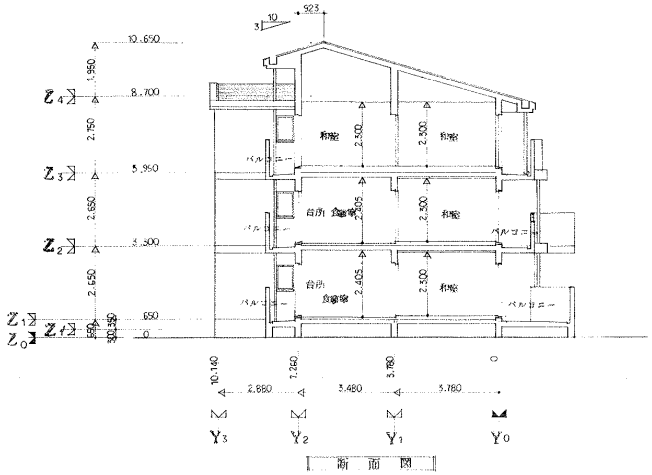

東立面図

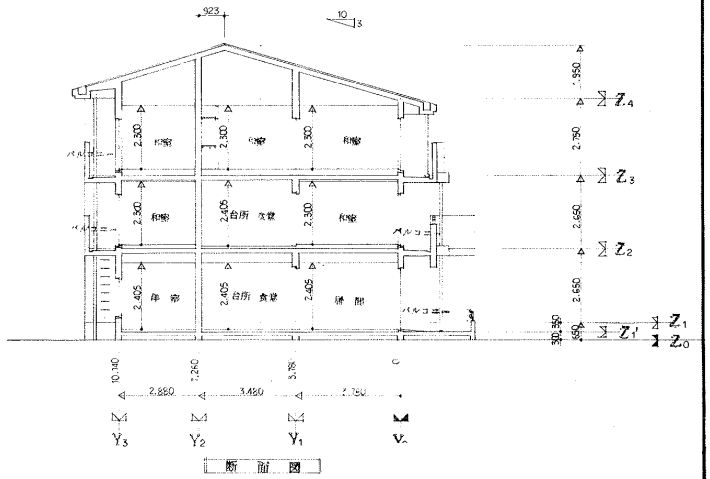

北立面図

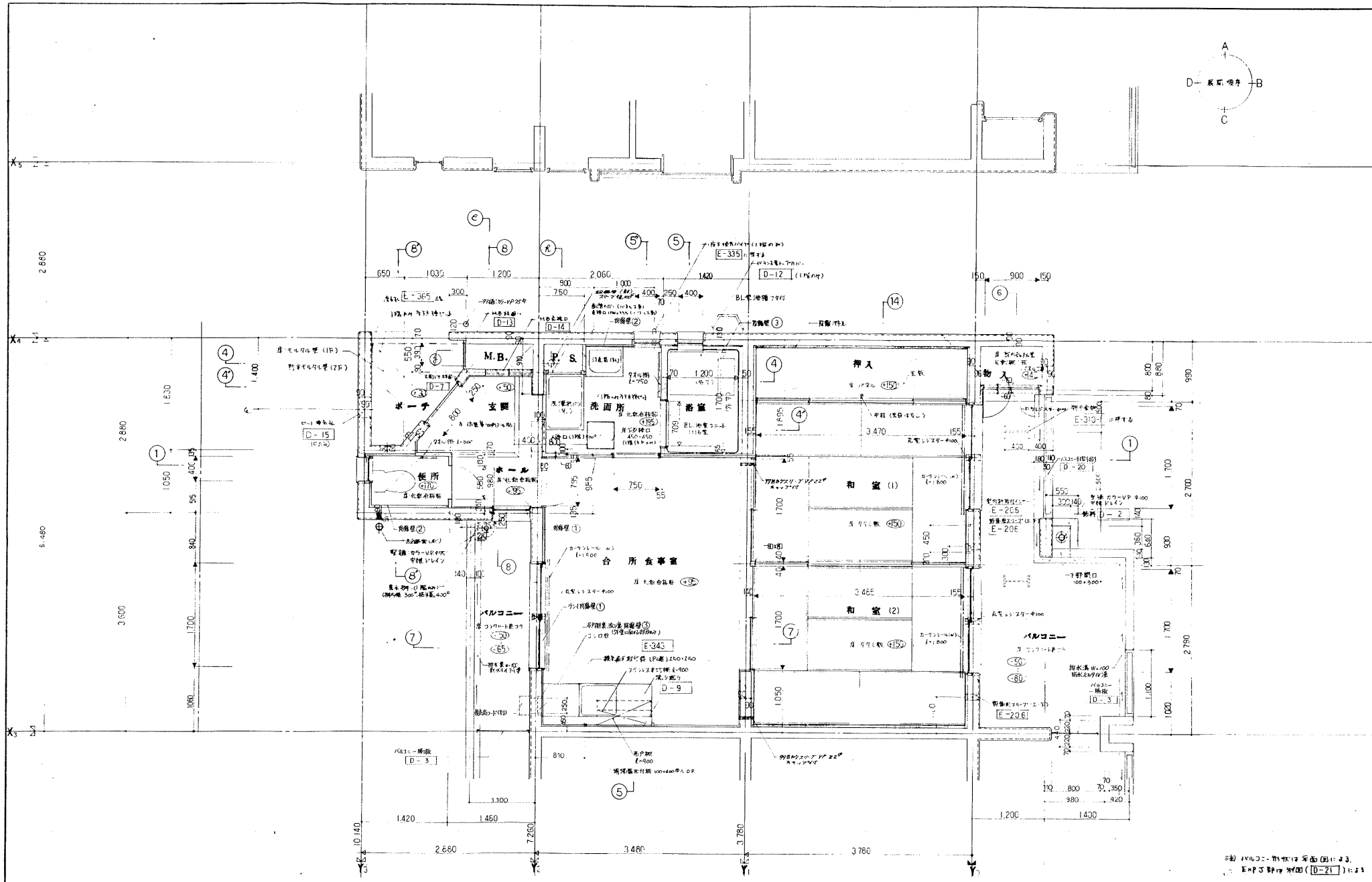

西立面図

符号	仕上	
Ⓐ	コンクリート打放シ上 サンゾ吹付	
Ⓑ	コンクリート打放シ上 EP	
Ⓒ	コンクリート打放シ	
Ⓓ	コンクリート直コテ押エ上 EP	
Ⓔ	防水モルタル塗り	
Ⓕ	有線目地	D－4
Ⓖ	化粧目地	D－4
Ⓗ	床下換気パイプ	
Ⓘ	アルミ製手摺	D－20
Ⓙ	アルミ製忍手摺	D－32
Ⓚ	竪樋 V.P 100φ (カラー)	
Ⓛ	竪樋 V.P 75φ (カラー)	
Ⓜ	竪樋 V.P 50φ (カラー)	
Ⓝ	バランス釜トップ	
Ⓞ	バランス釜トップカバー	D－12
Ⓟ	物干金物	E-301-1
Ⓠ	換気扇 P.C 埋	E－343
Ⓡ	バルコニー手摺	
Ⓢ	丸型レジスター 100φ	
Ⓣ	避難用タラップ	
Ⓤ	天井裏換気孔	
Ⓥ	床下換気孔	D－15
Ⓦ	棟番号	D－26
Ⓧ	バルコニー階板	D－3
Ⓨ	門扉	D－34
Ⓩ	隣地コンクリートブロック面埋エ上 アクリル系樹脂塗装仕上	
Ⓘ'	階段手摺	D－5
Ⓙ'	アルミ製面格子	D－33
Ⓤ'	天井裏 換気パイプ	E－335

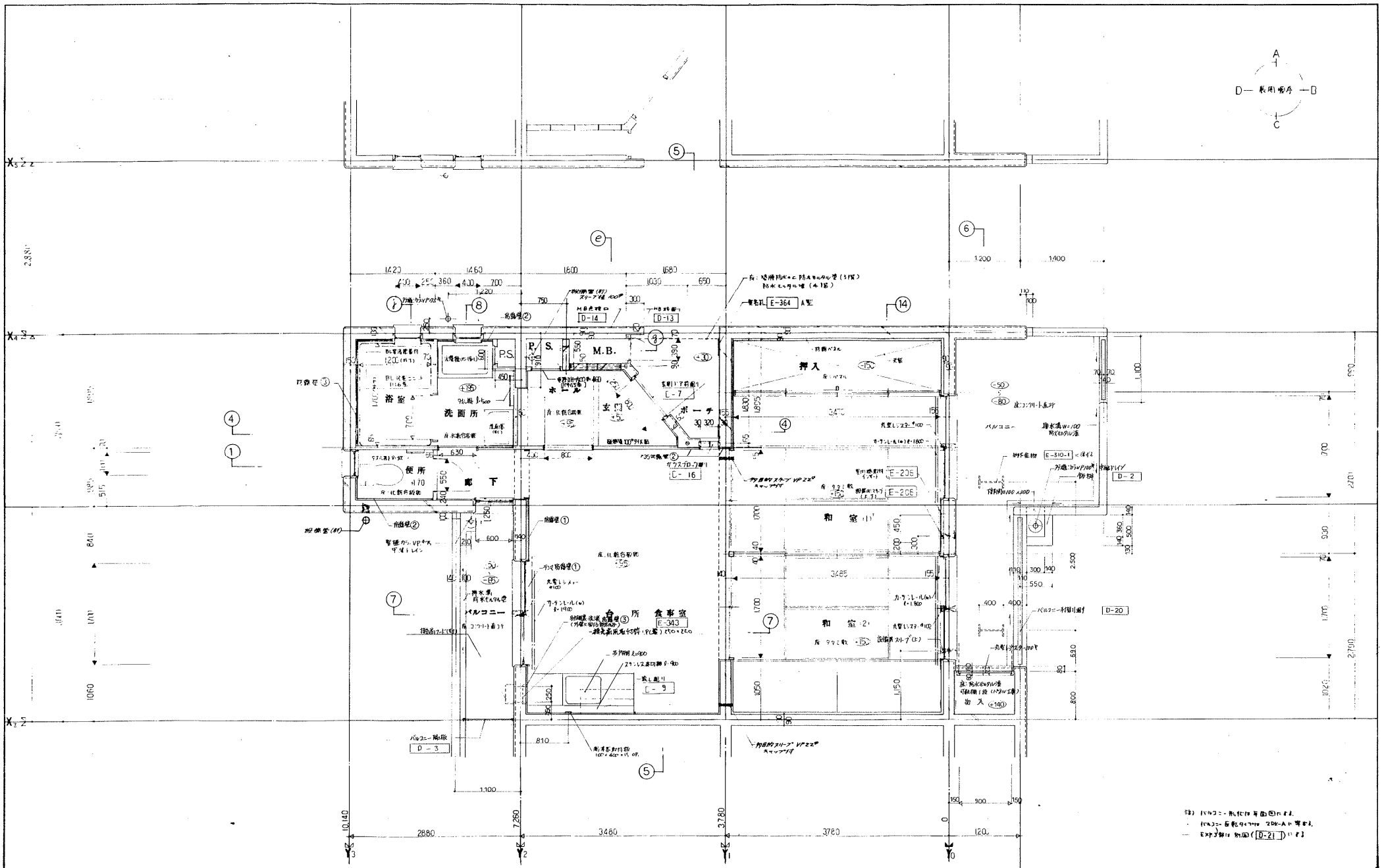

断面図

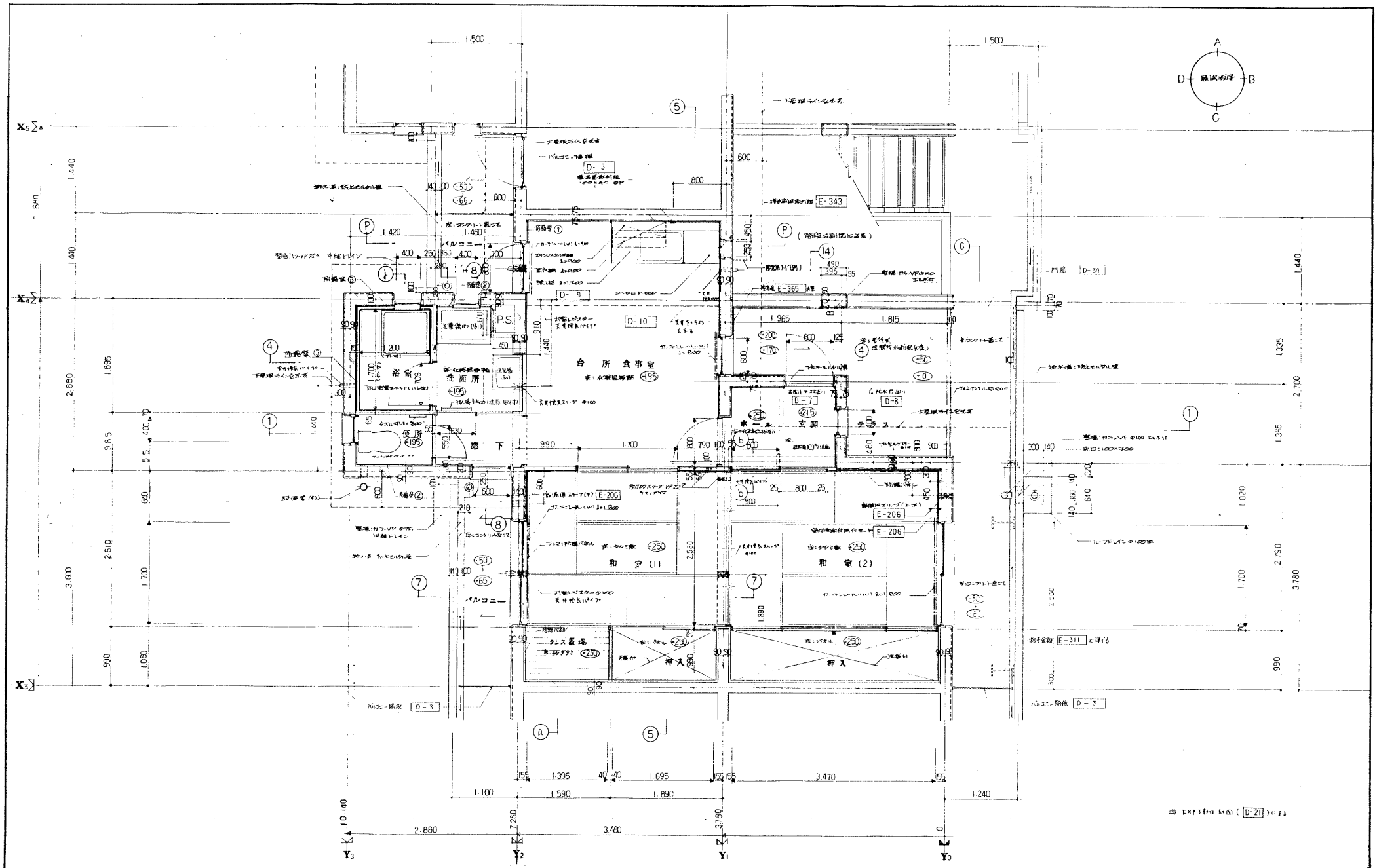

断面図

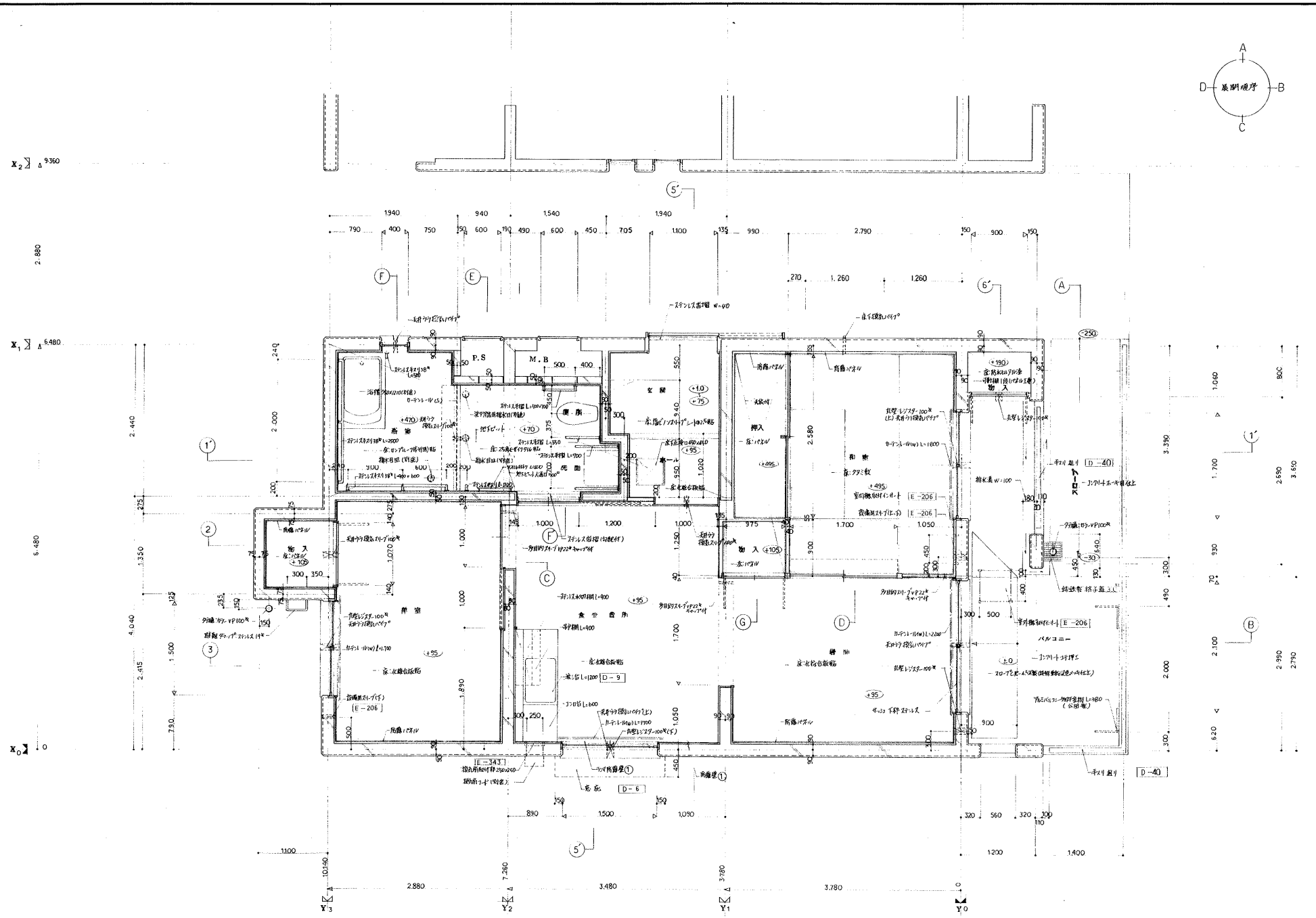

断面図

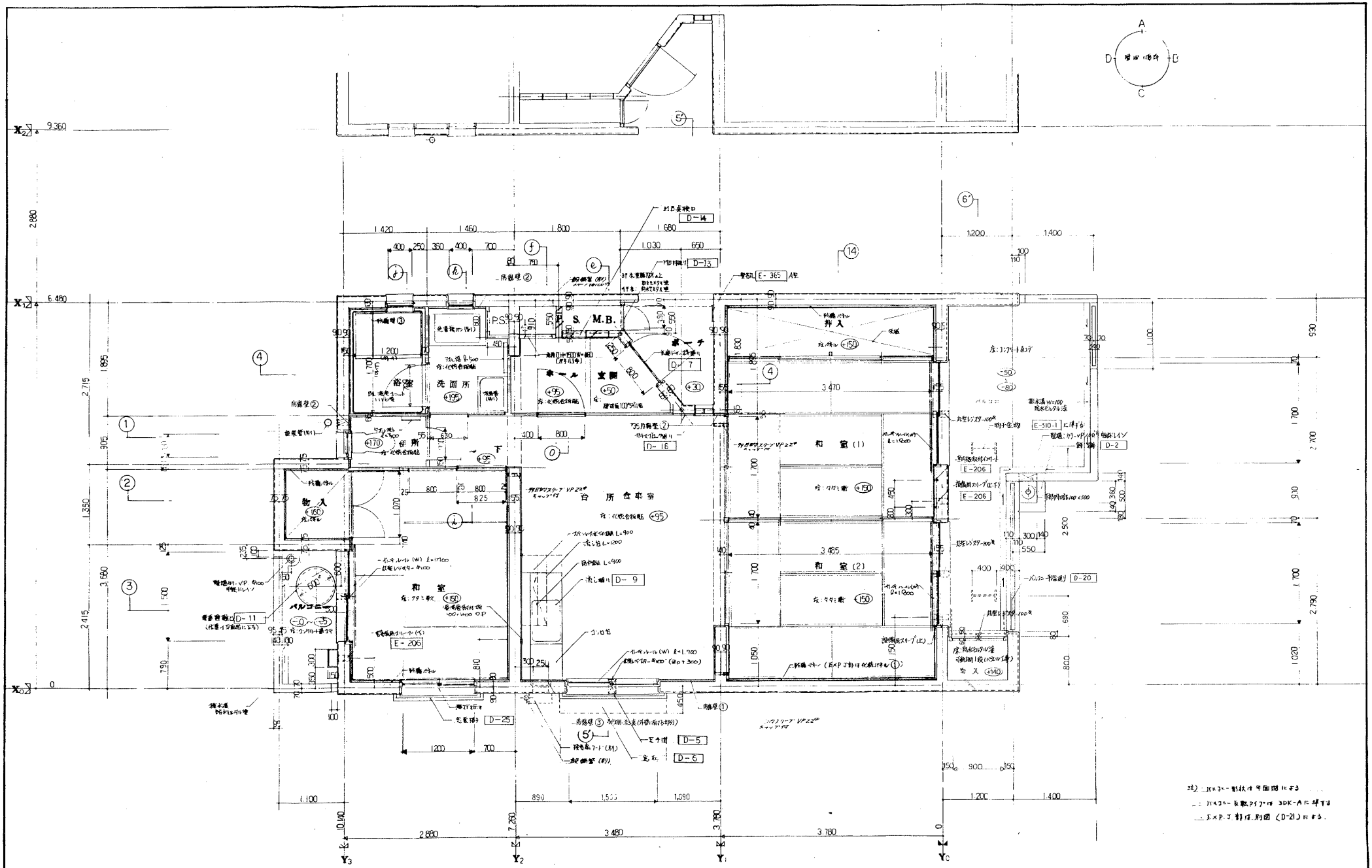


注) バルコニー形状は平面図による。
E×P.S 部は 別図 (D-21) による

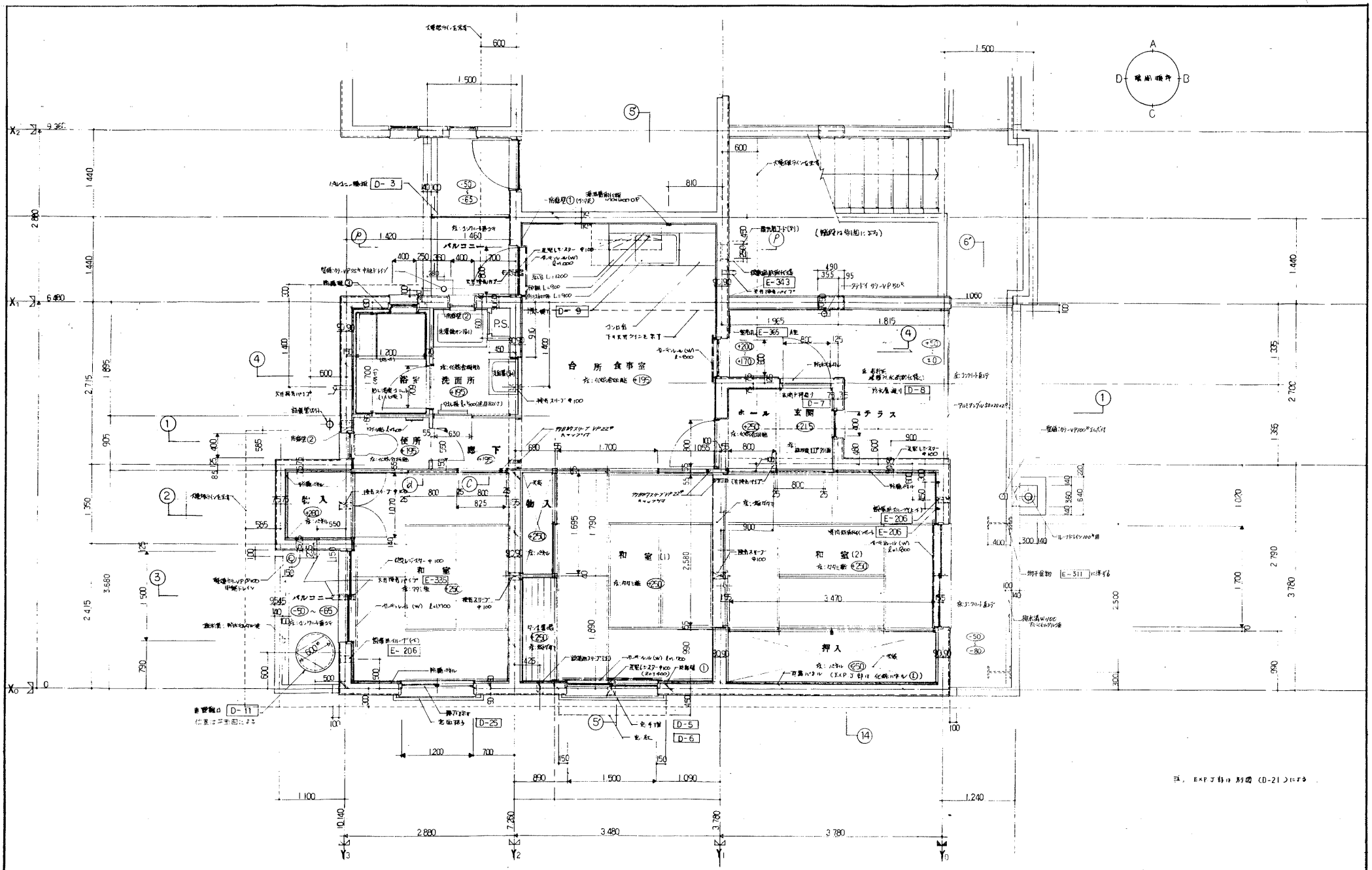

浴室
洗面所
P.S.
M.B.
ホール
玄関
ポーチ
便所
廊下
押入
和室(1)
和室(2)
食事室
バルコニー
バルコニー 隔板
D-3
D-14
D-13
E-364
E-7
E-16
E-206
E-343
D-9
D-2
D-20
E-310-1
1420
1460
1800
1680
1200
1400
3480
3485
2880
7260
3780
3780
120
10140


台所食事室
和室(1)
和室(2)
玄関
ホール
テラス
廊下
浴室
便所
洗面所
押入
バルコニー
P.S.
D-3
D-7
D-8
D-9
D-10
E-206
E-343
E-365
E-311
D-21
D-30
A
B
C
D

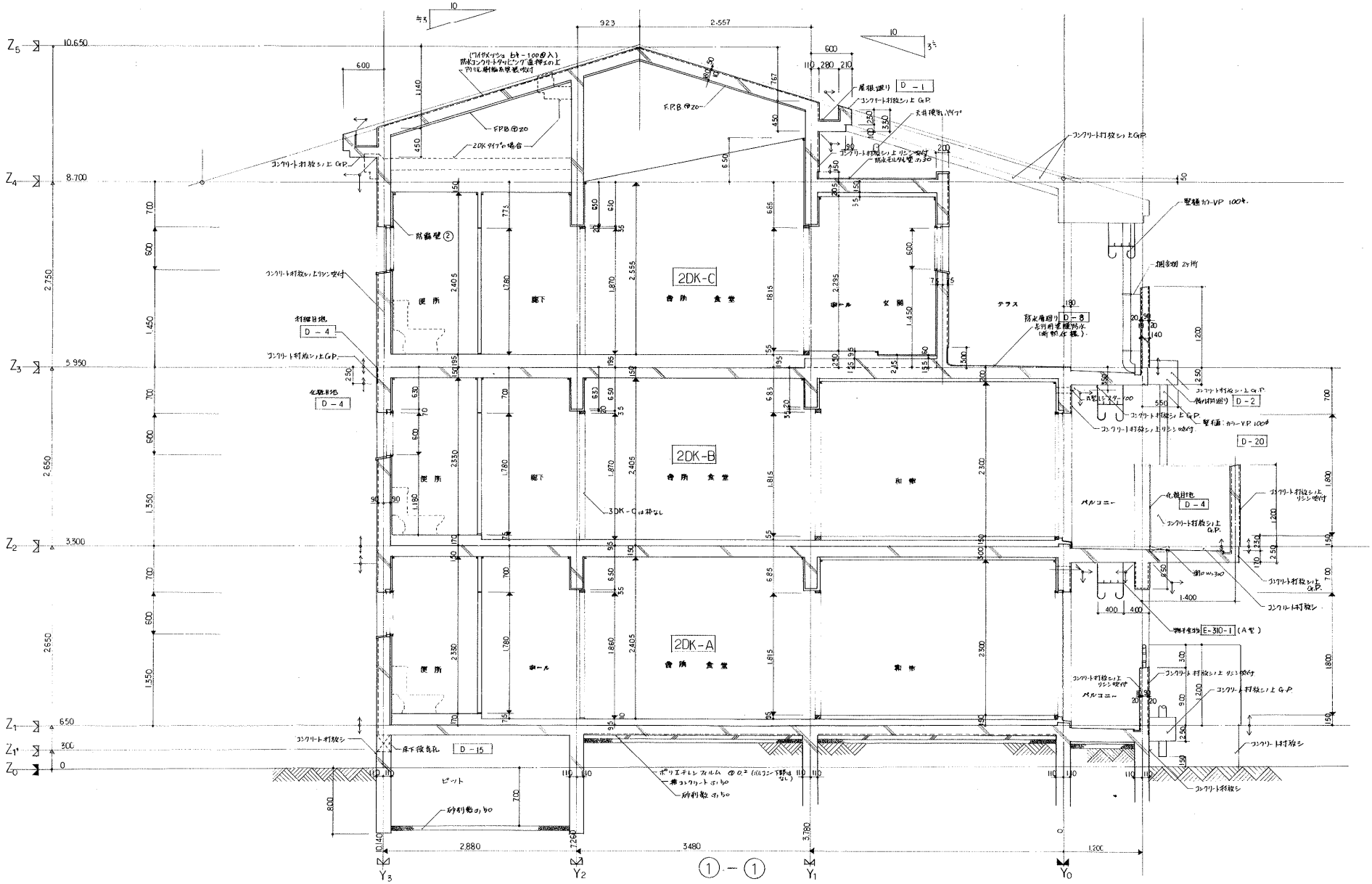

展開順序
A
B
C
D
F
E
6'
5'
1'
2
3
G
P.S
M.B
浴室
便所
玄関
ホール
洋室
和室
押入
物入
食堂台所
縁側
バルコニー
スロープ
D-40
D-9
D-6
E-206
E-343

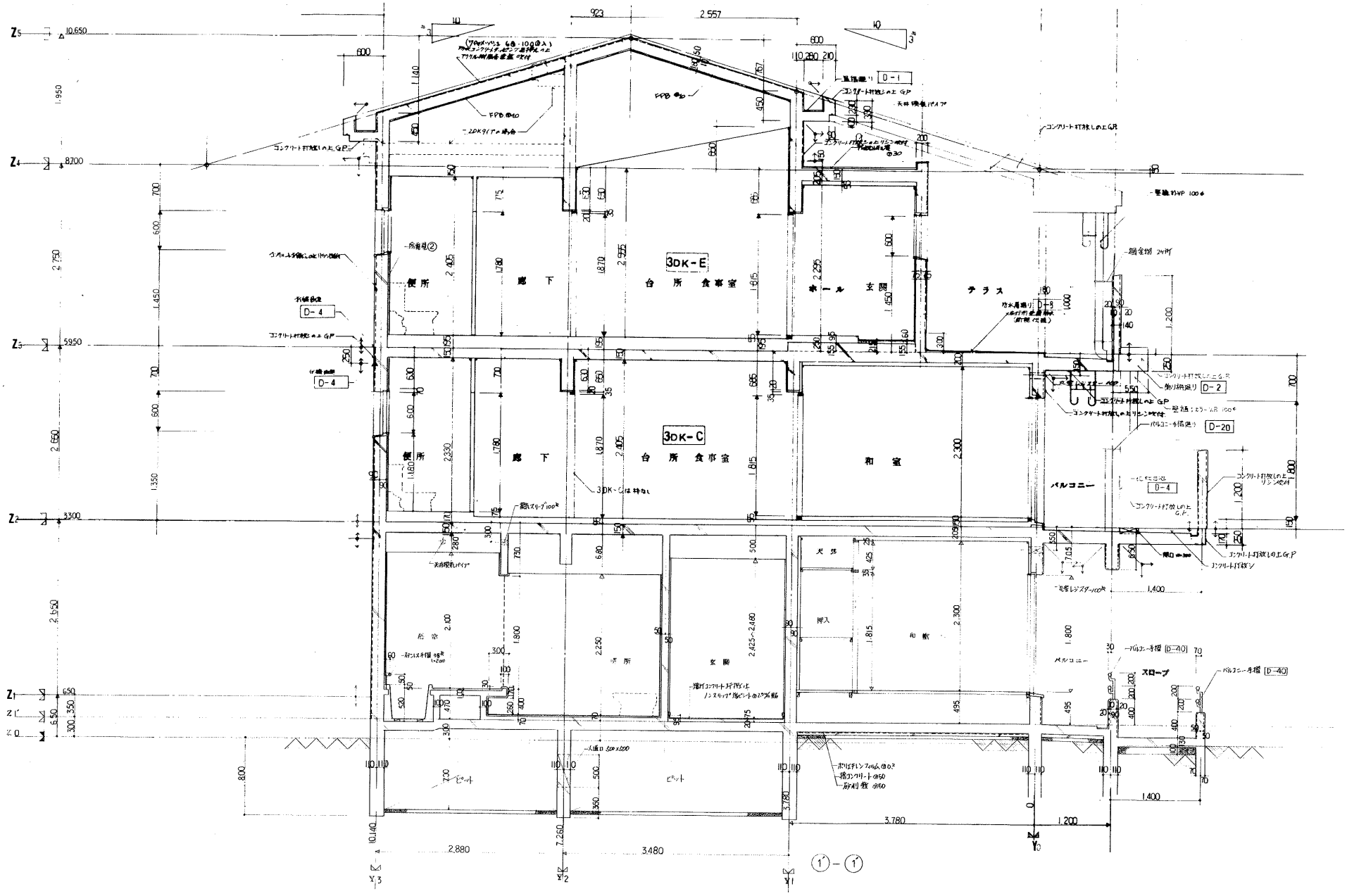


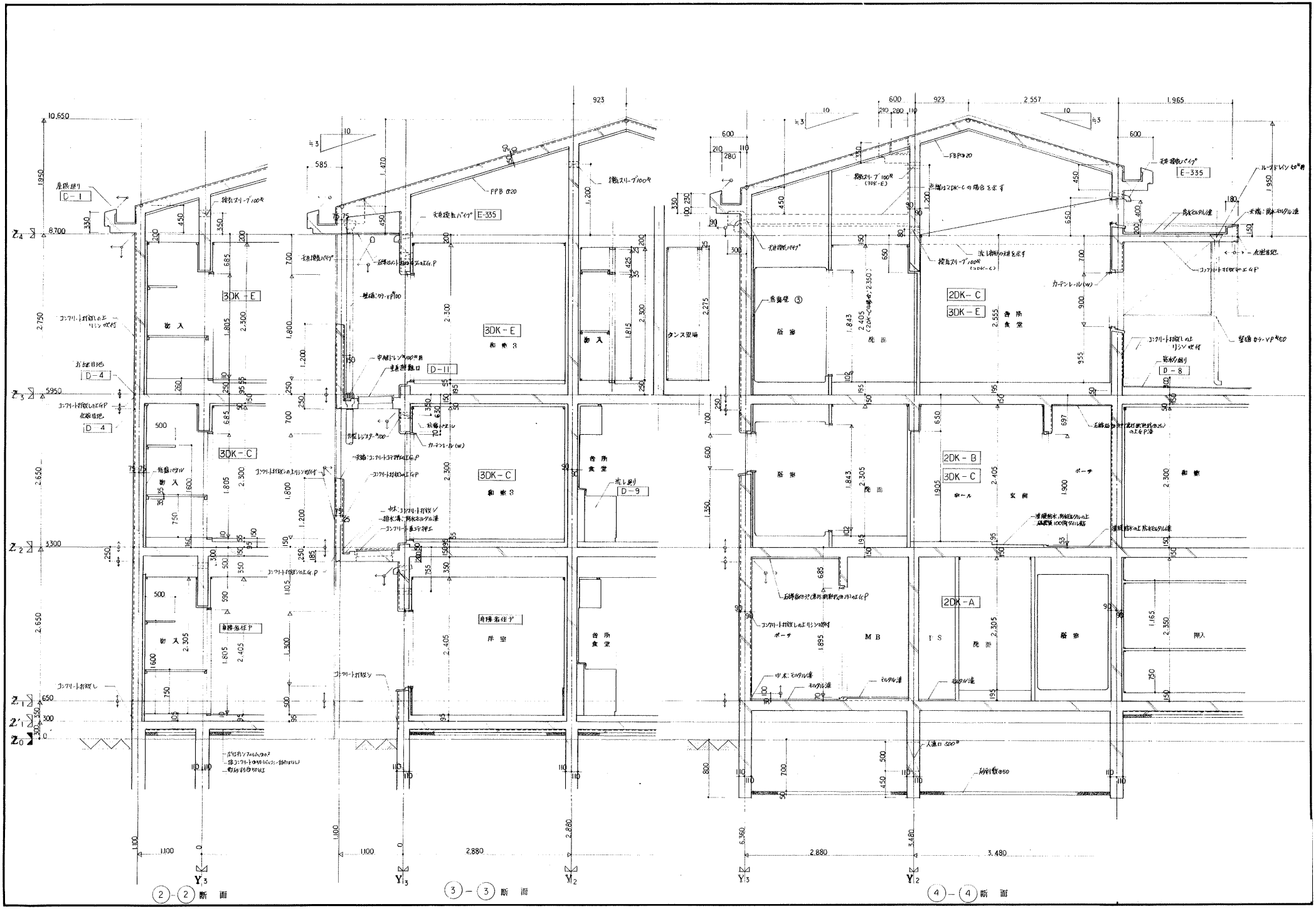
注) 1. バルコニー断熱は平面図による
2. バルコニー手摺アルミは SDK-A に準ずる
3. エキスパンション部は別図 (D-21) による。



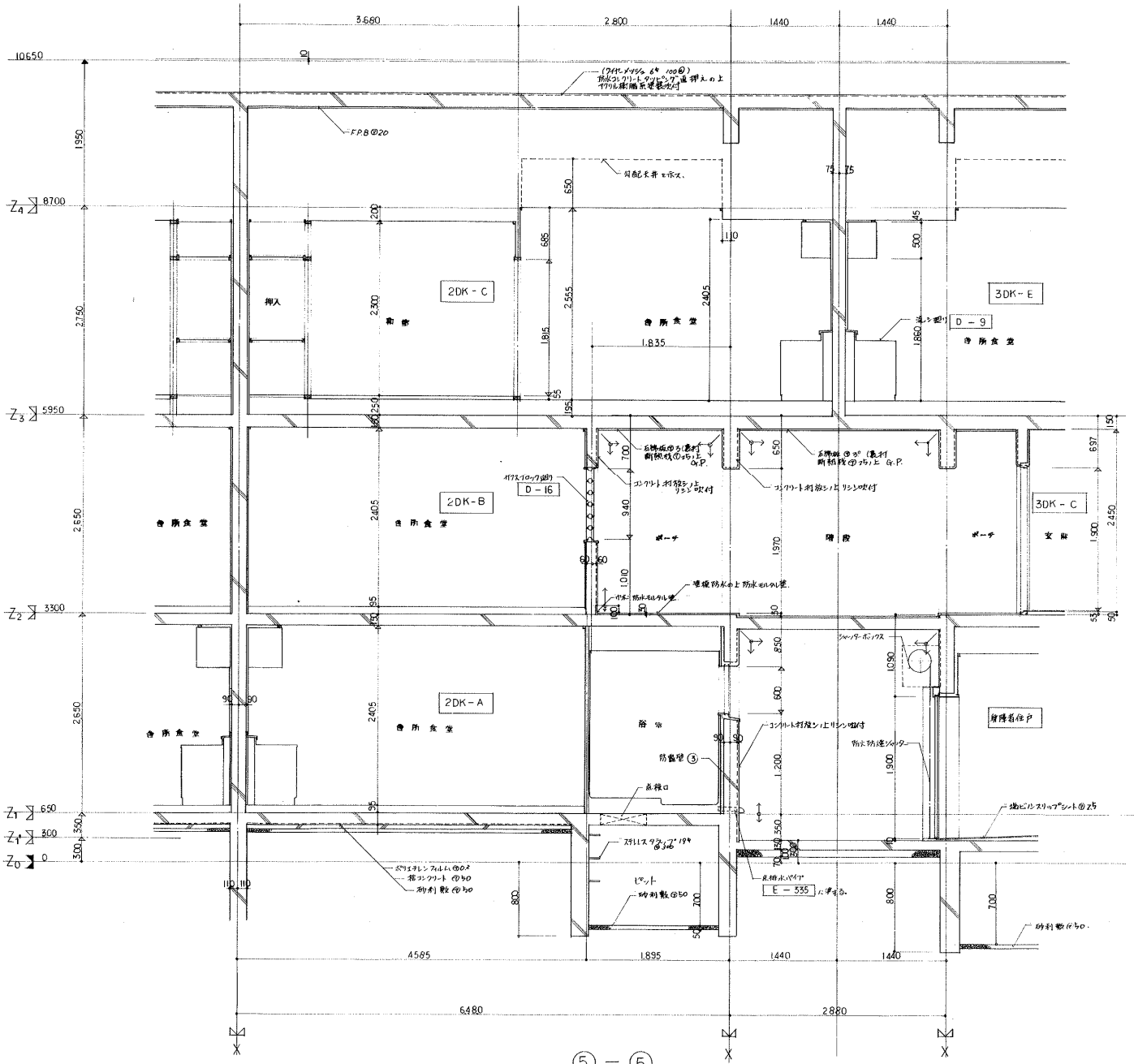
注、EXP.J部は別図(D-21)による


2DK-C
2DK-B
2DK-A
便所
浴室
洗面
台所
食堂
和室
ホール
玄関
テラス
バルコニー
ピット
2DKタイプの場合
3DK-Cは除く
Z5 10.650
Z4 8.700
Z3 5.950
Z2 3.300
Z1 650
Z1' 300
Z0 0
Y3
Y2
Y1
Y0
①－①
2,880
3,480
1,200

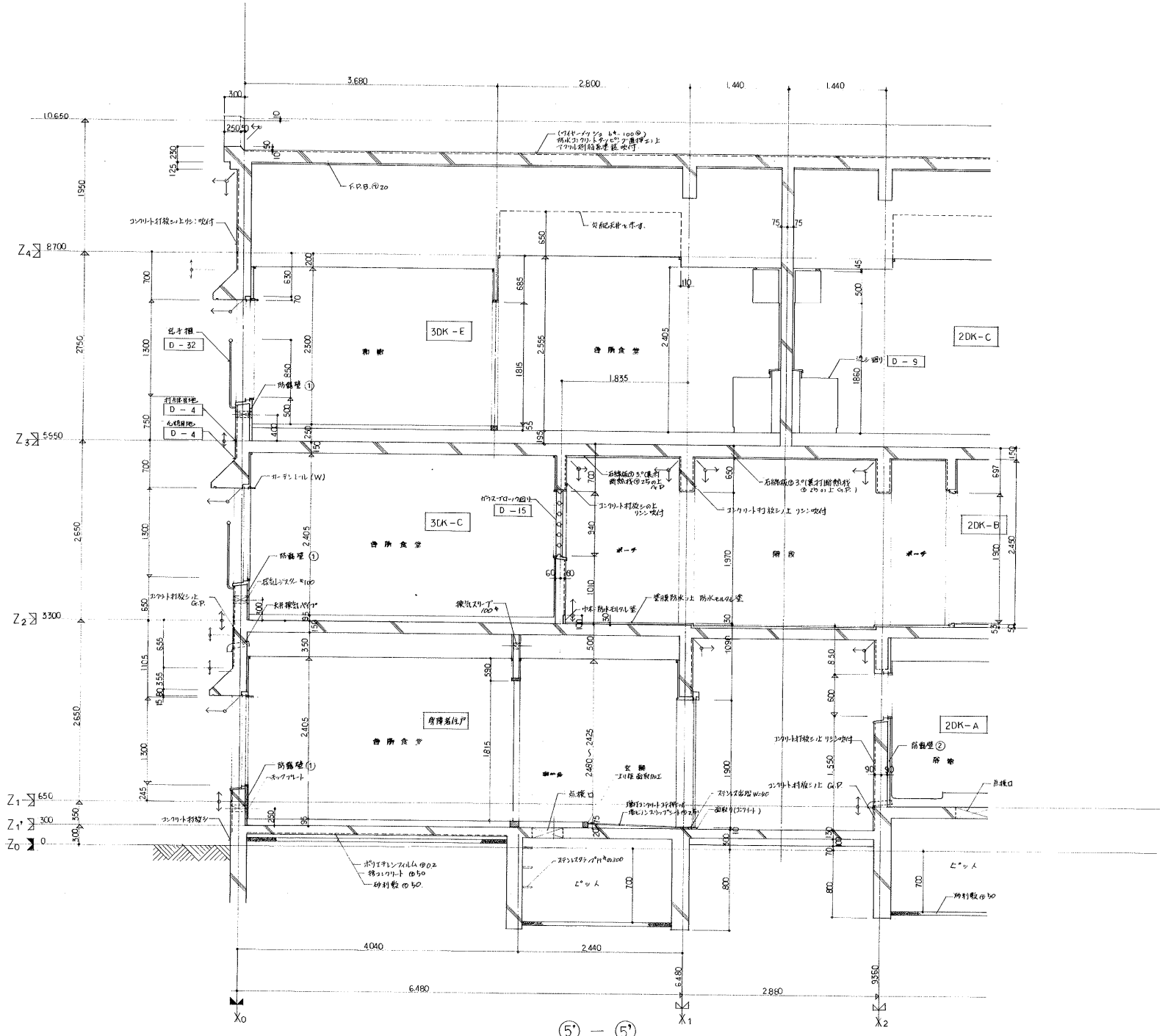

3DK-E
便所
廊下
台所食事室
ホール
玄関
テラス
3DK-C
便所
廊下
台所食事室
和室
バルコニー
スロープ
D-1
D-2
D-4
D-5
D-20
D-40
1-1'
Z5
Z4
Z3
Z2
Z1
Z0



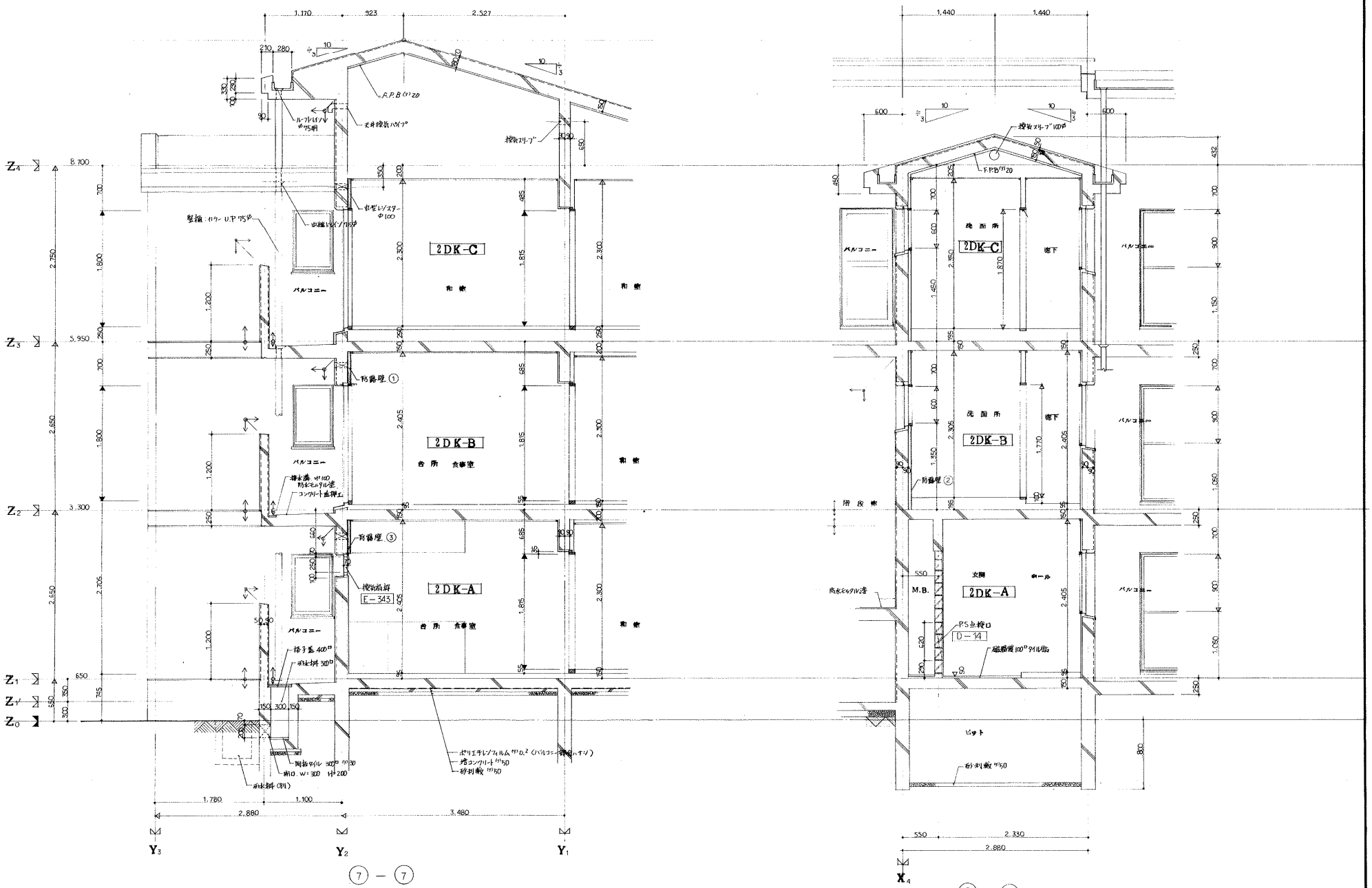
② － ② 断 面　　③ － ③ 断 面　　④ － ④ 断 面

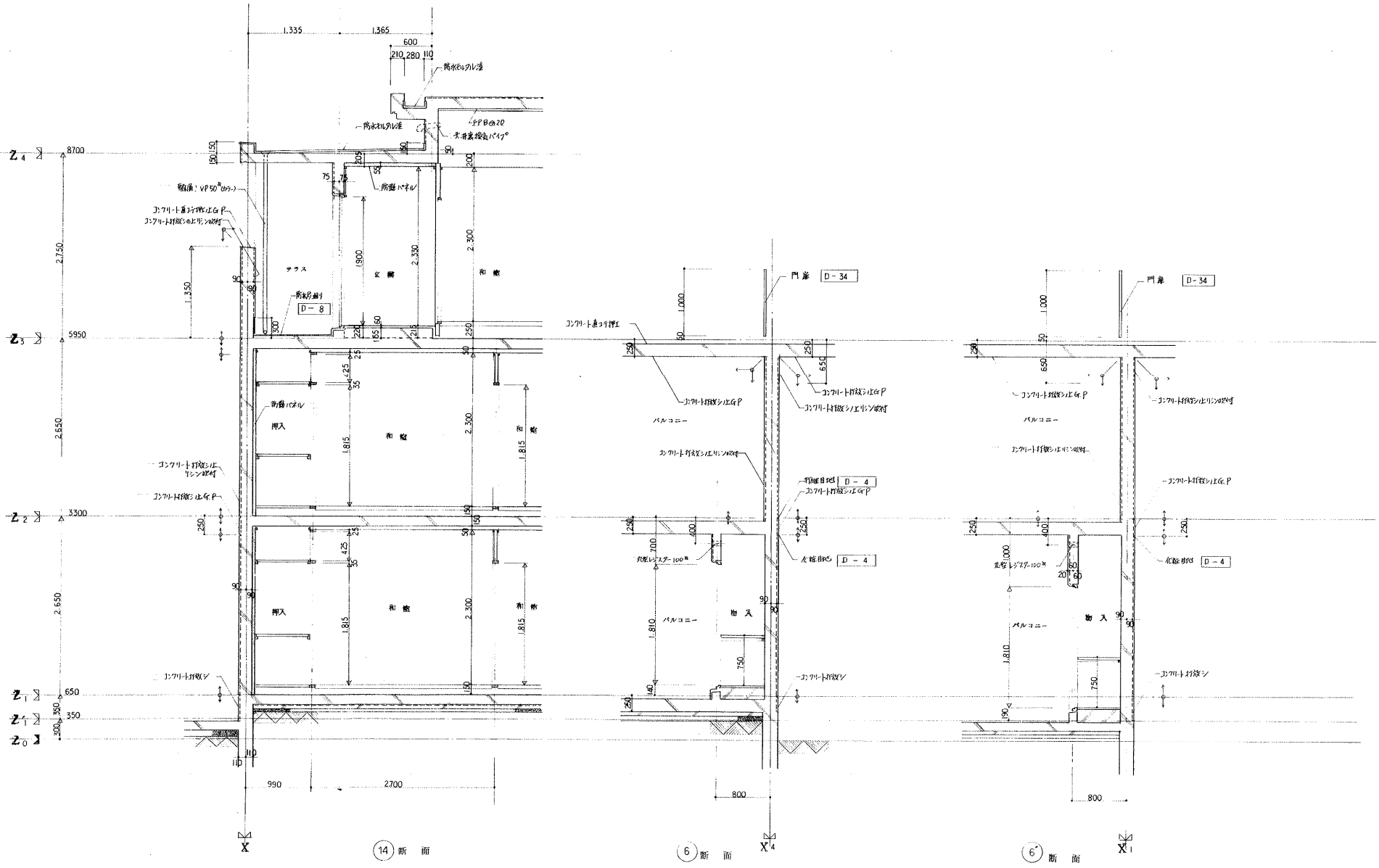

2DK-C
2DK-B
2DK-A
3DK-E
3DK-C
D-9
D-16
E-535
浴室
ポーチ
階段
玄関
給湯暖房機置場
FP8@20
防水コンクリート
砂利敷@50
スラリスタッコ
ポリエチレンフィルム
ビニルスリップシート

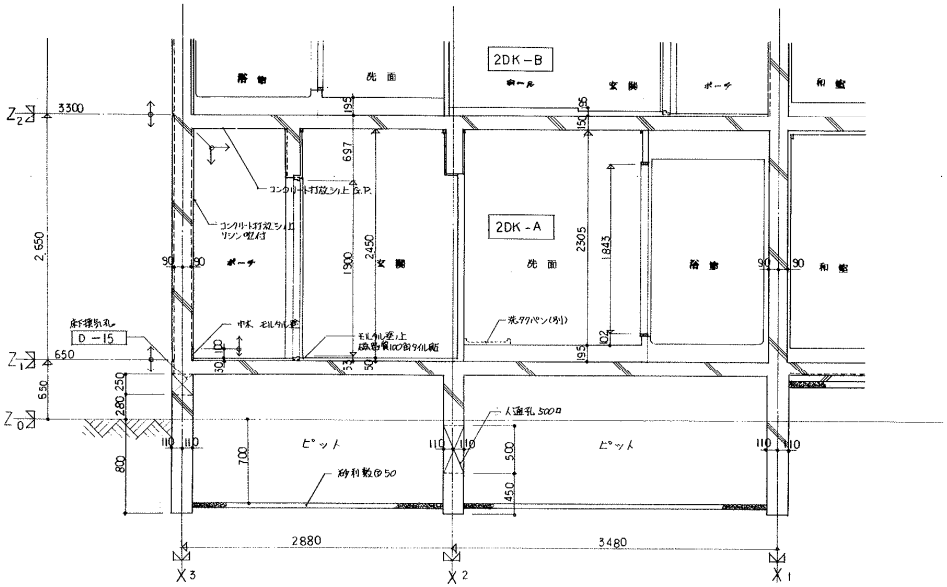
⑤ — ⑤


3DK-E
3DK-C
2DK-C
2DK-B
2DK-A
和室
食事室
廊下
玄関
ポーチ
D-32
D-4
D-4
D-9
D-15
防鼠壁①
防鼠壁②
ガーデンドール(W)
ポリエチレンフィルム
砂利敷
ステンレス出窓
Z4 8700
Z3 5950
Z2 3300
Z1 650
Z1' 300
Z0 0
10650
3680
2800
1440
1440
4040
2440
6480
2880
X0
X1
X2

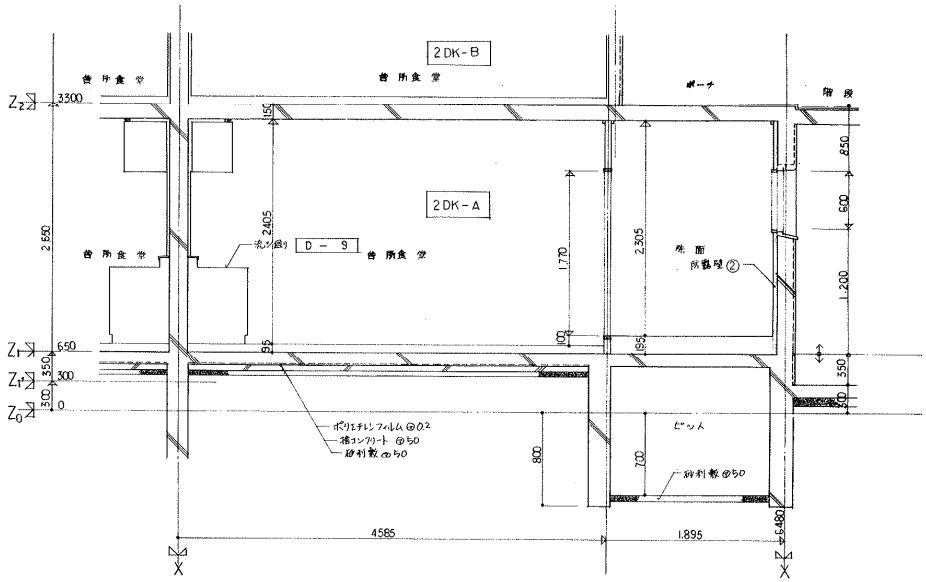
⑤' — ⑤'


2DK-C
2DK-B
2DK-A
和室
台所
食事室
バルコニー
洗面所
廊下
階段室
玄関
ホール
M.B.
ピット
Z4
Z3
Z2
Z1
Z'1
Z0
Y3
Y2
Y1
X4
(7) — (7)
(8) — (8)

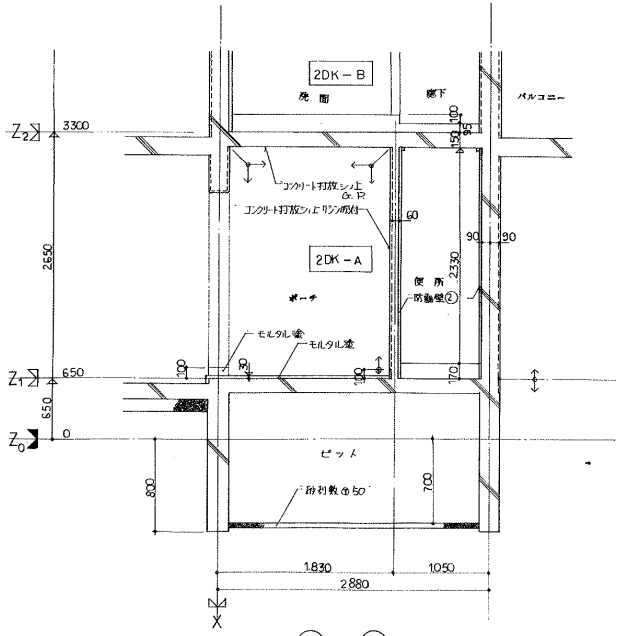

Z4 8700
Z3 5950
Z2 3300
Z1 650
Z1' 350
Z0
1,335
1,365
600
210 280 110
防水モルタル塗
PP B径20
木材素地乾燥パイプ
防水モルタル塗
150
190
205
55
50
200
75 75
防護パネル
塩ビ VP50 (ホワイト)
コンクリート直均し押え
コンクリート打放しエポキシ樹脂
2,750
1,350
テラス
2,330
2,300
和室
D－8
300
220
60
165
215
250
2,650
防護パネル
押入
1,815
和室
25
425
35
50
コンクリート打放しエポキシ樹脂
コンクリート打放シ止Gテープ
250
150
2,650
1,815
和室
コンクリート打放シ
650
350
300
110
990
2,700
X
14 断面
門扉 D－34
1,000
コンクリート直均し押え
250
50
650
コンクリート打放シ止Gテープ
コンクリート打放シ止エポキシ樹脂
バルコニー
コンクリート打放シ止エポキシ樹脂
排水目皿 D－4
コンクリート打放シ止Gテープ
250
400
700
床勾配レジスター100㎜
立上目地 D－4
1,810
物入
90
バルコニー
750
140
コンクリート打放シ
800
X'
6 断面
門扉 D－34
1,000
250
50
650
コンクリート打放シ止Gテープ
コンクリート打放シ止エポキシ樹脂
バルコニー
コンクリート打放シ止エポキシ樹脂
コンクリート打放シ止Gテープ
250
400
1,000
床勾配レジスター100㎜
20
60
立上目地 D－4
1,810
物入
90
バルコニー
750
コンクリート打放シ
800
X'
6' 断面


2DK-B
2DK-A
洗面
玄関
ポーチ
和室
階段
ピット
D-15
砂利敷@50
2880
3480
3300
2650
650
650
X3
X2
X1

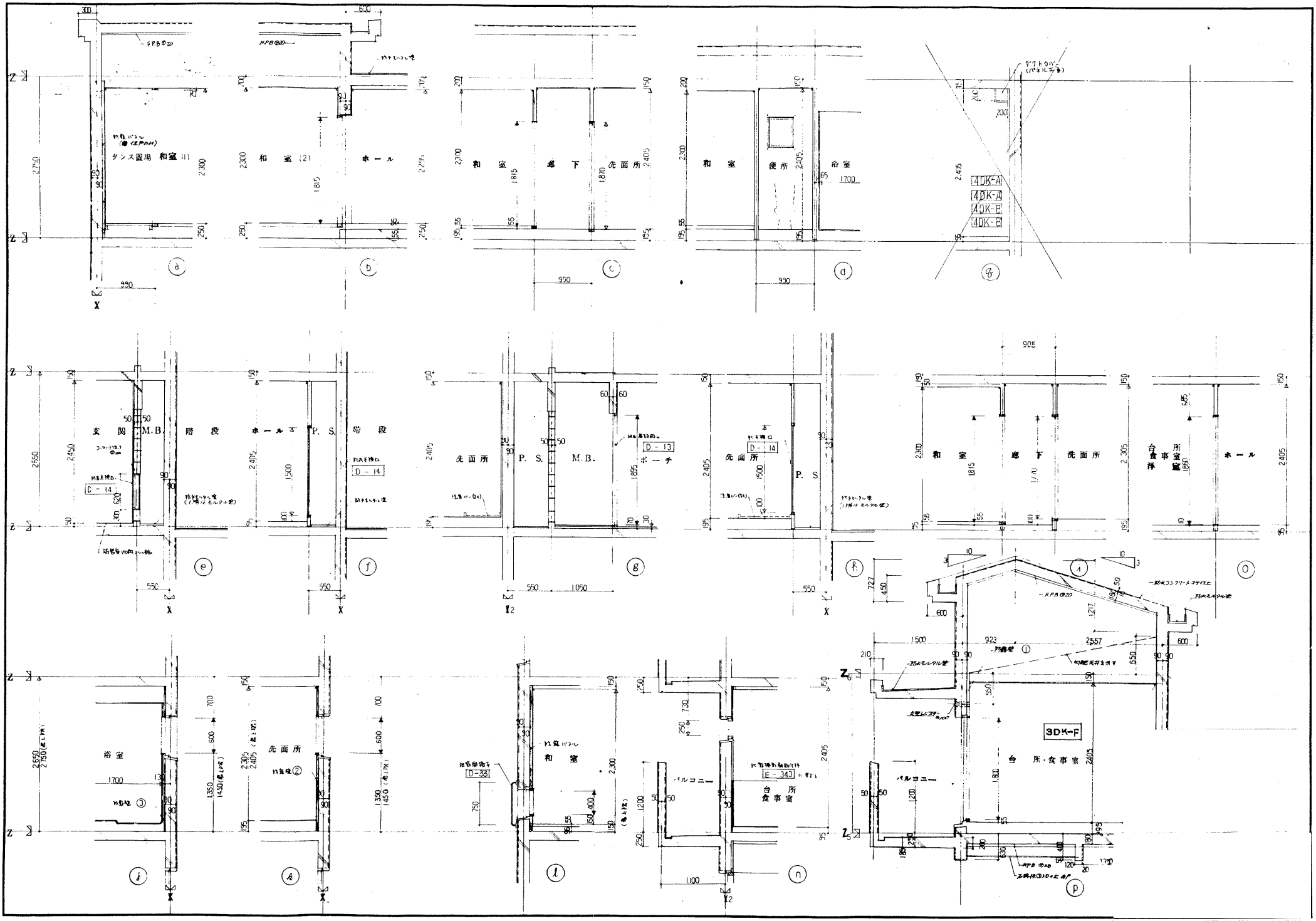
(4') — (4')

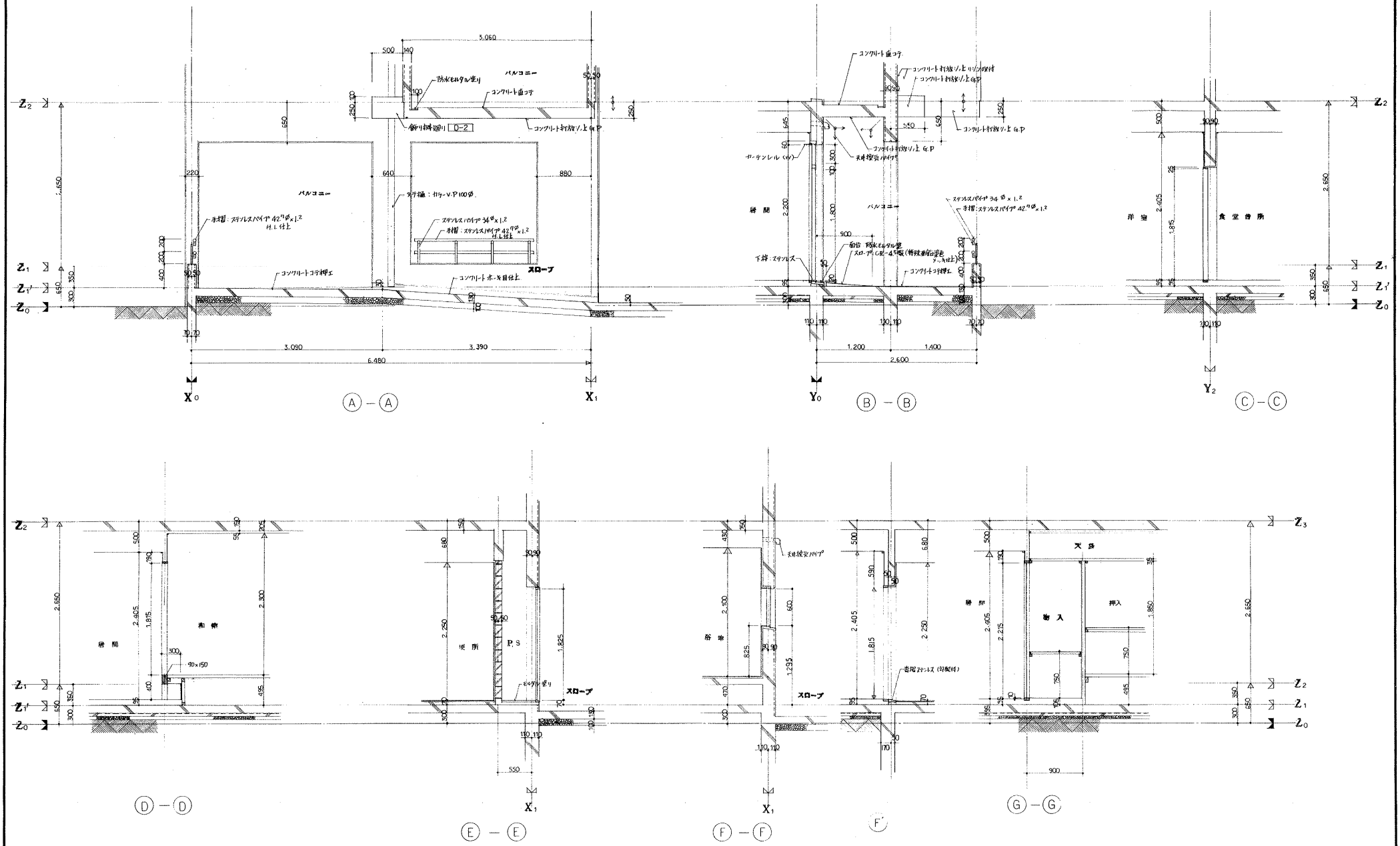

2DK-B
2DK-A
台所食堂
ポーチ
階段
洗面
D-9
ピット
砂利敷@50
4585
1895
3300
2650
650
350
300
0

(5") — (5")

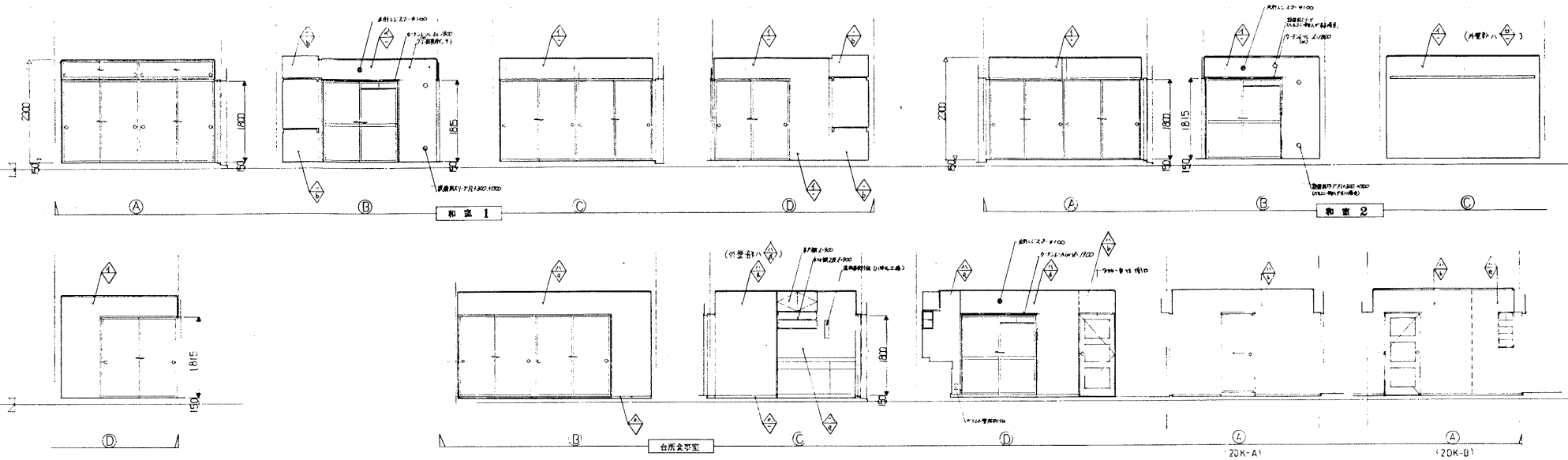

2DK-B
2DK-A
洗面
廊下
バルコニー
ポーチ
便所
ピット
砂利敷@50
モルタル塗
1830
1050
2880
3300
2650
650
0

(8') — (8')

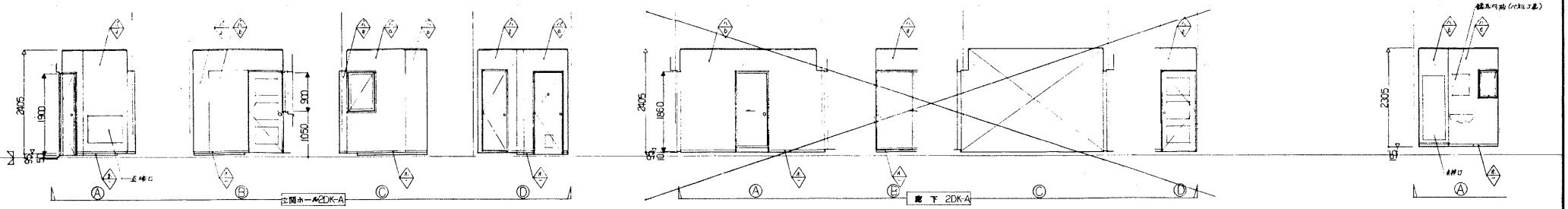

タンス置場 和室 (1)
和 室 (2)
ホール
和 室
廊 下
洗面所
和 室
便所
浴室
4DK-A
4DK-A
4DK-B
4DK-B
玄 関
M.B.
階 段
ホール
P. S.
階 段
洗面所
P. S.
M.B.
ホーチ
洗面所
P. S
和 室
廊 下
洗面所
台所 食事室
洋室
ホール
浴 室
洗面所
和 室
台 所
食事室
バルコニー
バルコニー
3DK-F
台 所・食事室

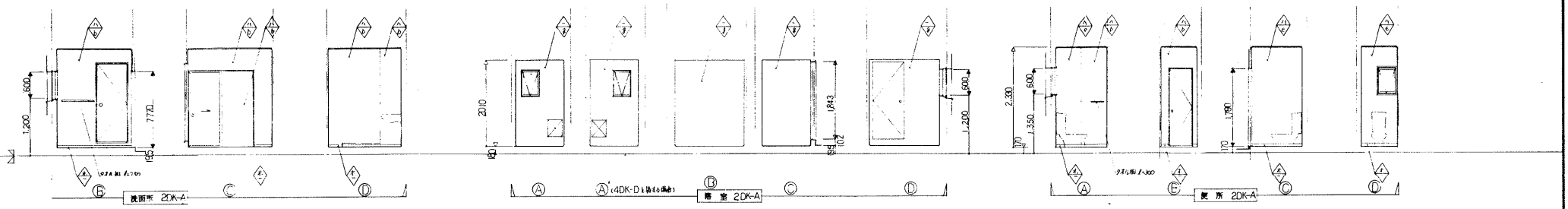

A — A
B — B
C — C
D — D
E — E
F — F
G — G
バルコニー
スロープ
和室
便所
洋室
食堂
台所
玄関
押入
3,090
3,390
6,480
1,200
1,400
2,600

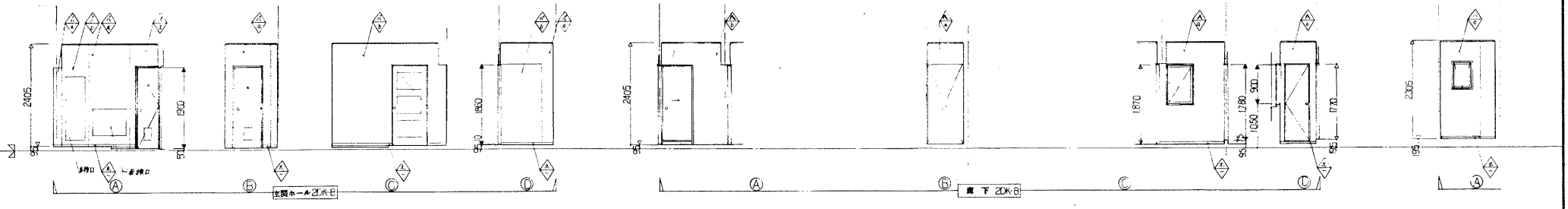
凡例													
◇ 仕上 ◇ 下地	仕上材	④ 化粧パネル 1	⑪ 化粧パネル 2	⑭ EP-I	㉑ GP	㉖ 木製 SOP	○	○	○	○	○	○	○
	下地材	⑧ モルタル	⑨ 畳地パネル 1	⑩ 畳地パネル 2	⑫ 防音壁 1	⑬ 防音壁 2	⑰ 防音壁 3	⑱ 浴室ユニット	○	○	○	○	○

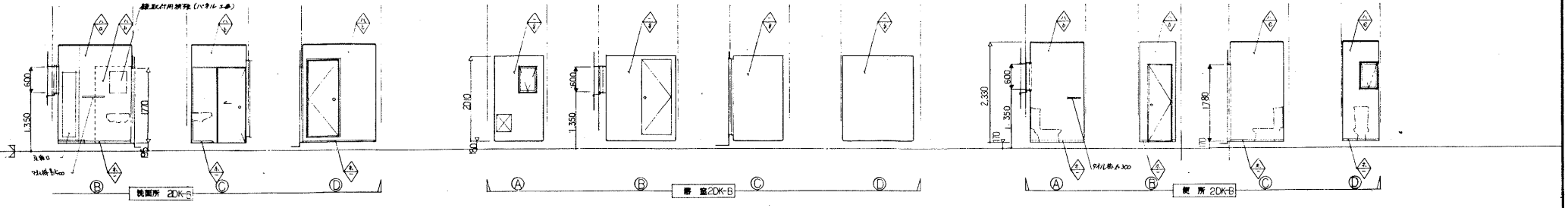


凡例													
◇—仕上 ▽—下地	仕上材	㋑ 化粧パネル 1	㋺ 化粧パネル 2	㋩ EP-Ⅰ	㋥ GP	㋭ 木製 SOP	㋬ EP-Ⅱ	㋣ ビニルクロス	○	○	○	○	○
	下地材	㋐ モルタル塗	㋑ 素地パネル 1	㋺ 素地パネル 2	㋩ 防音型 1	㋥ 防音型 2	㋭ 防音型 3	㋬ 水廻ユニット	○	○	○	○	○

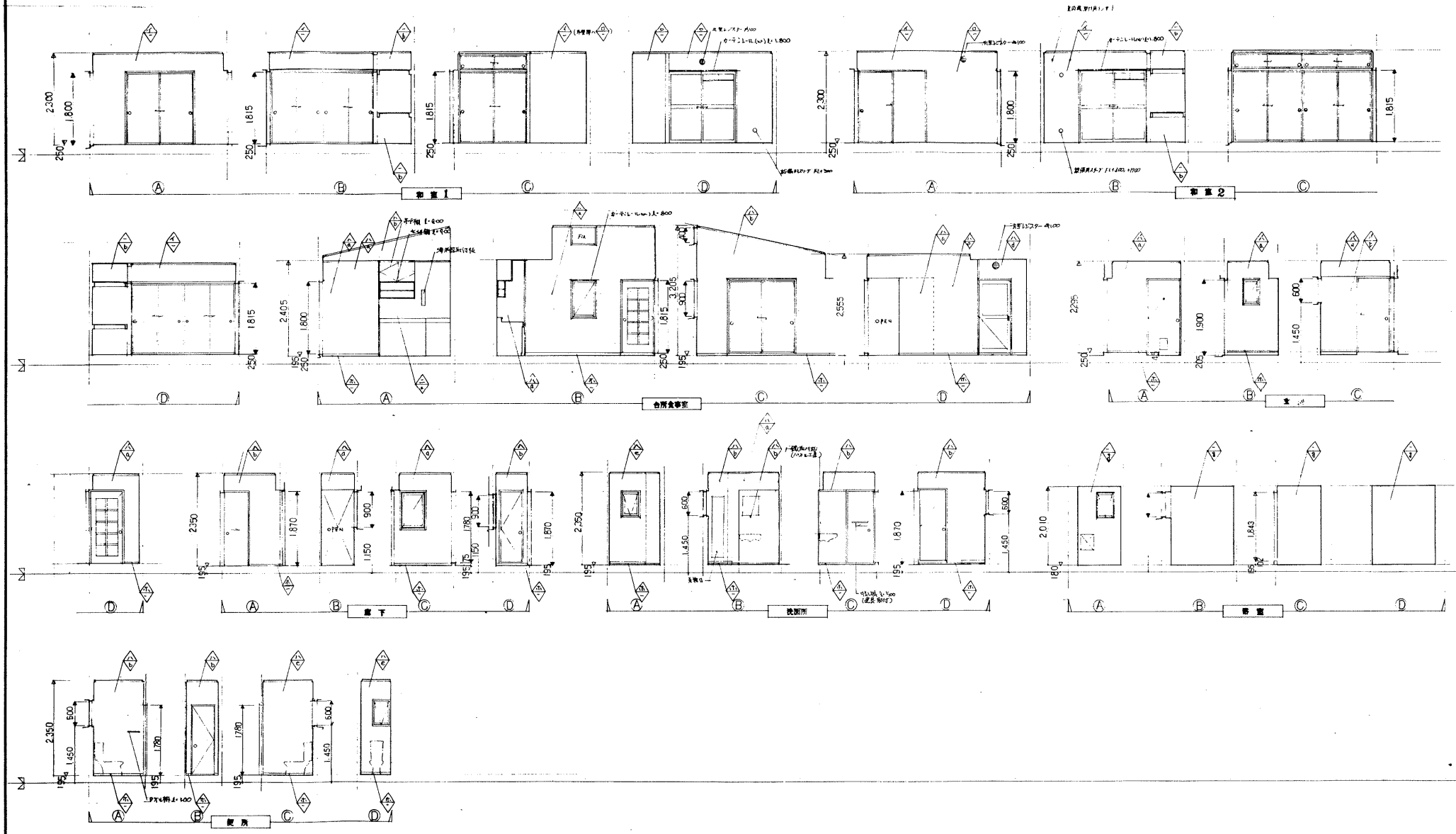




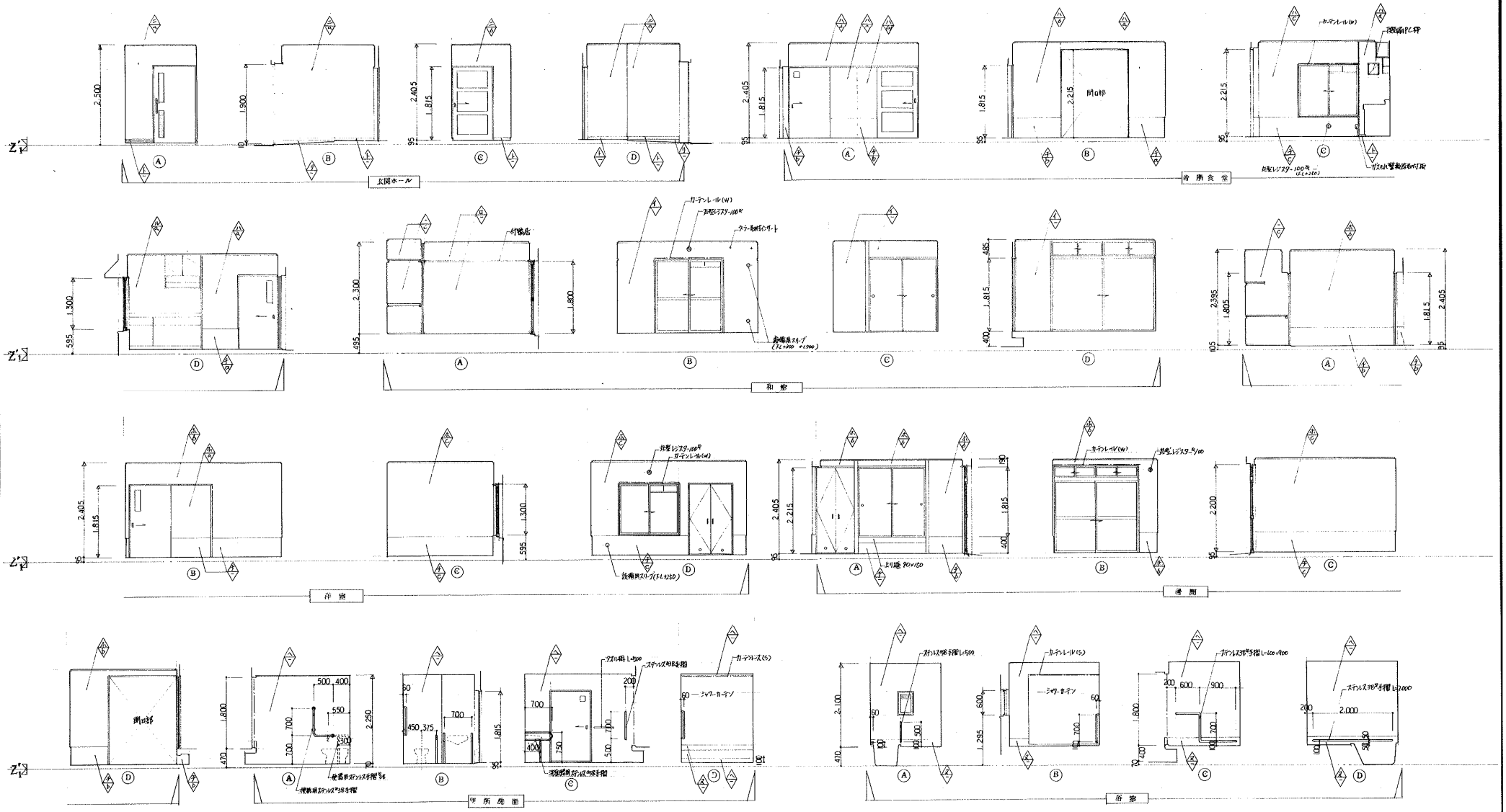




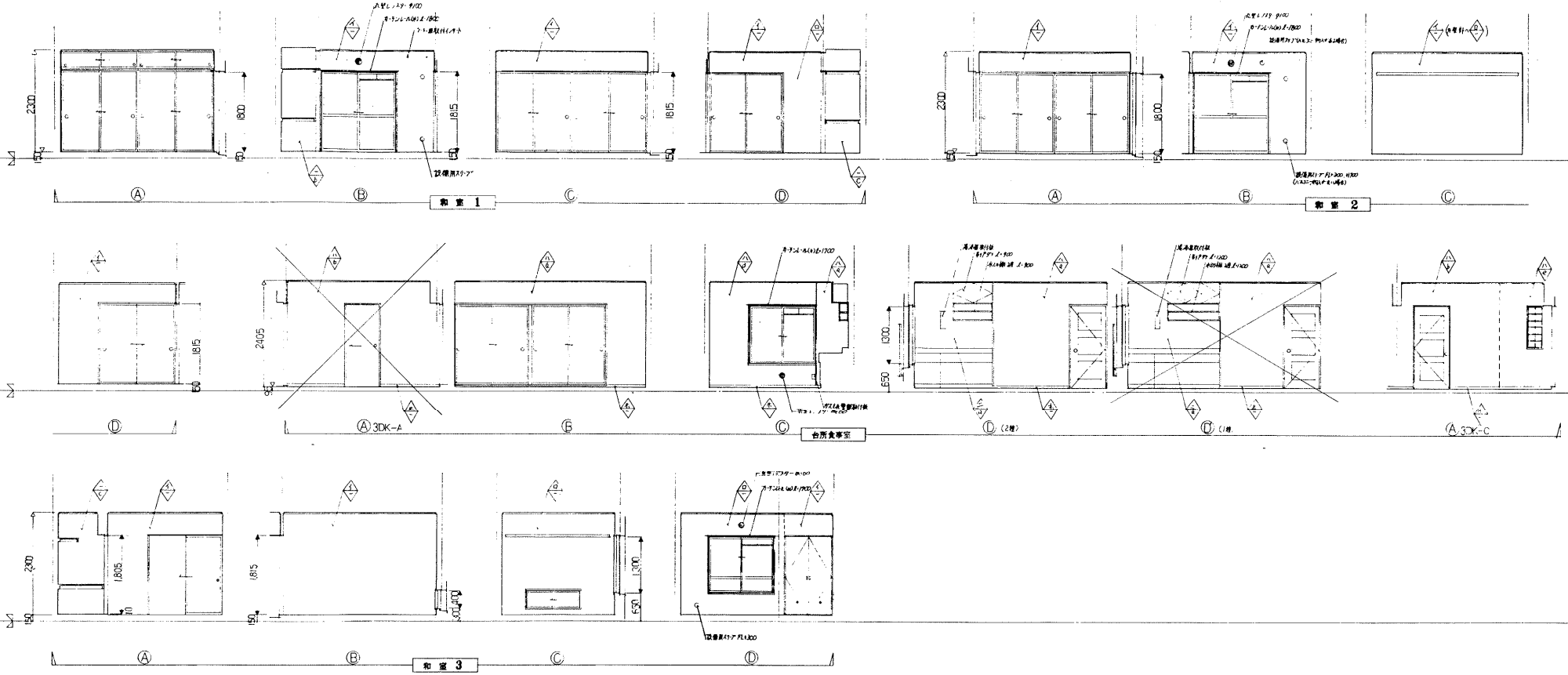
仕上												
仕上	① 化粧パネル 1	② 化粧パネル 2	㋑ EP-I	㋺ GP	㋩ 本磁 SOP	㋥ EP-II	㋭ ビニルフロア					
下地	ⓐ モルタル壁	ⓑ 素地パネル 1	ⓒ 素地パネル 2	ⓓ 石膏壁 1	ⓔ 石膏壁 2	ⓕ 石膏壁 3	ⓖ					



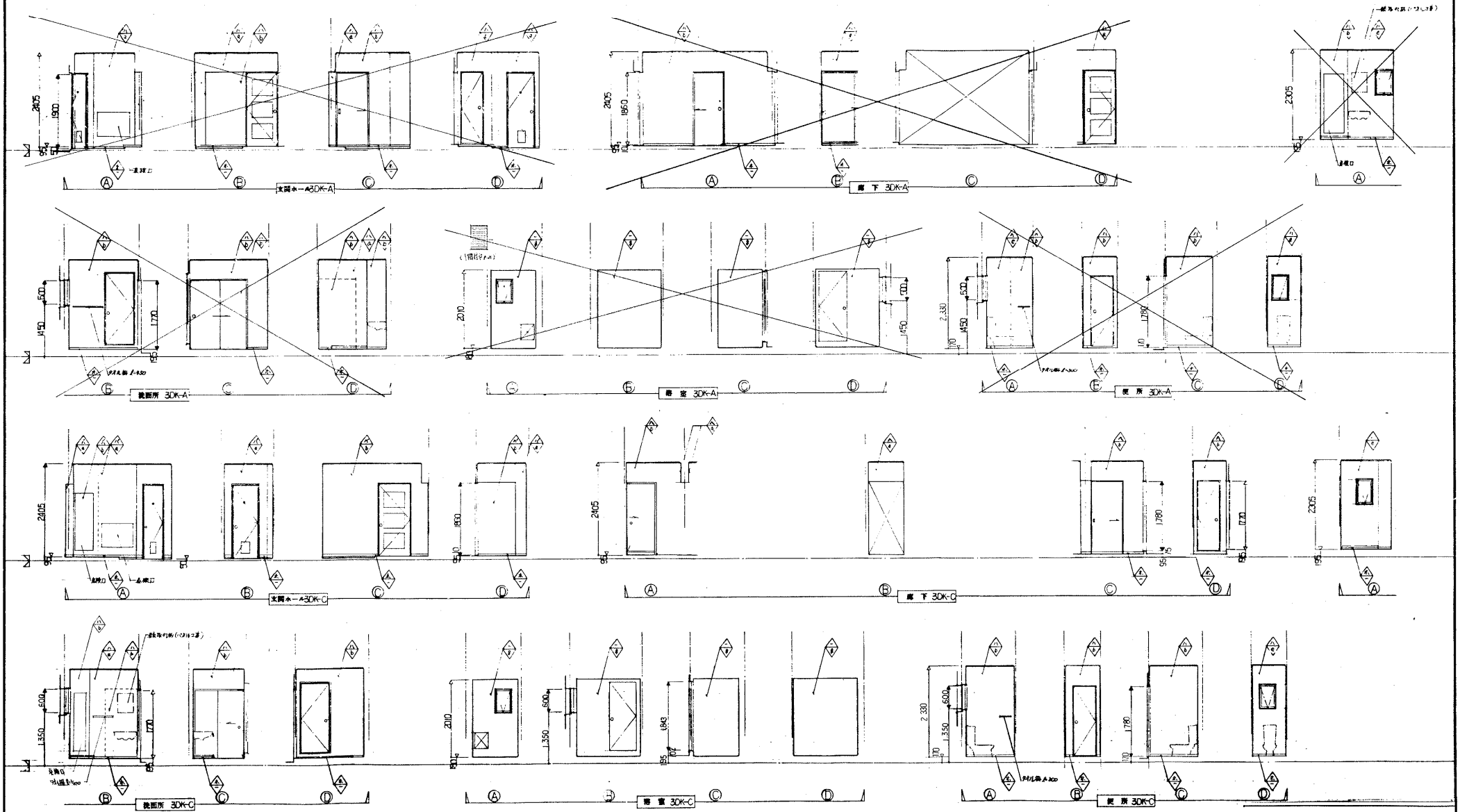
凡例	仕上	㋑ 化粧パネル 1	㋺ 化粧パネル 2	㋩ EP-Ⅰ	㋥ EP-Ⅱ	㋭ 防カビビニルクロス	㋬ 100角タイル貼	㋣ 木製SOP	㋠ キックプレート	㋷ 塩ビハンドトップシート	㋦ ロンダル-7	㋧ G P	
◇仕上 ◇下地	下地	㋐ モルタル塗	㋺ 素地パネル 1	㋨ 素地パネル 2	㋫ 防露壁 1	㋡ 防露壁 2	㋒ 防露壁 3	○	○	○	○		



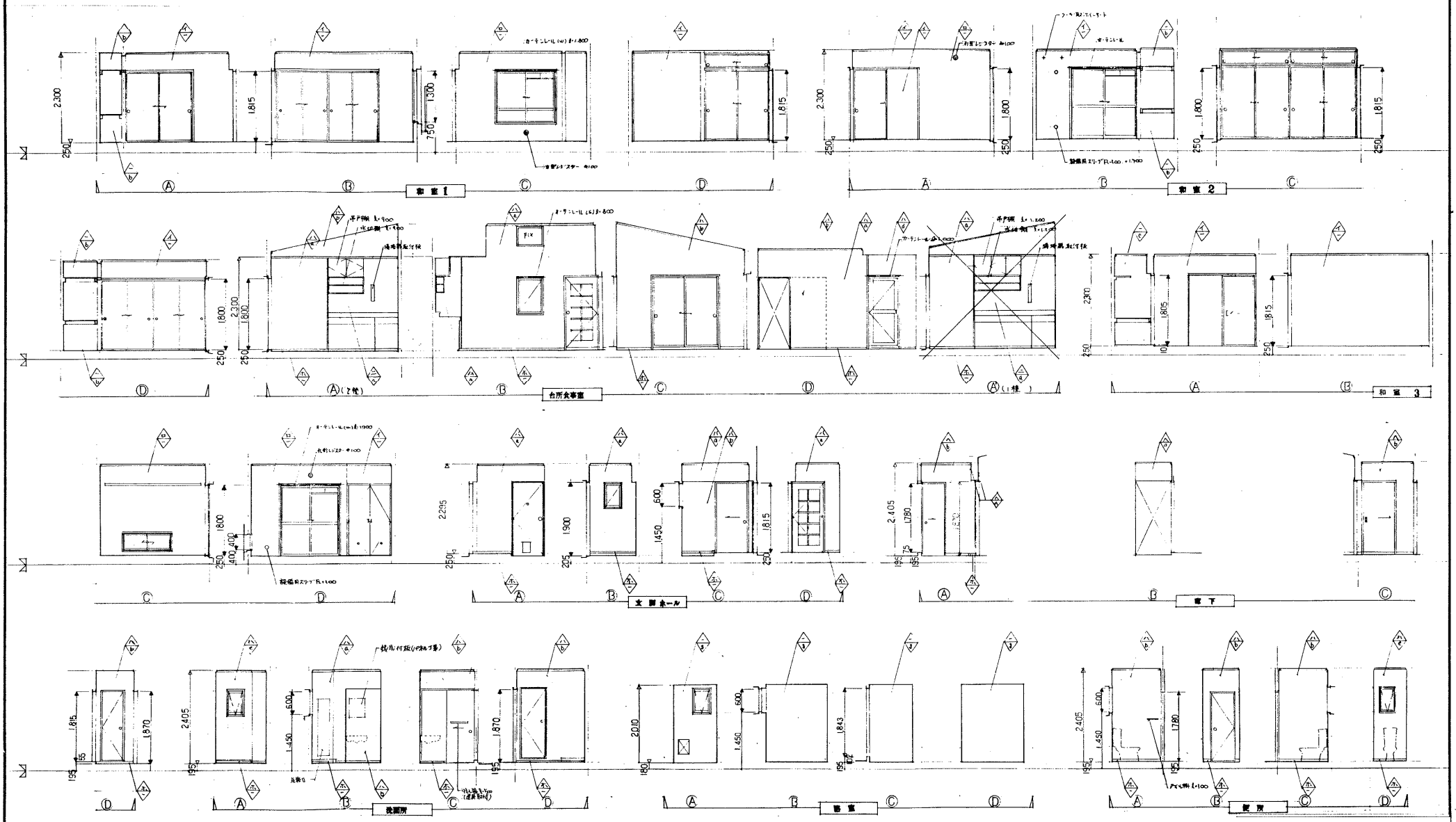
尺例	仕上材	① 化粧パネル1	② 化粧パネル2	㉑ EP-I	㉒ GP	㉓ 木質SOF	○	○	○	○	○	○	○
仕上 / 下地	下地材	ⓐ モルタル塗	ⓑ 着色パネル1	ⓒ 着色パネル2	ⓓ 防露塗1	ⓔ 防露塗2	ⓕ 防露塗3	ⓖ 浴室ユニット	○	○	○	○	○

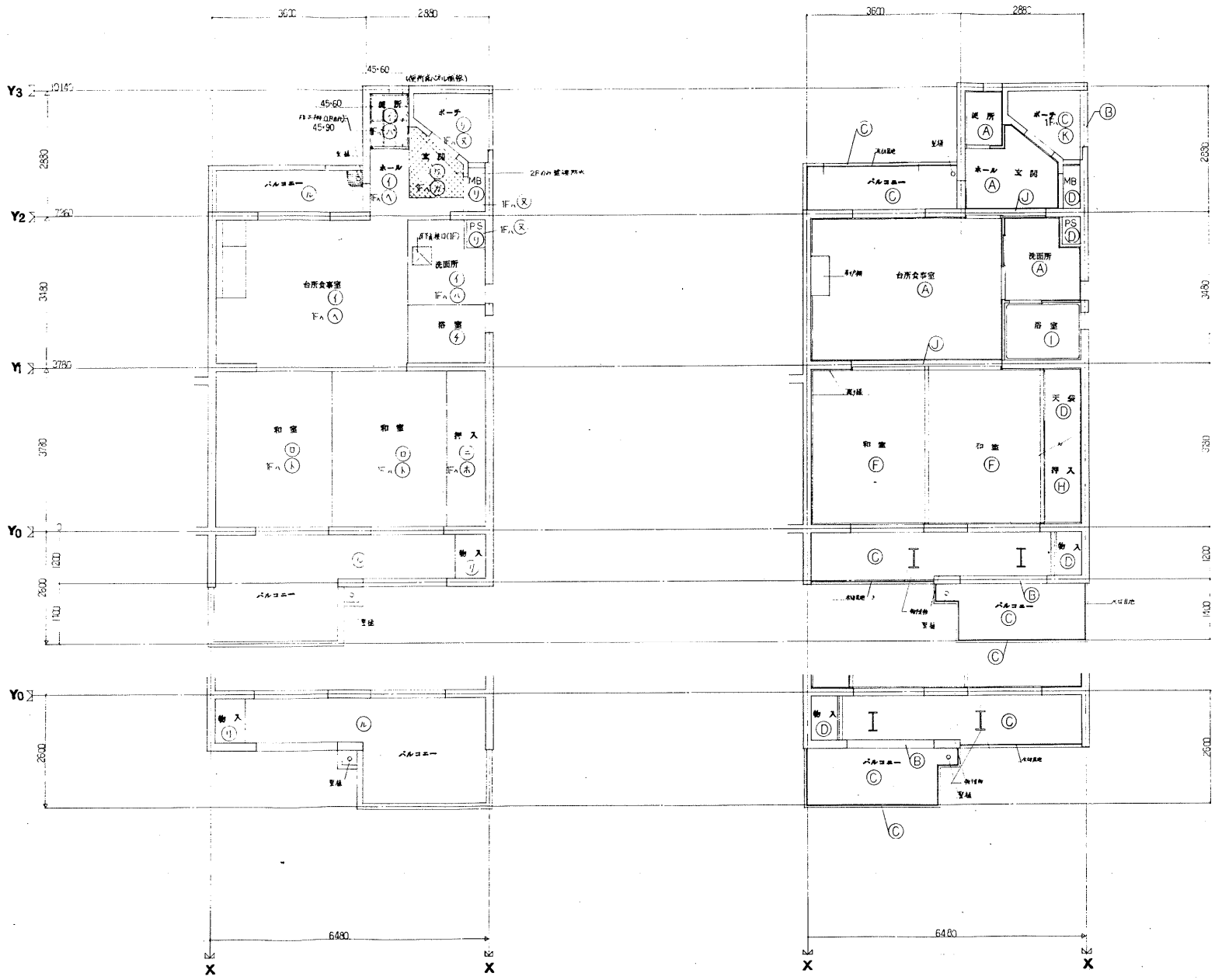


尺例													
仕上 / 下地	仕上材	㋑ 化粧パネル1	㋺ 化粧パネル2	㋩ EP-I	㋥ GP	㋭ 木製 SOP	㋬ EP-II	㋣ ビニルクロス	○	○	○	○	○
	下地材	㋐ モルタル塗	㋺ 番地パネル1	㋩ 番地パネル2	㋓ 防音壁1	㋔ 防音壁2	㋕ 防音壁3	㋖ 木質ユニット	○	○	○	○	○



凡例													
仕上	仕上材	㋑ 化粧パネル 1	㋺ 化粧パネル 2	㋩ EP-I	㋥ GP	㋭ 木製SOP	㋬ EP-II	㋣ ビニルクロス					
下地	下地材	ⓐ モルタル塗	ⓑ 素地パネル 1	ⓒ 素地パネル 2	ⓓ 石膏ボード 1	ⓔ 石膏ボード 2	ⓕ 石膏ボード 3	ⓖ 浴室ユニット					





床伏図　　天井伏図

記号	床伏図
(イ)	下地パネル⑧の上化粧石張
(ロ)	下地パネル⑧の上タイル張
(ハ)	下地パネル⑧の上化粧石張
(ニ)	パネル⑧
(ホ)	パネル⑧
(ヘ)	浴室ユニットの壁パネル⑧の上化粧石張
(ト)	浴室ユニットの床パネル⑧の上タイル張
(チ)	B.L.浴室ユニット（1116型）
(リ)	防水モルタル
(ヌ)	モルタル塗
(ル)	コンクリート金ゴテ
(ヲ)	表面防塵硬化剤（耐熱仕様）
(ワ)	磁器質タイル（小口平）100角タイル貼
(カ)	モルタル下地 磁器質100角タイル貼
(ヨ)	巾木タイル

記号	天井伏図
(A)	コンクリート打放し（上階梁底現し）
(B)	コンクリート打放しのエッジシール
(C)	コンクリート打放しの化粧仕上げ
(D)	コンクリート打放し
(E)	化粧パネル⑧（ビニルクロス）
(F)	化粧パネル⑧（耐熱仕様）
(G)	化粧パネル⑧（耐熱仕様）
(H)	畳敷パネル
(I)	B.L.浴室ユニット（1116型）
(J)	モルタル塗りの上（浴室：EP-R）（洗面室：EP-1）
(K)	石綿板の3面耐水処理（FP8823）GP貼
(L)	化粧パネル（いぐさ）
(M)	石綿セメント板の上ペイント
(○)	

※ バルコニー形状は平面図による。



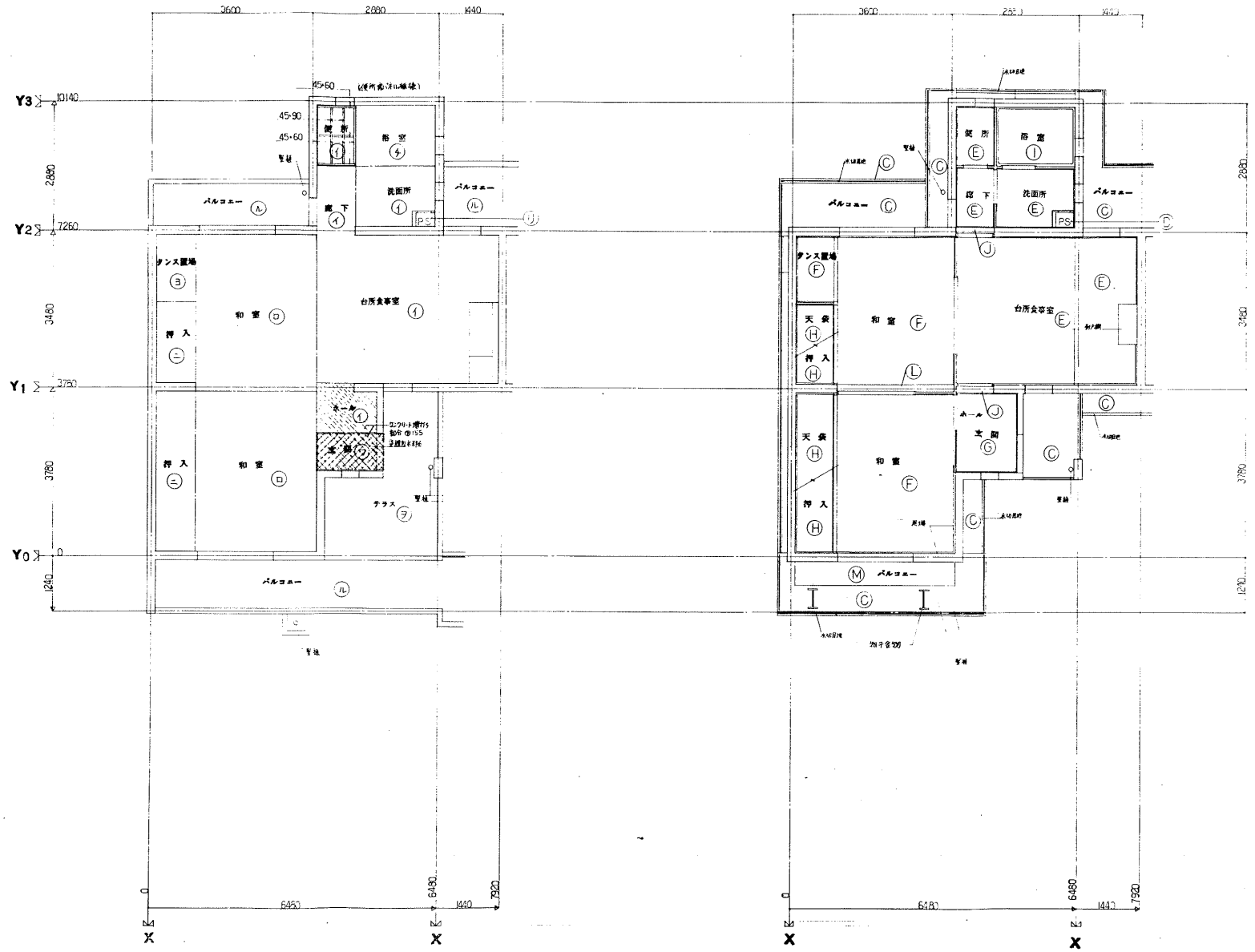
床伏図　　天井伏図

記号	床伏図
イ	下地パネルの上化粧合板貼
ロ	下地パネルの上タイル張
ハ	下地パネルの上化粧合板貼
ニ	パネル⑥
ホ	パネル⑧
ヘ	既成ポリスチレン系パネルの上化粧合板貼
ト	既成ポリスチレン系パネルの上タイル張
チ	B.L換気ユニット（1116型）
リ	防水モルタル
ヌ	モルタル塗
ル	コンクリート直均
ヲ	鉄材同等以上（断熱仕様）
ワ	防水モルタルの上磁器質100角タイル張
カ	モルタルの上磁器質100角タイル張
ヨ	幕ソデ

記号	天井伏図
Ⓐ	コンクリート打放しの上軽量鉄骨下地
Ⓑ	コンクリート打放しの上ロシン吹付
Ⓒ	コンクリート打放しの上EP
Ⓓ	コンクリート打放し
Ⓔ	化粧パネル④（ビニクロン）
Ⓕ	化粧パネル⑤（和室用）
Ⓖ	化粧パネル⑤（断熱用）
Ⓗ	集成パネル
Ⓘ	B.L換気ユニット（1116型）
Ⓙ	モルタル塗の上（浴・トイレ EP-T）（台所・洗面 EP-I）
Ⓚ	石綿板下地断熱材貼の上（浴室のみ）GP貼
Ⓛ	集成パネル（ビニクロン）
Ⓜ	石綿モルタル吹付の上GP
○	

※ バルコニー形状は、平面図による

3階建の2階の場合



床伏図

天井伏図

記号	床伏図
㋑	千地パネル①の上化粧合板貼
㋺	千地パネル②の上カラミ敷
㋩	千地パネル③の上化粧合板貼
㋥	パネル①
㋭	パネル②
㋬	繊維プラスチック板パネル①の上化粧合板貼
㋣	繊維プラスチック板パネル②の上カラミ敷
㋠	B.L.洗面ユニット(1116号)
㋡	防水モルタル
㋢	モルタル塗
㋞	コンクリート基コラ
㋝	断熱用硬質発泡ポリスチレン(断熱寸法厚)
㋜	防水モルタルの上 磁器質100角タイル貼
㋛	モルタルの上 磁器質100角タイル貼
㋚	排水ドロ

記号	天井伏図
Ⓐ	コンクリート打放しの上断熱塗材吹付
Ⓑ	コンクリート打放しの上リシン吹付
Ⓒ	コンクリート打放しの上EP
Ⓓ	コンクリート打放し
Ⓔ	化粧パネル①(ビニクロン)
Ⓕ	化粧パネル②(和紙張り)
Ⓖ	化粧パネル③(断熱材入)
Ⓗ	素地パネル
Ⓘ	B.L.洗面ユニット(1116号)
Ⓙ	モルタル塗りの上EP.
Ⓚ	石膏ボード9.5厚 ボンド張り (1820×910) GL貼
Ⓛ	化粧パネル(じゅらく)
Ⓜ	石綿セメント板180角の上GP
○	



符号	床伏図
イ	下地パネル①の上化粧合板貼
ロ	下地パネル②の上タタミ敷
ハ	下地パネル③の上化粧合板貼
ニ	パネル①
ホ	パネル②
ヘ	発泡プラスチック系パネル①の上化粧合板貼
ト	発泡プラスチック系パネル②のタタミ敷
チ	B.L型ユニット(ハル型)
リ	防水モルタル塗
ヌ	モルタル塗
ル	コンクリートコテ押エ
ヲ	歩行用塗膜防水(断熱メエ様)
ワ	防水モルタル上成形筒100角タイル貼
カ	モルタル上成形筒100角タイル貼
ヨ	板タタミ
タ	浴室用塩ビシート防水仕(ロ:プルーフ)ノンスリップ貼
レ	増打コンクリートの立ち上り25角モザイクタイル貼
ソ	増打コンクリート立上面にアスファルトシート貼
ツ	コンクリートコテ押エホーキ目仕上

符号	天井伏図
(A)	コンクリート打放シ上軽量鉄骨下地
(B)	コンクリート打放シ上リシン吹付
(C)	コンクリート打放シ上 G.P.
(D)	コンクリート打放シ.
(E)	化粧パネル①(ラワンベニヤ)
(F)	化粧パネル②(杉柾 横張)
(G)	化粧パネル③(樹脂化粧入)
(H)	素地パネル
(I)	B.L型ユニット(ハル型)
(J)	モルタル塗り上 (浴室:EP-R) (浴室以外:EP-1)
(K)	石膏板の上断熱材裏打付PB@×5)G.P.塗
(L)	化粧パネル(ルーバー)
(M)	石膏ボード板②×2の上 G.P.
(N)	竿縁野縁受け上パスリブ貼
(A')	コンクリート打放シ上 EP-1
(E')	化粧ケイ酸カルシウム板@4ミリ上 G.P.

※ バルコニー形状は平面図による。

床伏図

天井伏図

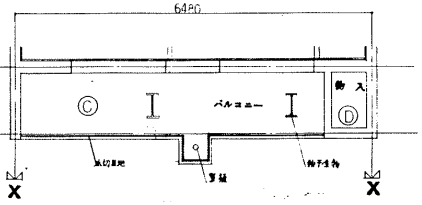


※ バルコニー形状は平面図による

記号	床伏図
(イ)	下地パネル⑥の上化粧合板貼
(ロ)	下地パネル⑥の上タタミ敷
(ハ)	下地パネル⑤の上化粧合板貼
(ニ)	パネル⑥
(ホ)	パネル⑧
(ヘ)	発泡プラスチック系パネル⑥の上化粧合板貼
(ト)	発泡プラスチック系パネル⑥の上タタミ敷
(チ)	BL浴室ユニット(1116型)
(リ)	防水モルタル塗
(ヌ)	モルタル塗
(ル)	コンクリート直均
(ヲ)	密封断熱防水(断熱仕様)
(ワ)	防水モルタルの上磁器質100角タイル
(カ)	モルタルの上磁器質100角タイル
(ヨ)	仮タタミ

記号	天井伏図
(A)	コンクリート打放しの上軽重量床吹付
(B)	コンクリート打放しの上リシン吹付
(C)	コンクリート打放しの上白P
(D)	コンクリート打放し
(E)	化粧パネル⑥(ジプトン張)
(F)	化粧パネル⑥(格縁模様)
(G)	化粧パネル⑥(断熱材入)
(H)	羽根パネル
(I)	BL浴室ユニット(1116型)
(J)	モルタル塗の上EP-I
(K)	石膏ボード⑫3層断熱張打(FPB⑫25)の白P塗
(L)	化粧パネル(ヒノキ)
(M)	石膏ボード⑫2層の上白P
( )	

3階建の2階の場合



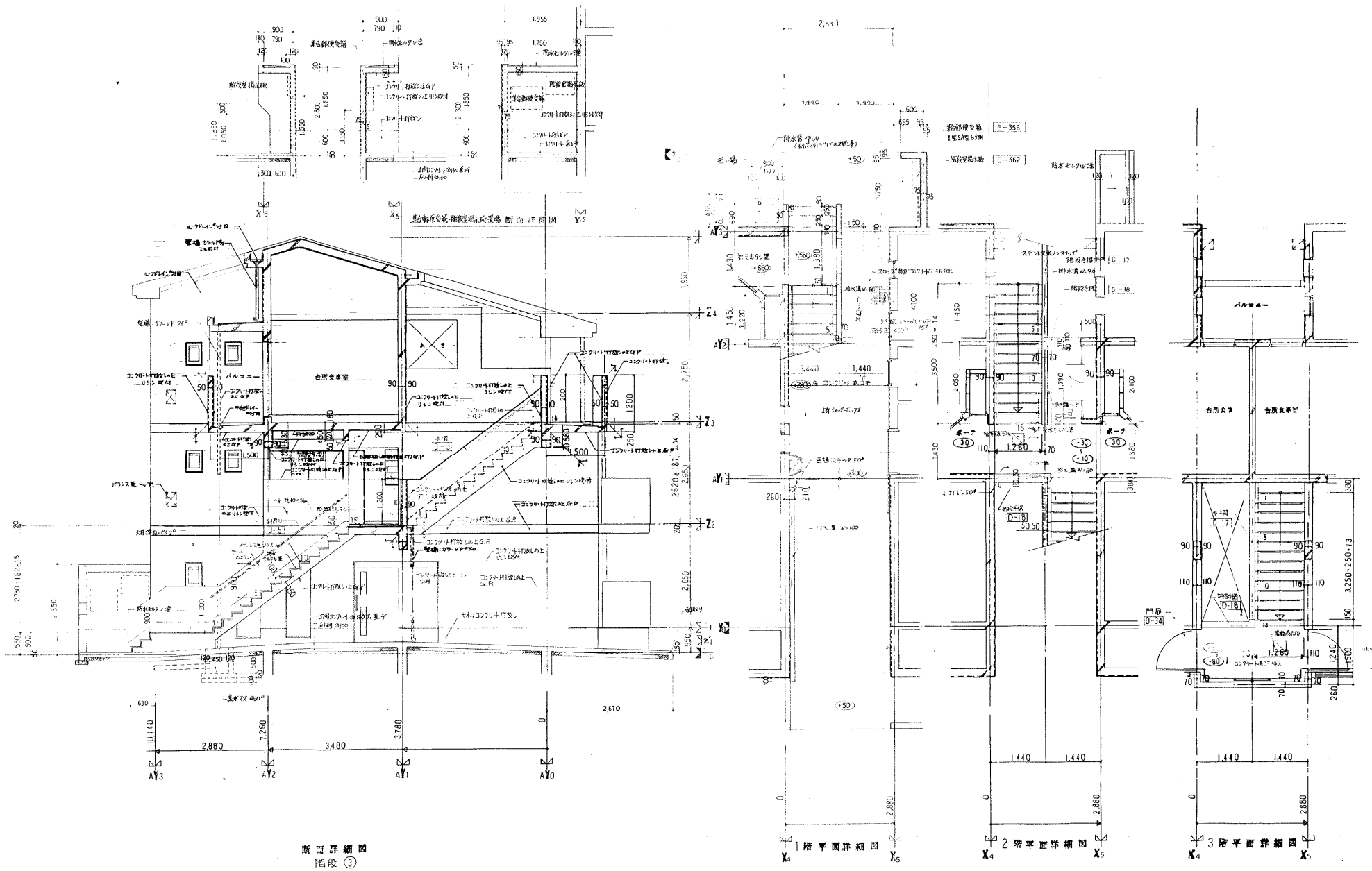


床伏図

天井伏図

記号	床伏図
イ	下地パネル⑤の上化粧合板貼
ロ	下地パネル⑤の上タタミ敷
ハ	下地パネル⑤の上化粧合板貼
ニ	パネル⑤
ホ	パネル⑤
ヘ	発泡プラスチック系パネル⑤の上化粧合板貼
ト	発泡プラスチック系パネル⑤の上タタミ敷
チ	BL 浴室ユニット(1116型)
リ	鉄水モルタル
ヌ	モルタル床
ル	コンクリート土間
ヲ	防水断熱膜防水(露出仕様)
ワ	防水モルタルの上磁器質100角タイル貼
カ	モルタルの上磁器質100角タイル貼
ヨ	畳タタミ

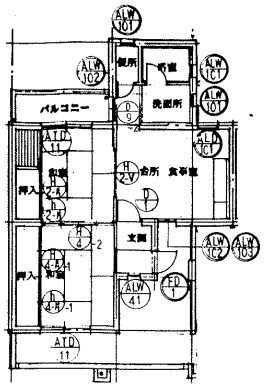
記号	天井伏図
Ⓐ	コンクリート打放しの上断熱材吹付
Ⓑ	コンクリート打放し㎜上リシン吹付
Ⓒ	コンクリート打放し㎜上 GP
Ⓓ	コンクリート打放し
Ⓔ	化粧パネル⑤(シナリーン)
Ⓕ	化粧パネル⑤(珪酸塩板)
Ⓖ	化粧パネル⑤(断熱材入)
Ⓗ	素地パネル
Ⓘ	BL 浴室ユニット(1116型)
Ⓙ	モルタル塗の上(水系用 EP-W)(溶剤用 EP-I)
Ⓚ	石膏板⑨の断熱材貼付(GP⑨の上GP貼
Ⓛ	化粧ルーバー(いちらく)
Ⓜ	石綿セメント板⑥の上 GP
○	


集合郵便受箱・階段庇示板置場 断面詳細図
集合郵便受箱
階段庇掲示板
自所食事室
バルコニー
X4
X5
Y3
Y2
Y1
Y0
Z4
Z3
Z2
Z1
2,880
3,480
7,260
3,780
2,670
1階平面詳細図
2階平面詳細図
3階平面詳細図
E-356
E-362
D-17
D-18
D-34

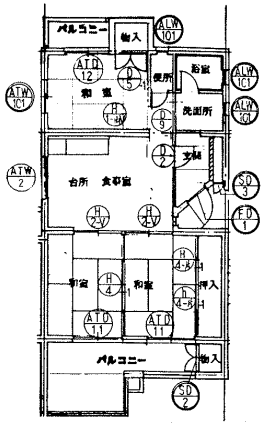
断面詳細図
階段 ③

建具案内図

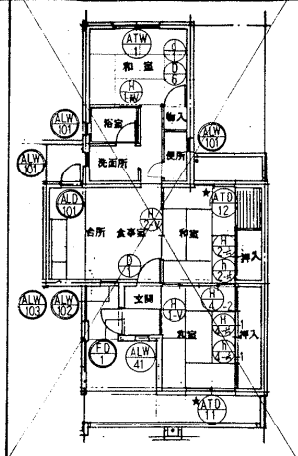
2DK-C



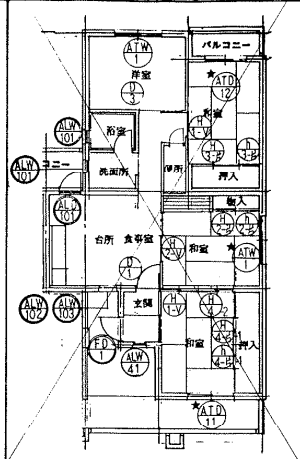
3DK-C



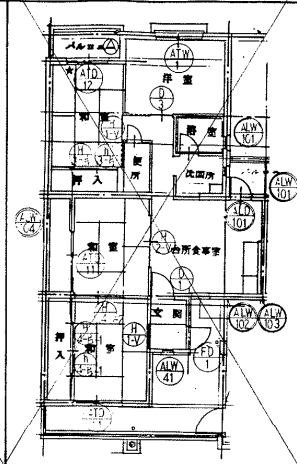
3DK-F



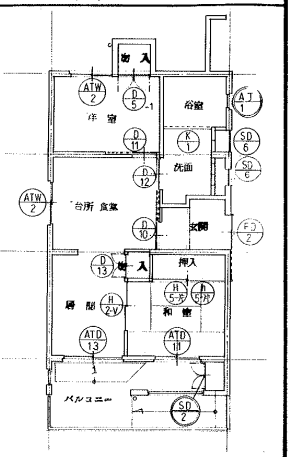
4DK-C



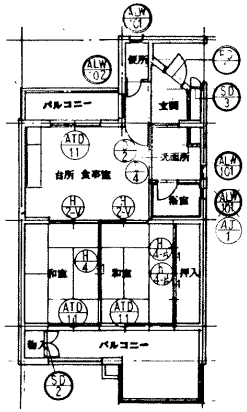
4DK-C'



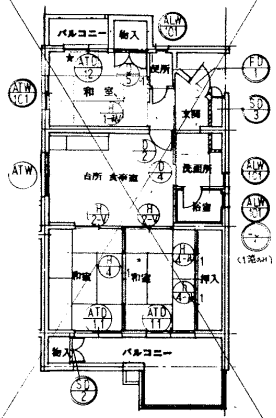
身障者住戸



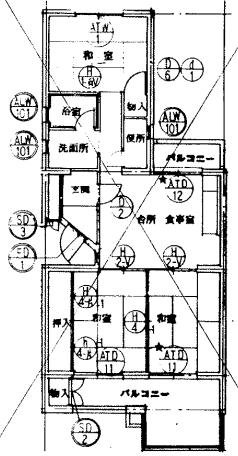
2DK-A



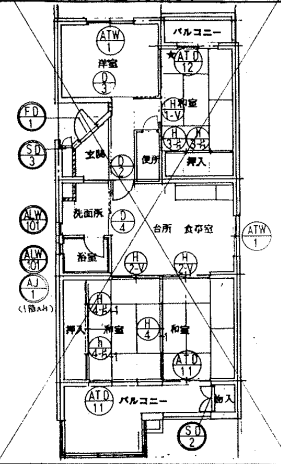
3DK-A



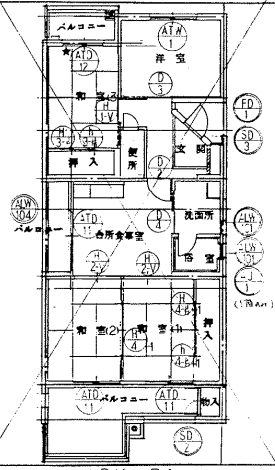
3DK-D



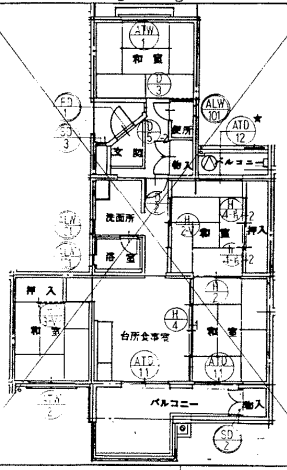
4DK-A



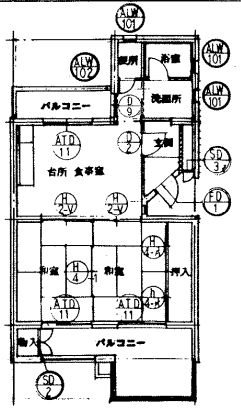
4DK-A'



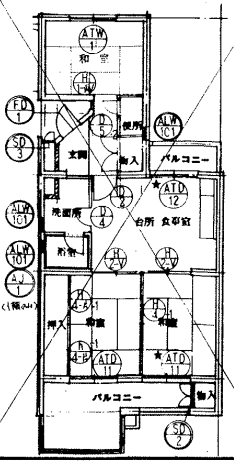
4DK-D



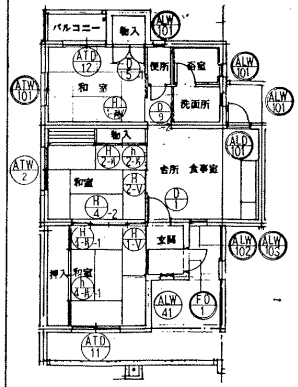
2DK-B



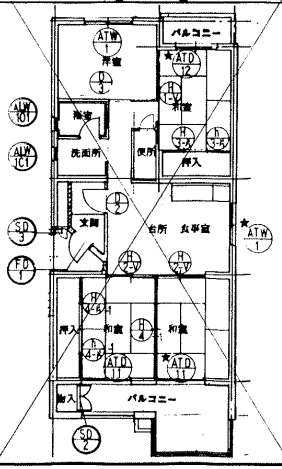
3DK-B



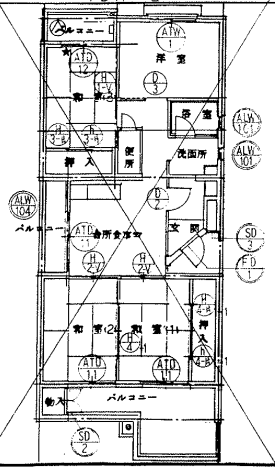
3DK-E



4DK-B



4DK-B'



階段室



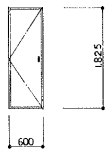
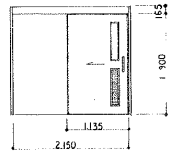
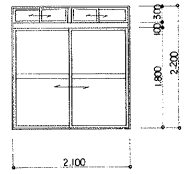
住戸タイプ別建具数量

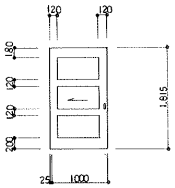
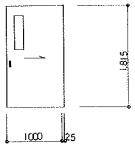
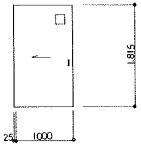
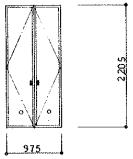
戸数	2DK A	2DK B	2DK C	3DK C	3DK E	身障者住戸	備考
SD 1							
SD 2	1	1		1		1	
SD 3	1	1		1			
SD 6						2	
FD 1	1	1	1	1	1		
FD 2						1	
ATD 11	3	3	2	2	1	1	
ATD 12				1	1		
ATD 13						1	
ATD 10			1		1		
SWD 2				1	1	2	
SWD 1			1		1		
FWD 01	2	3	3	3	3		
AWD 01	1	1	2		1		
AWD 03			1		1		
AWD 10				1	1		
A 1	1					1	
D 1			1		1		
D 2	1	1		1			
D 6	1						
D 5-1				1	1	1	
D 5-1		1		1			
D 5-2			1		1		
D 10						1	
D 11						1	
D 12						1	
D 13						1	
H 2-W				1	1		
H 1-W					1		
H 2-W	2	2	1	2	1	1	
H 2-W			1		1		
h 2-W			1		1		
H 4-1	1	1		1			
H 4-2			1		1		
H 4-D-1	1	1	1	1	1		
h 4-D-1	1	1	1	1	1		
H 5-W						1	
h 5-W						1	
K 1						1	

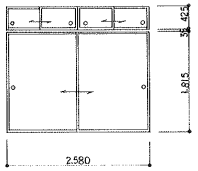
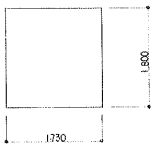
9 号 棟

戸数	2DK A	2DK B	2DK C	3DK C	3DK E	身障者住戸	合計	備考
SD 1	2(2)	2	2	2	2	2(2)	12	
SD 2							2	2階の階段室
SD 3	2	2		2		2	8	
SD 6	2	2		2			6	
FD 1						4	4	
FD 2	2	2	2	2	2		10	
ATD 11						2	2	
ATD 12	6	6	4	4	2	2	24	
ATD 13				2	2		4	
ATD 10						2	2	
SWD 2			2		2		4	
SWD 1				2	2	4	8	
FWD 01			2		2		4	
AWD 01	4	6	6	6	6		28	
AWD 03	2	2	4		2		10	
AWD 10			2		2		4	
AWD 10				2	2		4	
A 1	2					2	4	
D 1			2		2		4	
D 2	2	2		2			6	
D 6	2						2	
D 5-1				2	2	2	6	
D 5-1		2		2			4	
D 5-2			2		2		4	
D 10						2	2	
D 11						2	2	
D 12						2	2	
D 13						2	2	
H 2-W				2	2		4	
H 1-W					2		2	
H 2-W	4	4	2	4	2	2	18	
H 2-W			2		2		4	
h 2-W			2		2		4	
H 4-1	2	2		2			6	
H 4-2			2		2		4	
H 4-D-1	2	2	2	2	2		10	
h 4-D-1	2	2	2	2	2		10	
H 5-W						2	2	
h 5-W						2	2	
K 1						2	2	

( )内の数値は1階住戸戸数を示す。

記号	SD 6	FD 2		ATD 13
型式	鋼製片面フラッシュ片開き戸	鋼製両面フラッシュ引分け戸(単時開閉式)		ランマ付引違戸(AT仕様)(自動ドア)
場所	建具案内図による	建具案内図による		建具案内図による。
見込	50	40(ドア見込)		70
材質	枠 t=1.2 パネル t=1.0	スチール t=1.6以上		BL仕様に準ずる。
ガラス	——	網入型板ガラス6.8以上		上部:網入型板ガラス6.8(ランマ共) 下部:網入型板ガラス6.8
仕上	亜鉛メッキ下地 O.P	錆止め塗装の上 仕上塗装 O.P		BL仕様に準ずる。
付属金物	ステンレス丁番 2ケ 戸当り 上下各1ケSS 亜鉛メッキ1組	自閉装置 引棒 錠前 他金物一式		防風金物一式(手摺ステンレス)
姿図				
備考				

記号	D 10	D 11	D 12	D 13
型式	片引キフラッシュ戸	片引キフラッシュ戸	片引キフラッシュ戸	両開キフラッシュ戸(空気孔付)
場所	食堂.台所	洋室	洗面所	物入(居間)
見込	30	30	30	30
材質	BL仕様に準ずる.(組合板の) 4㎜)	BL仕様に準ずる.(組合板の) 4㎜)	BL仕様に準ずる.(組合板の) 4㎜)	BL仕様に準ずる.(組合板の) 4㎜)
ガラス	型板ガラスの) 4㎜	型板ガラスの) 4㎜	型板ガラスの) 4㎜	——
仕上	O.P.	O.P.	O.P.	片面ビニールクロス貼
付属金物	鍵込引手 SUS 304 (105㎜) 2ケ 戸尺車 強化ナイロン #36 2ケ	鍵込引手 SUS 304 (105㎜) 2ケ 戸尺車 強化ナイロン #36 2ケ	鍵込引手 SUS 304 (105㎜) 2ケ 戸当車 強化ナイロン #36 2ケ	マグネットキャッチ 4ケ ステンレス丸座レバー丁番 (89㎜) 6ケ 丸座錠 SUS 304 (180㎜) 2ケ
姿図				
備考	F-2E	F-2C	F-2B	

記号	H 6-W h 6-W	K 1		
型式	4枚引違イフスマ	塩ビカーテン		
場所	和室	浴室		
見込	19.5	——		
材質	共通仕様書に依る	塩化ビニール		
ガラス	——	——		
仕上	片面 新建の手線			
付属金物	合成樹脂引手(丸型) 大4ケ 小4ケ			
姿図				
備考				

記号	SD 1	SD 2	SD 3	SD 4	SD 5	SD 6
形式	両袖付2枚両開きパイプシャフト下	鋼製片面フラッシュ両開戸	片開きパイプシャフト下	鋼製片面フラッシュ両開戸	鋼製片面フラッシュ片開戸	鋼製両面フラッシュ片開戸
場所	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による
見込	50	50	50	50	50	70
材料	枠 PL-1.2 パネル PL-1.0	枠 PL-1.2 パネル PL-1.0	枠 PL-1.2 パネル PL-1.0	枠 PL-1.2 パネル PL-1.0	枠 PL-1.2 パネル PL-1.0	スチール PL-1.6
硝子	――	――	――	――	――	――
仕上	亜鉛メッキ下地 OP	亜鉛メッキ下地 OP	亜鉛メッキ下地 OP	亜鉛メッキ下地 OP	亜鉛メッキ下地 OP	亜鉛メッキ下地 OP
附属金物	ステンレス丁番 4ヶ 上下錠、SUS製面付ボルト2本 戸当り	ステンレス丁番 4ヶ 戸当り 上下錠、SUS製面付ボルト 1組	ステンレス丁番 2ヶ 戸当り 上下錠、SUS製面付ボルト 1組	ステンレス丁番 4ヶ 上下錠、SUS製面付ボルト2本 戸当り	ステンレス丁番 4ヶ 上下錠、SUS製面付ボルト2本 戸当り	表裏ステンレス丁番 4ヶ サムターン付ラッチ錠 1ヶ ラッチ、ストライク 1ヶ ドアクローザー 1ヶ 下ドアコーナーストッパー 1ヶ
参考図	FIX H FIX 1795 790	H 1800 900	H 1895 390	H 1800 1080	H 1500 1000	1900 800
備考						

記号	ATD 11	ATD 12	AD 3	ATD 10	ALW 104	ATW 1	ATW 2	ALW 1
形式	引違イ戸 (回動ガラス戸付) AT仕様	引違イ戸 (回動ガラス戸付) AT仕様	片開きドア	片袖嵌メ殺シ引違イ戸 (回動ガラス戸付)	上吊イ戸 (ハンガー)	引違イ窓 (回動ガラス戸付)	引違イ窓 (回動ガラス戸付) AT仕様	引違イ窓 (回動ガラス戸付)
場所	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による
見込	70	70	60	70	70	70	70	60
材料	BL仕様	BL仕様	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様	BL仕様	BL仕様に準する
硝子	上部：網入透明ガラス @6.8 下部：網入型板ガラス @6.8 (建具寸法図による) 上部：網入透明ガラス @6.8 下部：網入型板ガラス @6.8	同左	上部：網入透明ガラス @6.8 下部：網入型板ガラス @6.8	上部：網入透明ガラス @6.8 (小窓有) 下部：網入型板ガラス @6.8 (FIX特も留様)	網入透明ガラス @6.8	上部：網入透明ガラス @6.8 (小窓有) 下部：網入型板ガラス @6.8	同左	型板ガラス @4mm
仕上	BL仕様	BL仕様	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様	BL仕様	BL仕様に準する
附属金物	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式
参考図	1800 1700	1800 1520	1800 600	FIX FIX 1800 660 170 1700 2430	1140 3,281	1300 1700	1300 1500	1000 900
備考	BL-KJ-1716S	BL-KJ-1516S				BL-KJ-1713S	BL-KJ-1513S	

記号	ALW 102	ALW 101	ALW 103	AD 7	AD 8
形式	引違イ窓	上り出シ窓	嵌メ殺シ窓	ジャロジー扉	内倒シ窓(可動ガラリ付)
場所	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による	建具寸法図による
見込	60	60	60	70	60
材料	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する
硝子	網入型板ガラス @6.8	網入透明ガラス @6.8	網入透明ガラス @6.8	型板ガラス @6.0	網入型板ガラス @6.8
仕上	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する	BL仕様に準する
附属金物	附属金物一式	附属金物一式	――	附属金物一式	附属金物一式
参考図	400 1200	900 600	600 400	FIX 400 600	400 386	600 400
備考			0406	※2種アリ	

□ AT仕様のアルミ製建具については、全て（サッシ強度 280kg/m²以上 / 水密 50kg/m²以上 / 気密 2 m³/h·m² / 遮音 25-5 dB以上）の性能を有するBL製品又はBL仕様に準拠のもの。

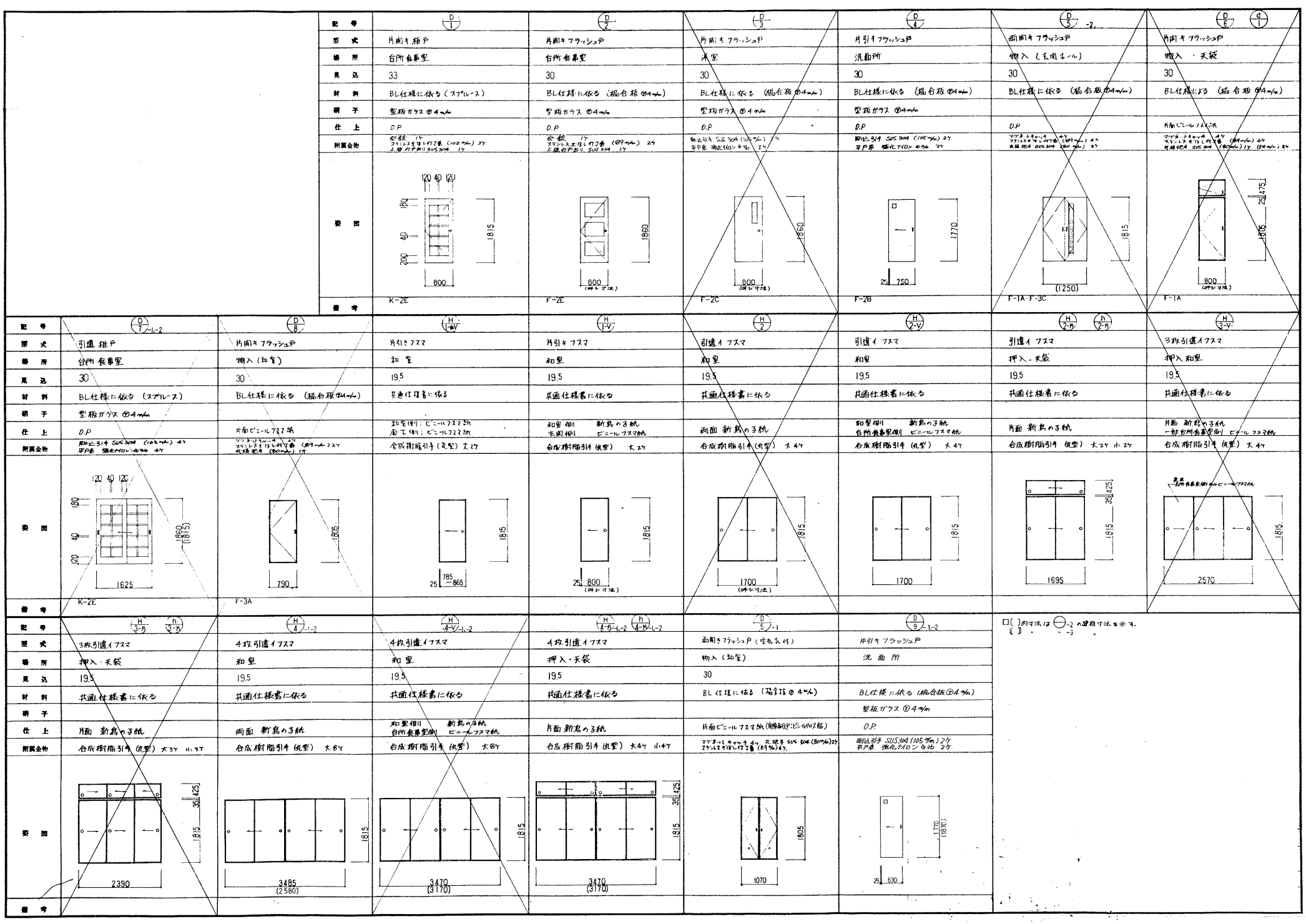
※ その他のアルミ製建具については（サッシュ強度 200kg/m²以上 / 水密 25kg/m²以上 / 気密 4 m³/h·m² / 遮音 10 dB以上）の性能を有するBL製品又はBL仕様に準ずるものとする。

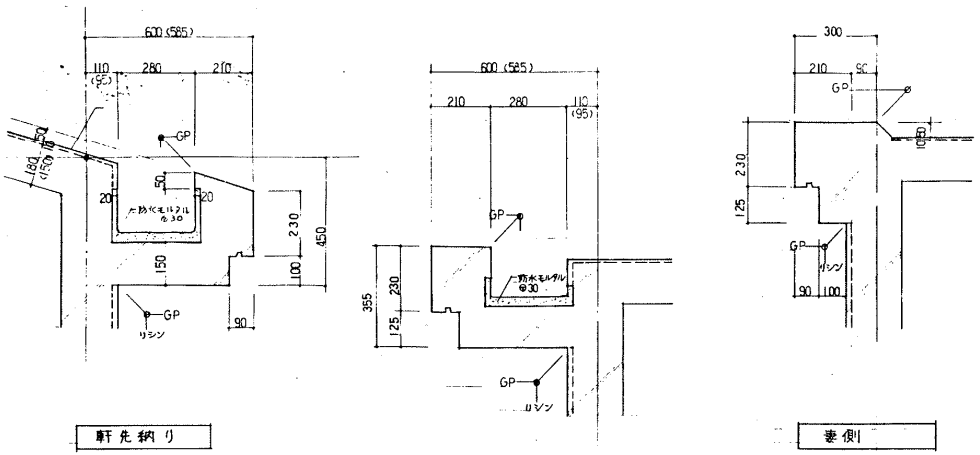
記号	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5-2	D-6 d-1
型式	片開き框戸	片開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸	片引きフラッシュ戸	両開きフラッシュ戸	片開きフラッシュ戸
場所	台所食事室	台所食事室	洋室	洗面所	物入（玄関ホール）	物入・天袋
見込	33	30	30	30	30	30
材料	BL仕様に依る（スプルース）	BL仕様に依る（樹脂複合板 ⑭4m/m）	BL仕様に依る（樹脂複合板 ⑭4m/m）	BL仕様に依る（樹脂複合板 ⑭4m/m）	BL仕様に依る（樹脂複合板 ⑭4m/m）	BL仕様による（樹脂複合板 ⑭4m/m）
硝子	型板ガラス ⑭4m/m	型板ガラス ⑭4m/m	型板ガラス ⑭4m/m	型板ガラス ⑭4m/m		
仕上	O.P	O.P	O.P	O.P	O.P	内面ビニルレザー張
附属金物	丸鏡 1ヶ ステンレス玉座ヒキ打蝶（102m/m）3ヶ 上framework SUS304 1ヶ	丸鏡 1ヶ ステンレス玉引し打蝶（89m/m） 2ヶ 上framework SUS304 1ヶ	吸込ヒキ SUS304（105m/m） 2ヶ 床戸当 強化ナイロン 6.6ナ 2ヶ	吸込引手 SUS304（105m/m） 2ヶ 戸当 強化ナイロン 6.6ナ 2ヶ	マグネットキャッチ 4ヶ ステンレスヒキ打蝶（89m/m） 4ヶ 丸座 SUS304 SUS304（80m/m） 2ヶ	マグネットキャッチ 4ヶ ステンレスヒキ打蝶（89m/m） 4ヶ 丸座付 SUS304（80m/m） 2ヶ
姿図	120 40 120 180 40 200 1815 800	1860 800 （吊り寸法）	1860 800 （吊り寸法）	1770 25 750	1815 （1250）	25 475 1805 800 （吊り寸法）
備考	K-2E	F-2E	F-2C	F-2B	F-1A・F-3C	F-1A

記号	D-7-1-2	D-8	H-1-W	H-1-V	H-2	H-2-V	H-2-h h-2-h	H-3-V
型式	引違框戸	片開きフラッシュ戸	片引きフスマ	片引きフスマ	引違イフスマ	引違イフスマ	引違イフスマ	3枚引違イフスマ
場所	台所食事室	物入（和室）	和室	和室	和室	和室	押入・天袋	押入和室
見込	30	30	19.5	19.5	19.5	19.5	19.5	19.5
材料	BL仕様に依る（スプルース）	BL仕様に依る（樹脂複合板 ⑭4m/m）	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る
硝子	型板ガラス ⑭4m/m							
仕上	O.P	片面ビニールフスマ紙	和室側：ビニールフスマ紙 廊下側：ビニールフスマ紙	和室側 新鳥の子紙 玄関側 ビニールフスマ紙	両面 新鳥の子紙	和室側 新鳥の子紙 台所食事室側 ビニールフスマ紙	片面 新鳥の子紙	片面 新鳥の子紙 一部台所食事室側 ビニールフスマ紙
附属金物	吸込引手 SUS304（105m/m） 4ヶ 戸当 強化ナイロン 6.6ナ 4ヶ	マグネットキャッチ 2ヶ ステンレスヒキ打蝶（89m/m）2ヶ 丸座 SUS304（80m/m）1ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大2ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大4ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大4ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大4ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大2ヶ 小2ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大4ヶ
姿図	120 40 120 180 40 120 1860 （1815） 1625	1805 790	1815 25 785 ~865	1815 25 800 （吊り寸法）	1815 1700 （吊り寸法）	1815 1700	425 35 1815 1695	1815 2570
備考	K-2E	F-3A						

記号	H-3-h h-3-h	H-4-1-2	H-4-V-1-2	H-4-h-1-2 h-4-h-1-2	D-5-1	D-9-1-2
型式	3枚引違イフスマ	4枚引違イフスマ	4枚引違イフスマ	4枚引違イフスマ	両開きフラッシュ戸（空気孔付）	片引きフラッシュ戸
場所	押入・天袋	和室	和室	押入・天袋	物入（玄関）	洗面所
見込	19.5	19.5	19.5	19.5	30	
材料	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	共通仕様書に依る	BL仕様に依る（張合板 ⑭4m/m）	BL仕様に依る（樹脂複合板 ⑭4m/m）
硝子						型板ガラス ⑭4m/m
仕上	片面 新鳥の子紙	両面 新鳥の子紙	和室側 新鳥の子紙 台所食事室側 ビニールフスマ紙	片面 新鳥の子紙	片面ビニールフスマ紙（無臭型：ビニルロス版）	O.P
附属金物	合成樹脂引手（丸型） 大3ヶ 小3ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大8ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大8ヶ	合成樹脂引手（丸型） 大4ヶ 小4ヶ	マグネットキャッチ 4ヶ、丸座手 SUS304（80m/m）2ヶ ステンレスヒキ打ち打蝶（89%）4ヶ	吸込引手 SUS304（105m/m）2ヶ 戸当 強化ナイロン 6.6ナ 2ヶ
姿図	425 35 1815 2390	1815 3485 （2580）	425 35 1815 3470 （3170）	425 35 1815 3470 （3170）	1805 1070	1770 （1870） 25 630
備考						

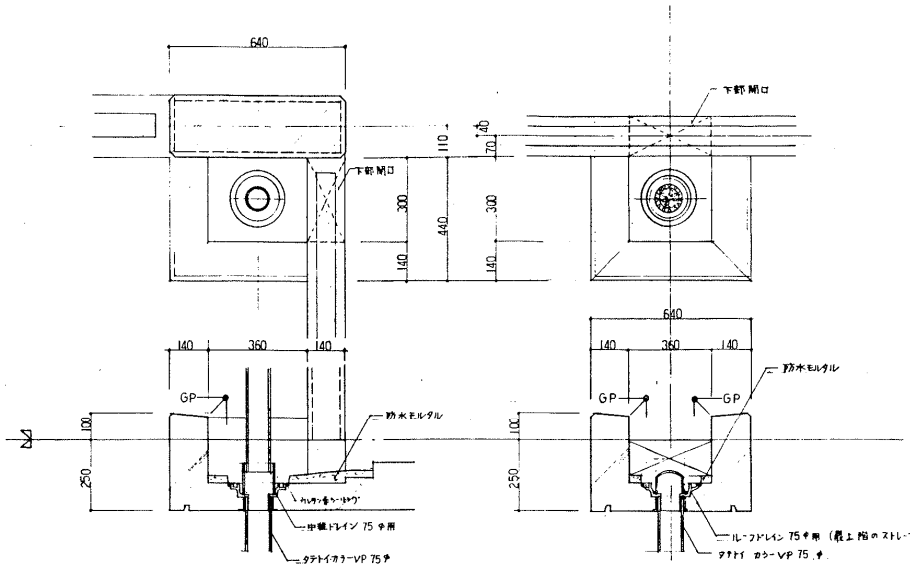
□（ ）内寸法は ⊖-2 の型扉寸法を示す。
〔 〕 〃 〃-3 〃





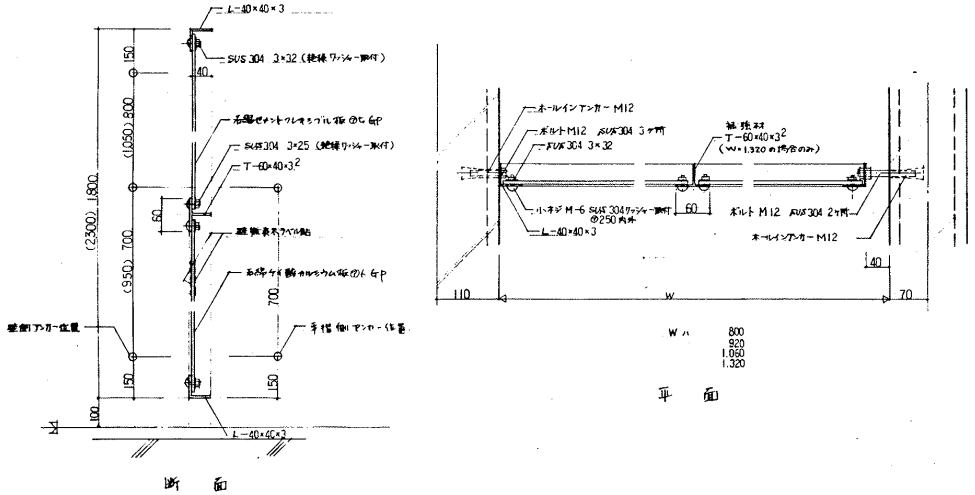
・外部仕上げ材下地は コンクリート打放しとする。

屋根廻り
1 : 10 D−1



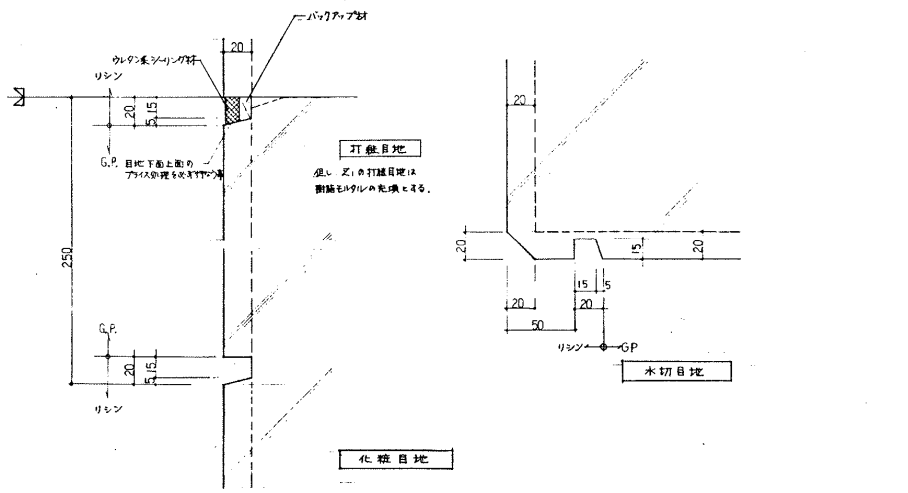
・外部仕上げ材下地は コンクリート打放しとする。

飾りマス
1 : 10 D−2



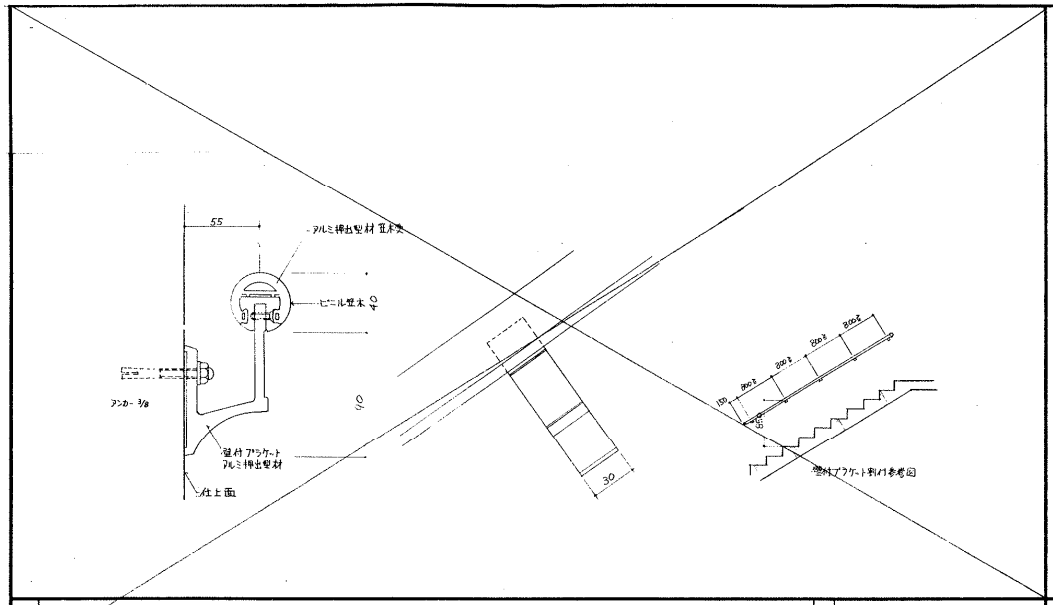
・隔板枠は、アルミ型材とし、材質及び仕上げはBL手すりユニットの仕様に準ずる。

バルコニー隔板廻り（型式図）
1 : 5 D−3



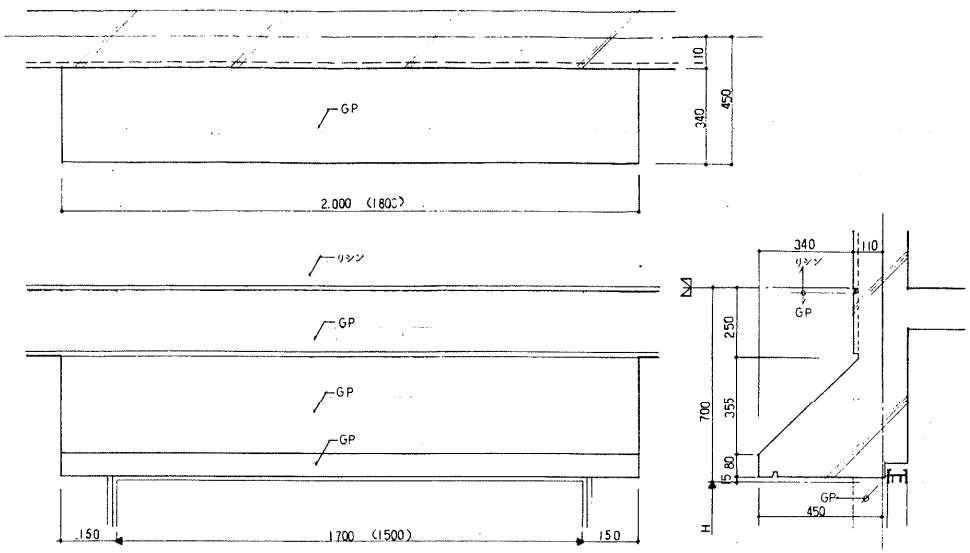
・外部仕上げ材下地は コンクリート打放しとする。

打継・化粧目地・水切廻り
1 : 2 D−4



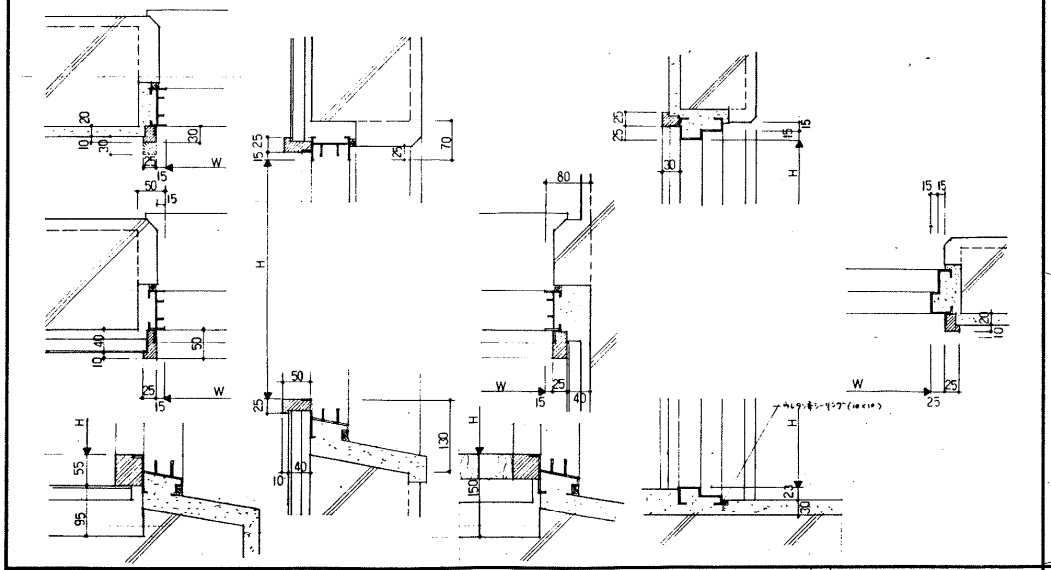
・掘り降 40㎜ アルミ押出型材の上端ビス被覆

階段手摺		
1：2	D－5	



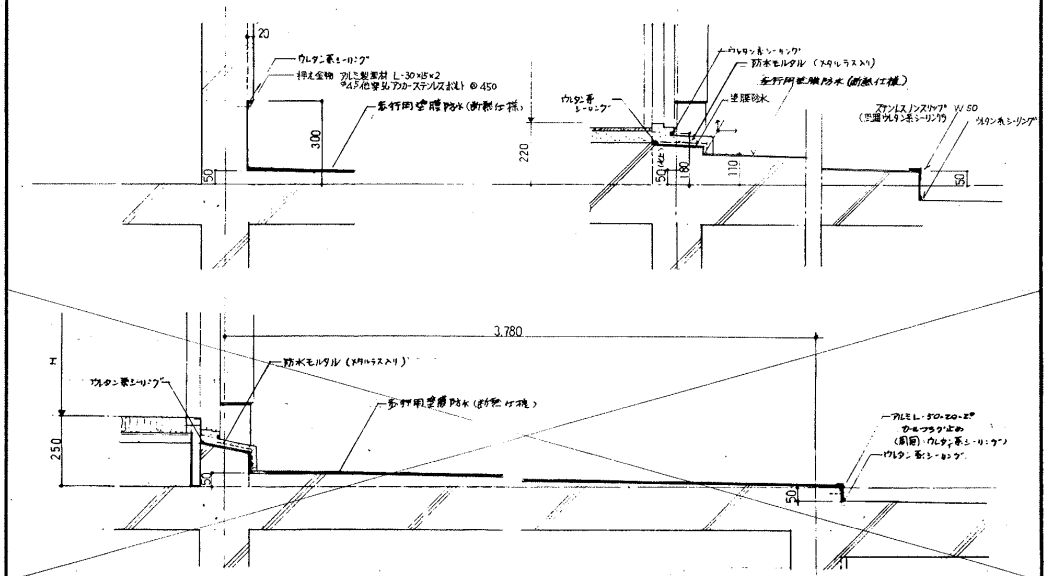
・外部仕上げ材下地は コンクリート打放しの ことを指す（表示）とする

客席		
1：10	D－6	

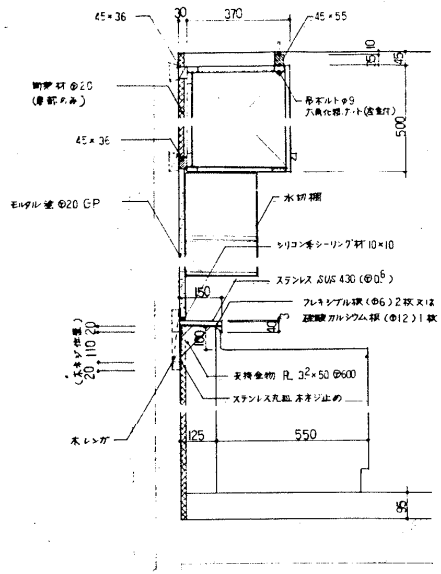


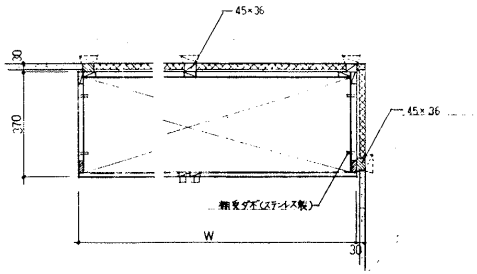
シーリング材の色 全てウレタン系で統一。
外部鉄部の塗装仕様表 和室CL塗 和室以外：SOP塗

外部建具枠廻り		
1：5	D－7	



防水層廻り		
1：10	D－8	

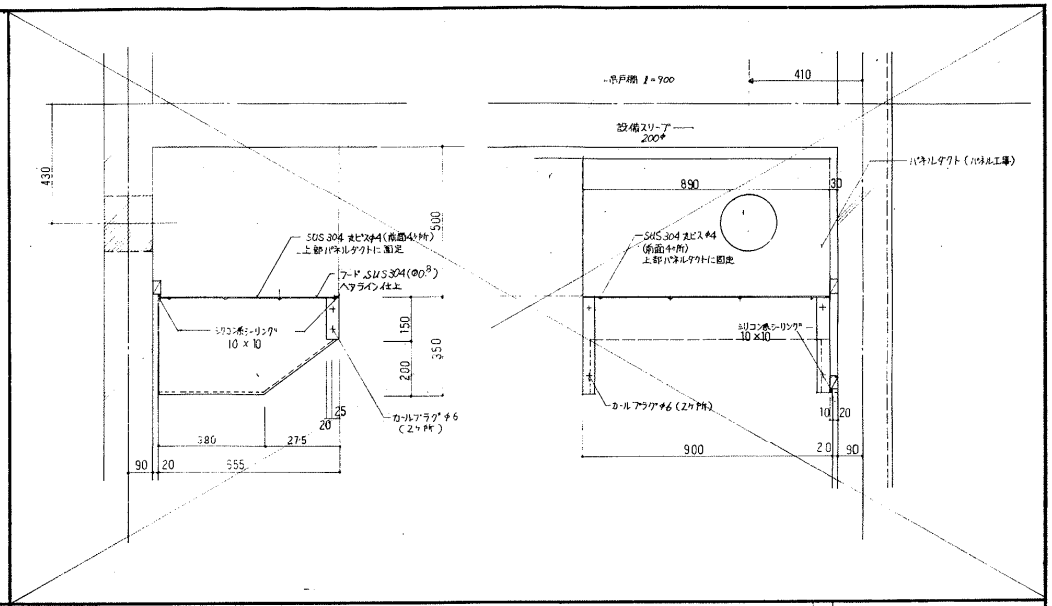




・吊戸棚の仕様はBLキッチン システム吊戸棚 A に準ずる。
・吊戸棚取付前木材の見え掛り部は、全て OP塗とする。

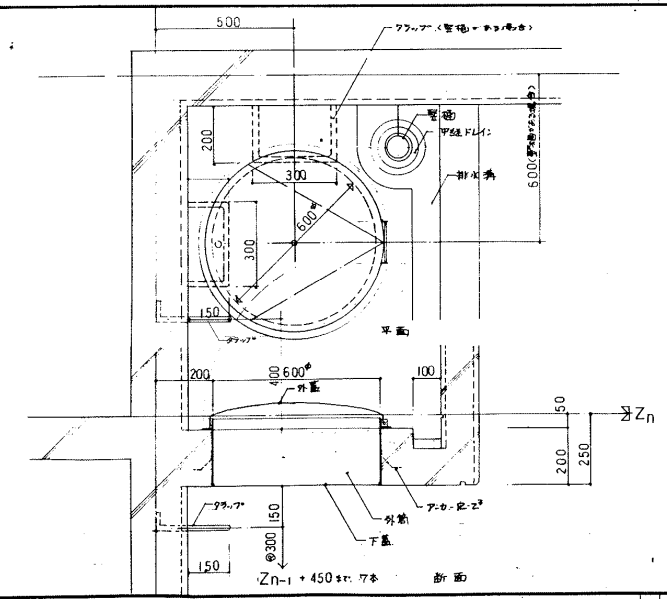
・ステンレスの種類
流し台 SUS 430
バックガード 〃 304
補強ダボ 〃 304

台所 流し廻り	
1:10	D-9



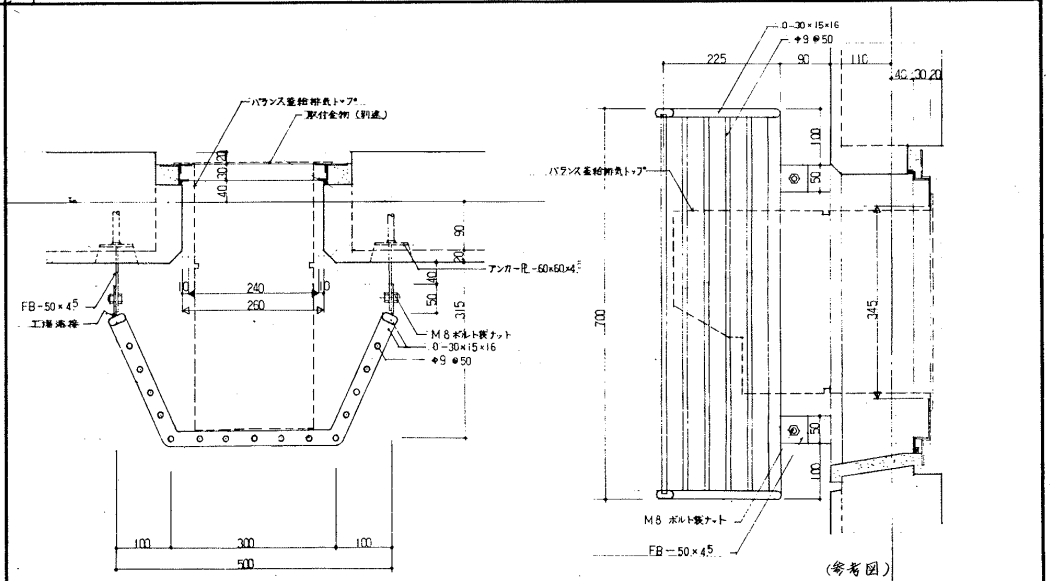
1. SUS 304 (t0.8) ヘアライン仕上とする。
2. 形状、取付等については、施工図作成の上、現場監督の承認を得ること

ステンレスフード	
1:10	D-10



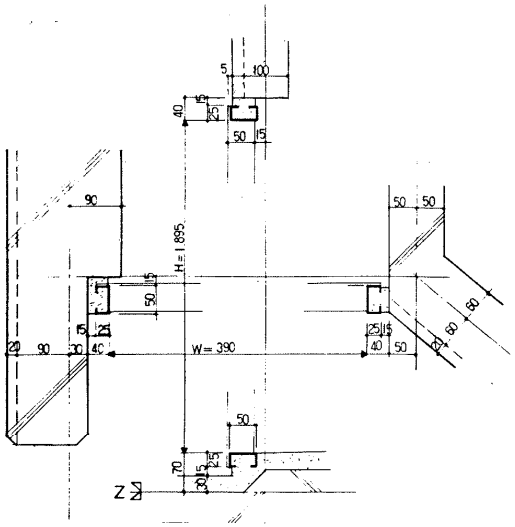
金属避難口:避難用マンホール 直径 600φ H=250 非常用開閉鍵保管箱付
外筒:ステンレス(t1.5ヘアライン仕上げ)
内筒:鋼板(t2.3)亜鉛メッキ仕上げの上 O.P.塗装
下筒:合成樹脂 @9.0
フラップ:ステンレス 1/2 長辺ベベル 塩ビ被覆
(材質については管理者の承認を得ること)
回転停止のステッカー貼りをすること。

垂直避難口	
1:10	D-11

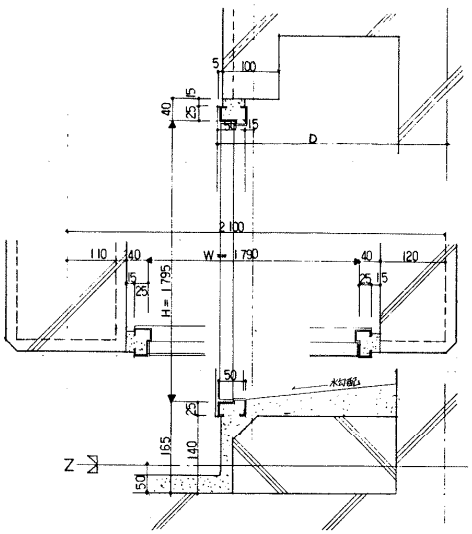


1. ステンレス製とする。
2. 形状、材質については施工図作成の上、現場監督の承認を得ること
3. ボルト ナットはSUS 304 t4.0

バランス釜トップカバー	
1:5	D-12

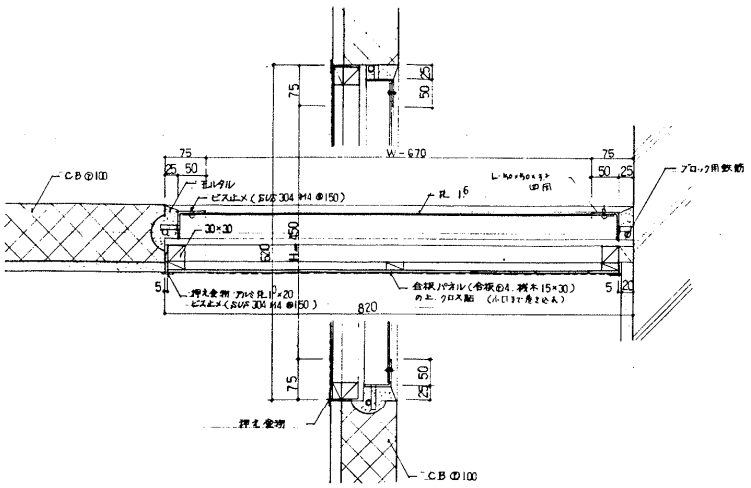


PS （玄関ポーチ部分）

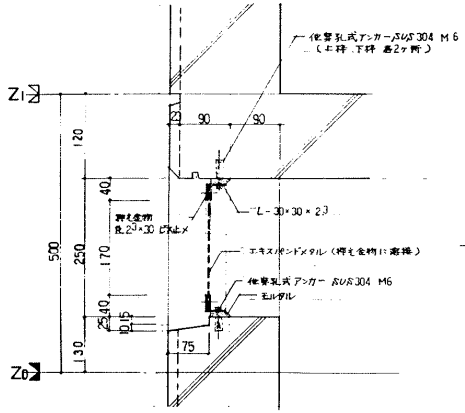


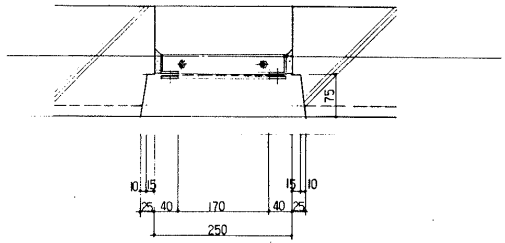
PS MB （階段部分）

PS MB 枠廻り
1 : 5 | D−13



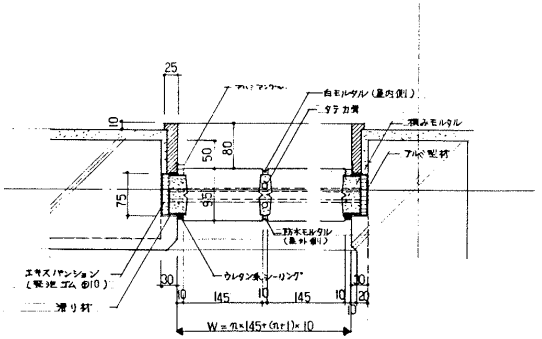
MB 点検口
1 : 5 | D−14

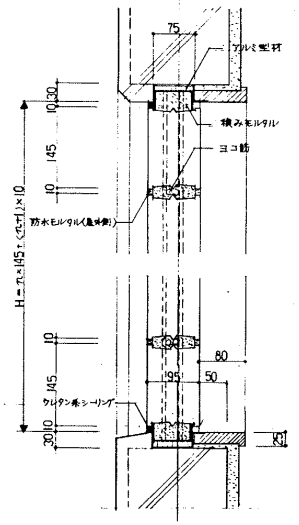




1. エキスパンドメタルは SW−12 、LW=30.5 、T=1.6 、W=2.0 とする。
2. 鉄部は、全てドブ漬けのE.O.Pとする

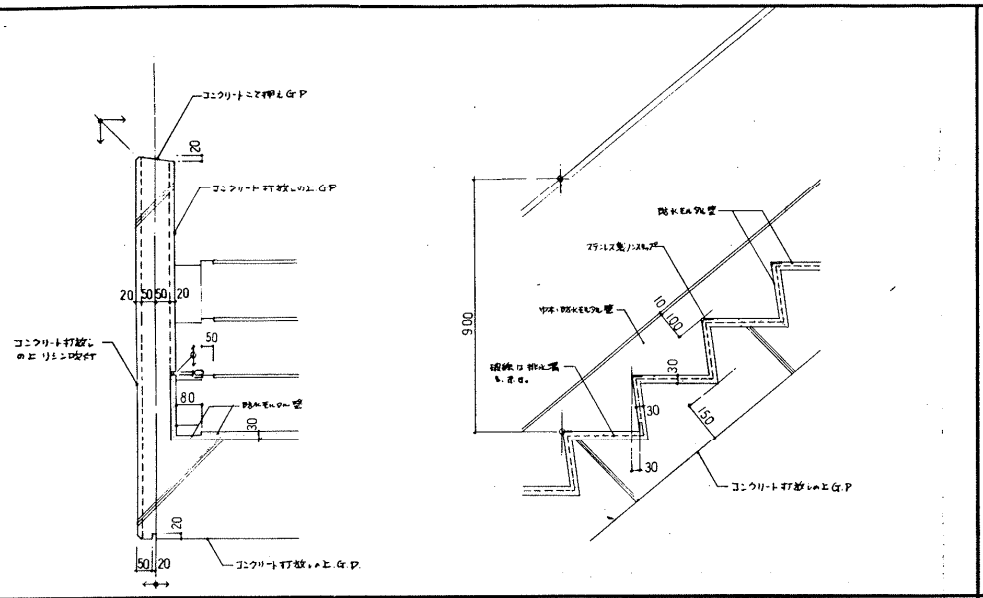
床下換気孔
1 : 5 | D−15





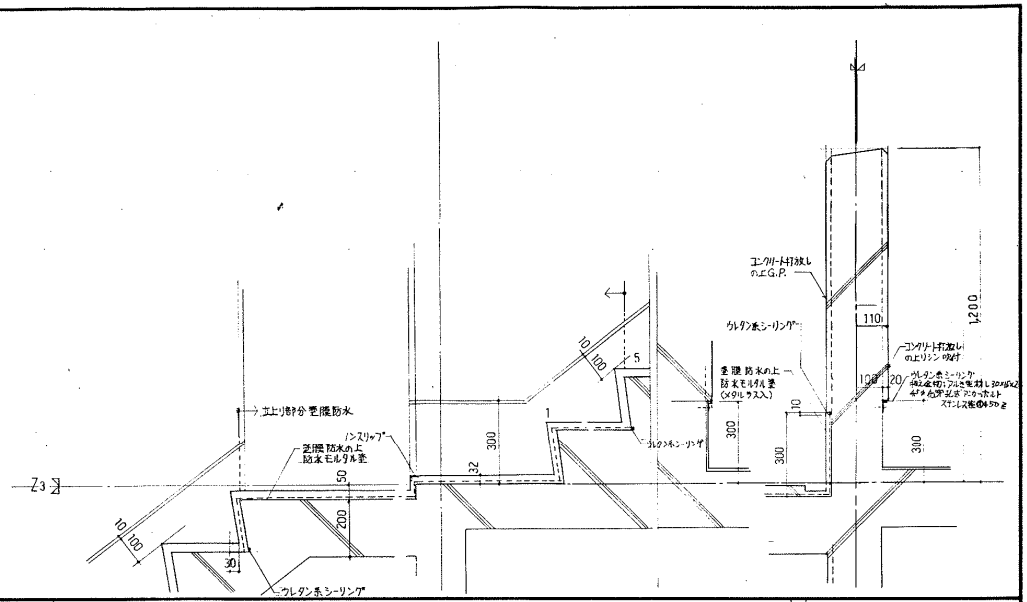
アルミ型材、エキスパンション、塗り材 等はメーカー仕様による。
ガラスブロックは エメラルド産材（緑） クリヤ（145×145×95）又は同等品以上とする。

ガラスブロック廻り
1 : 5 | D−16



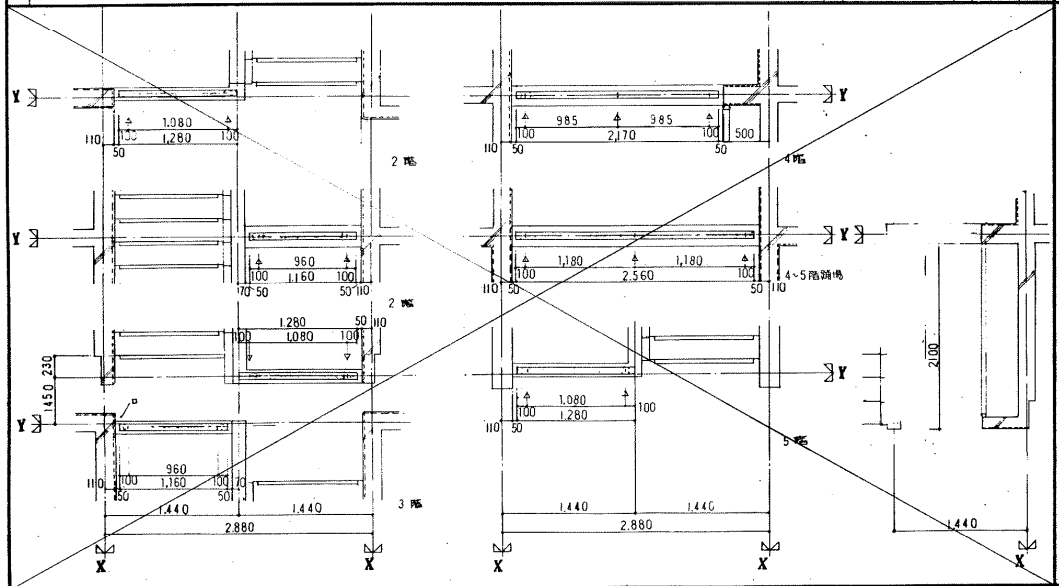
階段手摺り廻り－1

1:10 | D-17



階段防水廻り

1:10 | D-19

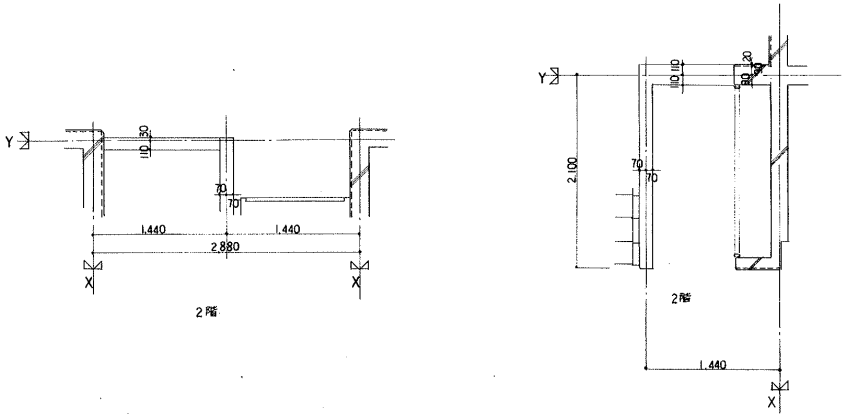


D：手摺取付位置

断面及び手摺り仕様は、バルコニー手摺り D-20 － タイプ C に倣う。

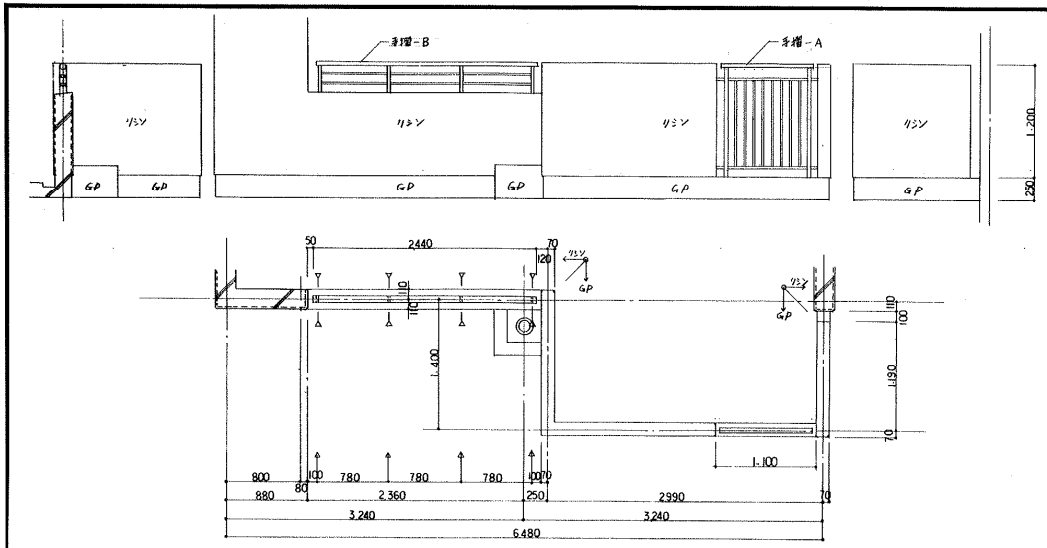
階段手摺り廻り－2

1:30 | D－18

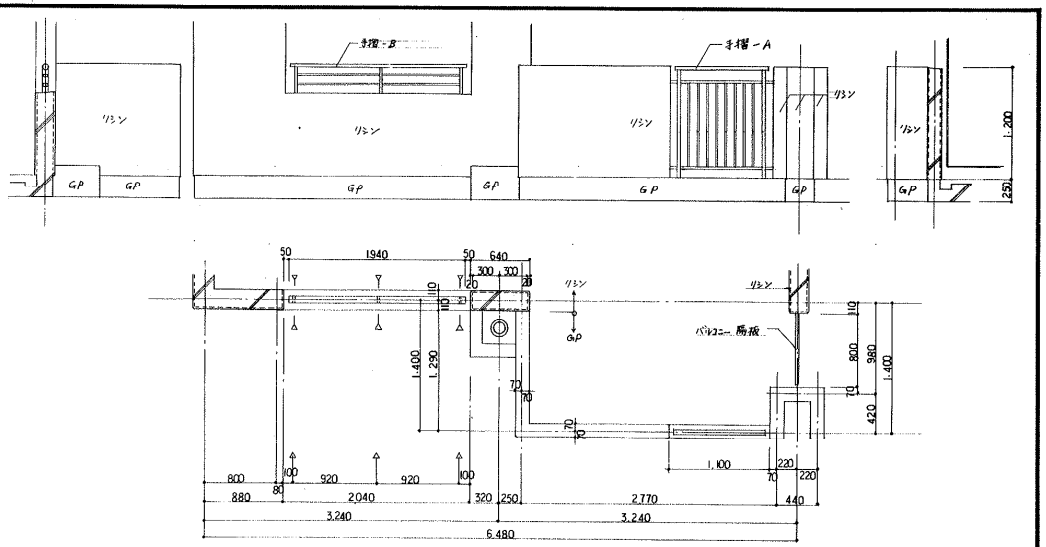


階段手摺り廻り－2

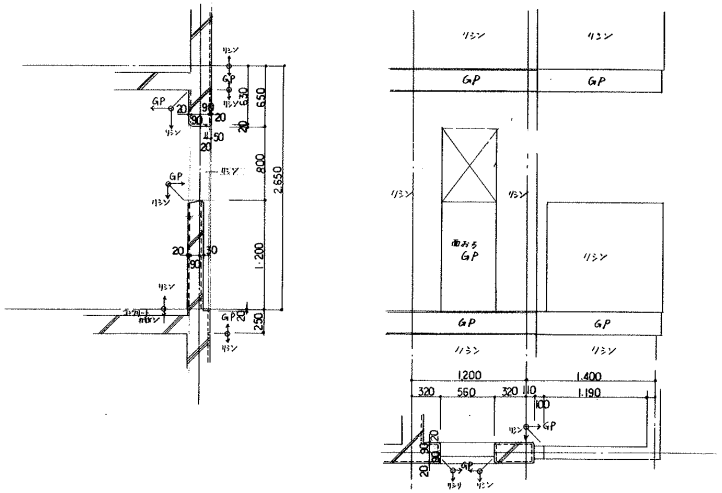
1:30 | D－18

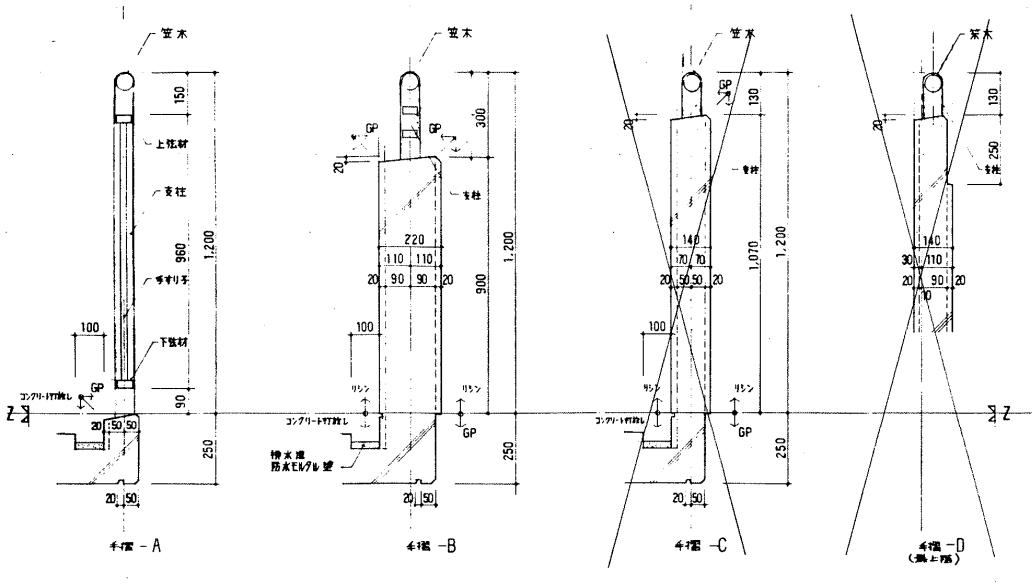


2階バルコニータイプ　1:30



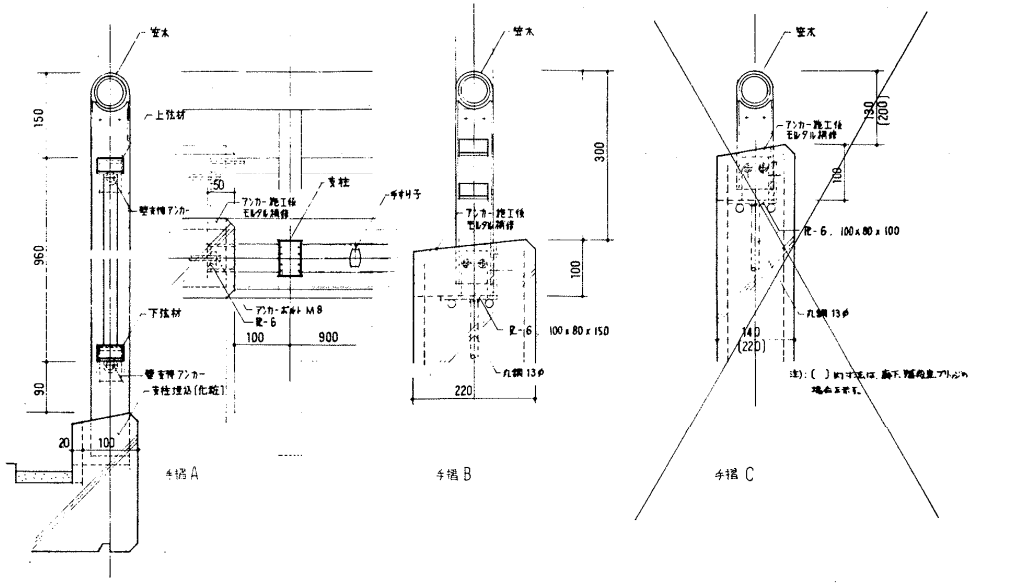
1階バルコニータイプ　1:30


リシン
GP
650
550
20
90
50
800
2,650
1,200
250
30
1200
1,400
320
560
110
1,190
100
20
50
20
20
20



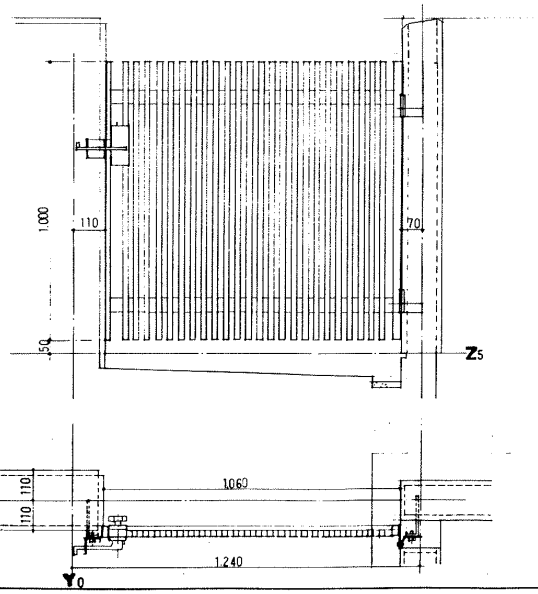
A部分は、BL型 手すりユニット、アルミ合金製、パルコニー用、2段笠木、手すり子タイプ、壁支持方式。
B,C,D部分の笠木は、A部分笠木と同材を使用する。
表面処理は ブロンズ色とし、自然発色 又は 陽極酸化被膜とする。

手すり断面	
1:10	D-20



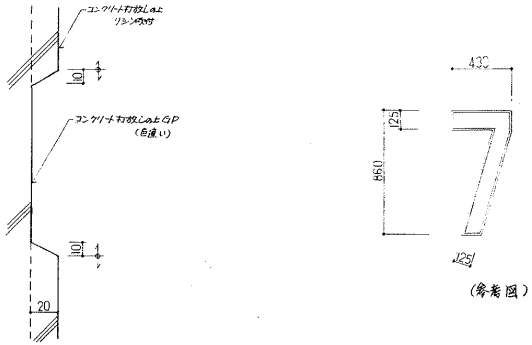
部材 概略寸法　笠木：50φ，t1.5　　支柱：40x60x1.6　　上弦材(2段笠木)下弦材：28x50x1.8　　手すり子：20x30x1.5
ボルト類材質：ステンレス SUS-304

手すり及びアンカー	
1:5	D-20



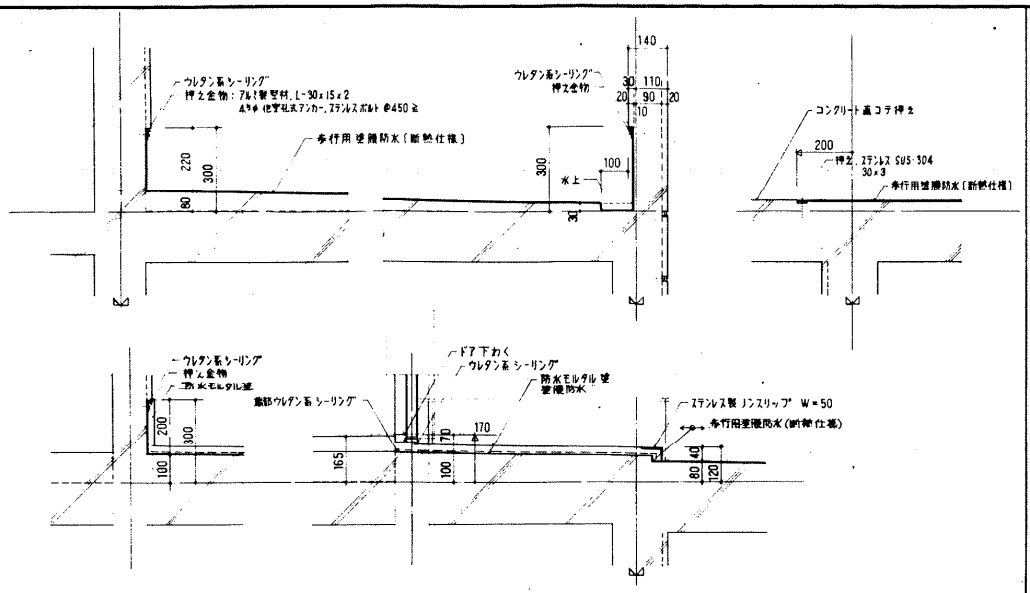
・塗付け塗装による剥げの脱膜品とする　(1000x1000 個)
・形状・取付方法については、施工図作成の上、現場監督者のお承認を得ること。
・材料については、各メーカーの既成品寸法の アルペ型 好ましい。陽極酸化皮膜処理による仕上とする
・色：ブロンズ色

門扉 (型式図)	
1:10	D-34



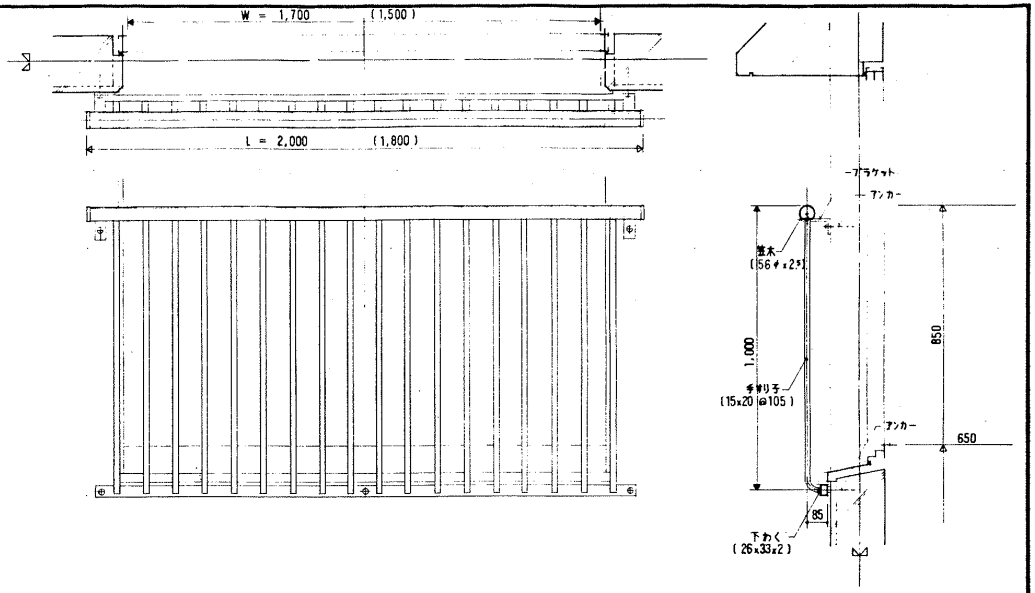
・寸法等については各見図とする

棟番号	
図示	D-26



廊下防水層廻り

1:10 | D-30

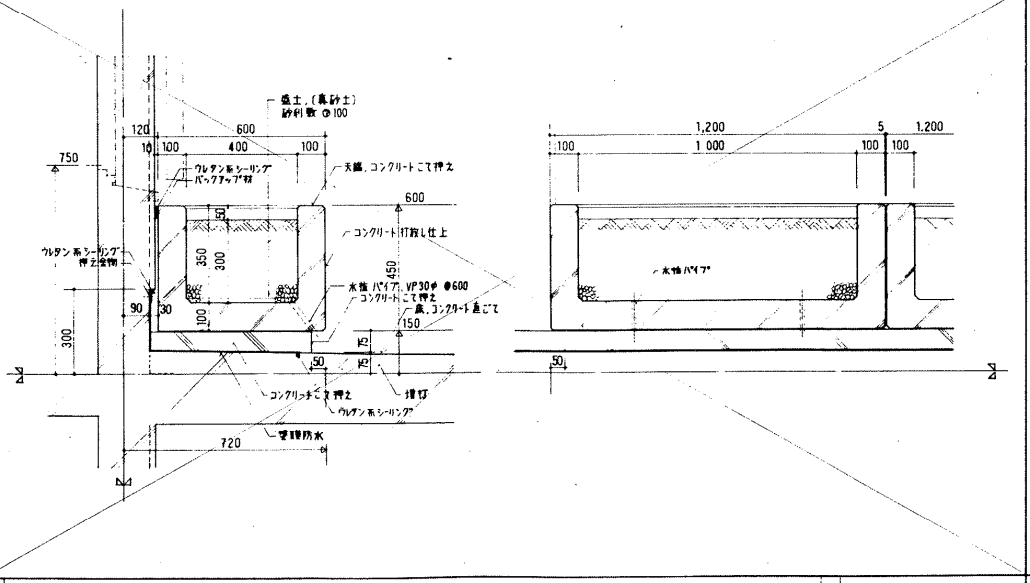


BL型 手すりユニット，アルミ合金製，室用（外部用）とする。
表面処理はブロンズ色とし，自然発色又は同等品を種種による。

D・E →

窓手すり

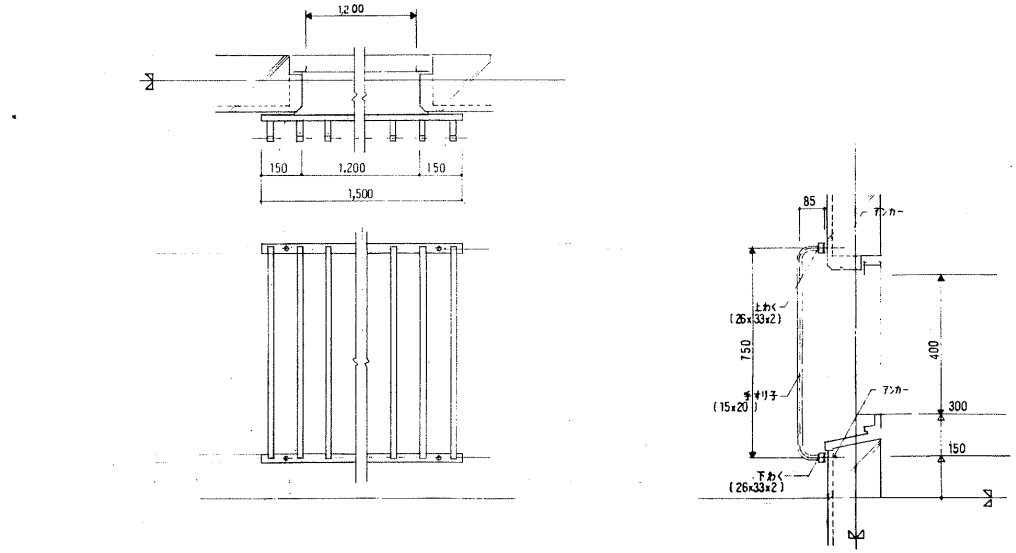
1:10 | D-32



プラントボックスは現場打PCとする。

廊下プラントボックス廻り

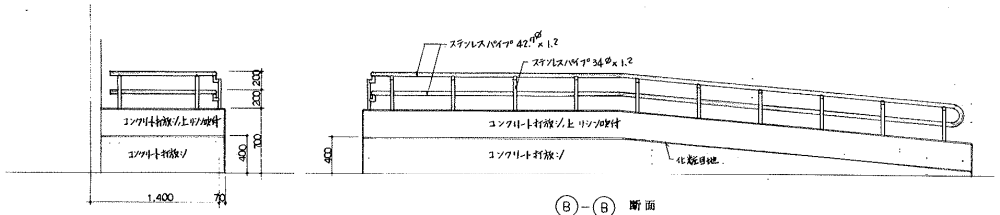
1:10 | D-31



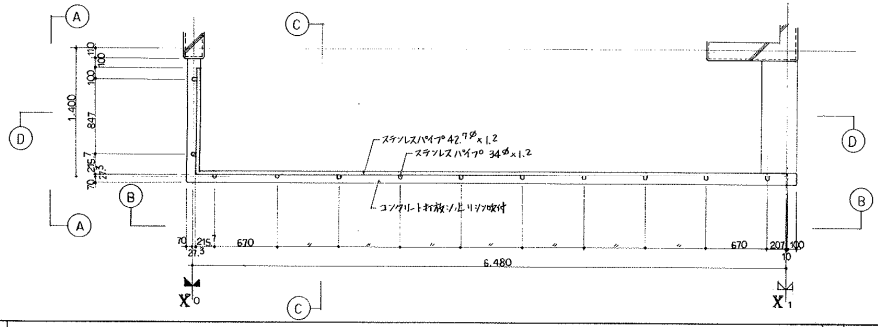
仕様は窓手すりに準ずる。

地窓面格子

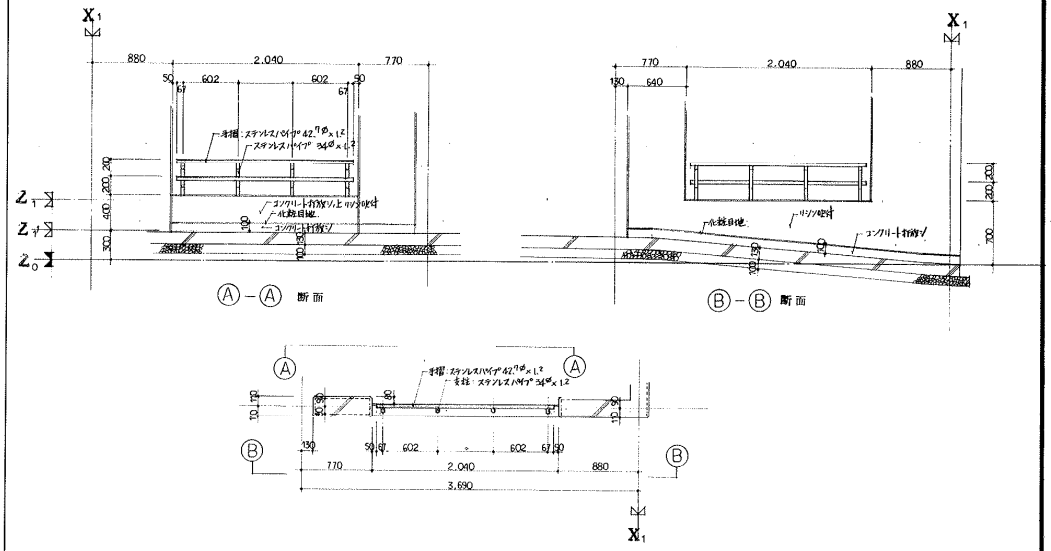
1:10 | D-33



Ⓐ－Ⓐ 断面　　Ⓑ－Ⓑ 断面

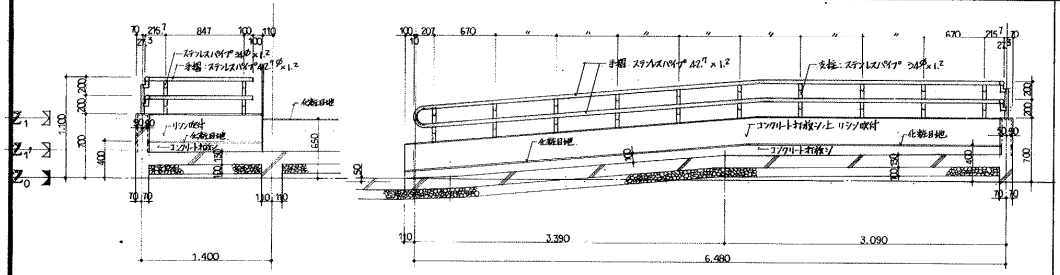


	身障者住戸 バルコニー・スロープ廻り手摺	
	1 : 30	D－40



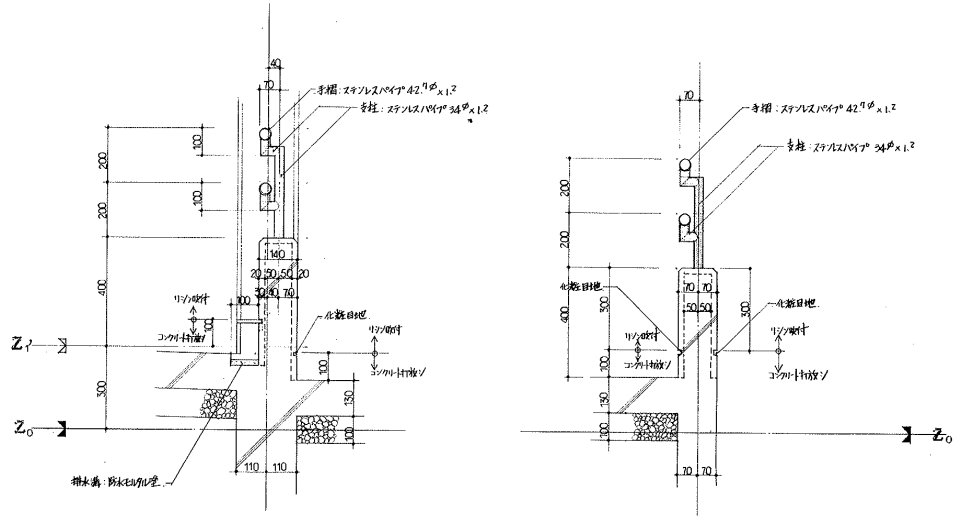
Ⓐ－Ⓐ 断面　　Ⓑ－Ⓑ 断面

	身障者住戸 バルコニー廻り手摺	
	1 : 30	D－40



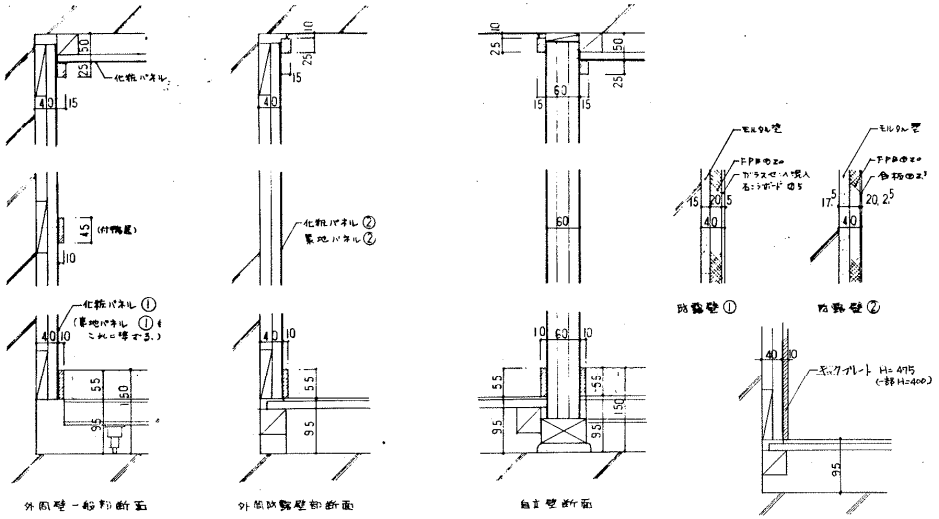
Ⓒ－Ⓒ 断面　　Ⓓ－Ⓓ 断面

	身障者住戸 バルコニー・スロープ廻り手摺	
	1 : 30	D－40



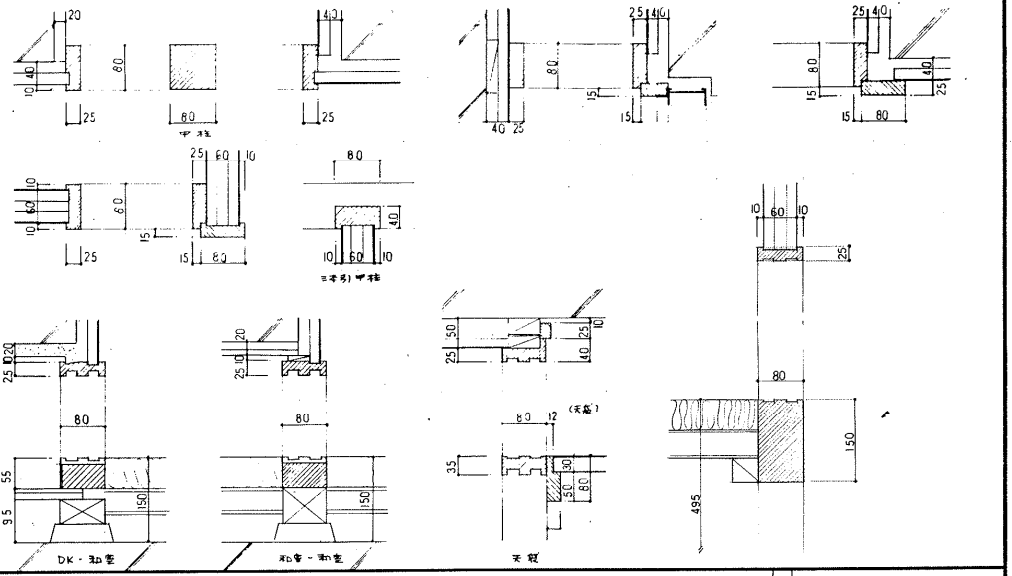
・手摺＆ボルト類材質：ステンレス SUS 304
・形状 取付等については 施工図作成の上 現場監督員の承認を得る事

	身障者 手摺 断面	
	1 : 10	D－40



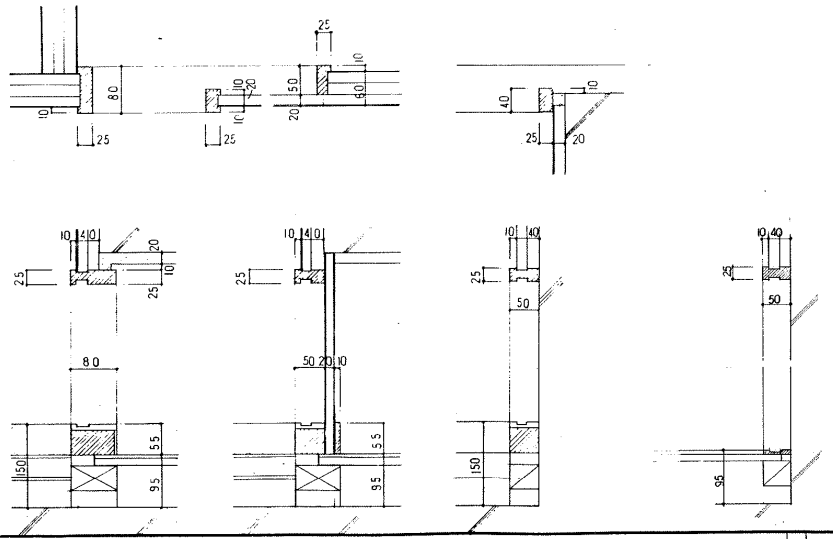
標準パネル廻り

1:5



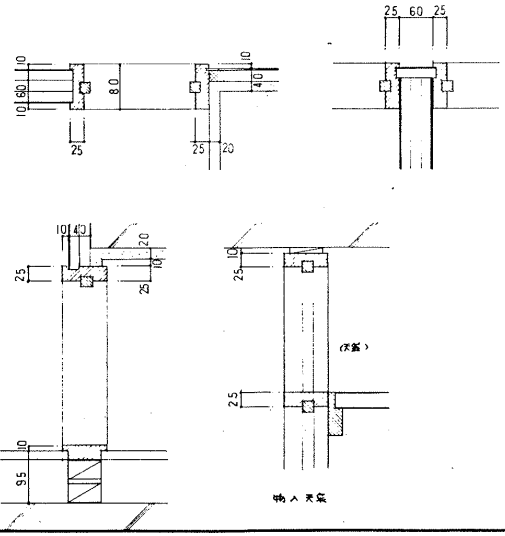
引違い中三本引甲柱廻り

1:5



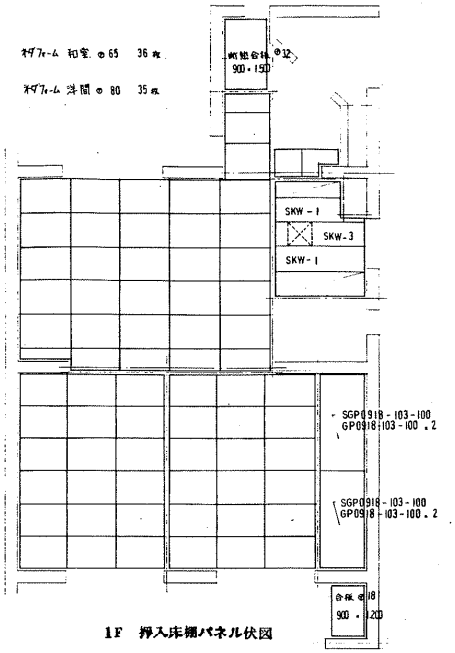
片引戸枠廻り

1:5

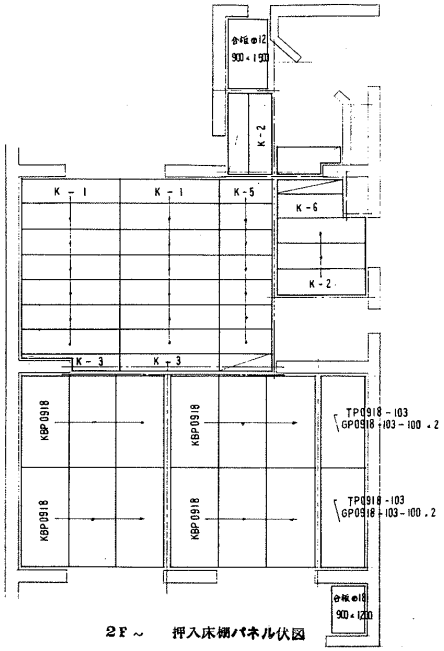


開き戸枠廻り

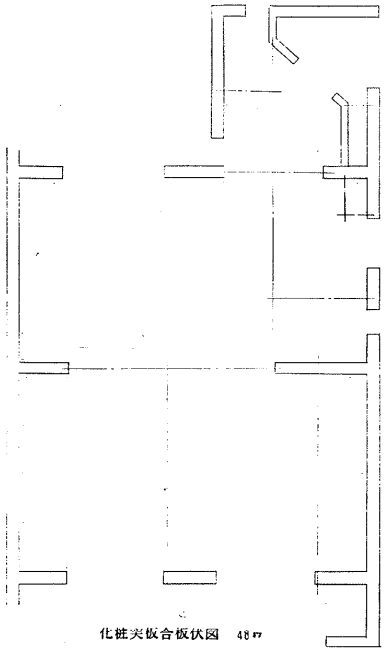
1:5



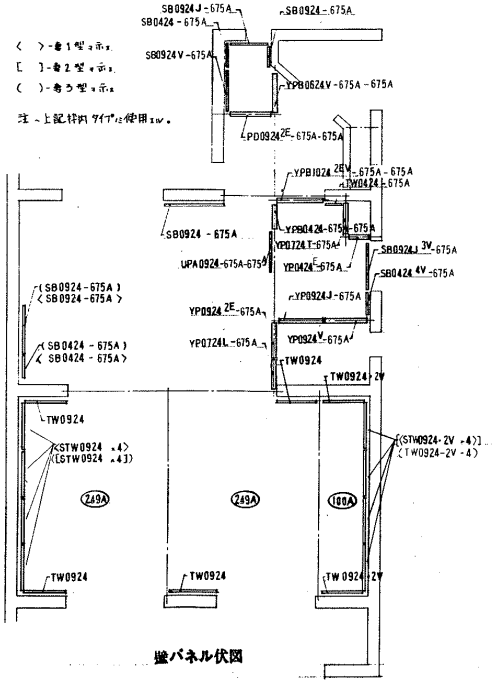
1F　押入床棚パネル伏図



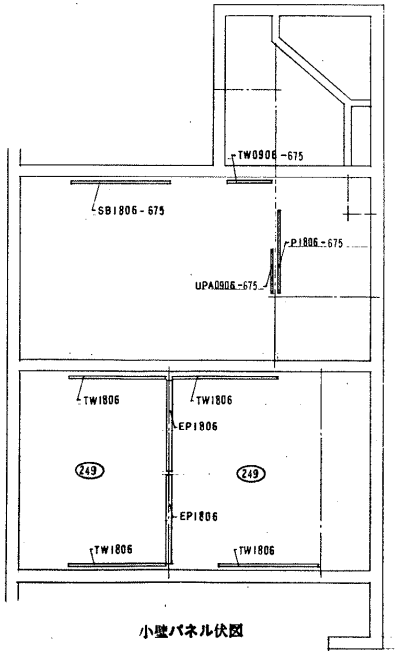
2F～　押入床棚パネル伏図



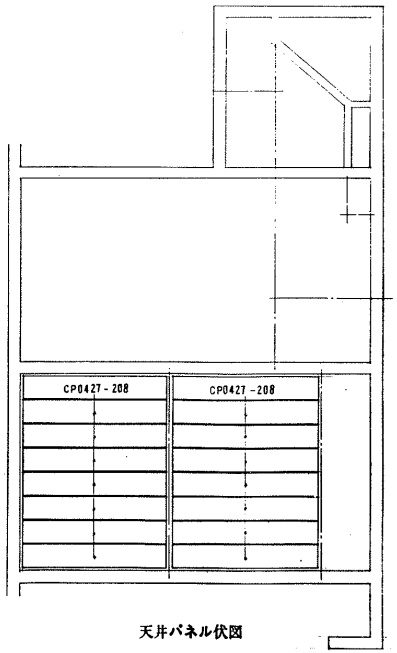
化粧実板合板伏図　48ヵ



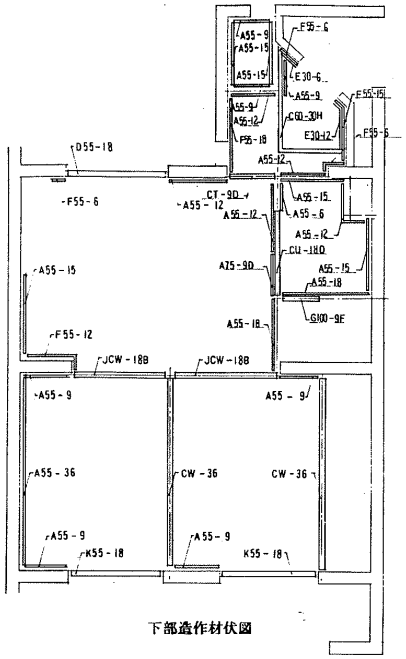
壁パネル伏図



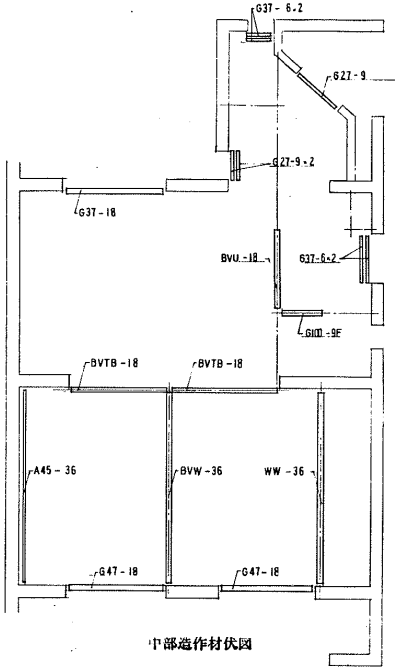
小壁パネル伏図



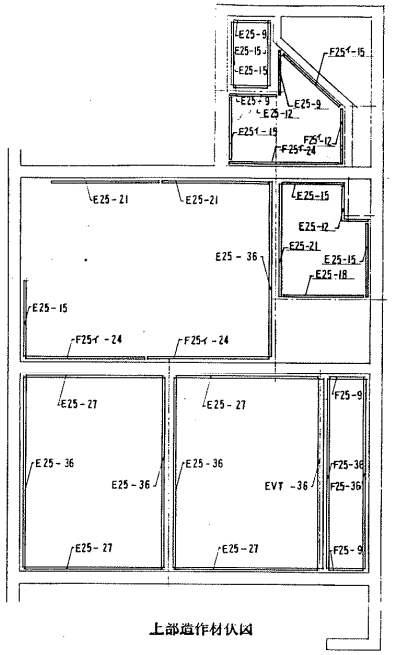
天井パネル伏図



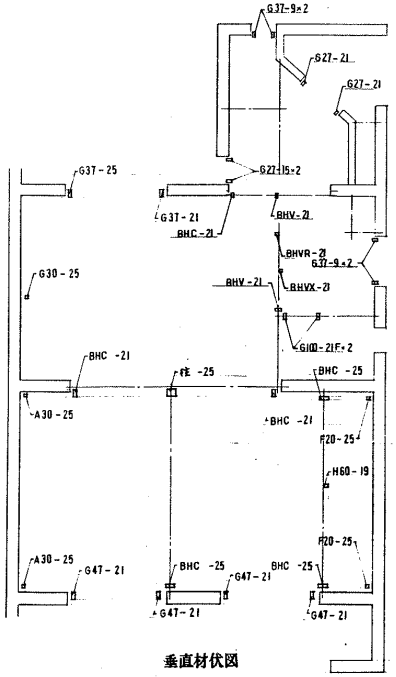
下部造作材伏図



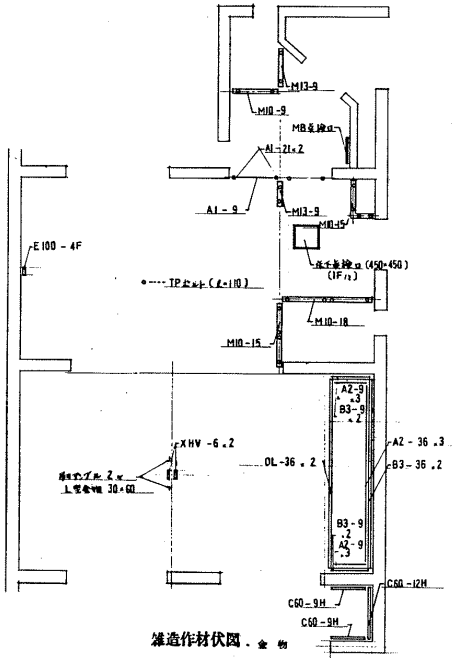
中部造作材伏図



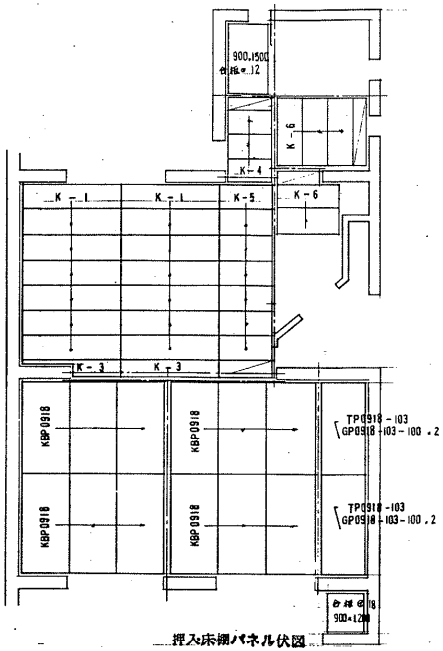
上部造作材伏図



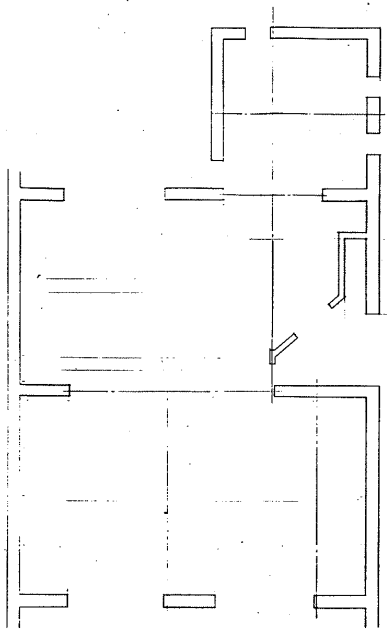
垂直材伏図



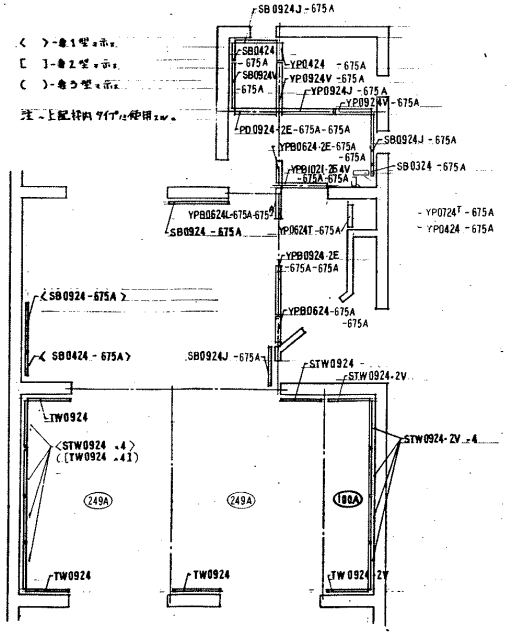
雑造作材伏図・金物



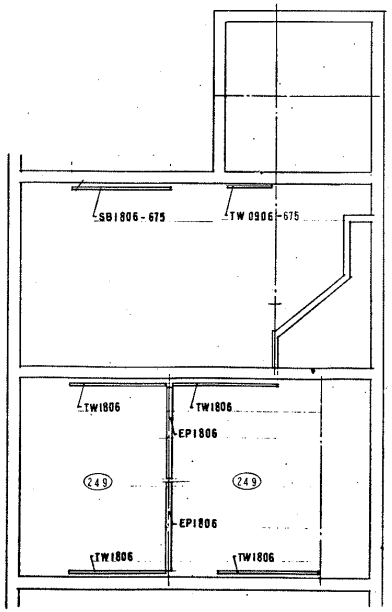
押入床棚パネル伏図



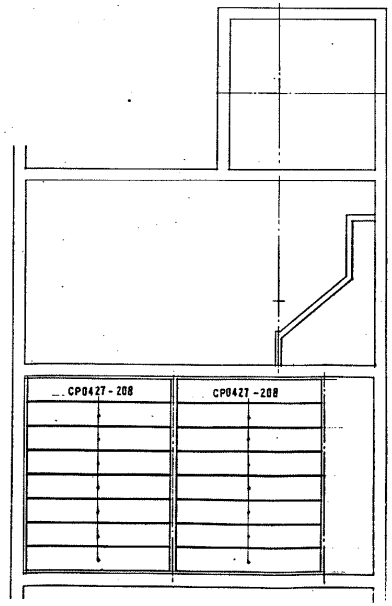
化粧突板合板伏図



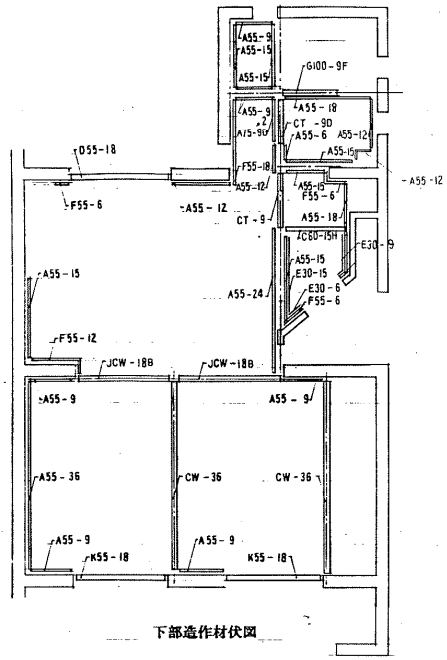
壁パネル伏図



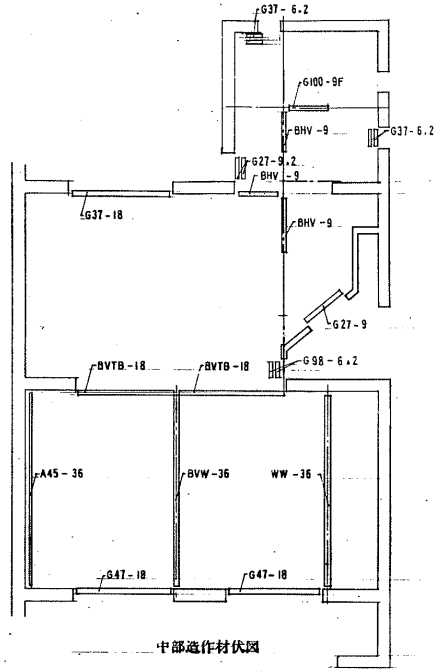
小壁パネル伏図



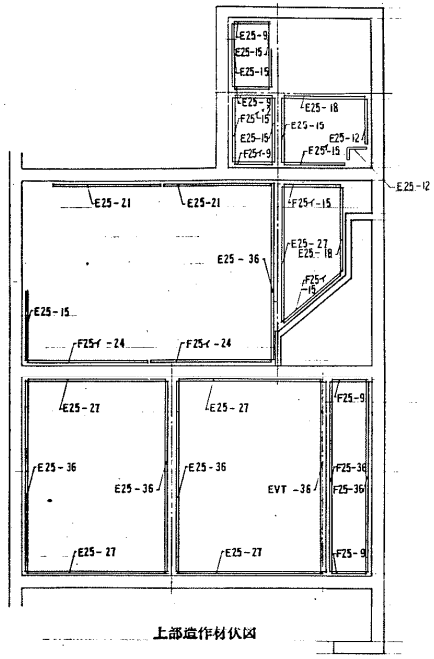
天井パネル伏図



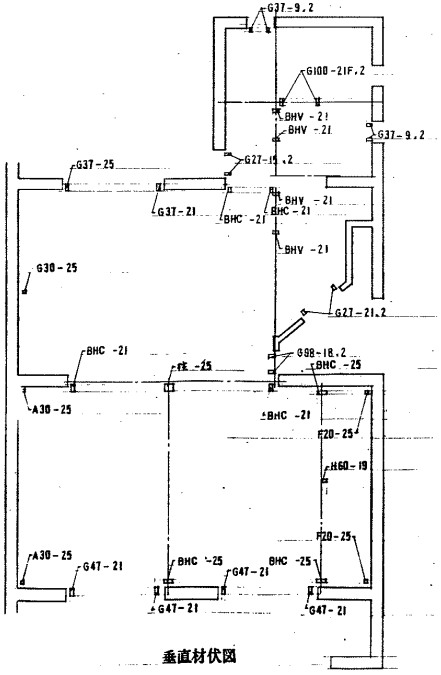
下部造作材伏図



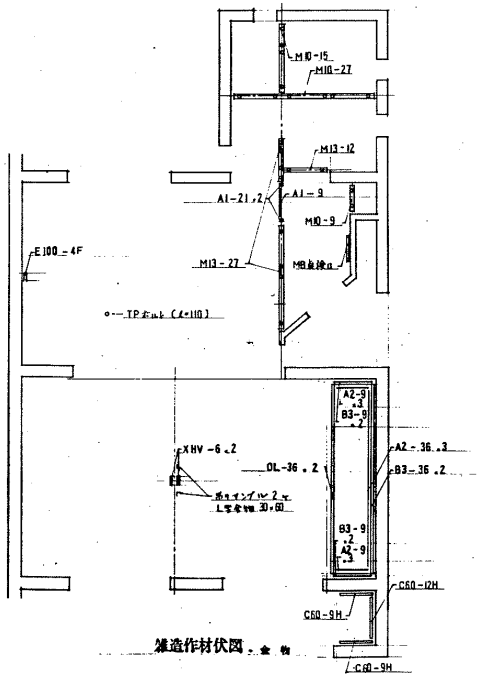
中部造作材伏図



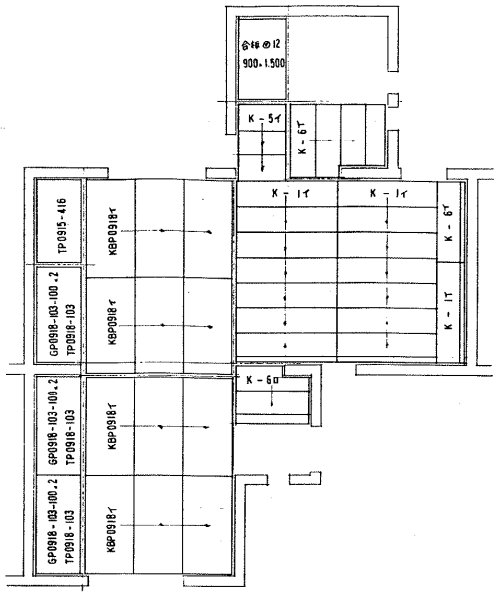
上部造作材伏図



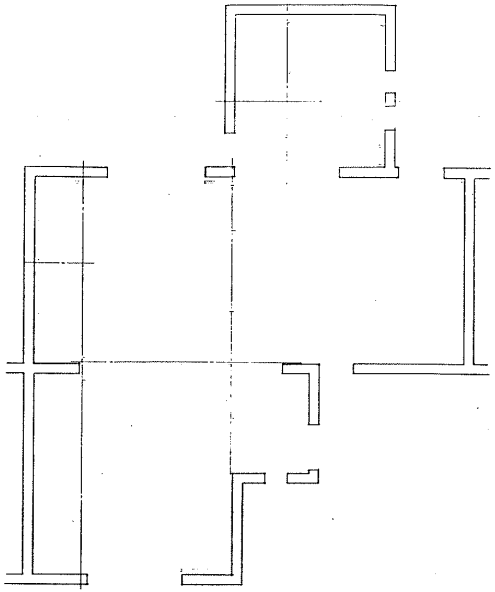
垂直材伏図



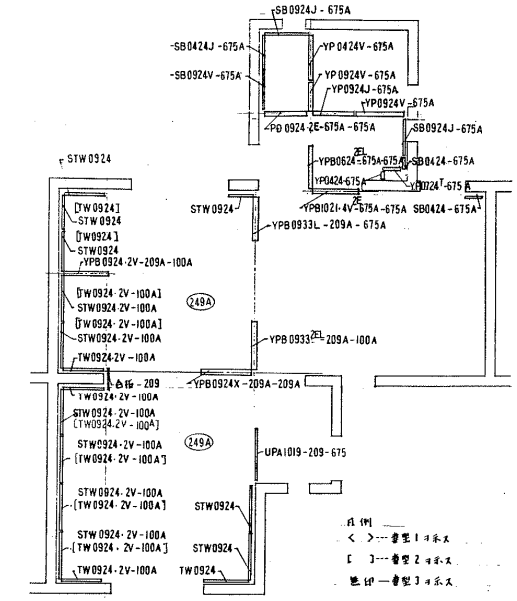
雑造作材伏図 金物



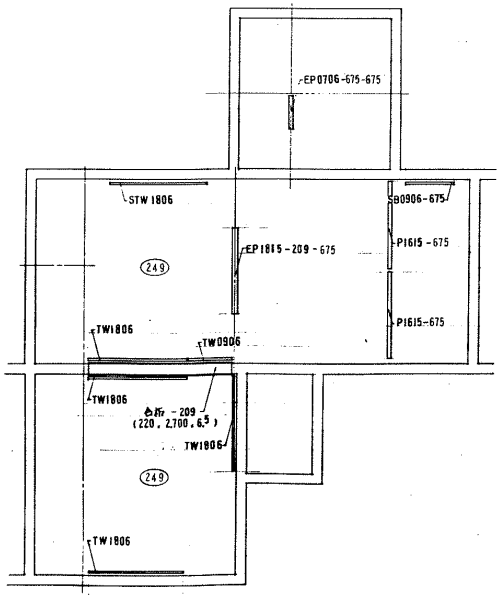
2F～　押入床棚パネル伏図



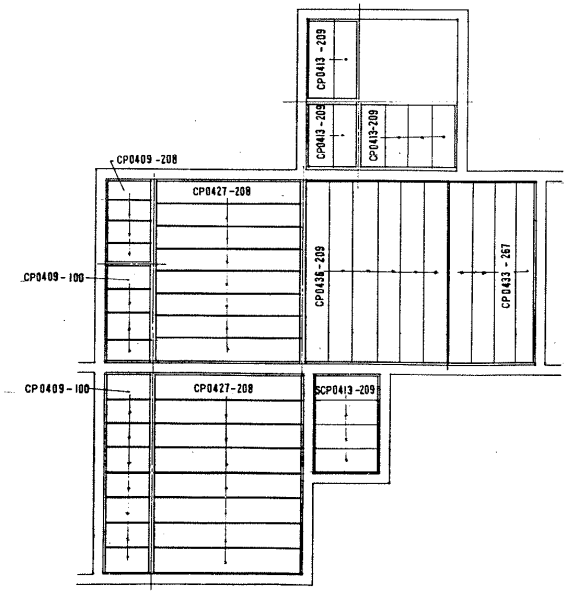
化粧突板合板伏図　45 ㎡



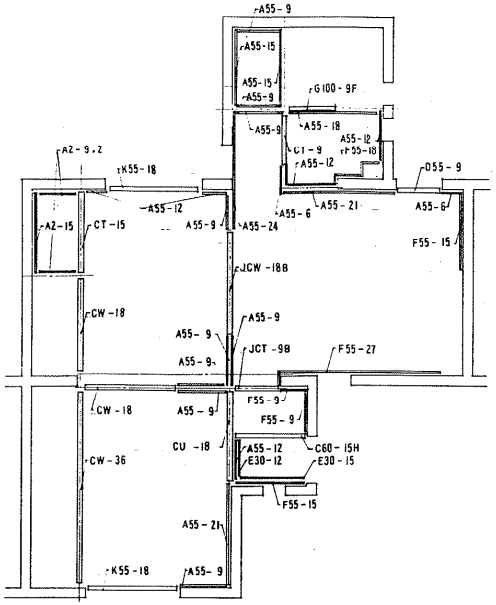
壁パネル伏図



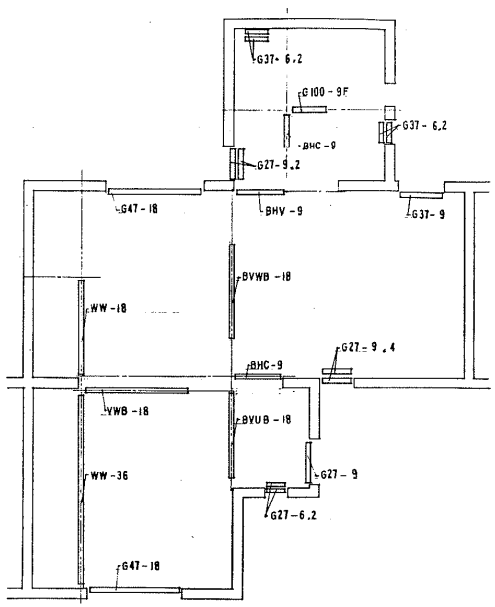
小壁パネル伏図



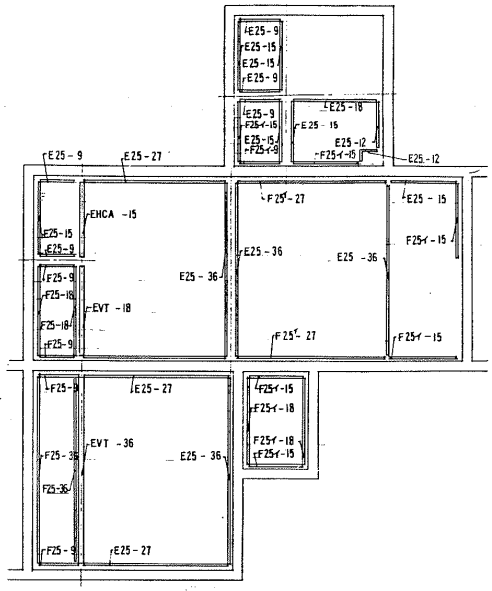
天井パネル伏図



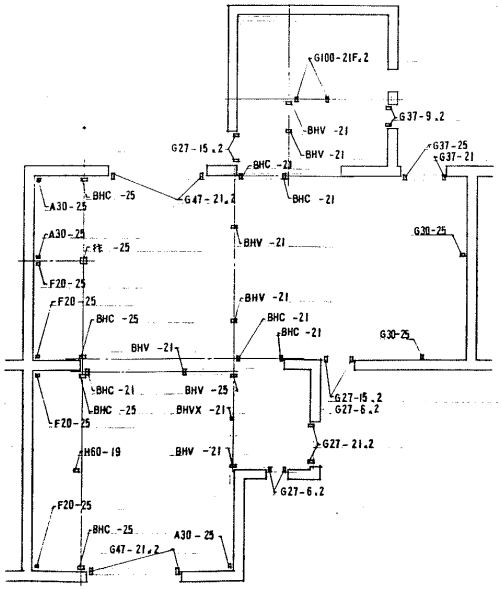
下部造作材伏図



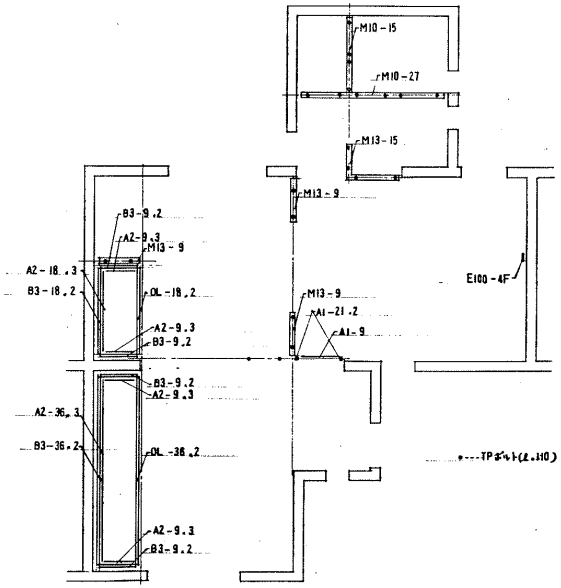
中部造作材伏図



上部造作材伏図

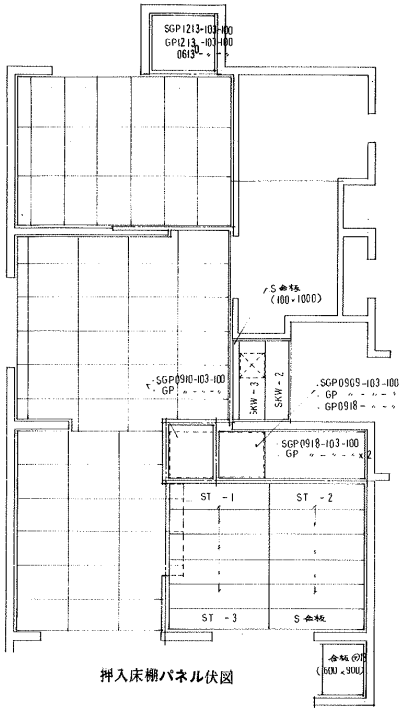


垂直材伏図

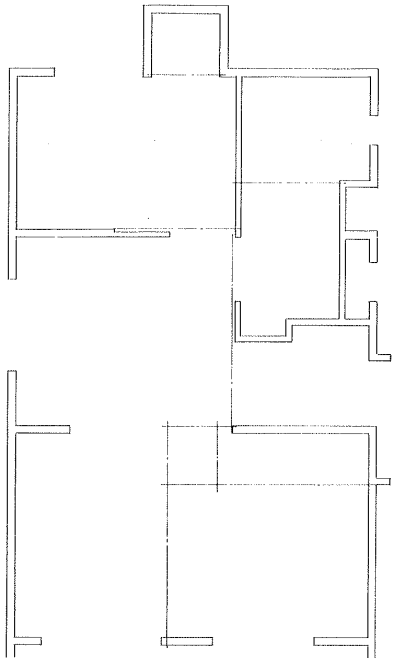


雑造作材伏図・金物

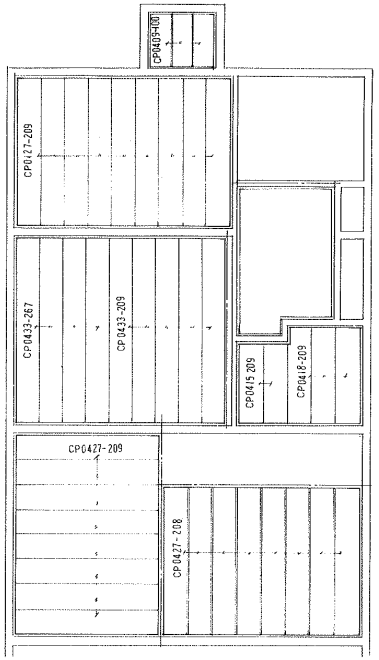
※ネダフォーム 巾80
66 枚



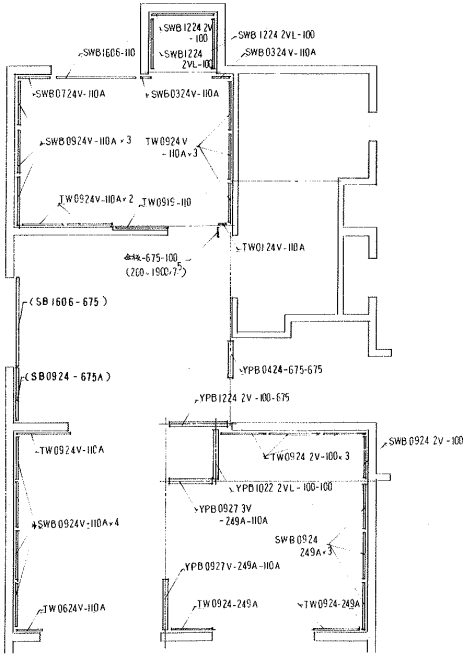
押入床棚パネル伏図



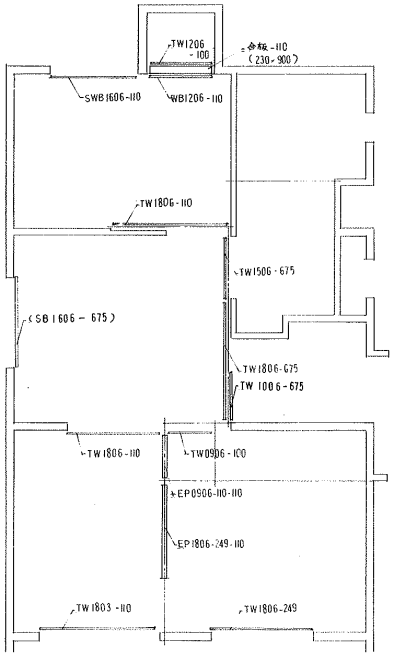
化粧突板合板伏図 68 枚



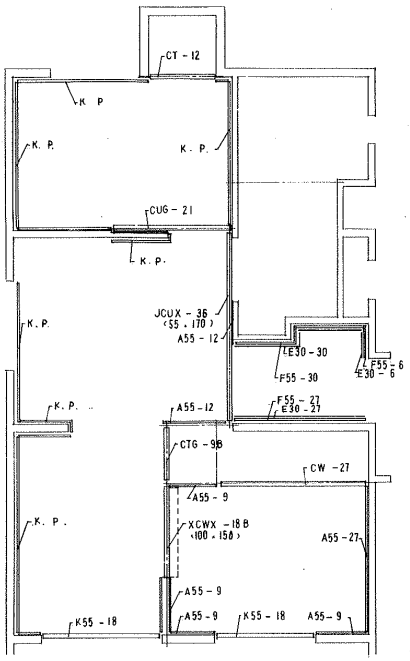
天井パネル伏図



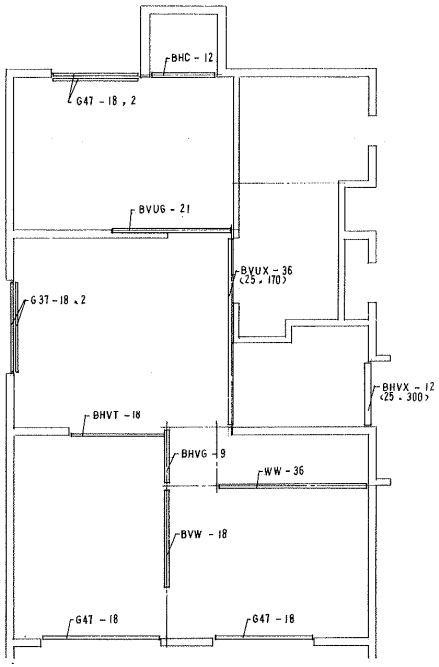
壁パネル伏図 くつかあります。



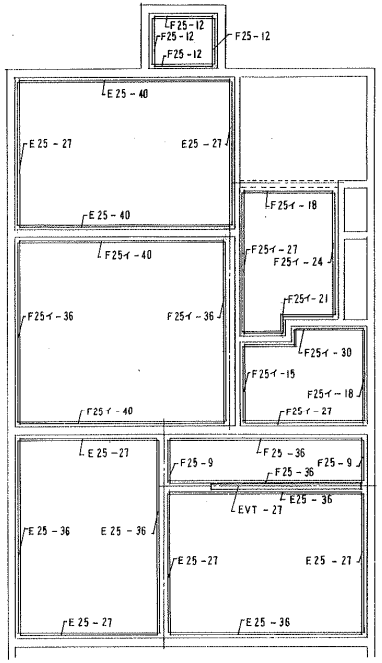
小壁パネル伏図 くつかあります。



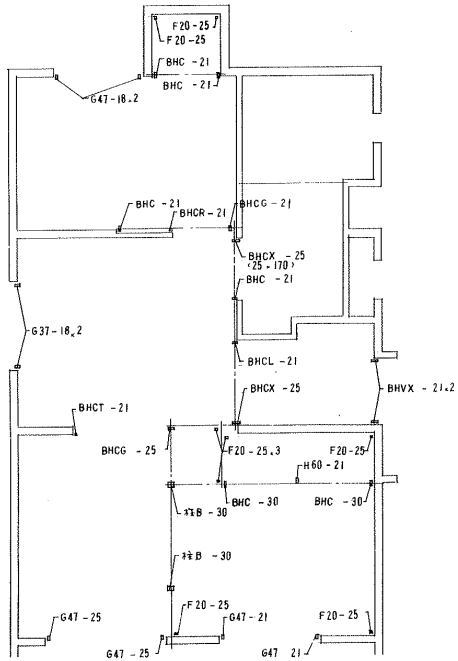
下部造作材伏図



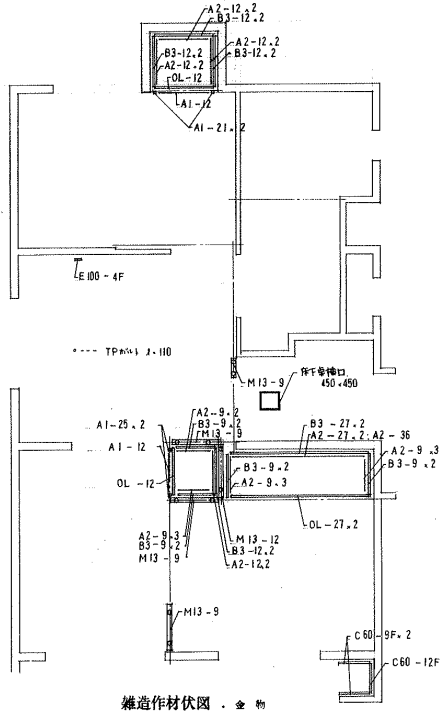
中部造作材伏図



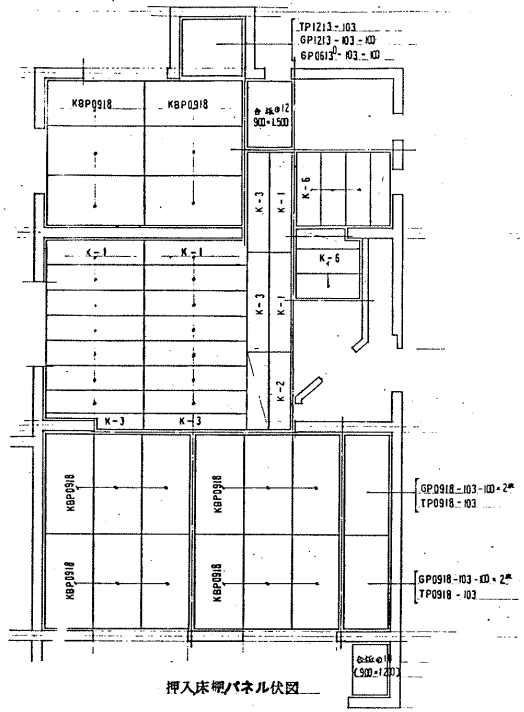
上部造作材伏図



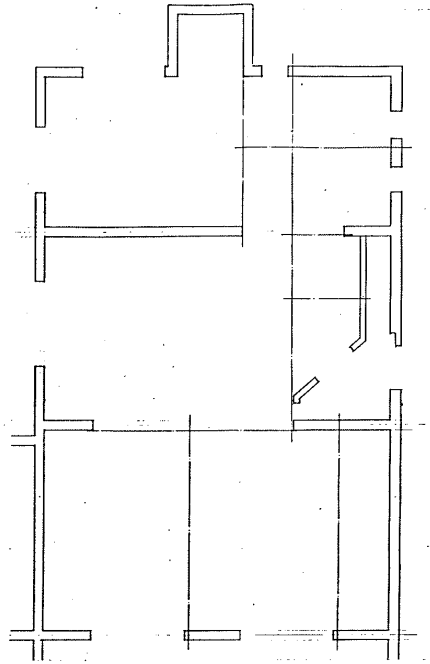
垂直材伏図



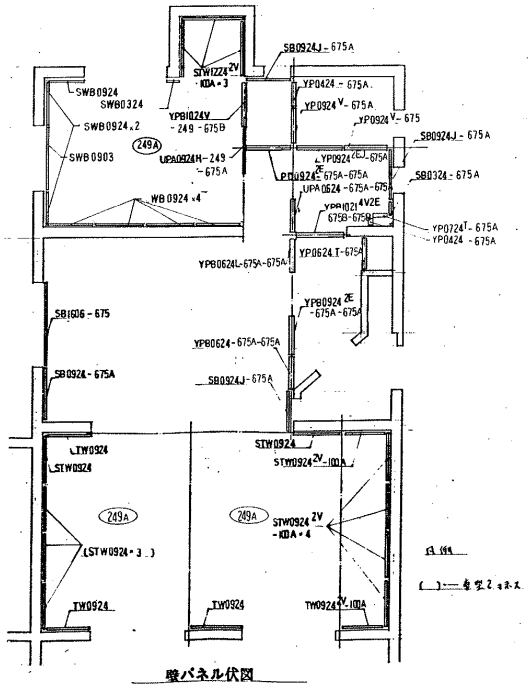
雑造作材伏図 . 金 物



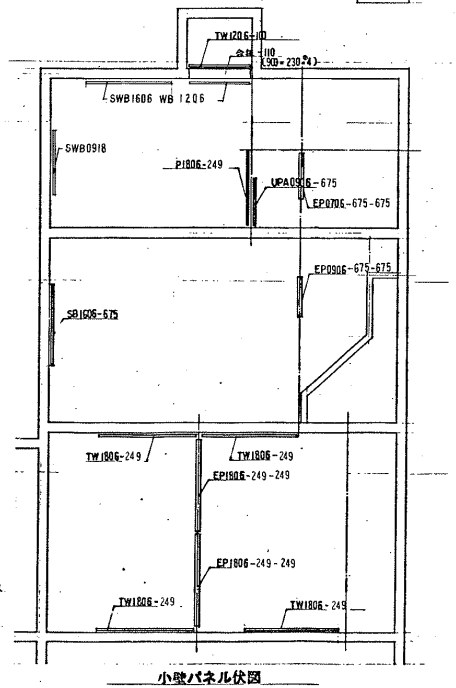
押入床棚パネル伏図



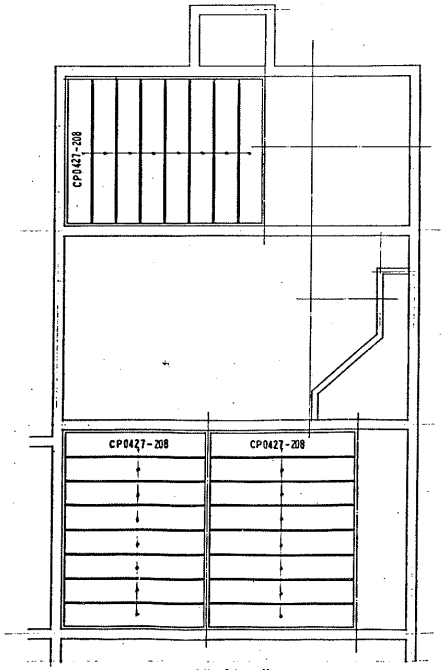
化粧突板合板伏図 48 ㎡



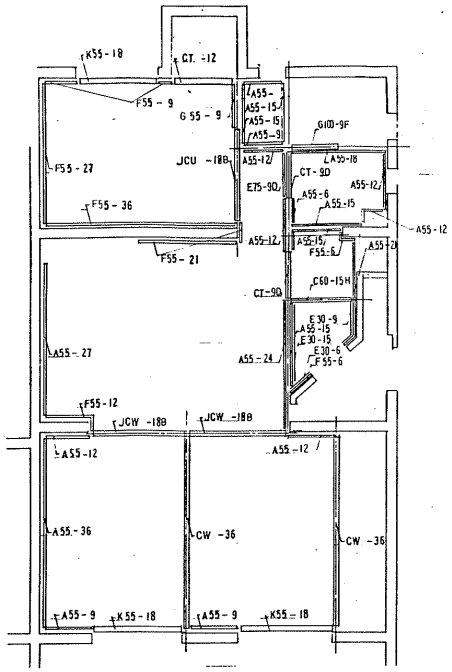
壁パネル伏図



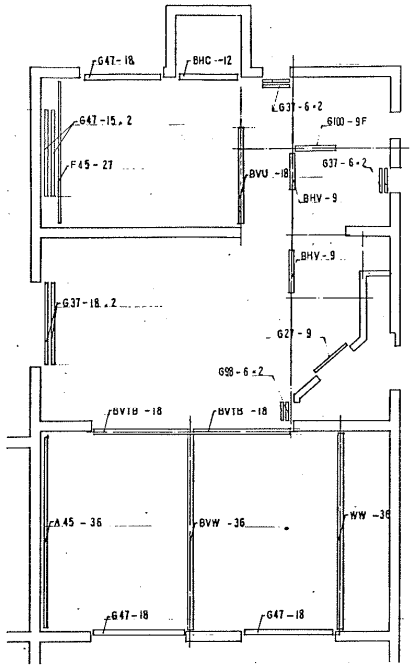
小壁パネル伏図



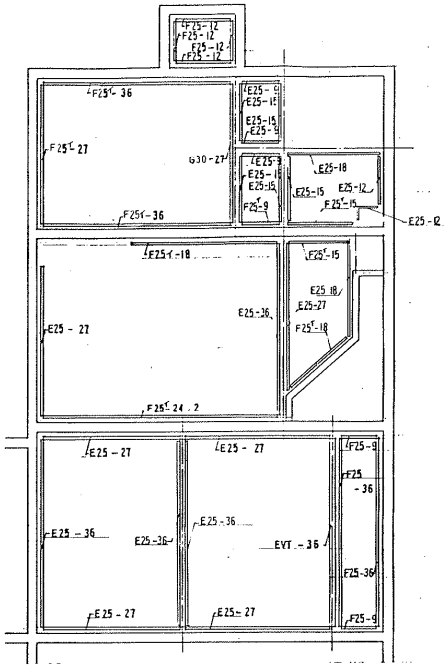
天井パネル伏図



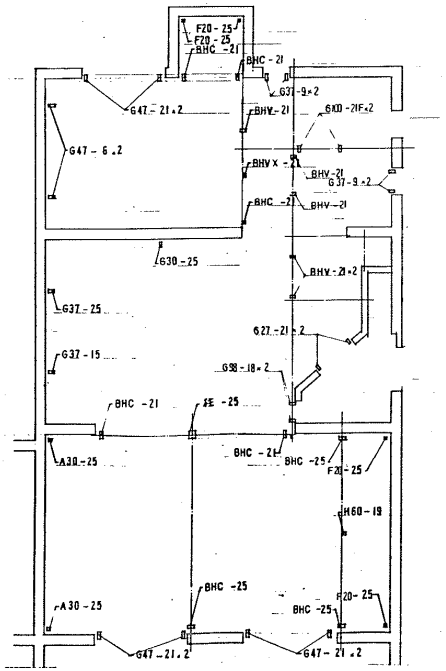
下部造作材伏図



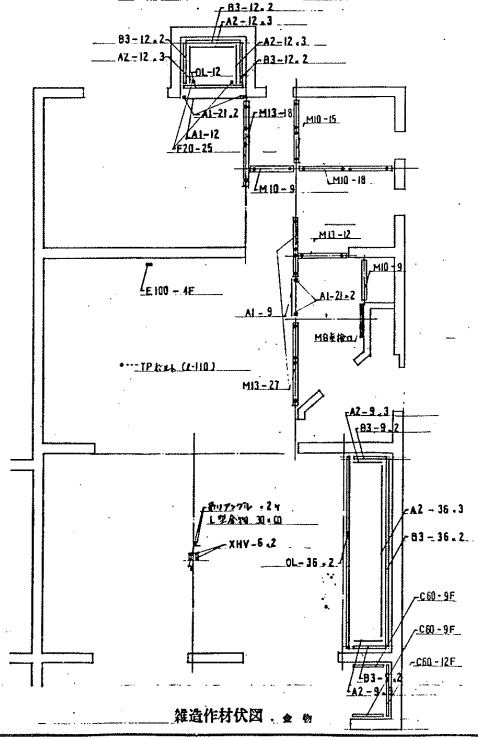
中部造作材伏図



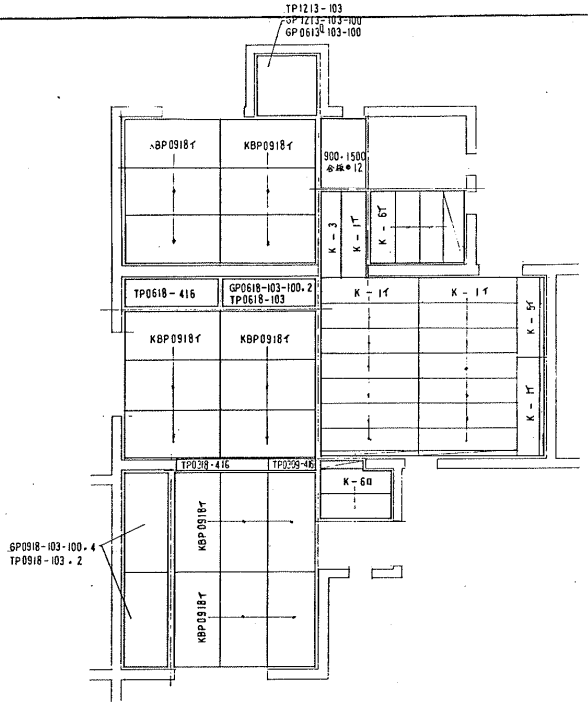
上部造作材伏図



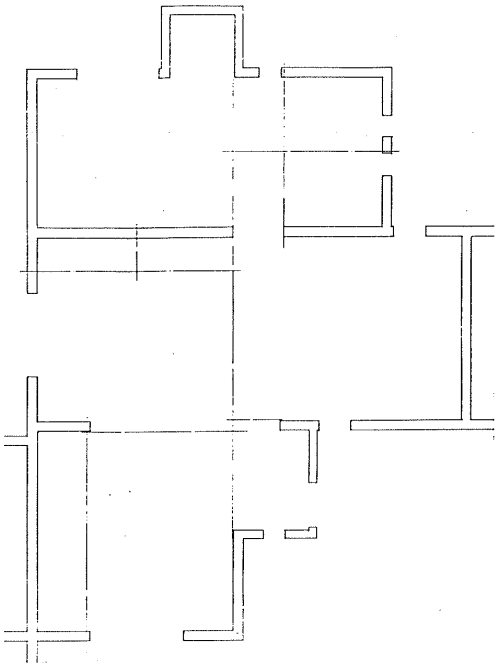
垂直材伏図



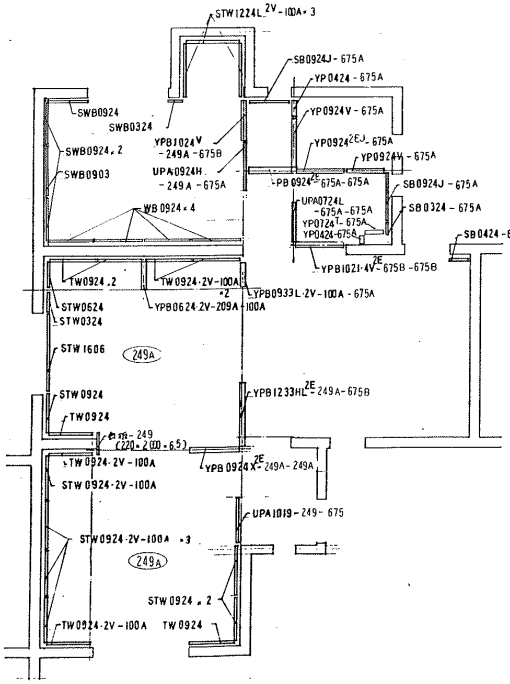
雑造作材伏図



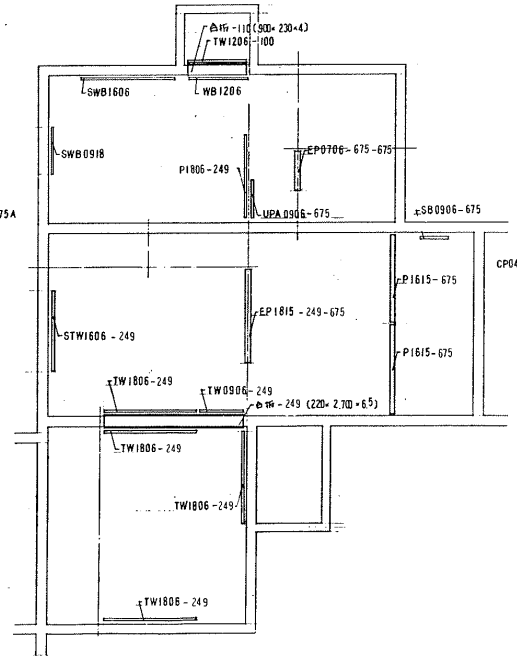
2F～　押入床棚パネル伏図



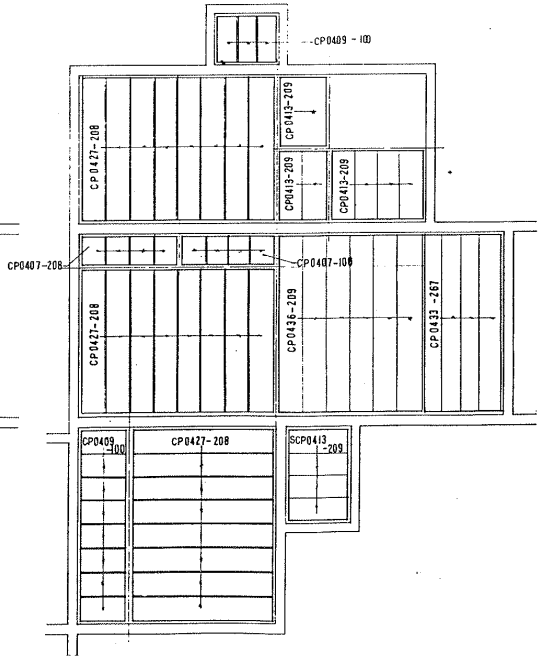
化粧突板合板伏図　49 ㎡



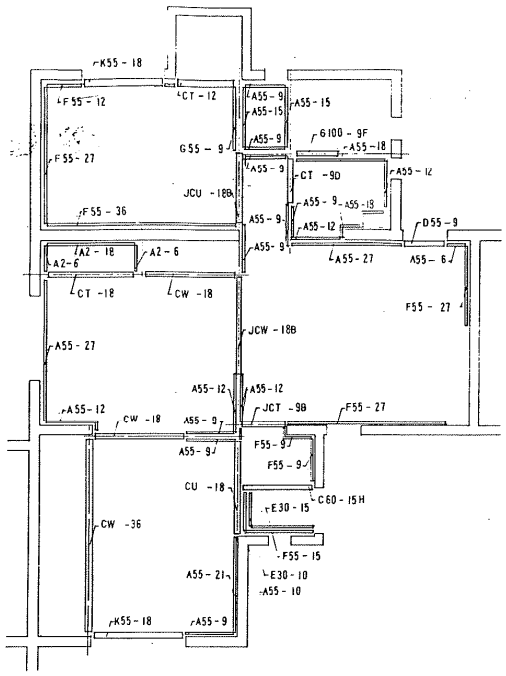
壁パネル伏図



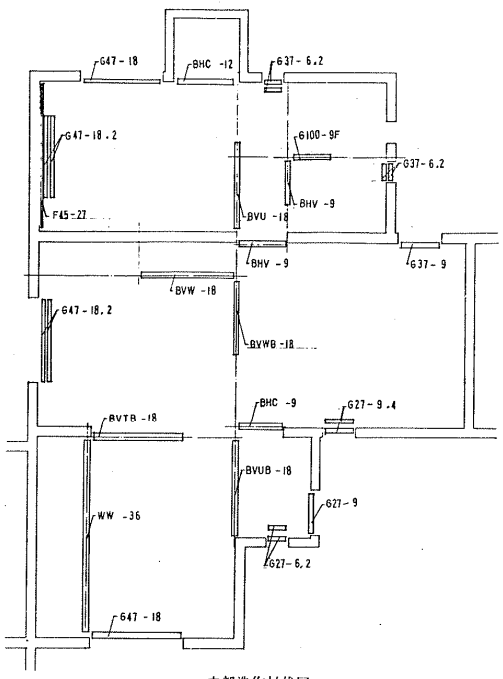
小壁パネル伏図



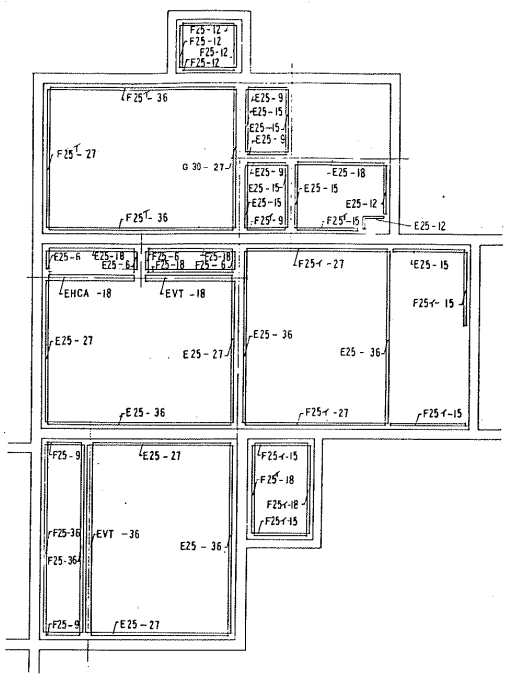
天井パネル伏図



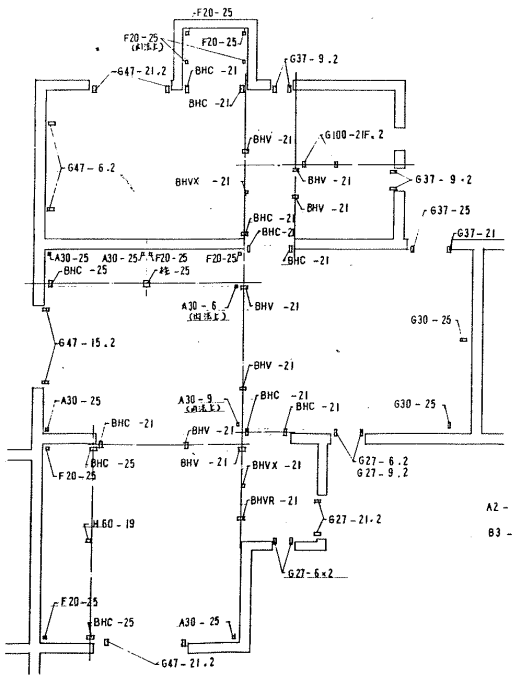
下部造作材伏図



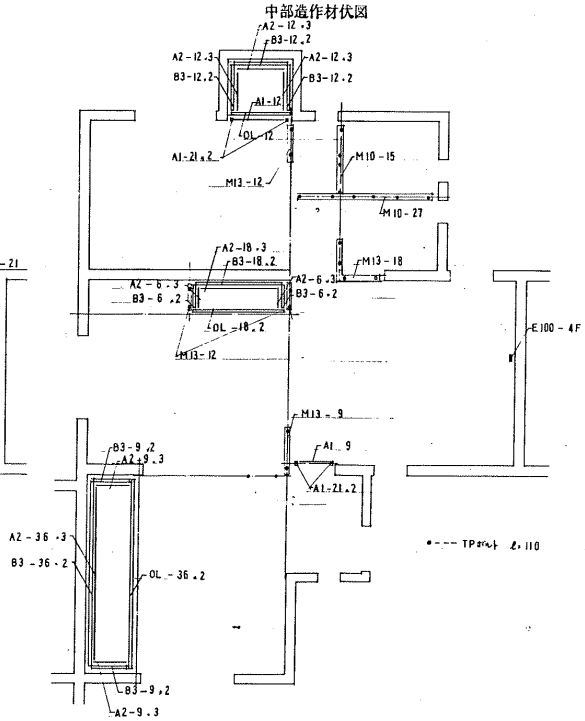
中部造作材伏図



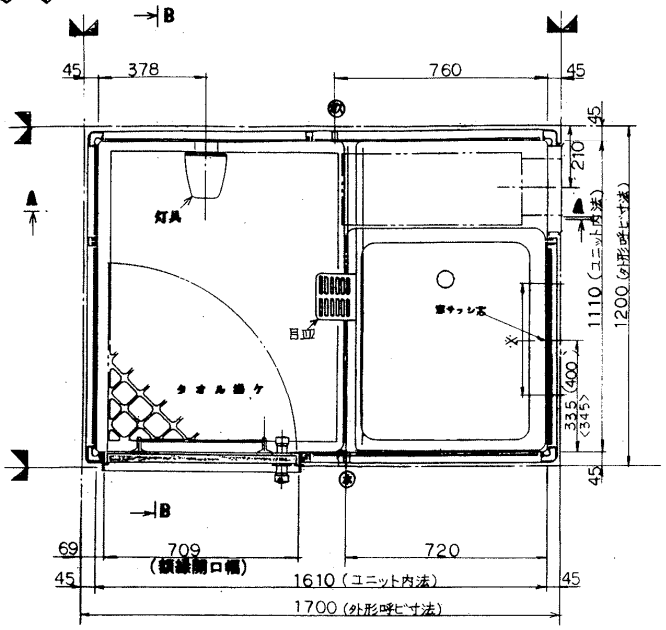
上部造作材伏図

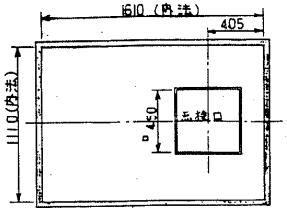


垂直材伏図

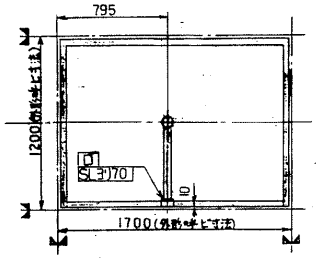


雑造作材伏図





天井伏図(1/20)



雑排水汚水管バリエーション
(寸法公差±10)

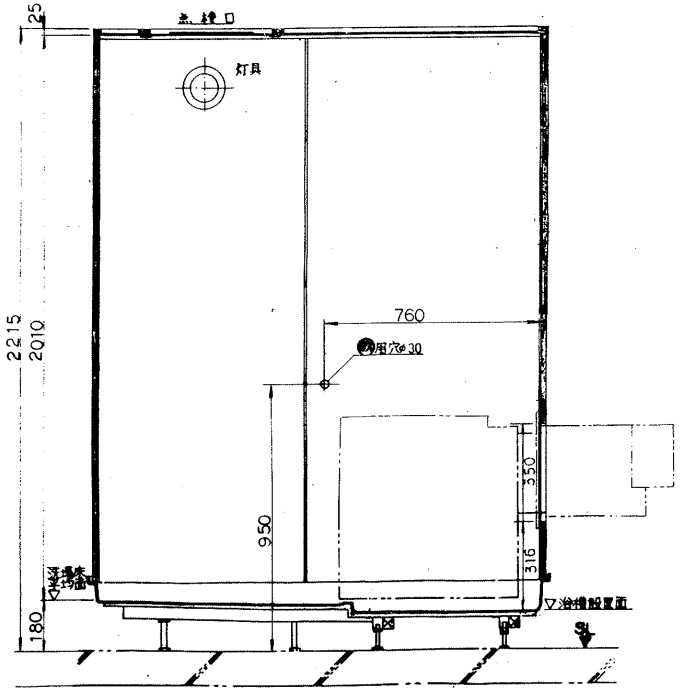
※( )内ハプラン◈, < >内ハプラン◈ヲ
示シマス

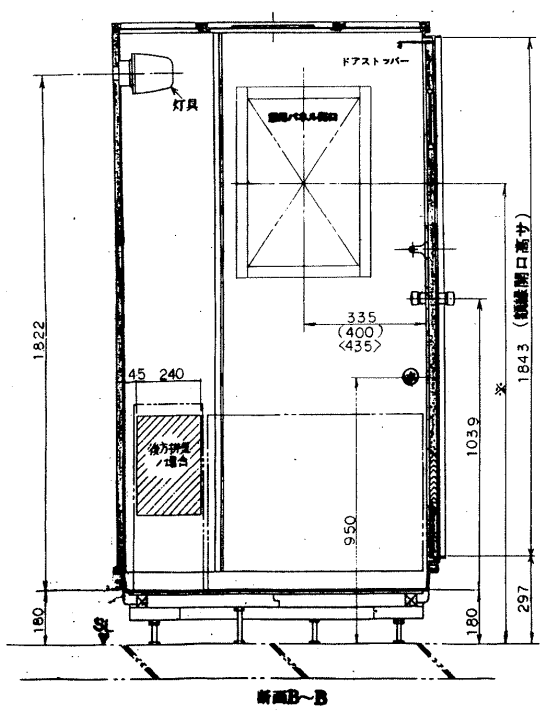
設備	No	品名	仕様		備考
一般事項	1	外形呼ビス法	1200W×1700L×2400H		
	2	ユニット内法寸法	1110W×1610L×2010H		室内容積:3.1m³
	3	総重量	200kg		
本体	4	床	FRP	色調:オフホワイト	洗い場面積:1.01m²
	5	壁パネル	塩ビ鏡板	色調:オフホワイト	
	6	ドア	アルミポリエチレン複合板(両面フラッシュ)	色調:アイボリー	
	7	ドア枠	アルミ押出品(アルマイト処理クリア塗装)		
	8	天井パネル	塩ビ鏡板	色調:オフホワイト	
	9				
器具部品	10	灯具	防湿形白熱灯(60W)		ポリカーボ製グローブ
	11	ドアロック	ABS(プッシュボタン式ロック)		
	12	ドアストッパー	ステンレス製		
	13	鏡看	アルミ		
	14	ドアガラリ	ABS		
	15	ドア小窓	型板ガラス(㊦4)		
	16	タオル掛ケ	ステンレス		ℓ=455
	17	浴槽	700×800タイプ フロアタ(底キワリ)ナシ	色調:アイボリー	BL品
	18	バランス釜	ユニット工事外		
配管・ソノ他	19	雑排水トラップ	ABS樹工脂		封水:50
	20	雑排水管	硬質塩ビ管(VP50)	ジョイント:VP50ﾌﾗｼｭ	
	21	電気配線	V-V-F(1.6-3C) L=2000		㊥赤,㊀白,㊁黒,㊂緑色
	22	給水給湯管	給湯用ヘッダー アダプター(L型異径20×13)	ジョイント:ﾌﾗｼｭｼ	
	23	コーキング箇	シリコンシーラント	色調:オフホワイト	
	24				

	No	項目	選択	事項
仕様打合事項	25	自在水栓	(1)有 ●無	
	26	換気口	(1)ABS成形ガラリ ●100角(色調:オフホワイト)	有効面積:370cm² ジョイント径:ｿ98
	27		(2)換気扇用開口ノミ ●Φ270	●無
	28	雑排水方向	(1)[イ] ●[ロ]	(3)[ハ]
	29	給水給湯管用穴	(1)給水給湯用両方有 ●給水用ノミ有	(3)無
	30	梁切欠	●無 (01)X02)—	(03)X(04)長辺
	31	調整空間	(1)20mm (2)80mm ●40mm	
	32			
	33			
	34			

注記

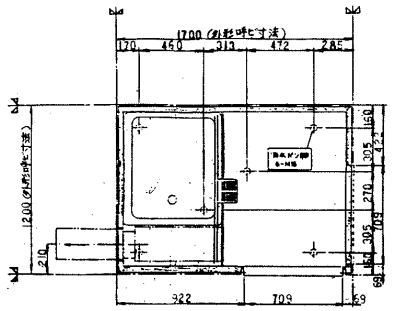
1. 本図ハ調整空間20mmデ作図シテアリマス。調整空間80mmノ場合ハ( )内寸法トナリマス。
2. 浴ソーハBL認定品ヲ御使用下サイ。
3. 気密サッシニハ、浴室外給湯SPHI200角(公共住宅用規格部品)ヲ御使用下サイ。



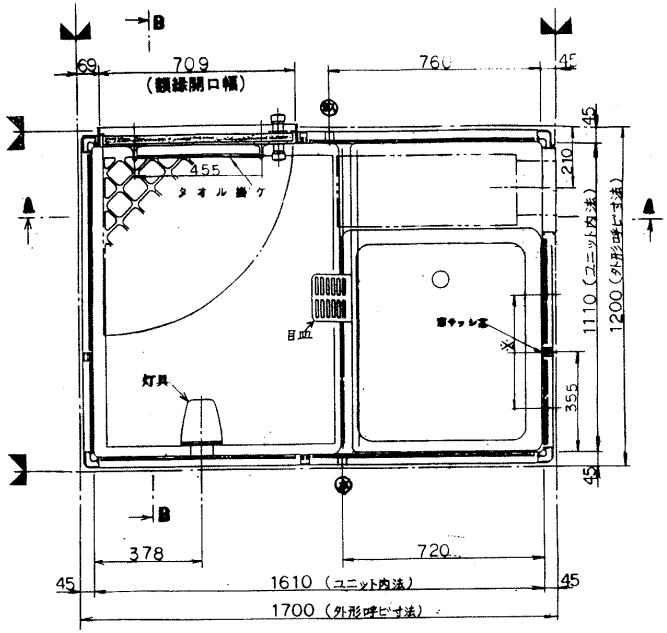


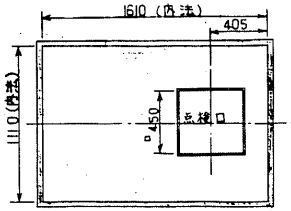
確認事項

1. 給水圧ハ、0.8kg/cm²以上確保願イマス。
2. 梁ト確認(ユニット本体・換気口・点検口・)
3. 取合ノ確認(配管・排水管・換気口・ドア枠)

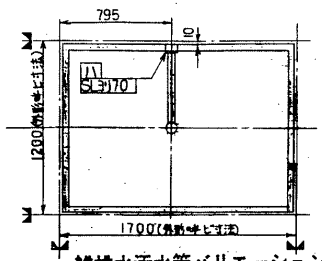


ユニット床下脚位置図(寸法公差±10)





天井伏図(1/20)



雑排水汚水管バリエーション
(寸法公差±10)

調達	No	品名	仕様		備考
一般事項	1	外形呼びす法	1200W×1700L×2400H		
	2	ユニット内法寸法	1110W×1610L×2010H		室内容積:3.1m³
	3	総重量	200kg		
本体	4	床	FRP	色調:オフホワイト	洗い場面積:1.01m²
	5	壁パネル	塩ビ鋼板	色調:オフホワイト	
	6	ドア	アルミポリエチレン複合板(両面フラッシュ)	色調:アイボリー	
	7	ドア枠	アルミ押出品(アルマイト処理クリア塗装)		
	8	天井パネル	塩ビ鋼板	色調:オフホワイト	
	9				
器具部品	10	灯具	防湿形白熱灯(60W)		ポリカーボネイトグローブ
	11	ドアロック	ABS(プッシュボタン式ロック)		
	12	ドアストッパー	ステンレス製		
	13	蝶番	アルミ		
	14	ドアガラリ	ABS		
	15	ドア小窓	型板ガラス(㋐4)		
	16	タオル掛け	ステンレス		ℓ=455
	17	浴槽	700×800タイプ° フロアフ(巻キアゲムシ)	色調:アイボリー	BL品
	18	バランス釜	ユニットバス工事		
配管・ソノ他	19	雑排水トラップ	ABS樹脂		封水:50
	20	雑排水管	硬質塩ビ管(VP50)	ジョイント:VP50ソケット	
	21	電気配線	VV-F(1.6-3C) L=2000		中性点㊀白色(ボーラ)赤色
	22	給水給湯	有機質物制アダプター(L型異径20×13)	ジョイント:20ソケット	
	23	コーキング	シリコンシーラント	色調:オフホワイト	
	24				

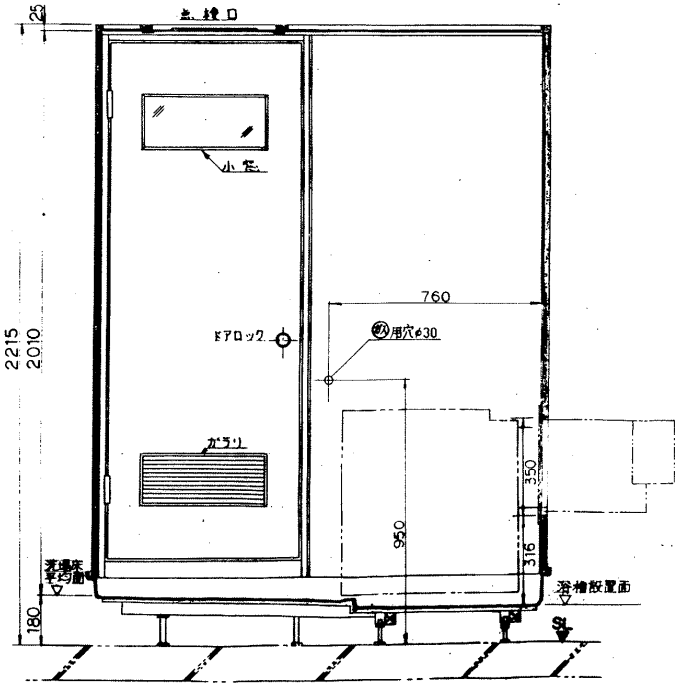
	No	項目	選択	事項
仕様打合事項	25	自在水栓	(1)有 ●無	
	26	換気口	(1)ABSガラリ ●100角(色調:オフホワイト)	有効面積:37cm²ジョイント径:φ98
	27		(2)樹脂製開閉ロフタ ●270	●無
	28	雑排水方向	(1)● (2)㊀	●㊁
	29	給水給湯配管前	(1)●床給湯用/両方有 ●壁給水用ノミ有	(3)無
	30	梁切欠	●無 (01)X02)—	(03)X04)長辺/
	31	調整空間	(1)20mm (2)●80mm	●40mm
	32			
	33			
	34			

注記

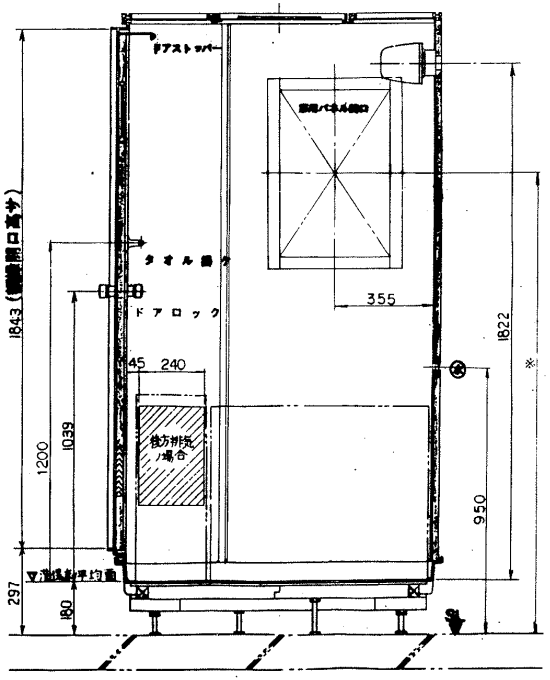
1. 本図ハ調整空間20mmデ作図シテアリマス。調整空間80mmハ場合ハ( )内寸法トナリマス。
2. 浴リニハBL認定品ヲ御使用下サイ。
3. 窓枠サッシニハ浴室外給湯SPH1200用(公共住宅用規格部品)ヲ御使用下サイ。

確認事項

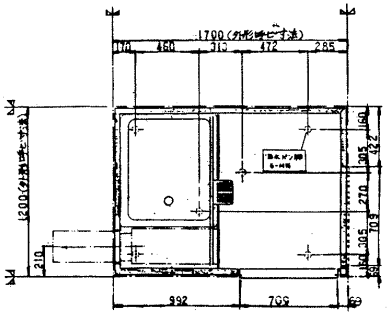
1. 給水圧ハ、0.8kg/cm²以上確保願イマス。
2. 梁ト確認(ユニット本体・換気口・点検口・)
3. 取合ト確認(配管・排水管・換気口・ドア枠)



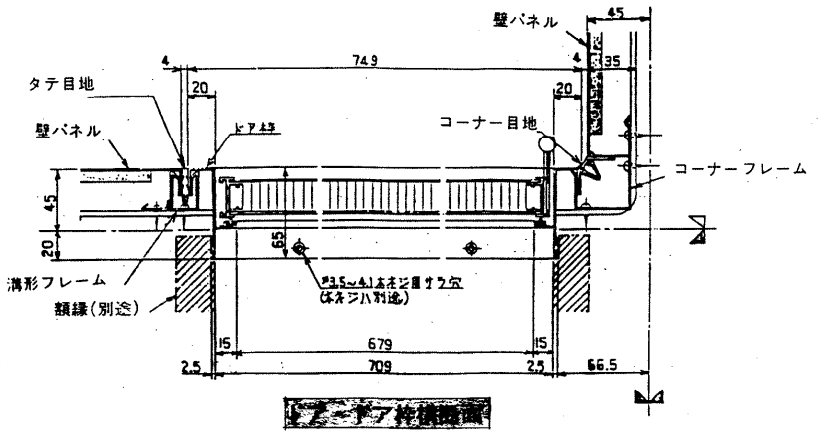
断面A~A

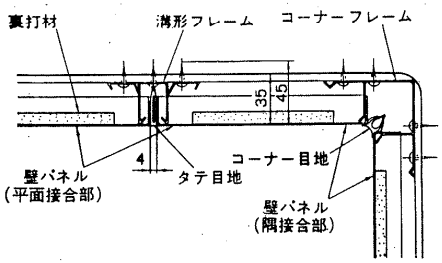


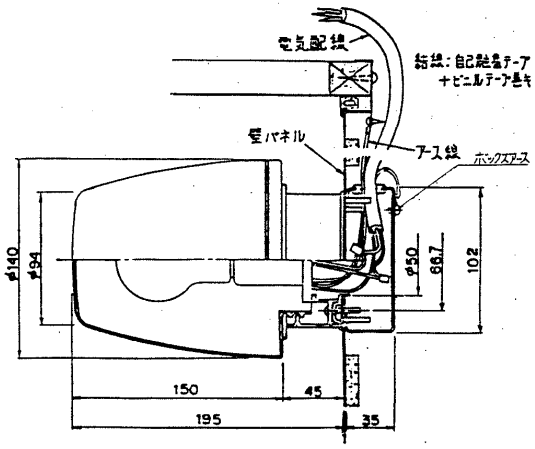
断面B~B

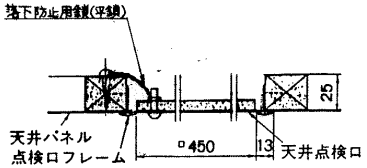


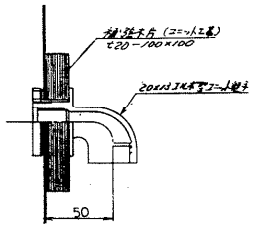
ユニット床下脚位置図(寸法公差±10)

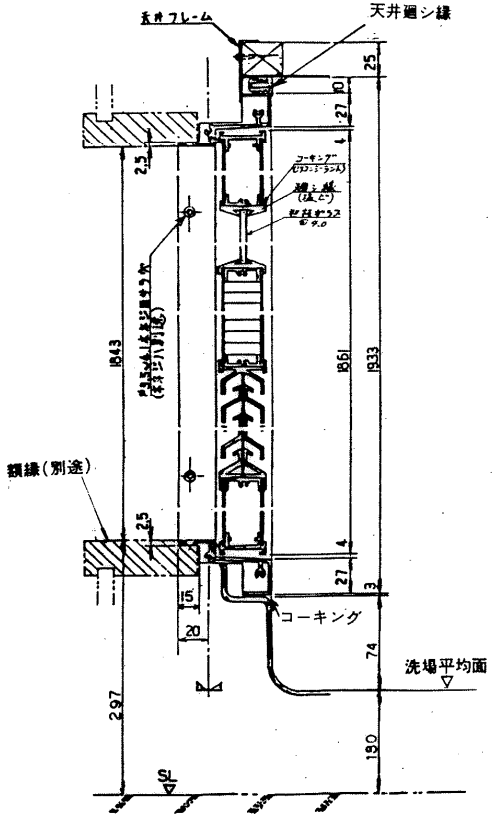

壁パネル
45
4
749
35
タテ目地
20
ドア枠
コーナー目地
壁パネル
コーナーフレーム
45
20
65
溝形フレーム
額縁(別途)
15
679
15
2.5
709
2.5
66.5

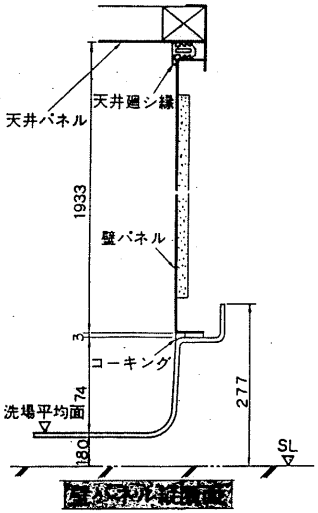

裏打材
溝形フレーム
コーナーフレーム
35
45
4
壁パネル
(平面接合部)
タテ目地
コーナー目地
壁パネル
(隅接合部)

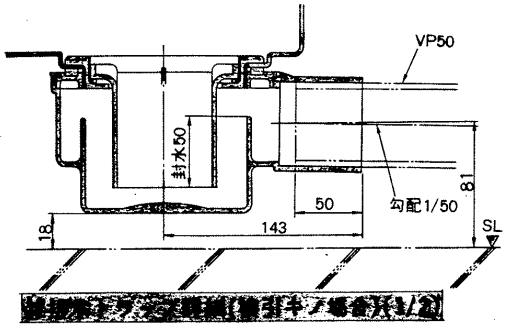

電気配線
結線:自己融着テープ
+ビニルテープ巻き
壁パネル
アース線
ボックスアース
φ140
φ94
φ50
φ46.7
102
150
45
195
35

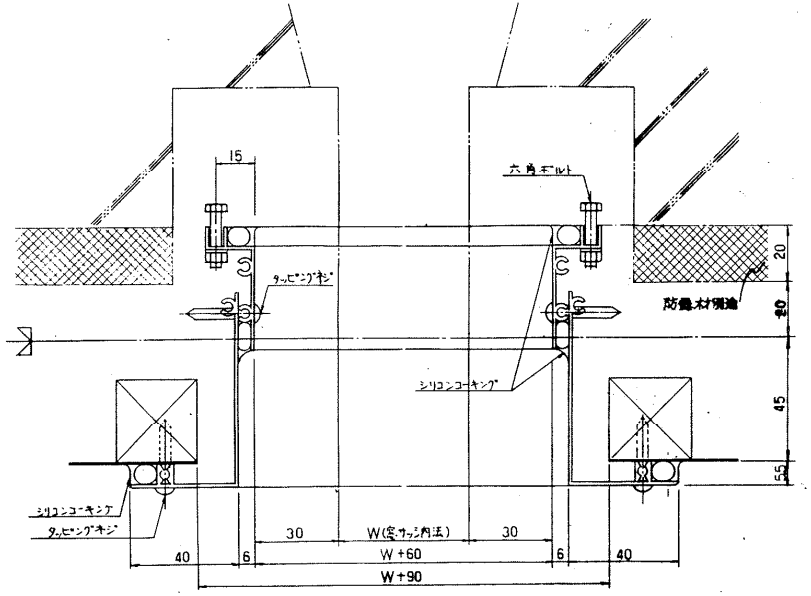

落下防止用鎖(平鎖)
25
天井パネル
点検口フレーム
□450
13
天井点検口


50

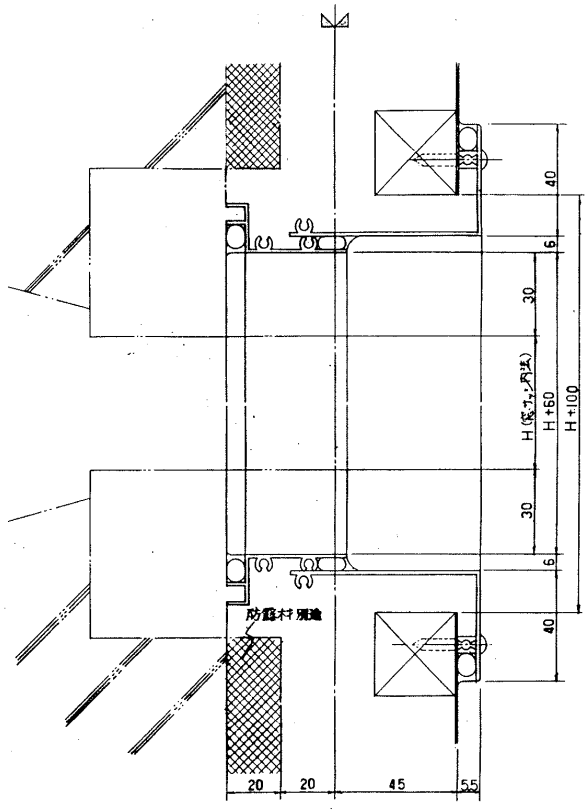

天井フレーム
天井廻シ縁
25
10
27
4
2.5
コーキング
1843
861
1933
額縁(別途)
2.5
4
27
3
15
20
コーキング
74
洗場平均面
297
180
SL


天井パネル
天井廻シ縁
1933
壁パネル
3
コーキング
洗場平均面
74
277
180
SL


VP50
封水50
50
勾配1/50
81
18
143
SL



窓接続枠横断面 S:1/1

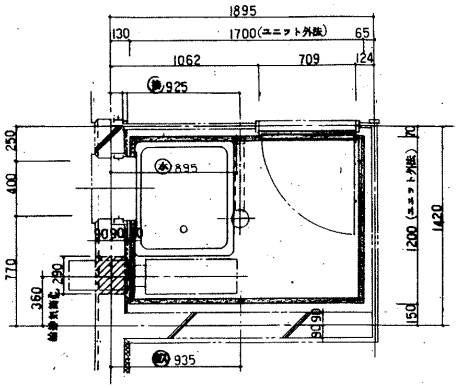


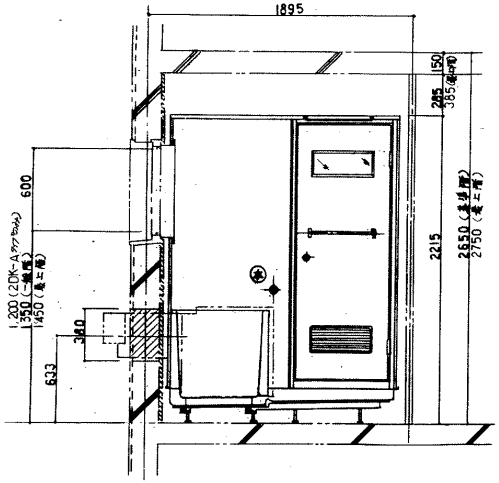
窓接続枠縦断面 S:1/1

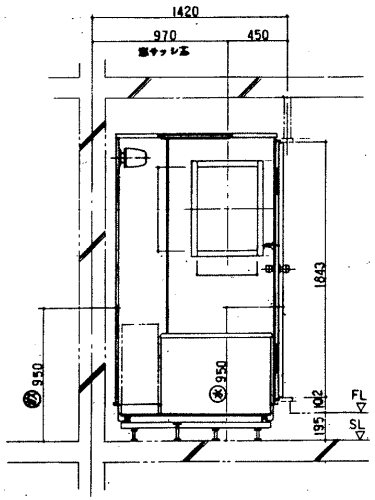
①

本図通り ―― (2A)、4A、3B、3H、3H'

本図と逆勝手 ―― (2A)、3A、4A、3B、3H、3H'





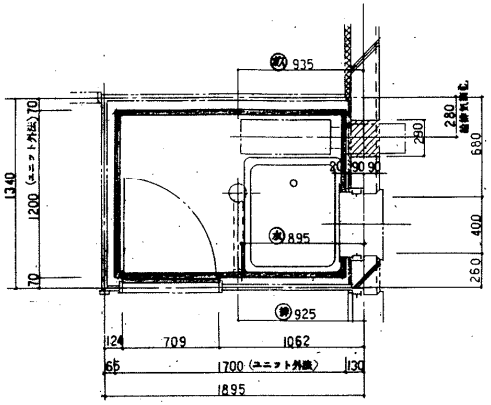


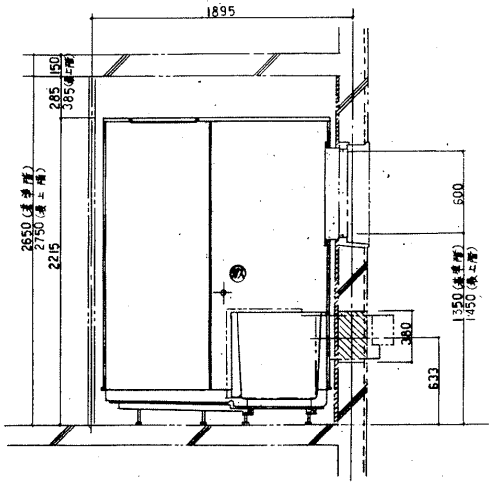
壁 給排気換気扇スリーブ ユニット別途工事

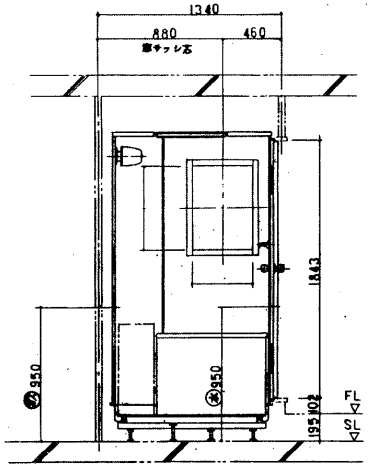
②

本図通り ―― 4B、4C、3D、3F

本図と逆勝手 ―― 4B、4C、3D、3F





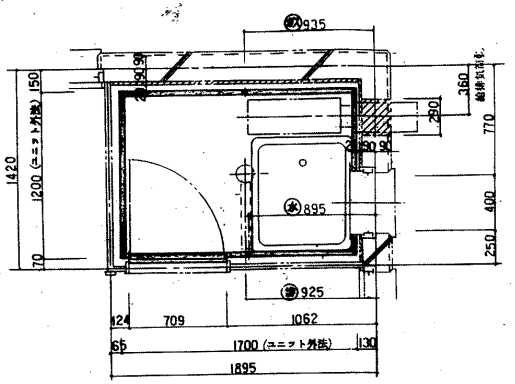


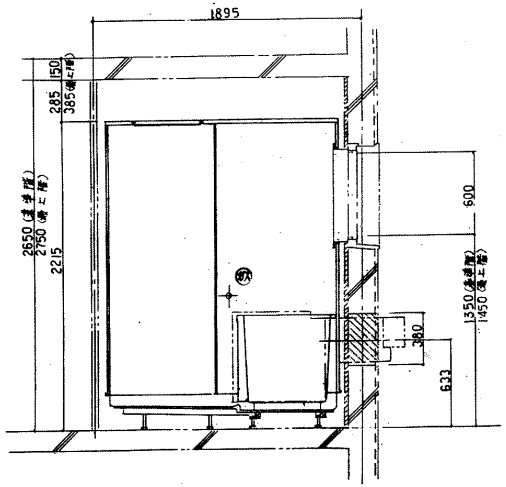
壁 給排気換気扇スリーブ ユニット別途工事

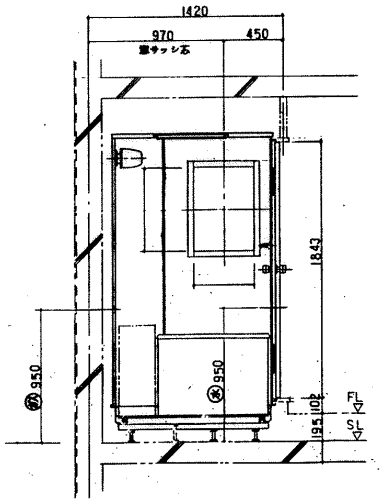
◇3

本図通り ―― (2B)・(2C)・(3C)・(3E)

本図と逆勝手 ―― (2B)・(2C)







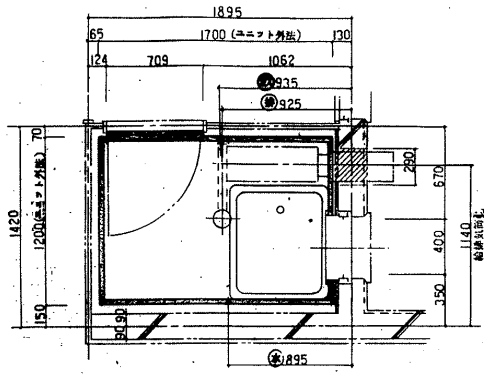
窓 給排気併用スリーブ ユニット現地工事

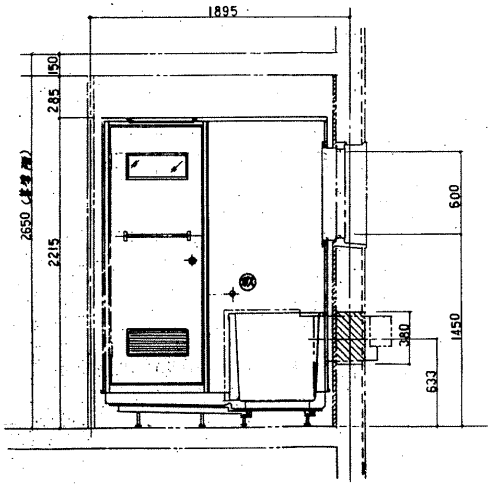
◇4

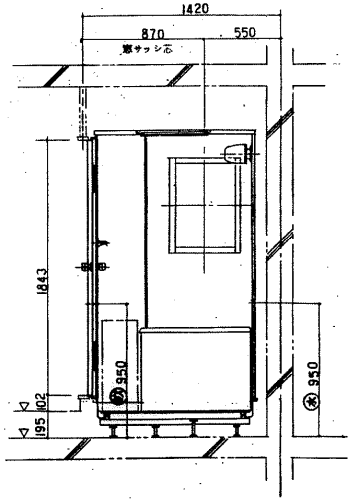
本図通り ―― 4D ・3G

本図と逆勝手 ―― ※1 4A ※2 3B

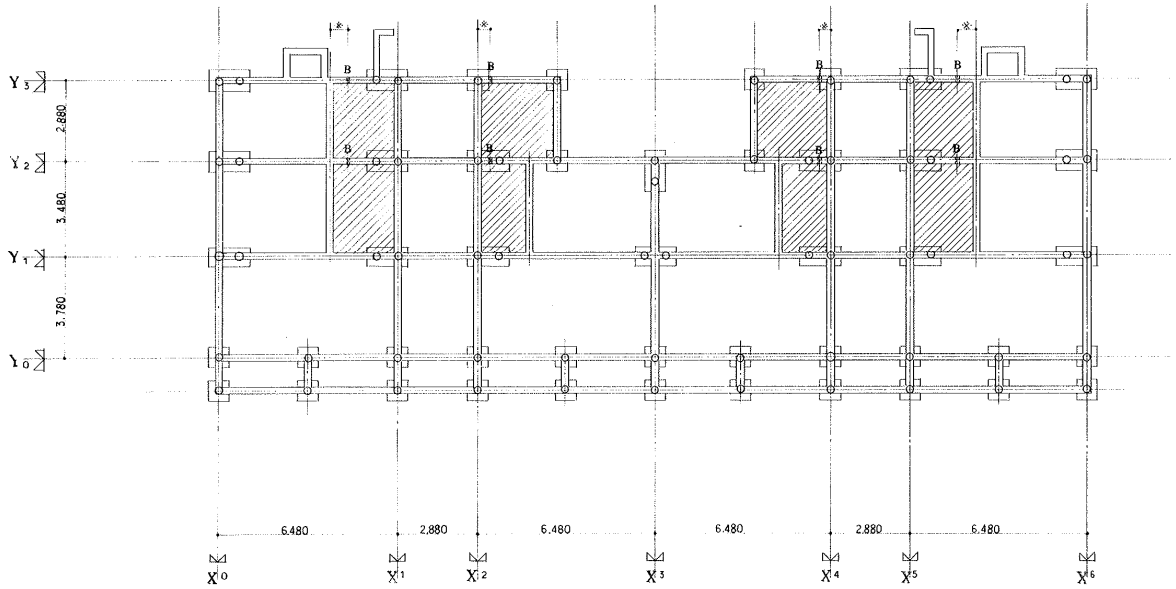
※1 4Dと対する場合　※2 3Dと対する場合







窓 給排気併用スリーブ ユニット現地工事



B ：125 スラブ示す

※ ；設備工事と協議し決定スルコト。

1. 総則

本工事は下記を基準仕様書とする。

(i) 公営住宅建設工事共通仕様書 ——(鉄)住宅部品開発センター
（昭和○○年版）

(ii) 建築工事共通仕様書 （ ・60・ ）—— 営繕協会

(iii) 公営住宅標準詳細設計図集（第5版） —— 日本住宅協会化

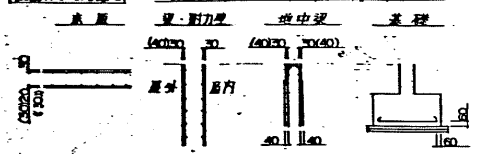
本設計図書に特記がある場合は上記各標書による。又、上記仕様書に記載はある場合は任意との協議により決定する。

各工事に着工前、施工計画書、安全書、生コン工場、経歴書、等を任意に提出し、承認を受ける事とする。

2. 鉄筋のかぶり厚さ，端部加工，定着長さ

鉄筋のかぶり厚さ

仕様による場合は仕様書による。



注 1. ( )内は屋外で仕上げをしないもの。

注 2. 仕上げとは屋内外に面する部分で、モルタル塗り、タイル張り、その他これに類する鉄筋耐力上有効な仕上げをいう。

注 3. 捨てコンクリートは、かぶり厚さに算入しない。

注 4. コンクリート細骨材の塩分が0.04%～0.10%の時は1.5倍とする。

定着及び継手長さ

		定着及び継手長さ	
耐力壁	タテ	〃	35d
	ヨコ	〃	35d
非耐力壁	タテ・ヨコ	〃	35d
曲げ補強筋・壁梁主筋		〃	40d
床版	上	〃	35d
	下	〃	15d
	上・下	継手	35d

注 1. 継手はすべて重ね継手とする。

注 2. 重ね継手長さは細い方の径の1.4倍とする。

注 3. d：鉄筋径

注 4. 耐力壁縦筋の地中梁への定着長さは35dとする。

鉄筋端部加工

末端部			中間部	
d＞13	d≦13	d≦13		
(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)

(イ) 梁・基礎の主筋 D－4d

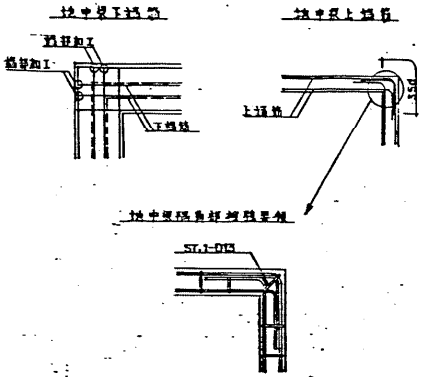
(ロ) スラブ・壁筋 D－5d

(ハ) あばら筋・帯筋 D－4d

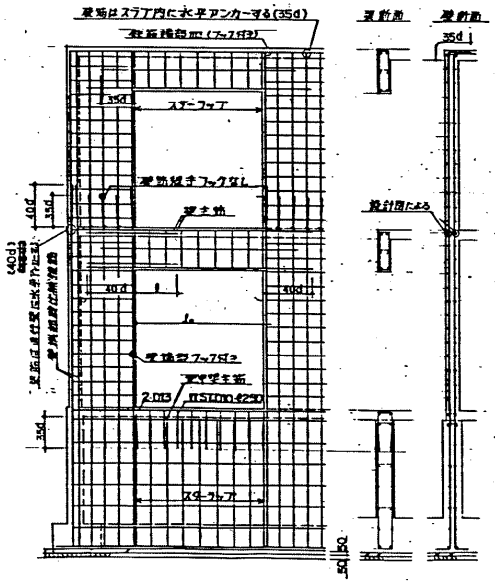
(ニ) 梁・折り曲げ筋 D－6d

(ホ) 壁主筋の定着 D－6d

3. 地中梁主筋配筋参考図



4 壁配筋標準詳細図

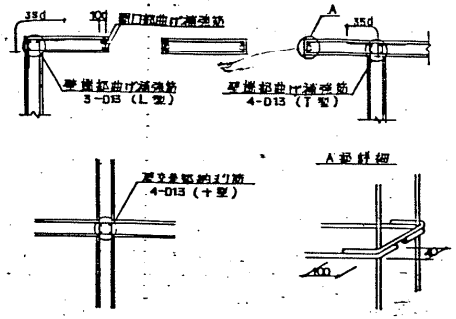


梁主筋長さ：L	
L≦1000	全周の鉄筋
1000＜L＜3000	L/2
L≧3000	L/4＋15d

注) 梁主筋とスラブ筋の継手位置はなるべく壁内で行ない梁内で行なってはならない。

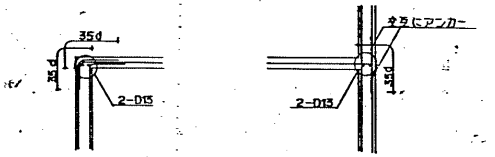
5. 壁の配筋要領図

ダブルとダブル

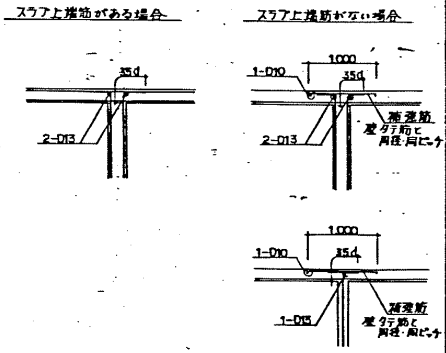


工事中止メ筋——縦筋と同径・同ピッチとする。
壁端部は全てこれに倣う。

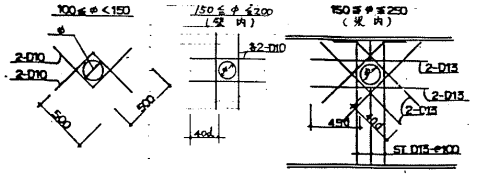
ダブルとシングル



壁とスラブの定着要領



スリーブ貫通孔補強要領



6 スペーサー筋

バルコニー・庇

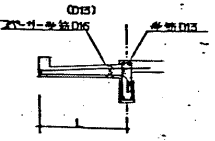
バルコニー・庇等片持スラブに用いるスペーサー筋は、次のとおりとする。

(i) 受筋の鉄筋径は、次のとおりとする。

L＞600 D16

L≦600 D13

(ii) スペーサーは所定のかぶり厚さを確保する適正な高さの鉄製スペーサーとし、@600で配置し、スペーサー受筋に溶接する。



7 壁梁等配筋図

配筋リスト 特記仕様に記載されるものの外、下記仕様とする場合。

	W10(W8)	W12	W15
	40d	40d	45d
縦筋	D10－@250	D10－@200	D10－@200
横筋	D10－@250	D10－@200	D10－@200
開口補強筋	1－D13	1－D13	1－D13
斜メ補強筋	—	—	—

8 一般共通事項

コンクリート

設計基準強度	最大水セメント比	スランプ	粗骨材最大寸法	空気量
210 (kg/cm²)	55 (%)	18 (cm)	20 (mm)	4 (%)

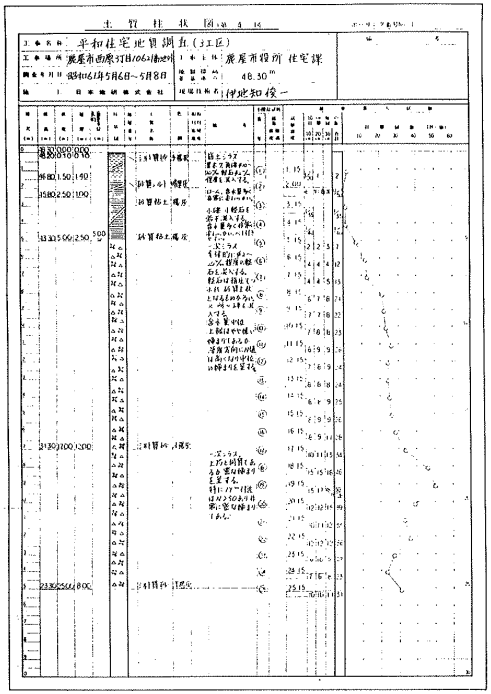
鉄筋

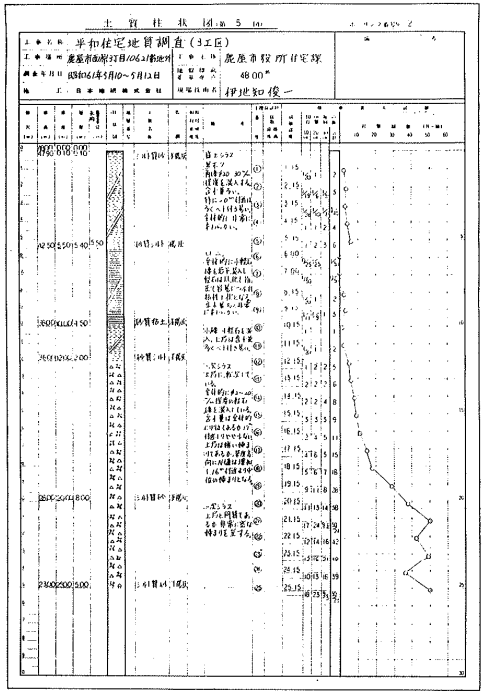
規格 SD30 JIS G3112 (D10～D19)

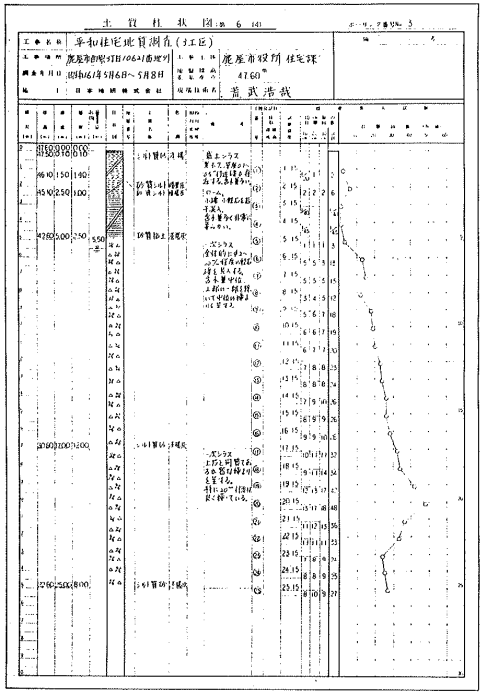
表示

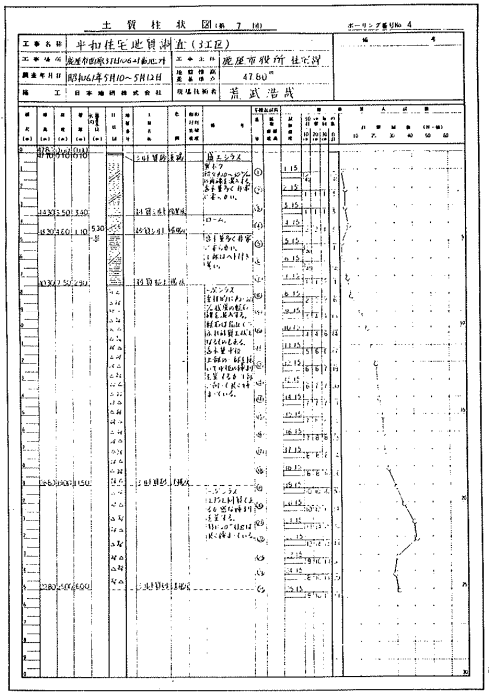
D10	D13	D16	D19
・	×	○	●

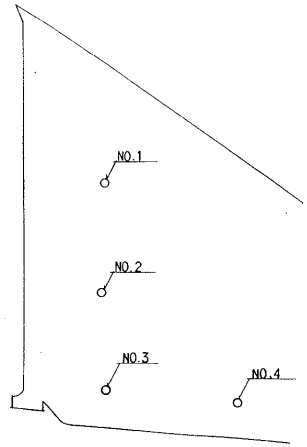
継手 重ね継手

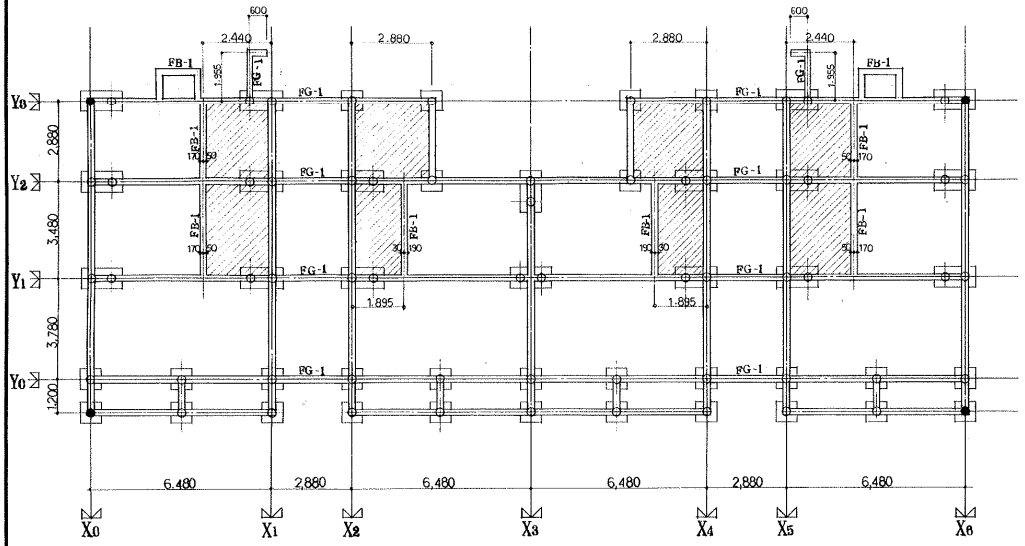

土質柱状図(孔 4 /4)
工事名称 平和住宅地質調査(3工区)
工事場所 鹿屋市向原3丁目/06-21番地外
調査年月日 昭和61年5月6日～5月8日
施工 日本地研株式会社
孔口標高 48.30m
現場代理人 伊地知俊一


土質柱状図(孔 5 /4)
工事名称 平和住宅地質調査(3工区)
工事場所 鹿屋市向原3丁目/06-21番地外
調査年月日 昭和61年5月10～5月13日
施工 日本地研株式会社
孔口標高 48.00m
現場代理人 伊地知俊一


土質柱状図(孔 6 /4)
工事名称 平和住宅地質調査(3工区)
工事場所 鹿屋市向原3丁目/06-21番地外
調査年月日 昭和61年5月6日～5月8日
施工 日本地研株式会社
孔口標高 47.60m
現場代理人 蓋武浩哉


土質柱状図(孔 7 /4)
工事名称 平和住宅地質調査(3工区)
工事場所 鹿屋市向原3丁目/06-21番地外
調査年月日 昭和61年5月10～5月13日
施工 日本地研株式会社
孔口標高 47.60m
現場代理人 蓋武浩哉


NO.1
NO.2
NO.3
NO.4

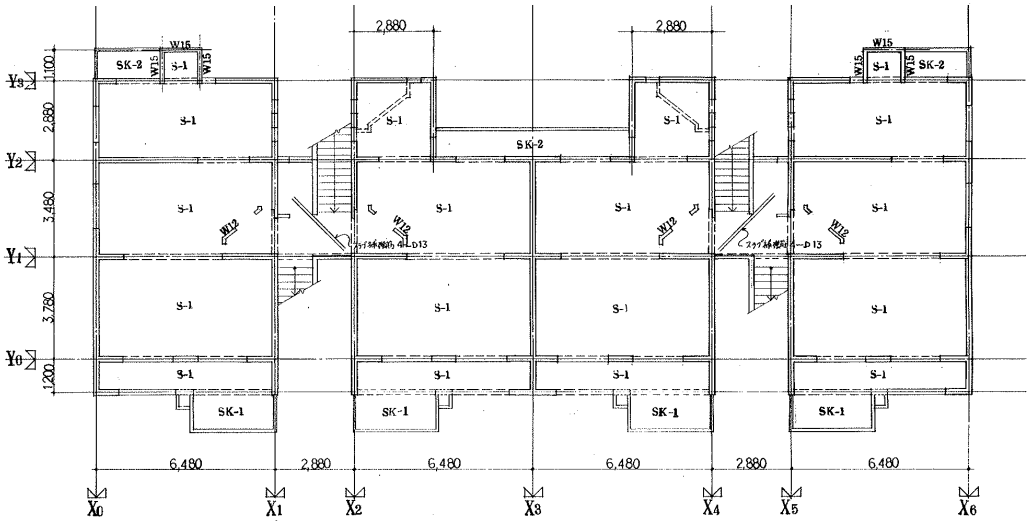


杭、基礎伏図　1/100

特記を除き　　部分は杭心ずらし部分を示す。

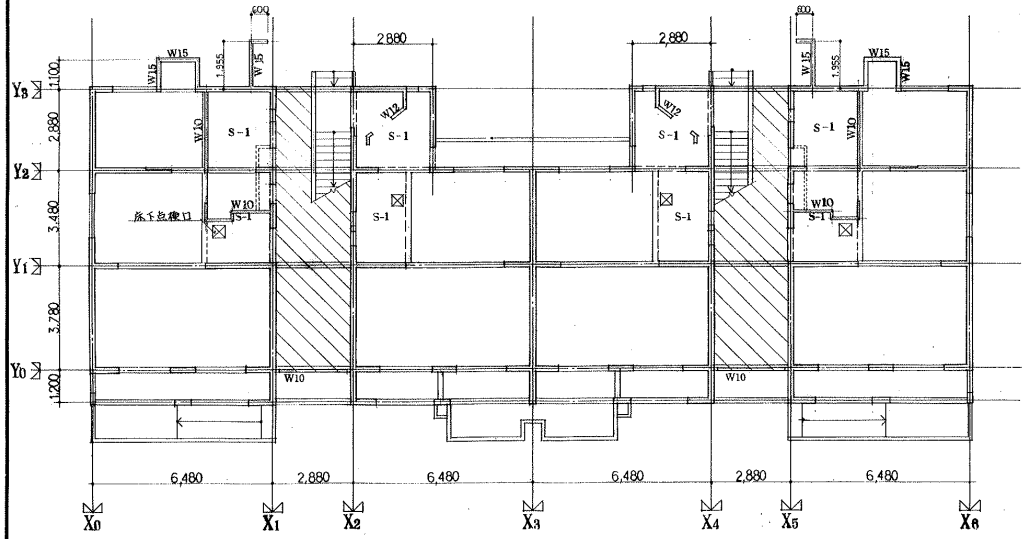
● 印は、該当杭を示す。

杭本数	60本	試験杭本数	4本
杭長	20M	杭長	22M
上杭	10M	上杭	12M
下杭	10M	下杭	10M



2階床伏図　1/100

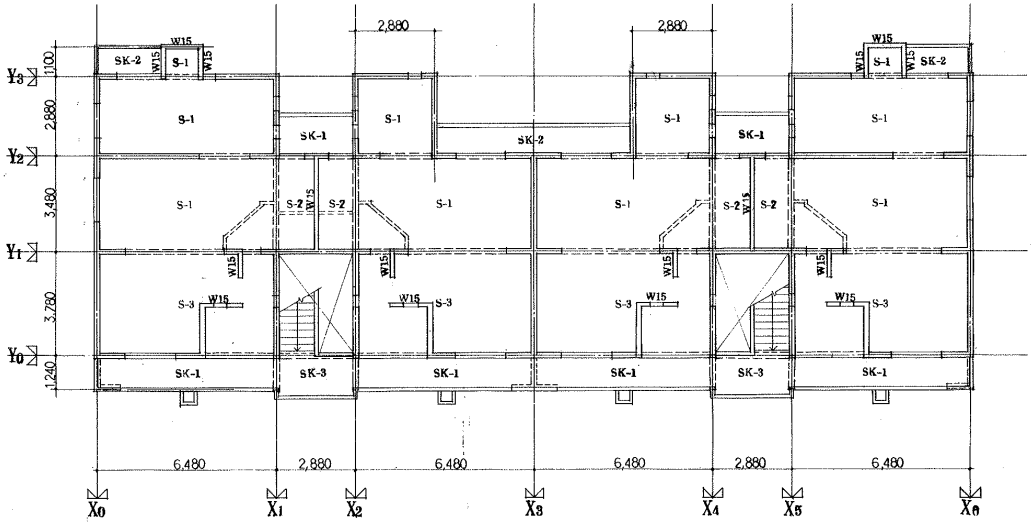
特記を除き　壁はW18とする。



1階床伏図　1/100

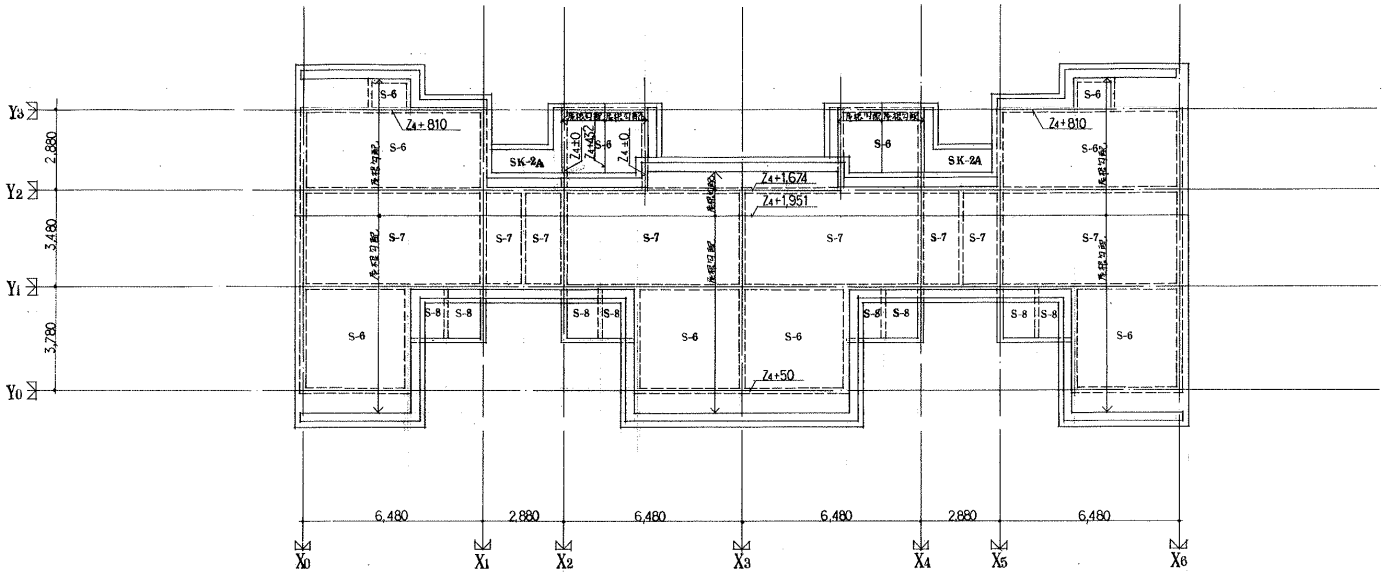
特記を除き　壁はW18とする。スラブについては詳細参照。

　　部分は土間コンクリートとする。



3階床伏図　1/100

特記を除き　壁はW18とする


Y3
Y2
Y1
Y0
2,880
3,480
3,780
S-6
S-7
S-8
SK-2A
Z4+810
Z4+10
Z4+0
Z4+1,674
Z4+1,951
Z4+50
6,480
2,880
X0
X1
X2
X3
X4
X5
X6

屋根伏図　1/100

既製杭対設工事共通事項

1. 総則

本工事は既製杭対設専門業者の責任施工とする。工事に先立ち施工要領書及び計画書を提出し、監督員の承認を受けるものとする。

2. 工法

プレボーリング 直打工法

3. 材料

PHC パイル　φ=300、設計杭耐力 R_a = 35 t/本

＊設計杭耐力は試験杭の結果により決定すること。

4. 施工

4-1 ・プレボーリング

オーガー径　D=300㎜

プレボーリング長　杭長　l_{GL} m

・杭打機

ディーゼルハンマー　ラム重量　2.2t

・プレボーリング長は、現場にて、係員の指示により最終決定する。

・杭頭レベルはヤットコ使用にて基礎下所定レベルにセットすること。杭頭カットは原則として認めない。

4-2 継ぎ

継ぎは半自動溶接とする

溶接工は JIS Z 3801、SN-2V 有資格者

最低6ヶ月以内引張り試験実施済みの者

5. 施工記録及び報告書

施工記録は詳細に記録し、必要に応じて監督員に提示すること。

報告書は施工記録を添えて、監督員の指示に従い、提出すること。

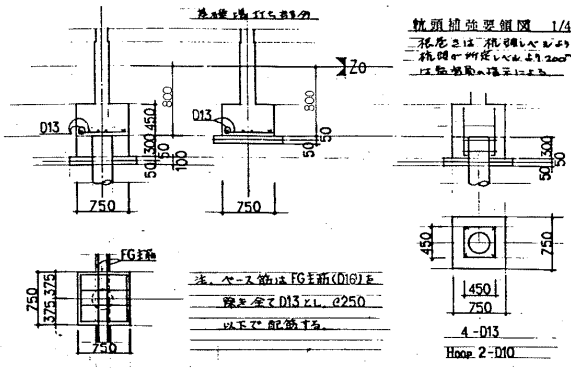
6. 安全と公害防止

工事は安全第一とする。又騒音、振動等公害に留意し、問題の生じぼい様、留意すること。

7. 杭長

杭長は周辺によるが 試験杭の結果により最終決定することとする。

基礎配筋図　1/40

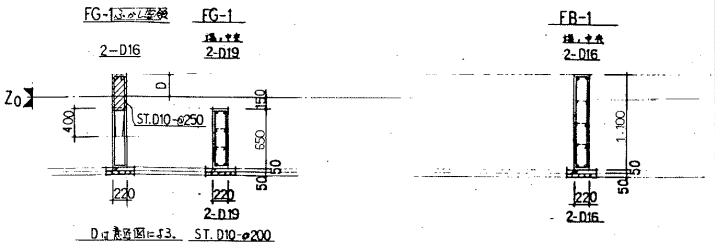


杭頭補強要領図　1/40

杭危さは「杭頭レベルより300㎜以上とする。
杭頭が所定レベルより200㎜以上下る場合は監督員の指示による

地中梁断面表　1/40

指記事項なき ST D10-@250、腹筋 D10、せん筋 D10-@750



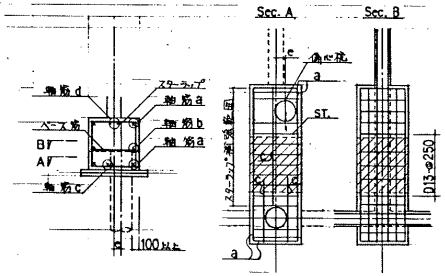
杭偏心時の補強リスト

・偏心距離eの許容範囲は、60以下とする。60を越える場合は、監督員の指示により下図による。

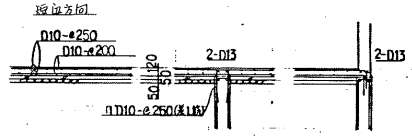
偏心距離	60 < e ≦ 125			125 < e ≦ 175			175 < e ≦ 200		
軸筋	a,b	c	d	a,b	c	d	a,b	c	d
	1-D13	—	2-D10	1-D13	1-D13	2-D13	1-D16	1-D13	2-D13
スターラップ	D10 − @200			D10 @150			D13 − @250		

注1. e > 200の場合は監督員と協議する。

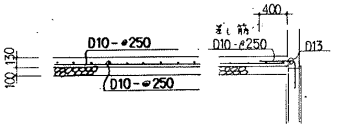
注2. 杭偏心が地中梁内納まって生じた場合は、補強の必要はない。(e≦200)

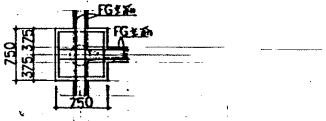


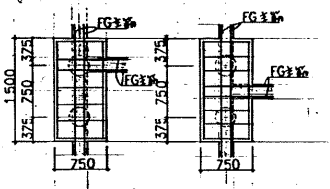
1F コンクリートスラブ配筋範囲　1/40

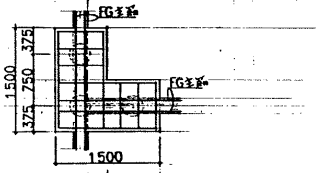


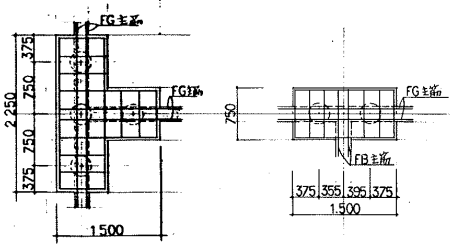
土間コンクリート配筋図　1/40

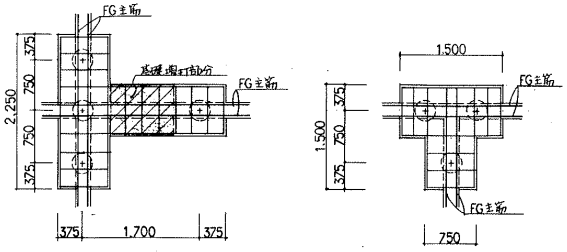






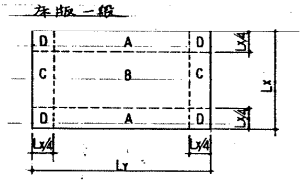


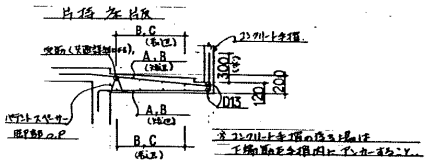


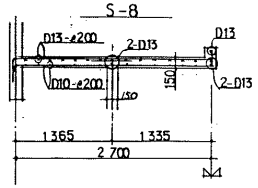


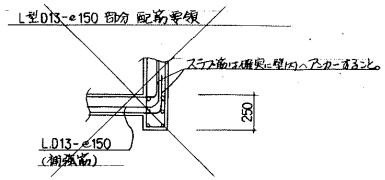
床版配筋リスト

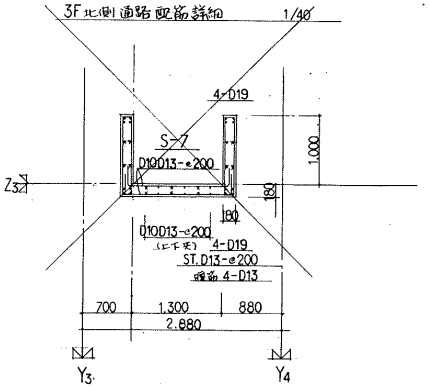
符号	間隔	位置 (CM)	短辺方向 端部A	短辺方向 中央部B	短辺方向 両端部CD	長辺方向 端部C	長辺方向 中央部B	長辺方向 両端部AD
S-1	15	上端筋	D10-@200		D10-@200	D10-@200		D10-@200
		下端筋	D10-@200		D10-@200	D10-@200		D10-@200
S-2	18	上端筋	D10, D13-@200		D10 D13-@200	D10-@200		D10-@200
		下端筋	D10, D13-@200		D10 D13-@200	D10-@200		D10-@200
S-3	15	上端筋	D13-@100		D10, D13-@200	D10, D13-@200		D10, D13-@200
		下端筋	D13-@100		D10, D13-@200	D10, D13-@200		D10, D13-@200
S-4	15	上端筋	D13-@100		D13-@100	D10-@200		D10-@200
		下端筋	D10-@200		D10-@200	D10-@200		D10-@200
S-5	15	上端筋	D13-@200		D13-@200	D13-@200		D13-@200
		下端筋	D13-@200		D13-@200	D10-@200		D10-@200
S-6	15	上端筋	D10-@200		D10-@200	D10-@200		D10-@200
		下端筋	D10-@200		D10-@200	D10-@200		D10-@200
S-7	18	上端筋	D10, D13-@200		D10, D13-@200	D10, D13-@200		D10, D13-@200
		下端筋	D10, D13-@200		D10, D13-@200	D10, D13-@200		D10, D13-@200
SK-1	20~12	上端筋	D13-@150			D10-@250		
		下端筋	D10-@300			D10-@250		
SK-2	20~12	上端筋	D13-@200			D10-@250		
2A	18~12	下端筋	D10-@200			D10-@250		
SK-3	20~12	上端筋	D13-@100			D10-@250		
		下端筋	D10-@200			D10-@250		



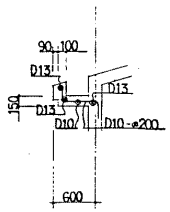


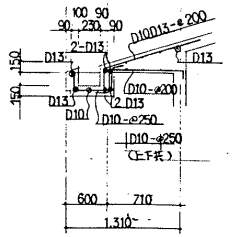


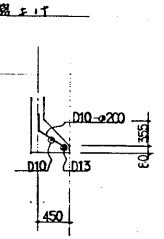




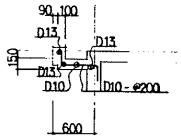
雑詳細図 1/40

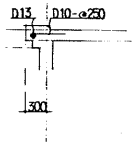


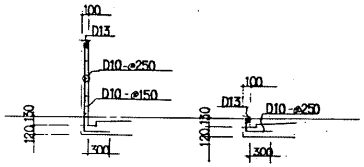


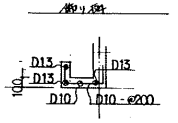


他の同型の庇根廻りもこれにならう。

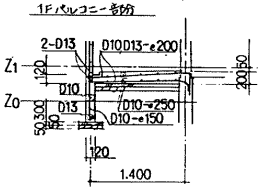


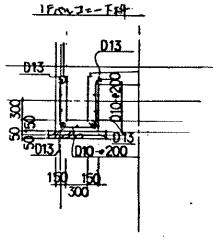


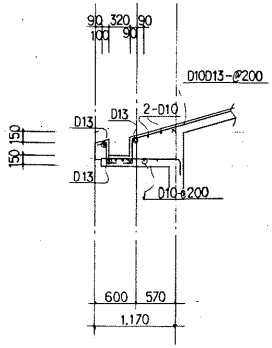


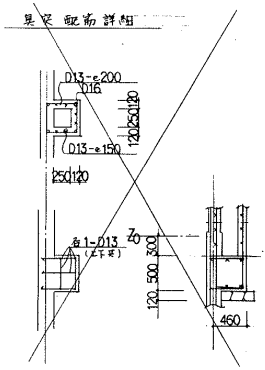


寸法は断面図に依る。

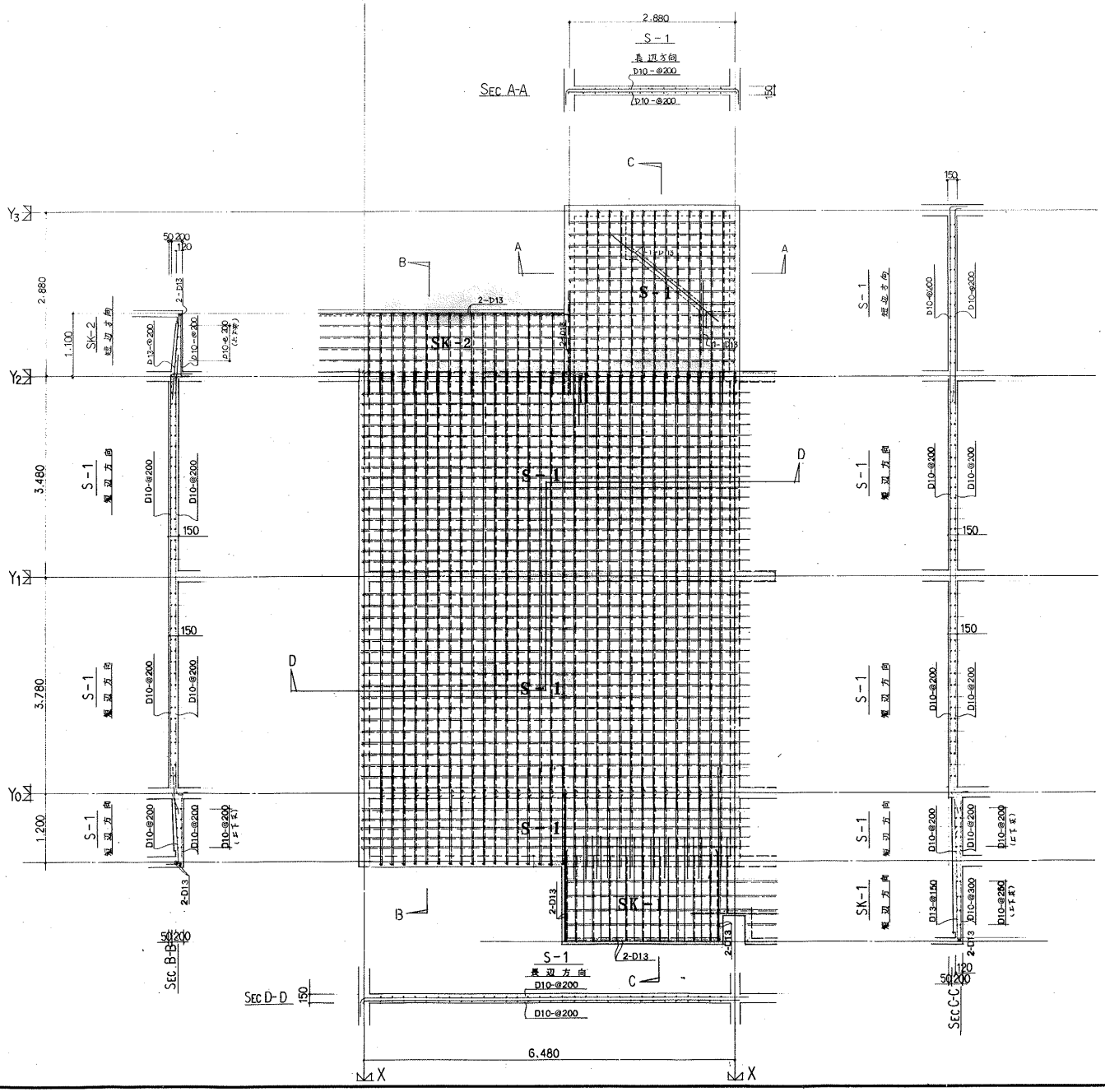




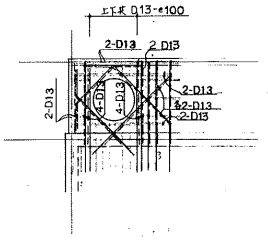


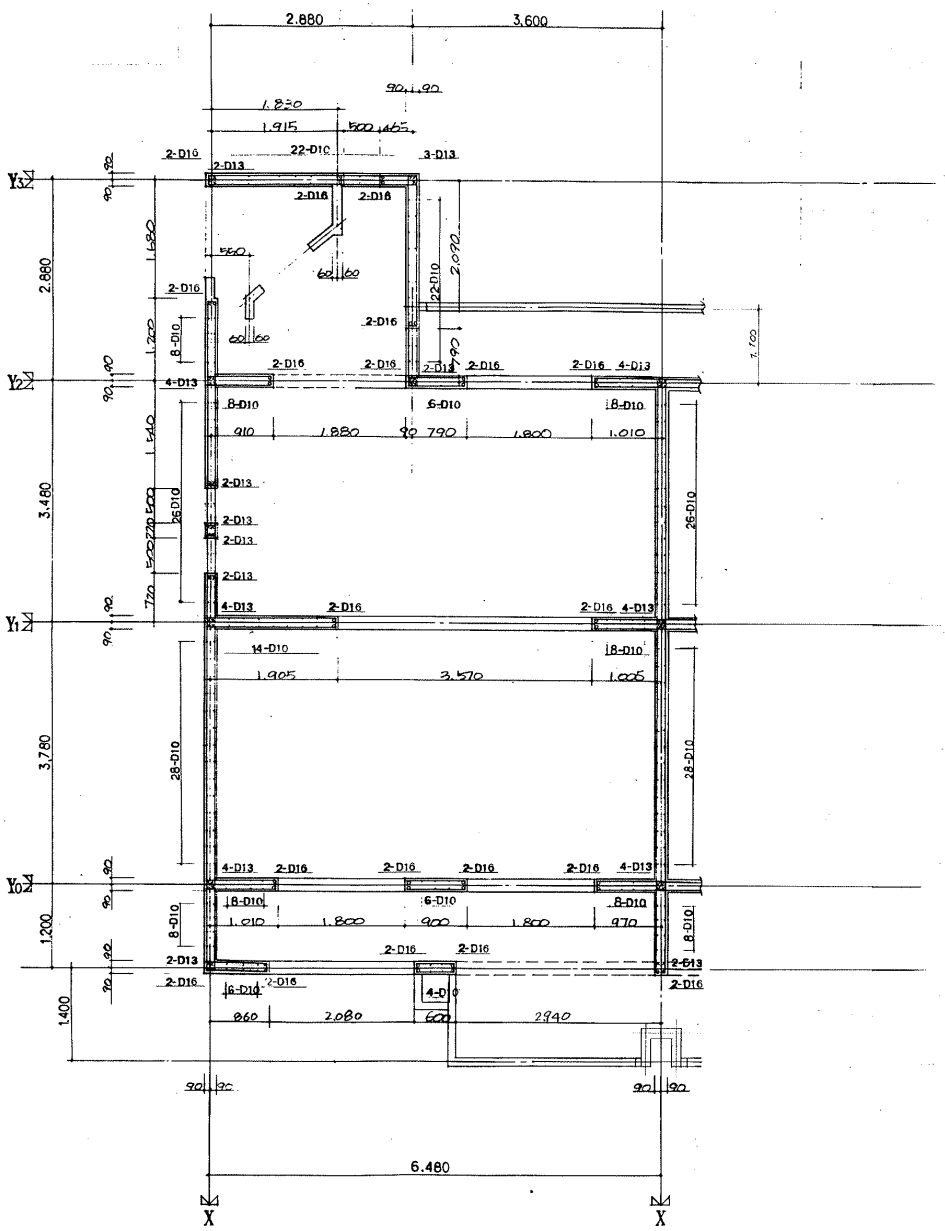


床版配筋詳細図(2DK-Bタイプ)　1/40

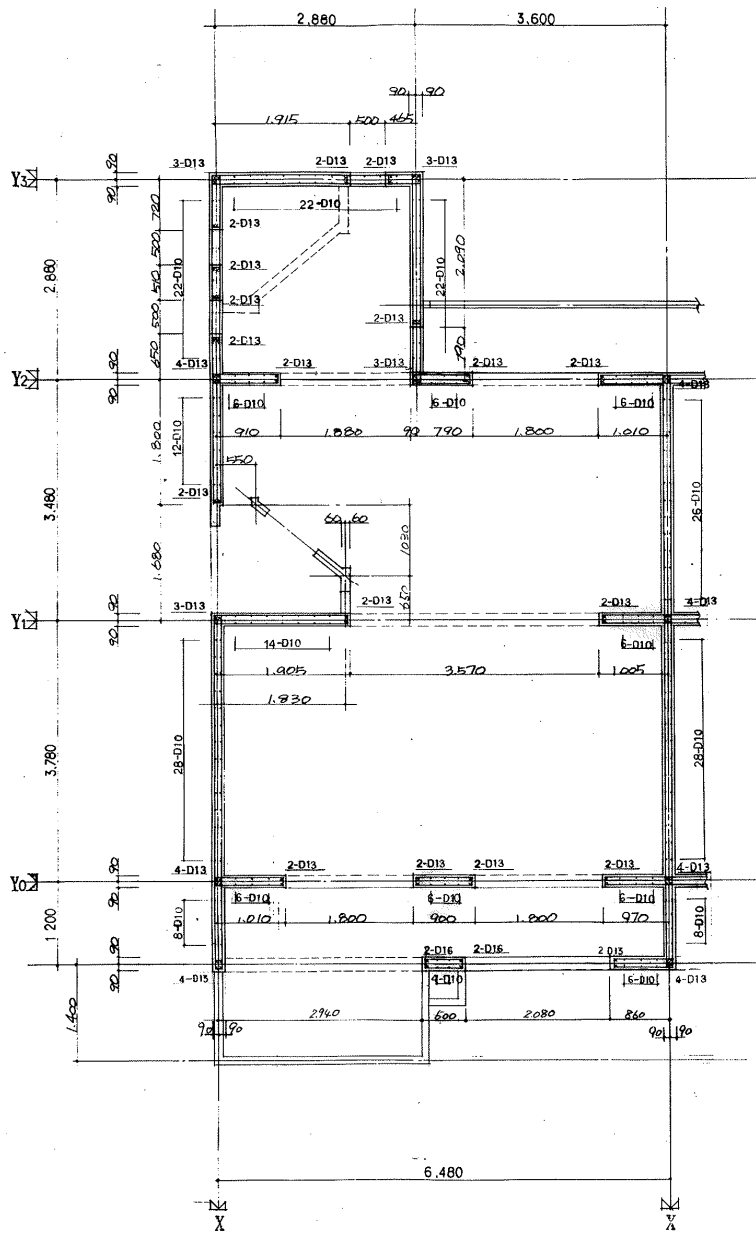


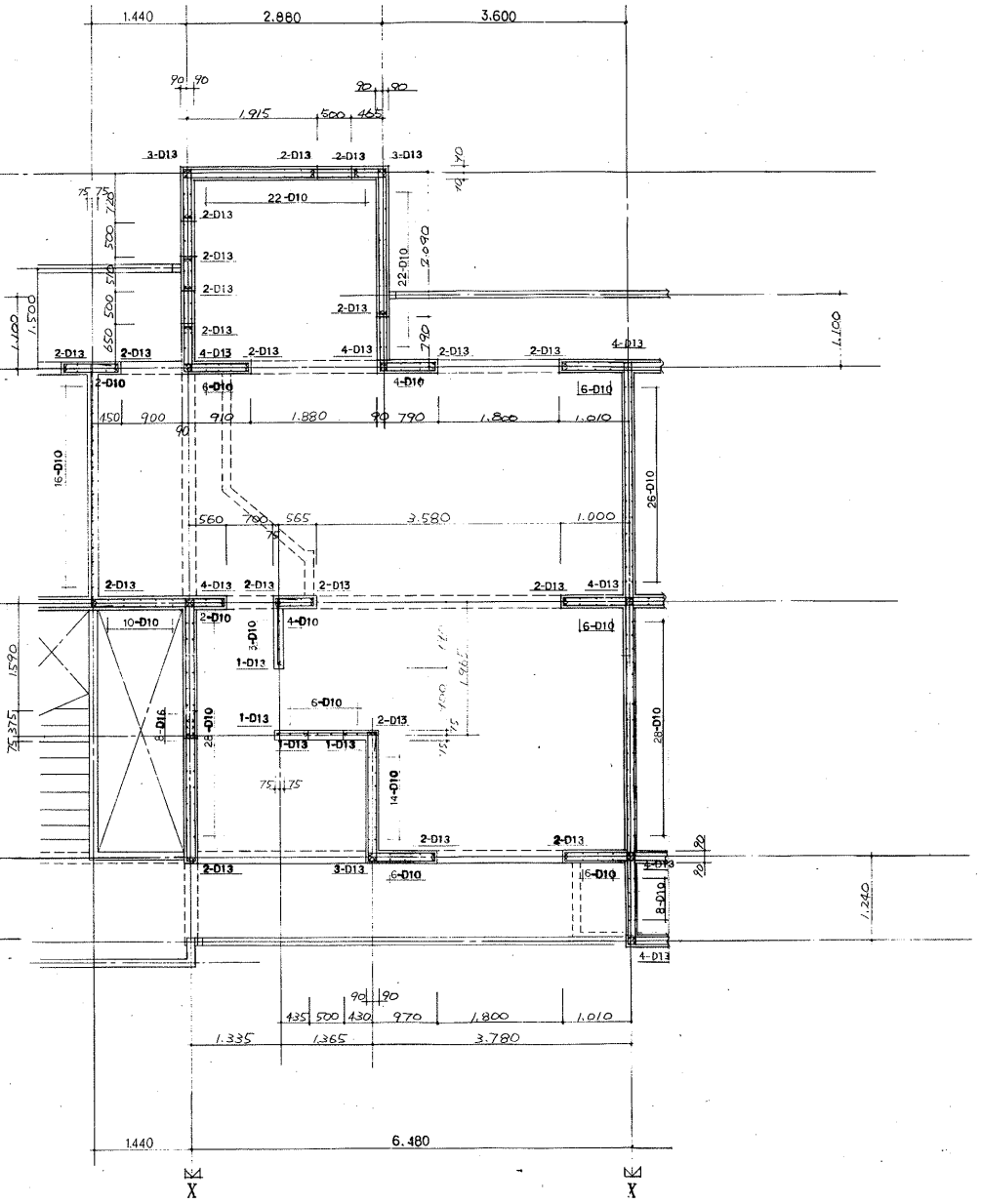
避難ハッチ開口一般補強要領　1/40

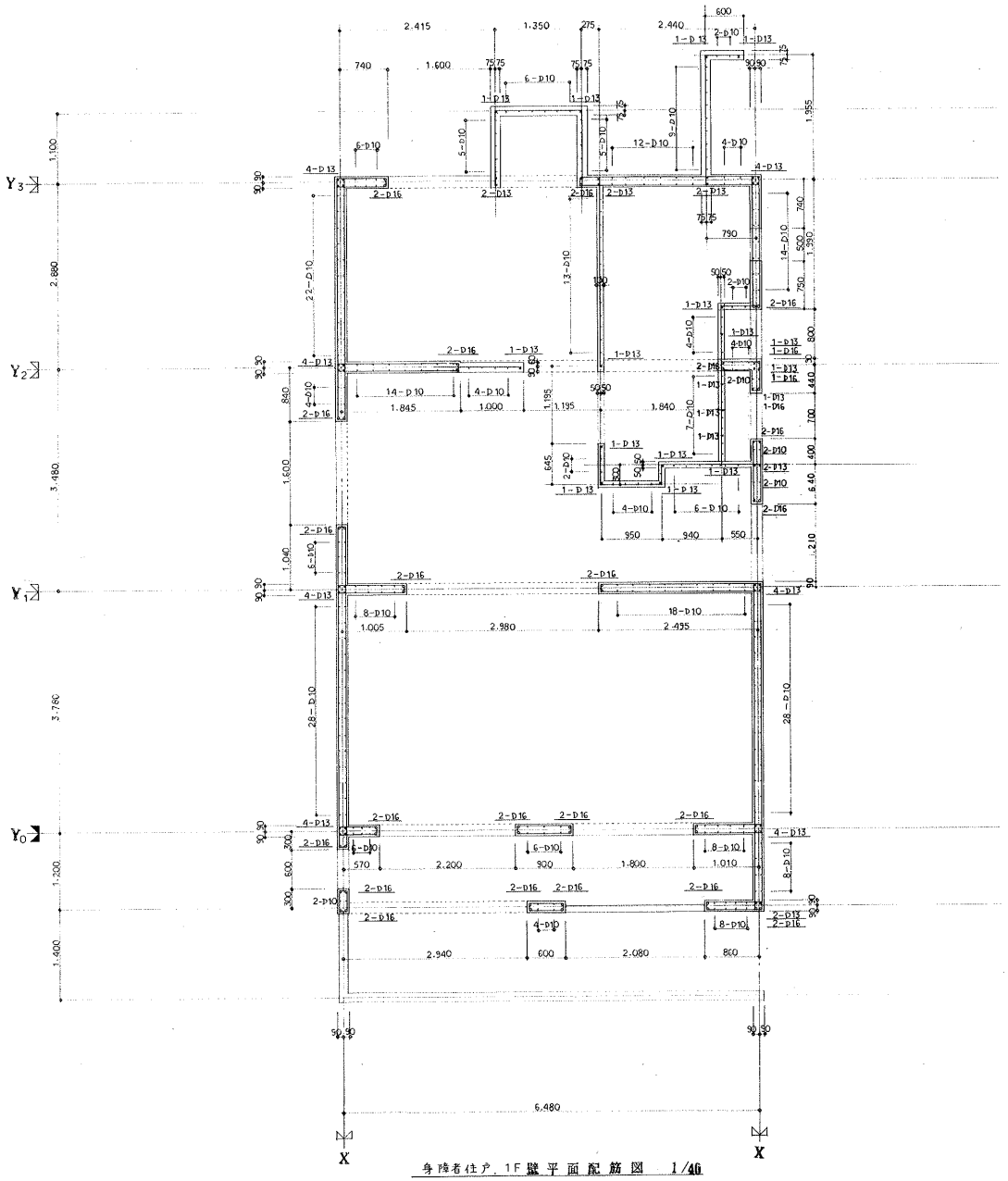




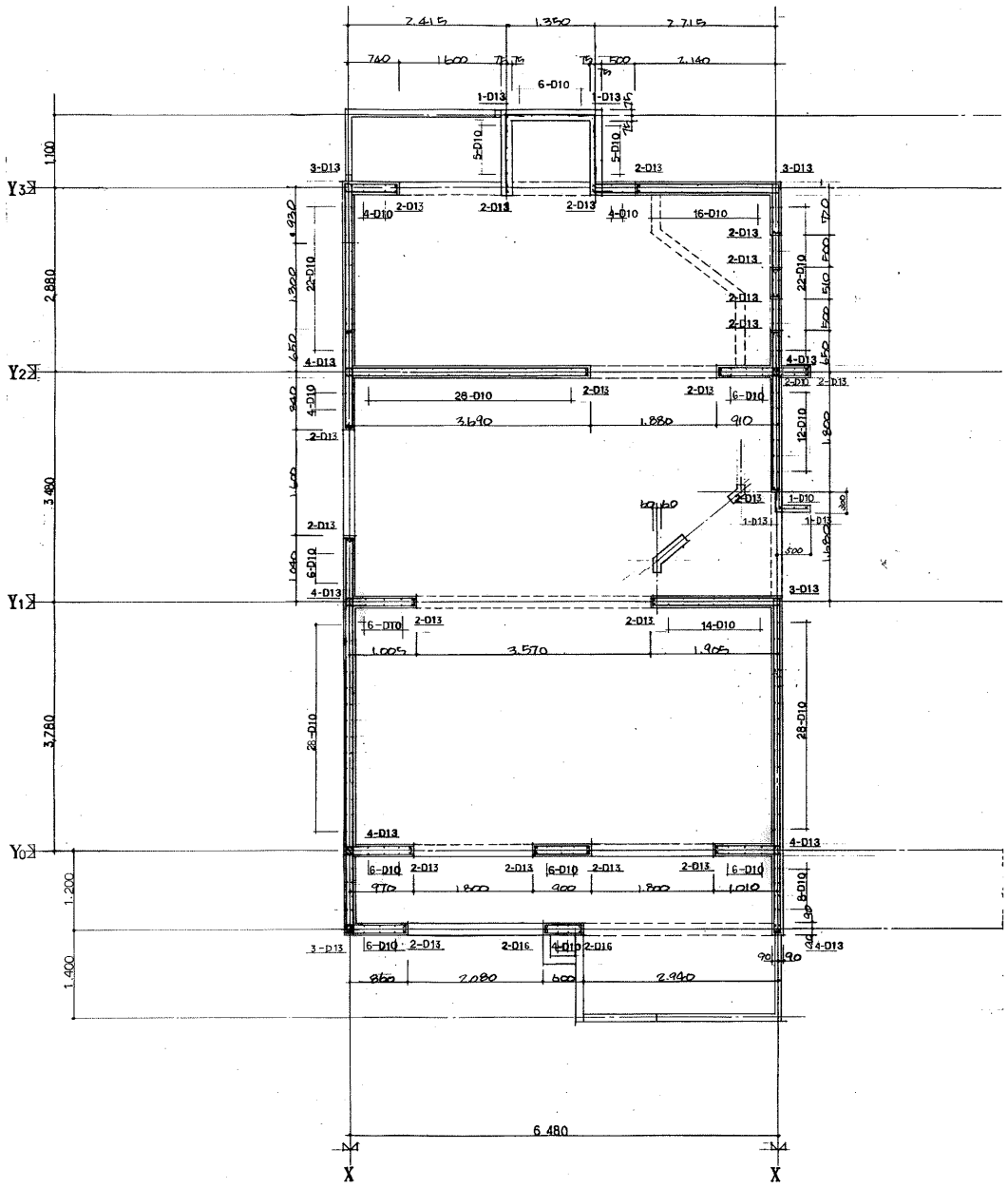
2DK-A. 1F 壁 平 面 配 筋 図　　1/40


2,880
3,600
6,480
Y3
Y2
Y1
Y0
X
X
2DK-B. 2F 壁 平 面 配 筋 図 1/40

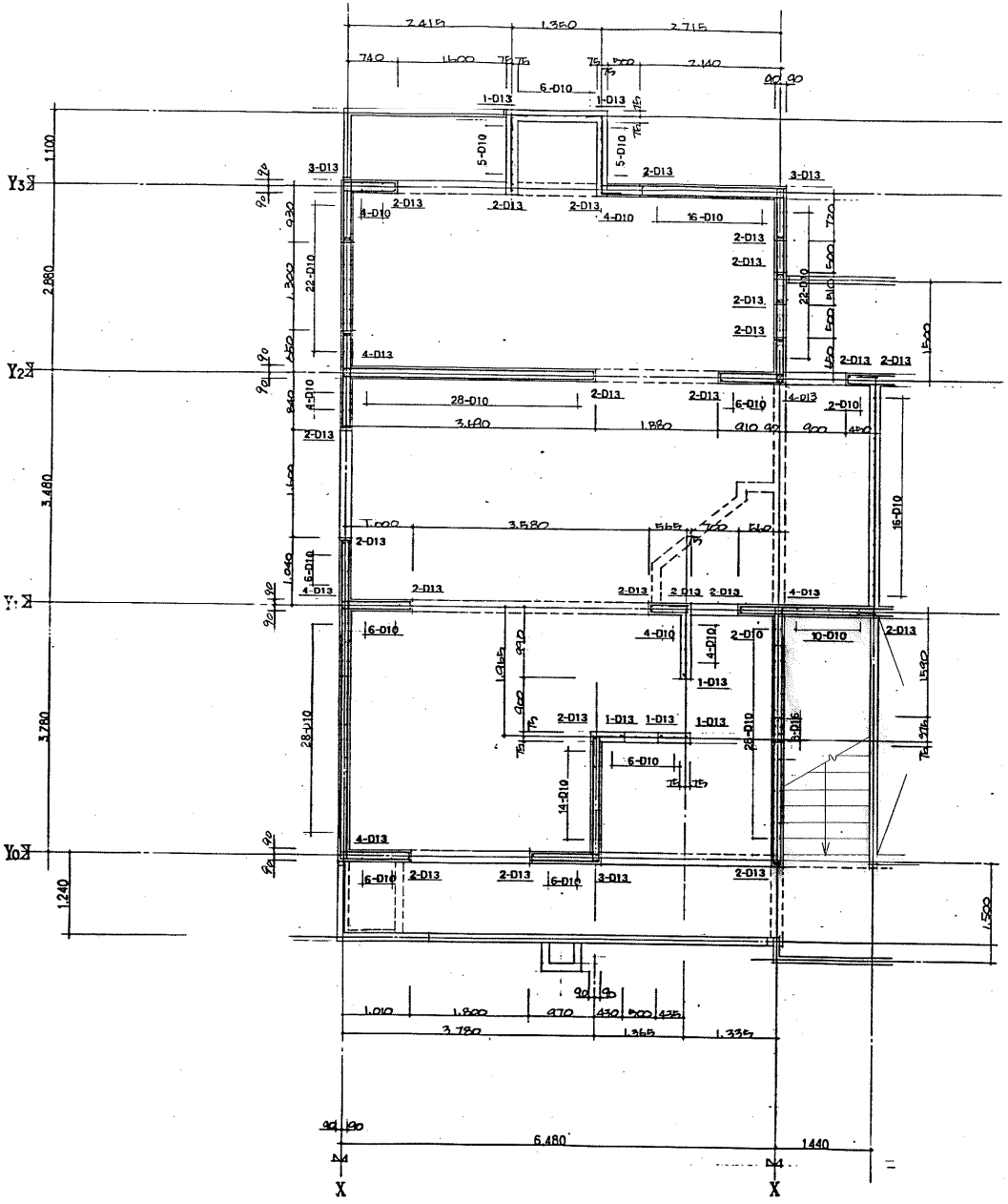

1,440
2,880
3,600
6,480
X
X
2DK-C. 3F 壁 平 面 配 筋 図 1/40



身障者住戸 1F 壁平面配筋図 1/40

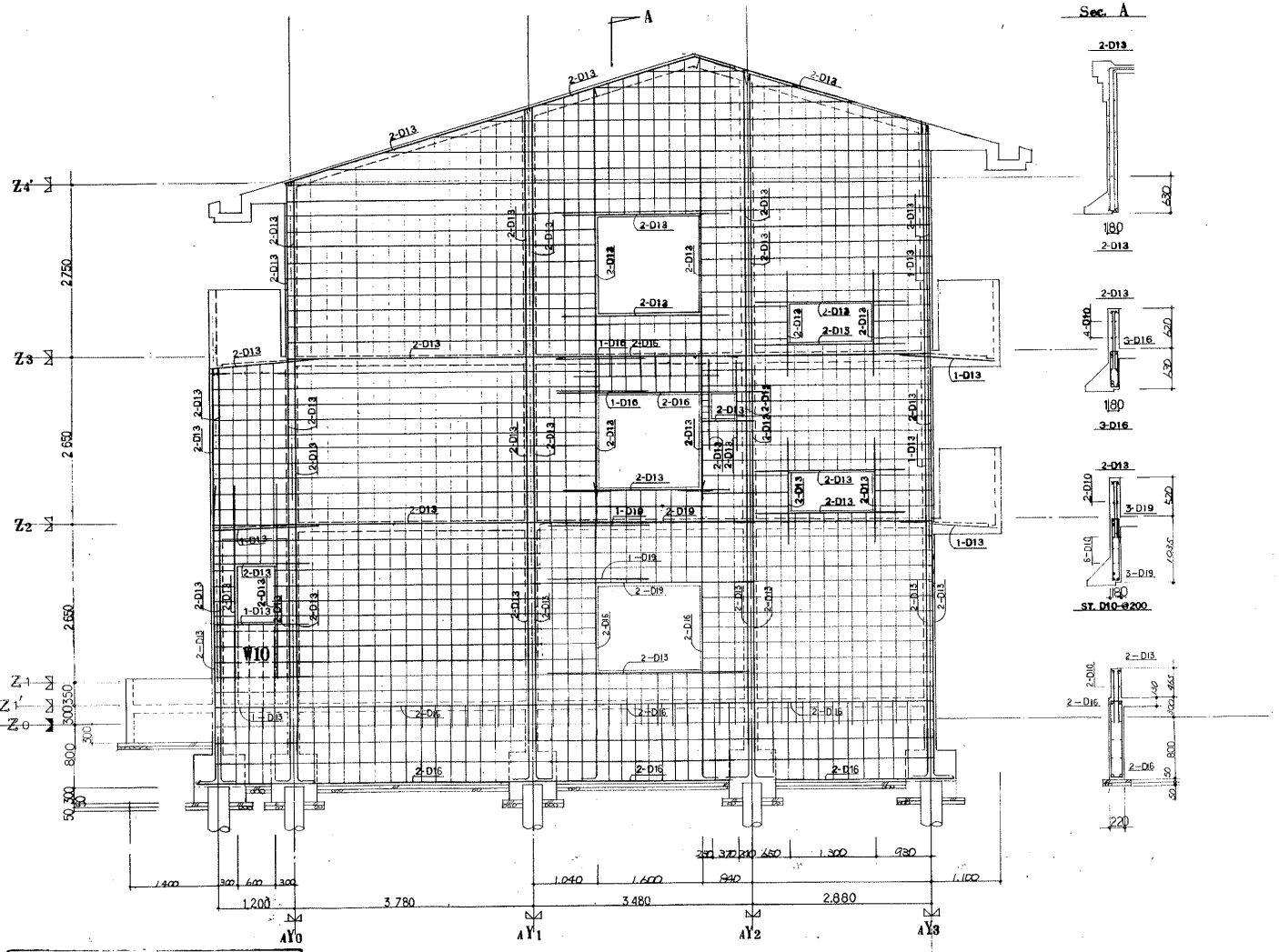


3DK-C. 2F壁平面配筋図　1/40



3DK-F 3F 壁 平 面 配 筋 図　　1/40

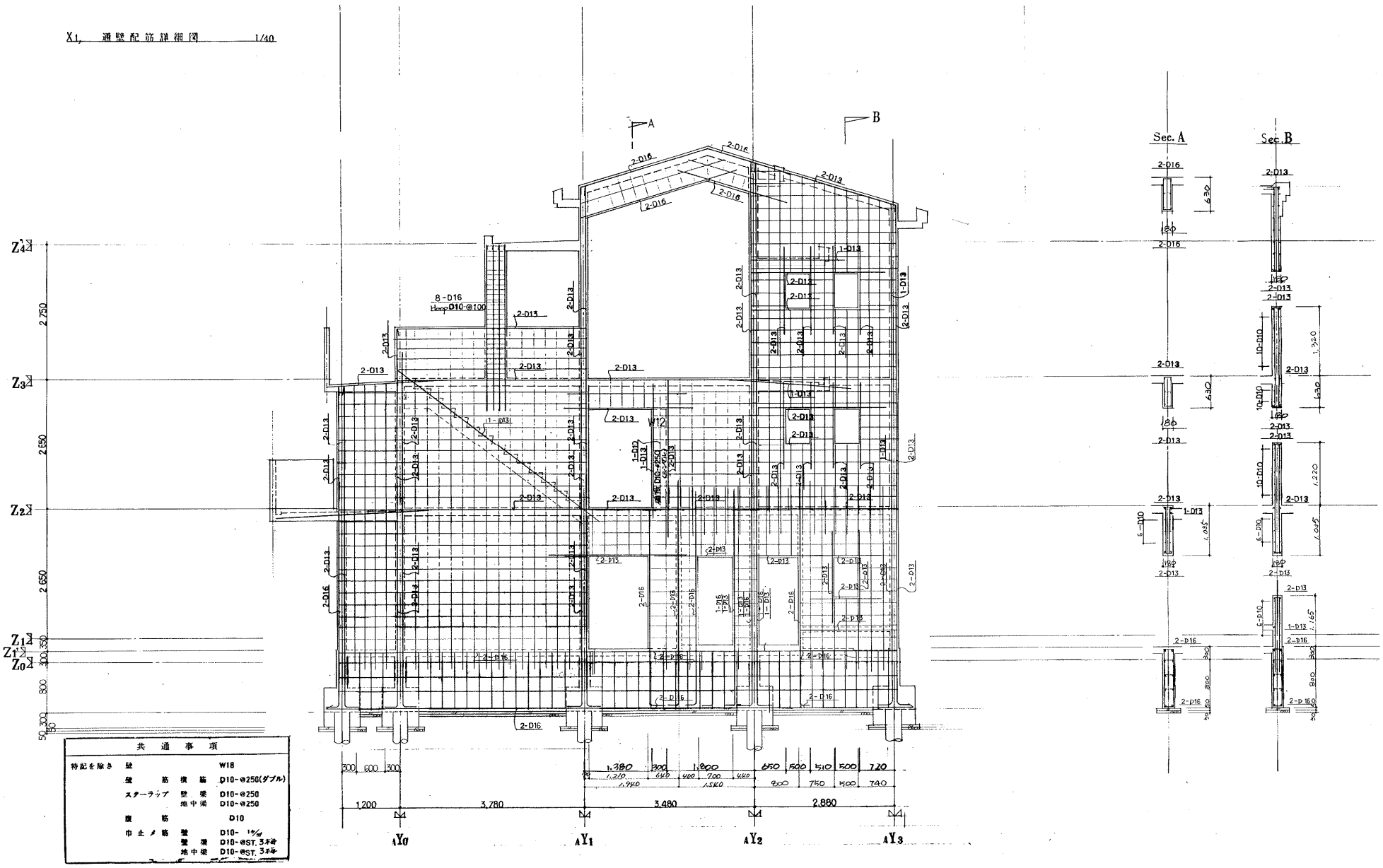
X0 通壁配筋詳細図　1/40



Sec. A

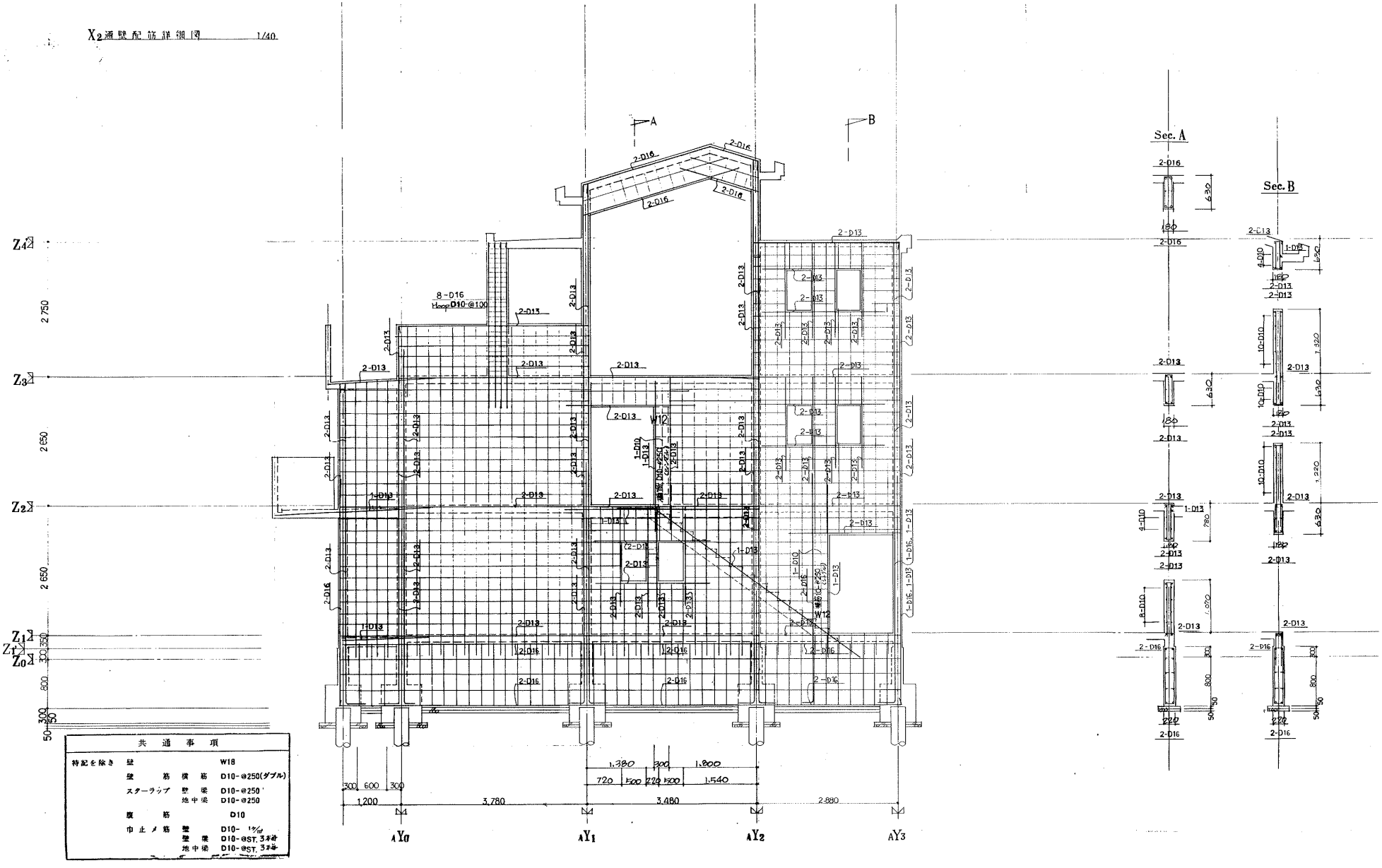
特記事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋 横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ 梁	D10-@250
	地中梁	D10-@250
	腹筋	D10
	中止メ筋 壁	D10- 1½
	壁梁	D10-@ST.3ヶ
	地中梁	D10-@ST.3ヶ

X1, 通壁配筋詳細図 1/40



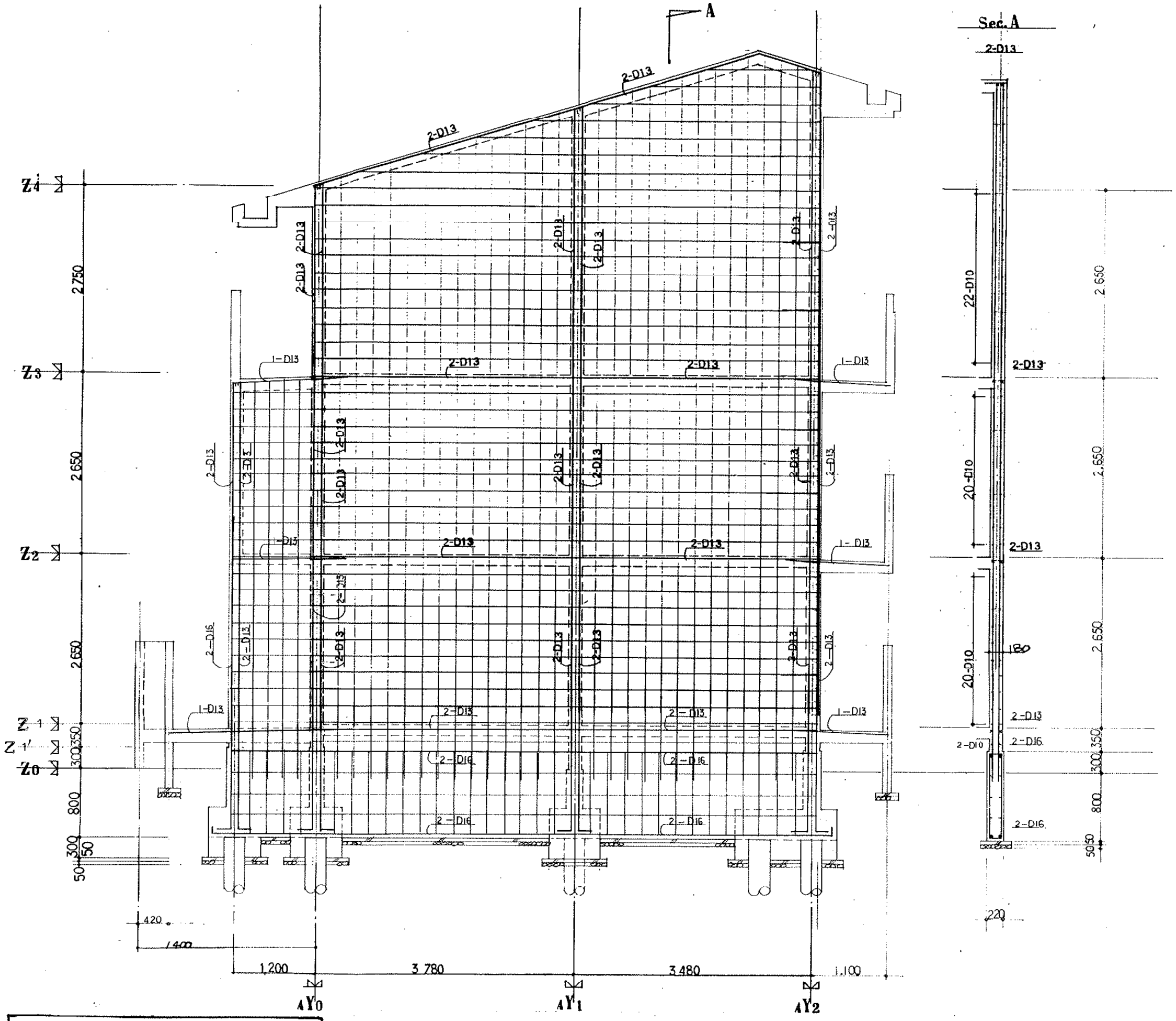
共通事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋 横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ 壁梁	D10-@250
	地中梁	D10-@250
	腹筋	D10
	巾止メ筋 壁	D10- 1ヶ所
	壁梁	D10-@ST. 3本程
	地中梁	D10-@ST. 3本程

X2通壁配筋詳細図　1/40



共通事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋 横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ 壁梁	D10-@250
	地中梁	D10-@250
	腹筋	D10
	巾止メ筋 壁	D10- 1ヶ所
	壁梁	D10-@ST. 3本
	地中梁	D10-@ST. 3本

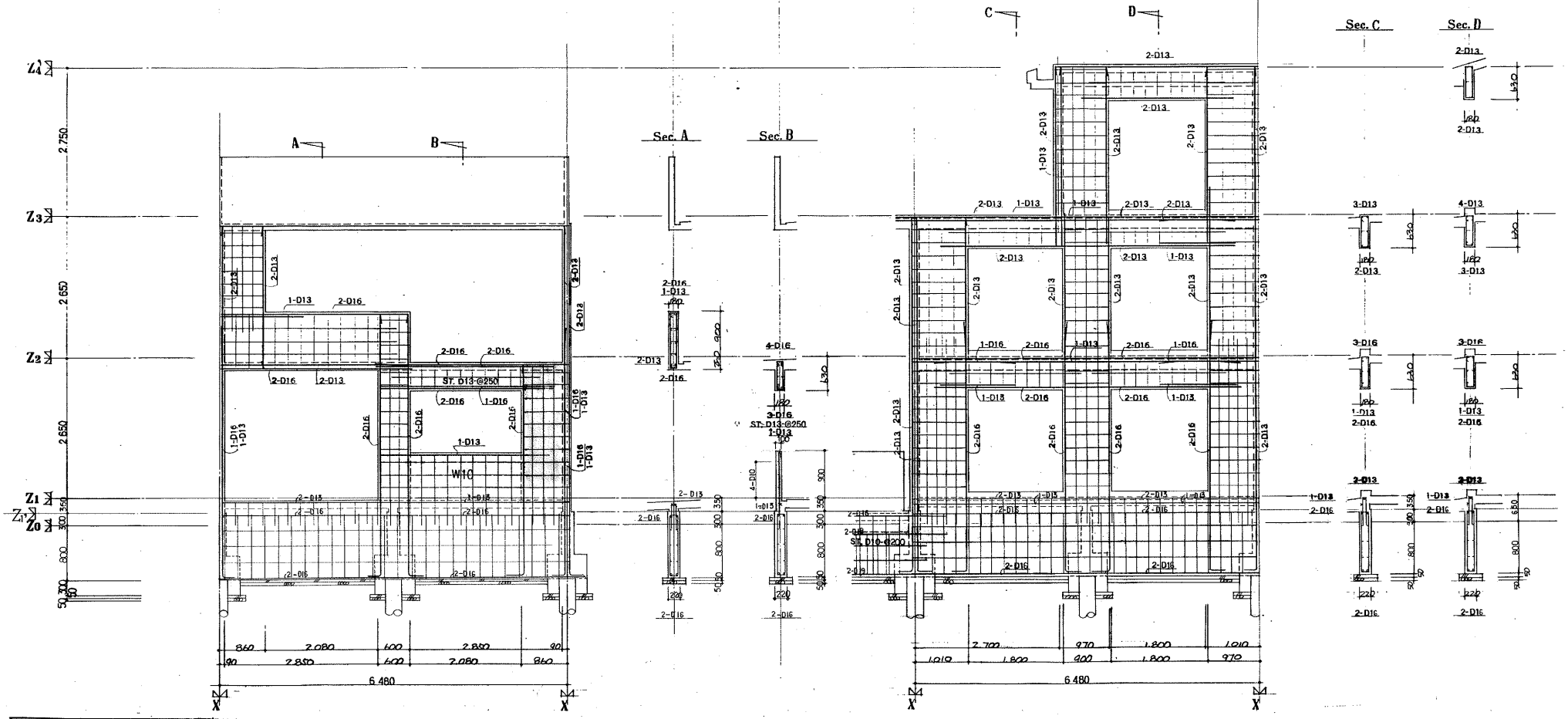
X3 通壁配筋詳細図　1/40



大　造　事　項			
特記を除き	壁		W18
	壁筋	横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ	壁筋	D16-@250
		梁貫通	D10-@250
	腹筋		D10
	巾止メ筋	壁	D10- 1ヶ所
		壁梁	D10-@ST.3ヶ
		地中梁	D10-@ST.3ヶ

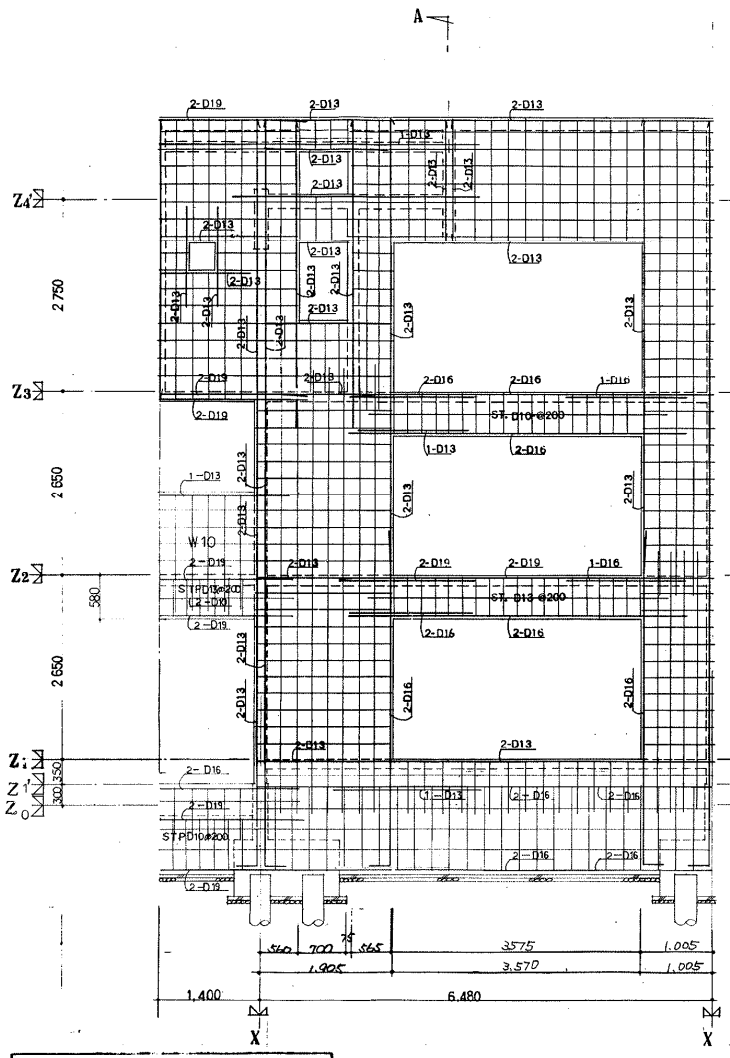
AY0-12通壁配筋詳細図 1/40
(2DK-A.B.C タイプ)

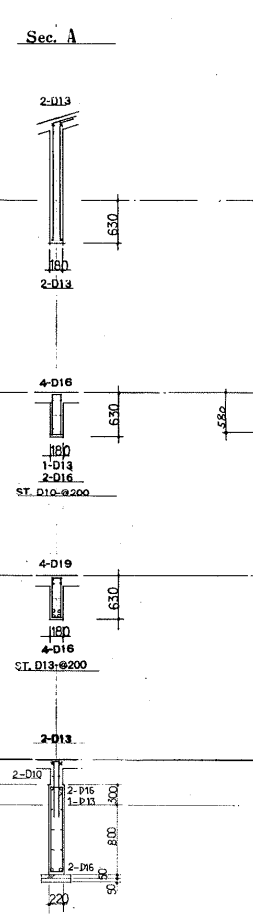
AY0通壁配筋詳細図 1/40
(2DK-A.B.C タイプ)

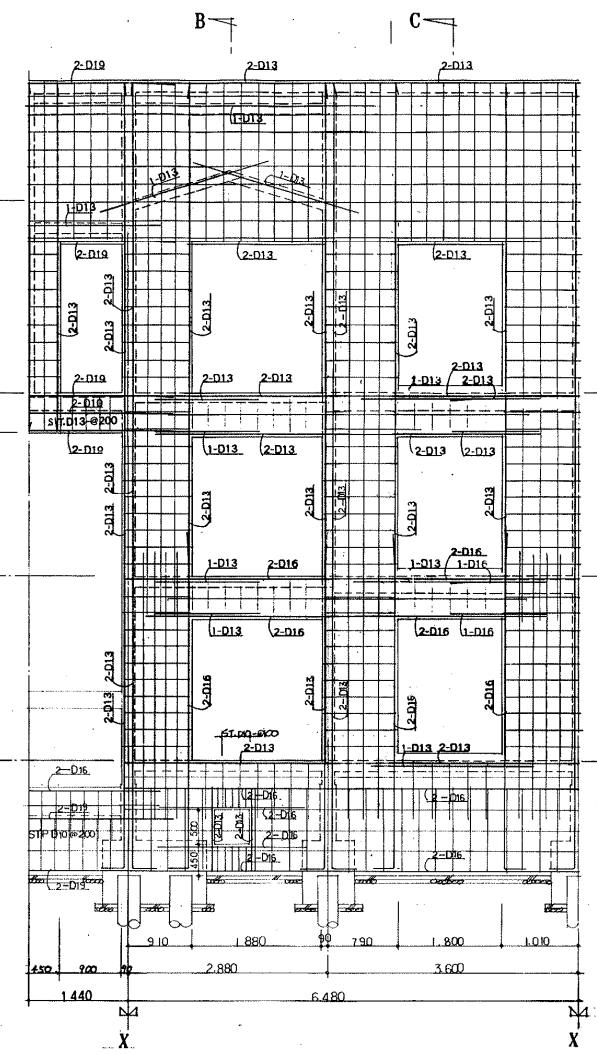


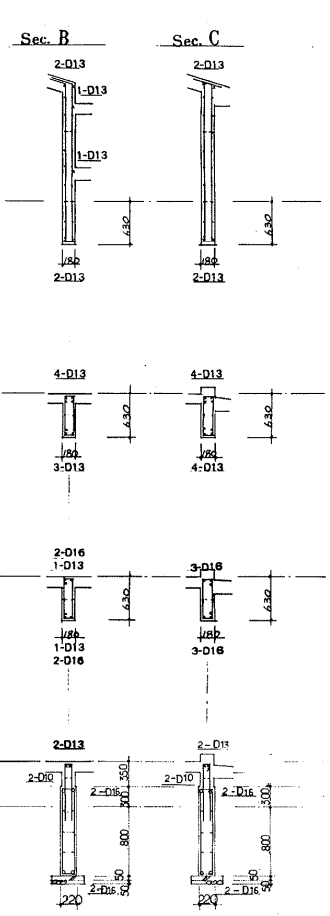
共通事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋 横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ 梁端	D10-@250
	中央	D10-@250
	腹筋	D10
	中止メ筋 壁	D10- 1ヶ所
	梁端	D10-@ST.3ヶ
	地中梁	D10-@ST.3ヶ

AY1 通壁配筋詳細図　1/40
（2DK－A.B.C タイプ）





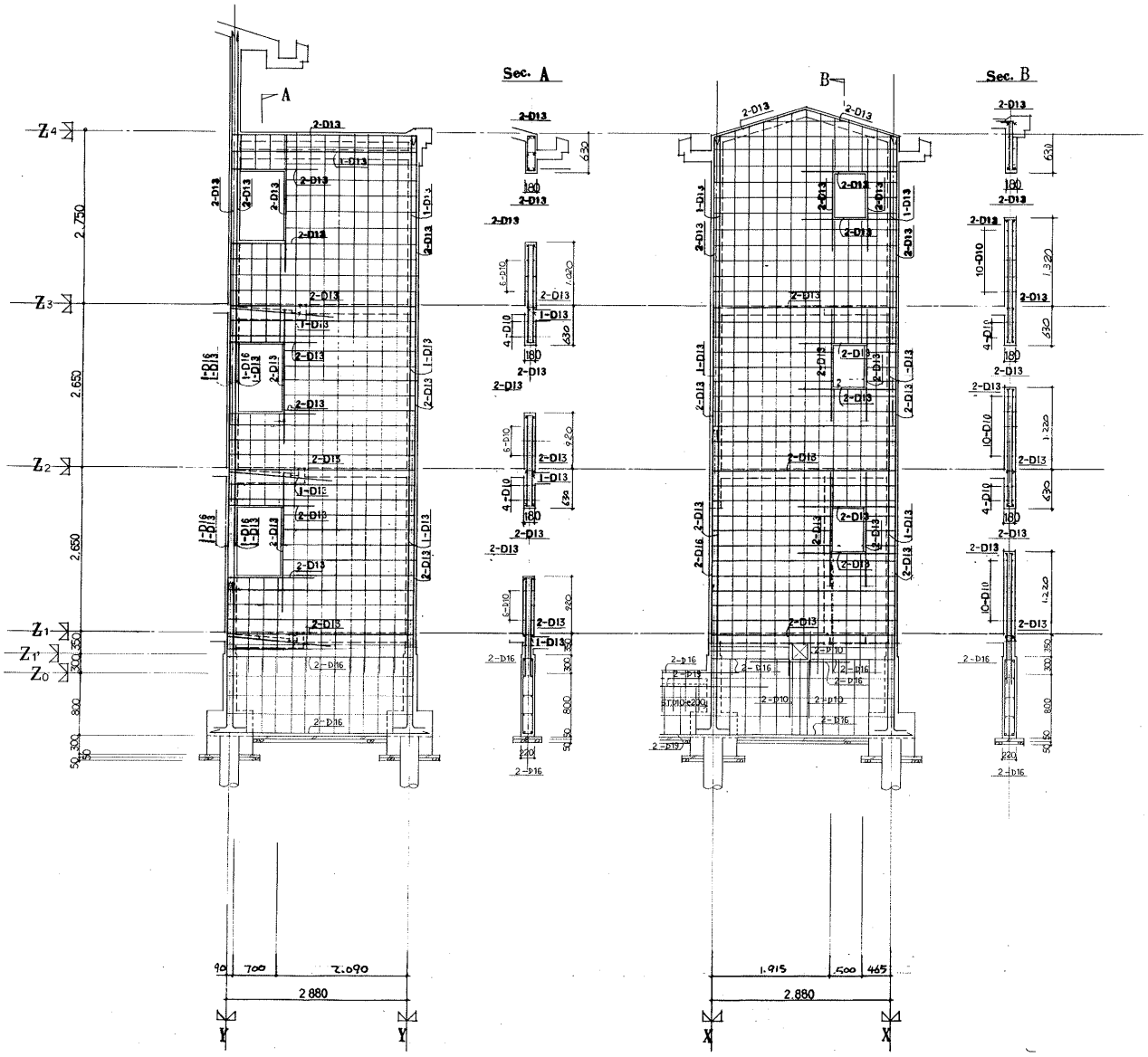




AY2 通壁配筋詳細図　1/40
（2DK－A.B.C タイプ）

共通事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ 端部	D10-@250
	スターラップ 中央	D10-@250
	腹筋	D10
	中止メ筋 床	D10-1½
	中止メ筋 壁端	D10-@ST.3本
	中止メ筋 壁中央	D10-@ST.3本

X4-2,86通壁配筋詳細図　1/40
(2DK-A.B.C タイプ)

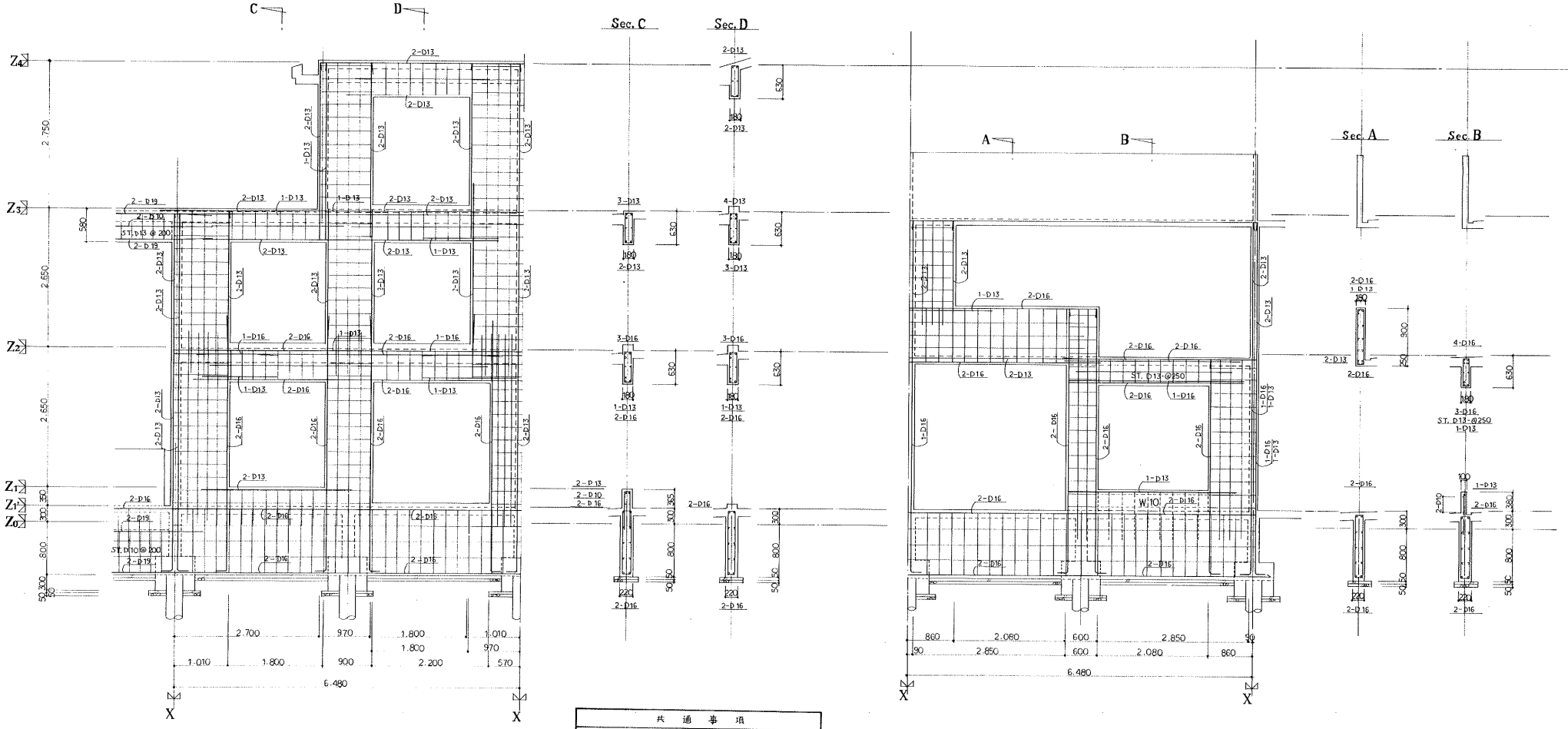


BY3通壁配筋詳細図　1/40
(2DK-A.B.C タイプ)

共通事項			
特記を除き	壁		W18
	壁筋	横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ	梁	D10-@250
		地中梁	D10-@250
	腹筋		D10
	中止メ筋	壁	D10-1ヶ所
		梁	D10-@ST3ヶ所
		地中梁	D10-@ST3ヶ所

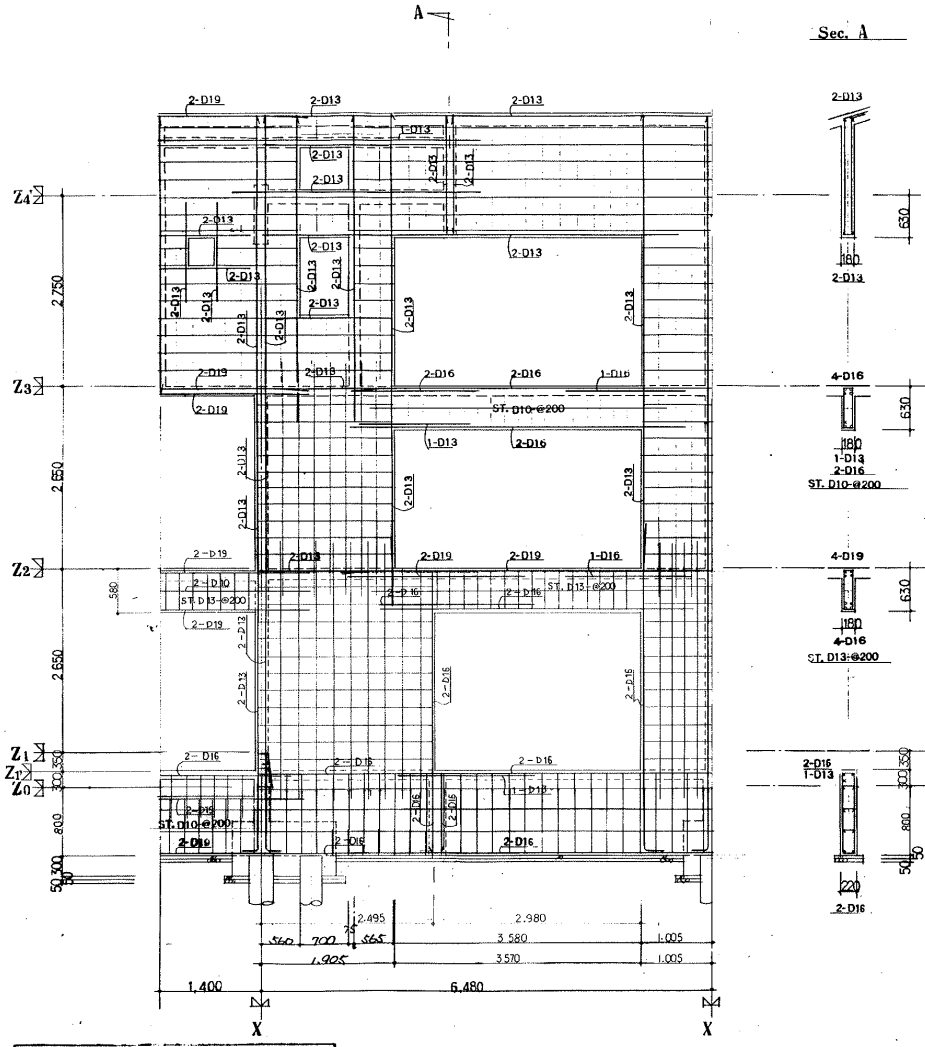
AY0通 壁配筋詳細図 1/40
(3DK－A,C,Eタイプ)

AY0－1,2通 壁配筋詳細図 1/40
(3DK－A,C,Eタイプ)



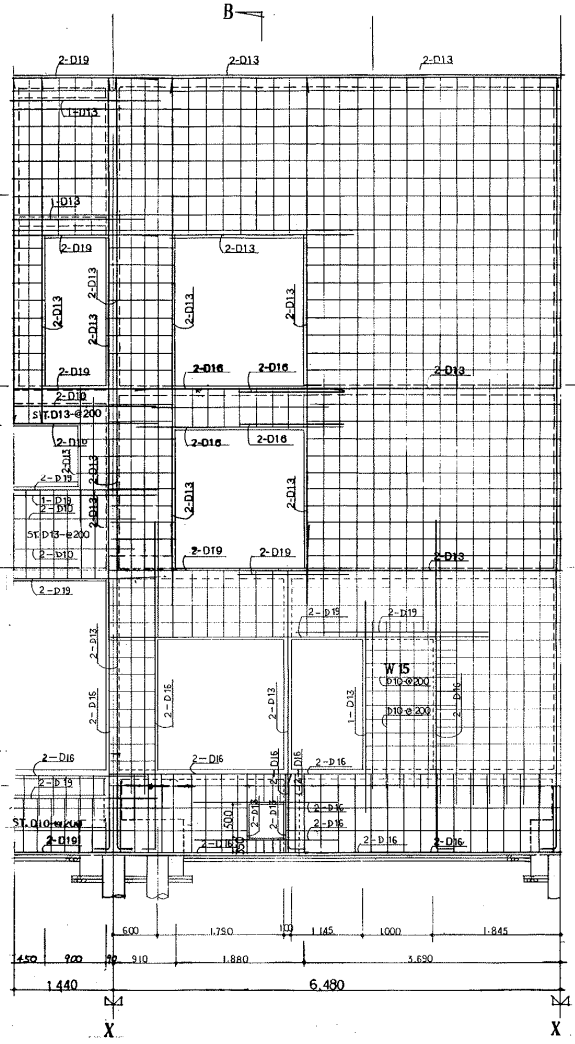
共通事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋	横筋 D10-@250(ダブル)
	スターラップ	壁梁 D10-@250
		地中梁 D10-@250
	腹筋	D10
	中止メ筋	壁 D10- 1ヶ/m²
		壁梁 D10-@ST.3本
		地中梁 D10-@ST.3本

AY1 通壁配筋詳細図　1/40
(3DK - 4, C, E タイプ)

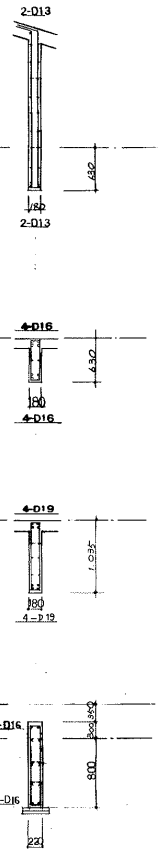


Sec. A

AY2 通壁配筋詳細図　1/40
(3DK - 4, C, E タイプ)



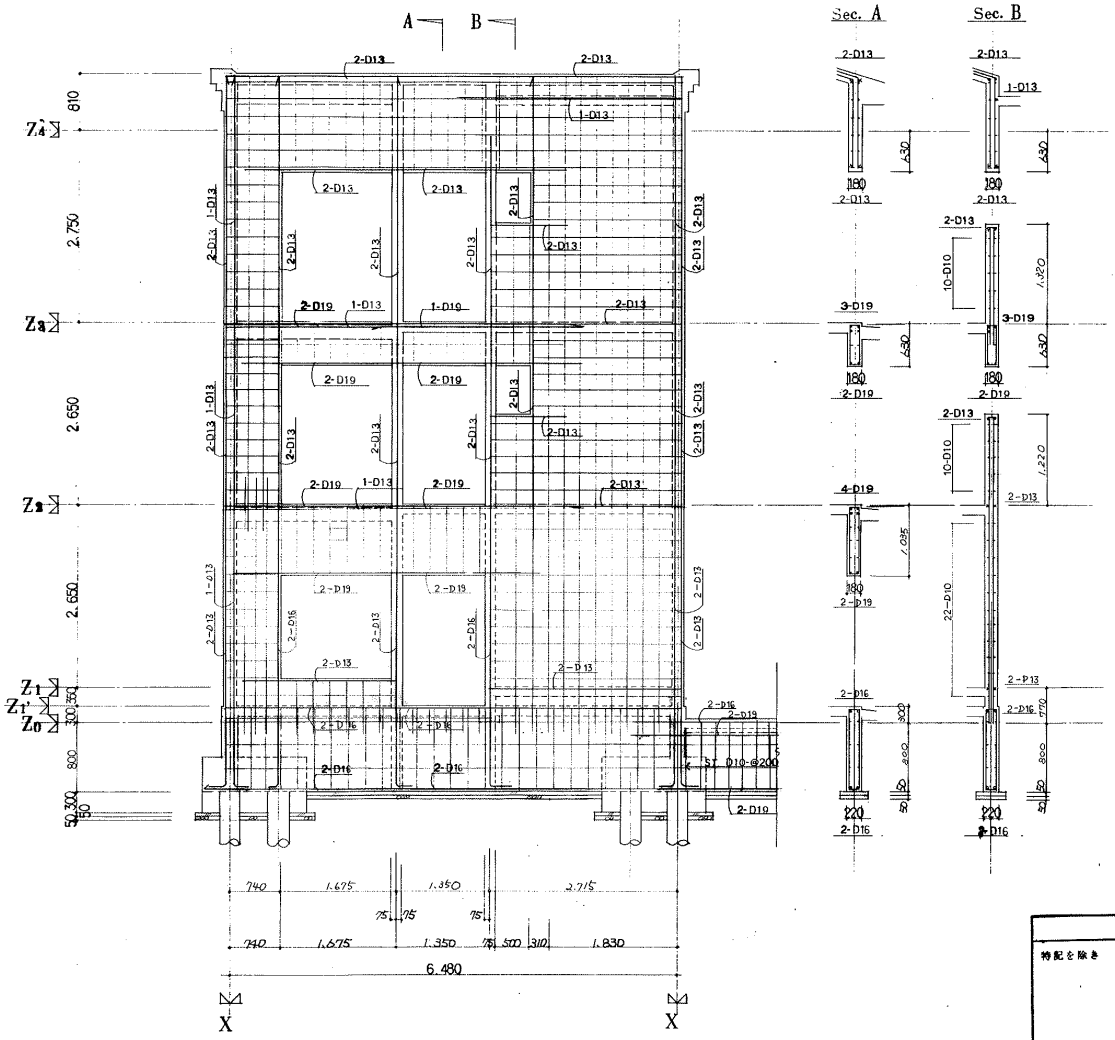
Sec. B



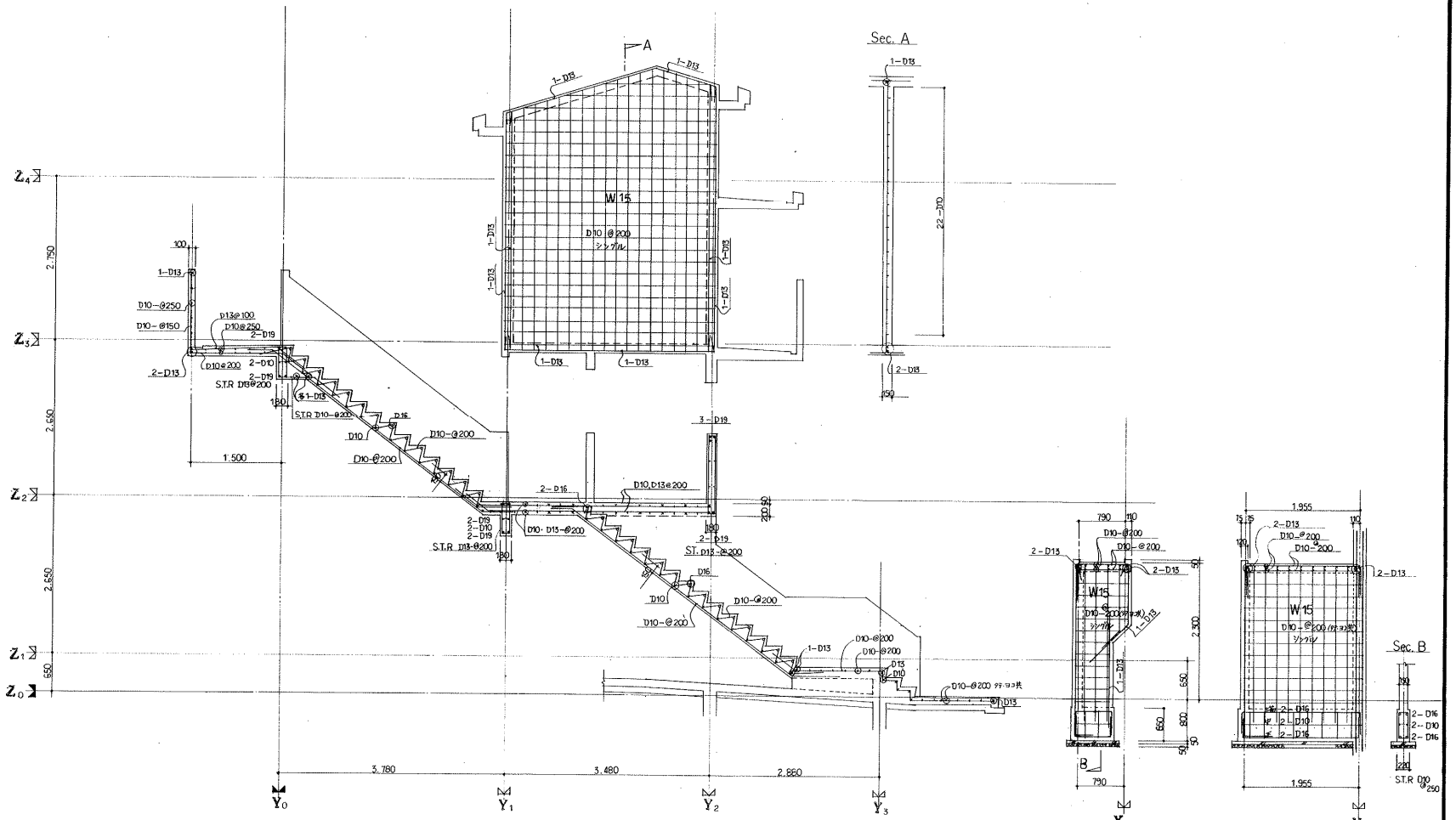
共通事項		
特記を除き	壁	W18
	壁筋	横筋 D10-@250(ダブル)
	スターラップ	縦筋 D10-@250
		横筋 D10-@250
	腹筋	D10
	巾止め筋	床 D10- 1ヶ/m
		壁梁 D10-@ST. 3本
		地中梁 D10-@ST. 3本

AY3 通 壁 配 筋 詳 細 図　　1/40

（3D上－ 耳、C、E グリッド）



共通事項			
特記を除き	壁		W18
	壁筋	横筋	D10-@250(ダブル)
	スターラップ	壁梁	D10-@250
		地中梁	D10-@250
	腹筋		D10
	巾止メ筋	壁	D10- 1ヶ/㎡
		壁梁	D10-@ST.3本
		地中梁	D10-@ST.3本



階段配筋詳細図　1／40

※の補筋は 2-D10 中止め筋 D10-@300 とする。

郵便受 配筋詳細図　1／40

公営住宅２種中耐平和団地
９号棟　電気工事

図　面　目　録

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
1	タイトル	
2	図面目録	
3	特記仕様書	
4	配置図・外構図・附近見取図	1:300
5	凡例表	
6	9 号棟　系　統　図　1	
7	9 号棟　系　統　図　2	
8	9 号棟　1階、2階、3階　幹線その他 設備平面図	1:100
9	9 号棟　1階、2階、3階　弱電　設備平面図	1:100
10	照明器具姿図・分電盤結線図	
11	住戸 平面詳細図　(2DK - A)	1:30
12	住戸 平面詳細図　(2DK - B)	1:30
13	住戸 平面詳細図　(2DK - C)	1:30
14	住戸 平面詳細図　(3DK - C)	1:30
15	住戸 平面詳細図　(3DK - E)	1:30
16	住戸 平面詳細図　(3DK - 身障者)	1:30
17	詳細図	

鹿屋市	図番	号
年 月 日	昭和 61年 6月 日	
工事名	公営住宅第2種中耐平和団地9号棟 電気工事	
科別	特記仕様書	縮尺
検印	課長 係長 係員	

特記仕様書

Ⅰ 一般事項

1. 本工事は、本特記仕様書によるほか、建設大臣官房官庁営繕監修の電気設備工事共通仕様書（昭和60年版）建設省住宅局監修の公共住宅建設工事共通仕様書（昭和61年版）（以下共通仕様書という）による。
2. 本工事の使用資材の品質、規格、等級等は下記による。
   (1) 特記事項に○印をつけたものを適用する。
   (2) ○印のないのは×印につけたものを適用する。
   (3) ○印および×印が共にある場合は、○印のあるものを適用する。
3. 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、共通仕様書に記載の当該項目および当該表の番号を示す。
4. 施工計画書は、着工に先だち、別に定める様式により作成し、監督員に提出する。
5. 本工事の施工に必要な官公署等への手続に要する費用は、請負金額の範囲内とする。
6. 本工事の受電の日から完成引渡（手直し完了まで）の日までに検査された電気使用料および基本料は請負金額の範囲内とする。
7. 本工事で、特記事項に定める「立会検査を要する施工工程」に適合するまで、再度の監督員の調査（この検査をいう）は特記仕様書とする。
8. 設計図面に明記なくとも関係官令上または機器の機能上当然必要となるものについては、原則として請負金の範囲内で施工する。ただし、報告なしの工事とするものとする。
9. 発生材の処置については、監督員の指示によること。

Ⅱ 特記事項

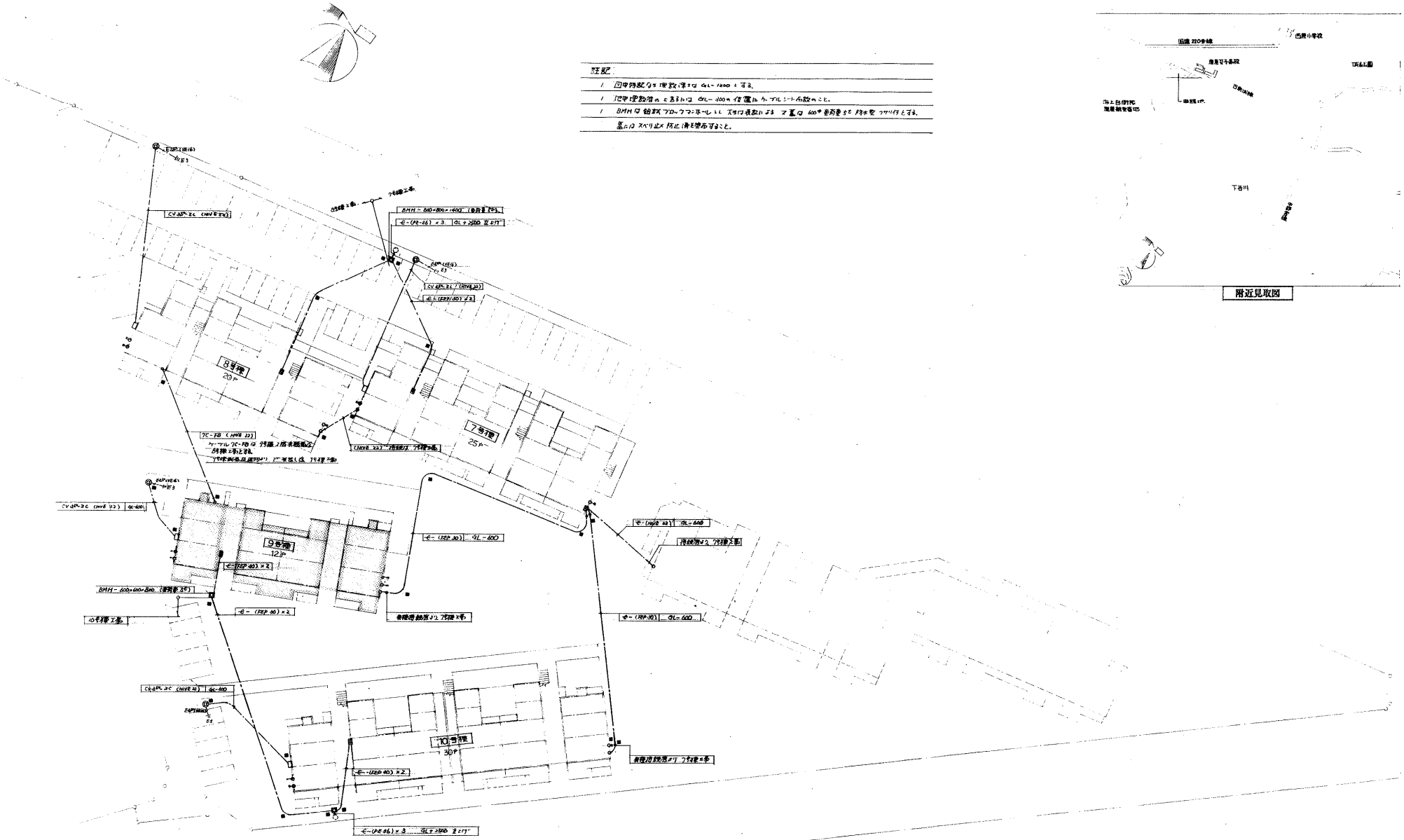
区分	項目	特記事項
共通事項	(1) 使用資材の製造所	設計図書等に記載されているものについては特記による。
	(2) 特殊な材料と工法	共通仕様書に記載されていない特殊な材料により施工する場合は監督員の承認を得ること。なお、特殊な材料による施工は当該製品の指定工法による。
	(3) 建築工事との整合	壁面、天井面等に機器取付のため必要な幅口開等を設ける場合の施工の範囲は、特に監督員の指示する場合以外は、建築工事仕様による。
	(4) 別契約の関係工事	別契約の関係工事については、当該工事関係者と協力し、工事の円滑な進ちょくを図るものとし、疑問が生じたら監督員の指示によること。
	(5) 施工過程における調整	工事現場適行の過程における調整については、監督員と協議の上これに従い合せを行ない、指導を受けること。
	(6) 工事写真	工事写真は、工程写真と完成写真とする。工程写真は、工事工程に応じ撮影し、出来高報告書と共に一部作成提出して監督員の確認を得た後、請負者にて保管すること。 完成写真は、工事完成時に撮影し、一部作成して工程写真と共に提出する。 写真はカラー写真（E版）とすること。 工程写真 分類 内容 スラブ 各施工程配筋 壁・柱 〃 地中埋設物 配管 各工程配管（スケール付） ケーブル 各工程（〃 〃） 掘削箇所 見通し各1枚（〃 〃） マンホール 1基ごと（〃 〃） ハンドホール 1基ごと（〃 〃） 内部 1基ごと あと施工アンカー 1基ごと 配管挿入口の防水処理状況 入線 工事種別ごと 敷設材料ごと 完成写真 全工事および全ビル その他監督員の指示した箇所。
	(7) 製作図その他	下記機器については製作図を提出し監督員の承認を得ること。 (1) 各種照明器具、盤材、安定器、換気扇 (2) 受配電盤、分電盤、操作盤、キュービル (3) プルックランホール (4) フロアダクト、ラインダクト、ケーブルラック、バスダクト (5) 変圧器、高圧遮断コンデンサ、リアクトル、アレスター (6) しゃ断器、高圧開閉器 (7) 電圧調整器、下降調整、発電装置 (8) 電気時計装置、拡声装置、非常放送装置 表示装置、インターホン装置、テレビ共聴受信装置 火災報知装置、自動開閉装置、非常警報装置、 ガス漏れ警報装置 (9) 避雷針 (10) その他監督員の指示するもの
	(8) 立会検査を要する施工工程	コンクリート埋込配管……R C打込前 いんぺい配管……配管完了前 地中埋設配管……配管完了埋戻し前 入線配線……入線配線施工時 機器取付……現場搬入後 機器取付……取付又は据付施工時 上記に示す各工程に達するときは、一般事項7によりあらかじめ監督員に通知すること。
	(9) 工事報告	工事報告は、別に定める工事出来高報告書により毎月末の見込み出来高を当月20日までに監督員に提出する。（工程写真添付のこと）
	(10) 完成図	設計図記載の施工現場と一致するよう必要な訂正をなした後、監督員の承認を得て、青写真に張写し B－5版サイズに製本したもの（学校関係2部、庁舎・共供住3部）二ツ折1枚、マイラーベース（アセテート系）特記なしの限り墨の構造、耐荷重は、マンホール基準による。
	(2) 試験成績書	下記事項の試験成績書は下検査の時点までに監督員に提出する。 (1) 絶縁抵抗測定結果表……3部 （電線相互間及び電線と大地間） (2) 接地抵抗測定値表……3部 （接地箇所、種地種別ごと） (3) 高圧機器電圧性能試験結果表……3部 (4) 高圧機器ケーブル耐圧試験成績書……3部 上記(1)～(4)については、測定年月日、天候、測定者氏名および測定器具番号種別を記入する。 (5) 消防法機器設置合格証明書……3部 (6) その他監督員の指示するもの……3部 上記について該当なき場合は不要とする。
	(3) 申請書類	本工事の施工に必要な官公署等への申請書類はその写しを3部つづり作成し、完成図と一緒に提出する。
	(4) 竣工物提案内容	本工事の電気設備について保守管理上必要な案内書をタイプ製写にて3部作成し、完成図と一緒に提出する。
	(5) 接地標示及びケーブル・埋設標示	(1) 接地ポジ ア 標示方法 ●標示板 ○標柱 イ 標示位置…標示板によるとは接地箇所の最寄の見やすい位置。 標柱によるとは接地極の真上の位置に設ける。 ウ 標示板および標柱の寸法等は下表の数値以上とする。 標示板：材質 寸法 mm；標柱：材質 寸法 mm 地中線用（硬質ポリ塩化ビニル）：1.5×100×150 / コンクリート：80×80×600 電線用（硬質ポリ塩化ビニル）：1.5×100×150 (2) ケーブル埋設標示： ア 標示方法 原則として標示板、標柱およびケーブルシートによる。 イ 標示位置 ケーブルシートは、地表下30cmの深さでケーブルの直上に布設し、ケーブルの埋設幅以上の幅を有すること。 標示板は、ケーブルが地中で曲る位置で最も見やすい位置に設ける。 標柱は、地中線路の曲折箇所、直線線断箇所、道路横断箇所、道路部分と除く、直線部分で150m毎に、30m に満たないときは、その間に1個設ける。 ウ 標示板および標柱の寸法等は下記の数値以上とする。 標示板：材質 寸法(mm)：標示板 真鍮 板 15×100×150；標柱 コンクリート 90×90×600 (3) 管表示ビン 別に定める「接地標示等基準」による。
	(6) マンホール	(1) 規格打ちマンホールは、下記による。 ア 構造……鉄筋コンクリート造とする。 詳細は別に定めるマンホール基準による。 イ 寸法……下記の数値以上とする。 型名 仕上げ内法寸法(mm) 蓋厚(mm) 蓋寸法 A型 1,100×1,100×1,500 100 600φ B－1型 900× 900×1,500 100 600φ B－2型 900× 900×1,200 100 600φ C 型 850× 850× 900 100 500φ D 型 700× 700× 700 100 450φ ウ 蓋の構造 ●鉄筋製、鋳鉄製、ダクタイル製 完全防水、●無防水 エ 蓋の耐荷重 蓋の耐荷重は安全荷重を表示する。耐荷重試験はH A S S－209によるものを基準とし、安全荷重の4倍の荷重に耐えるものであること。なお、図面仕様に明記ないときは下記による。 車両重（0.5 t） 中荷重（1.5 t） ●重荷重（ 5 t） オ 蓋の表示 マンホール蓋には、下記により表示文字を鋳込みもしくは刻印する。 (7) 種別表示…中央部に「電」とする。 (イ) 所有者表示…周辺部に「鹿児島」とする。 カ 防水および水抜 (ア) マンホールの防水については特記定めるマンホール基準の（注）1および2による。 (イ) マンホール内のパイプ挿入箇所は完全な防水処置をする。 (ウ) 水抜は監督員の指示による。 (2) プログマンホールは、下記による。 ア 構造 鉄筋コンクリート製（設計強度210 kg/cm²とする。 イ 寸法 図面記入寸法により監督員の承認をうること。
共通事項	(7) プレート	配線器具等のプレートは下記による。 樹脂 鋼金属 W.B. ●ステンレス
電力設備工事	(1) 電線の色別	ビニル電線の色別は下記による。ただし、接地線は緑色又は緑／黄とする。 なお、ビニル電線以外でも、単用できる場合は、この色別を準用する。 (1) 幹線及び分岐回路 電圧種別：配線方式：第1相：中性相：第2相：第3相 高圧：三相3線式：赤：白又は黄 低圧：単相2線式：赤：白又は黒（接地線白又は黒） 単相3線式：赤：白又は黒（接地線白又は黒）：赤 三相3線式：赤：白又は黒：黒 三相4線式：赤：白又は黒：黒（接地線） 直流：正：負（正極）：負（負極） (2) 器具内渡り線 (3) 動力回路 (4) 制御回路 (5) 計装回路 (6) 接地線 (7) 弱電回路
	(2) 絶縁抵抗値	回路の絶縁抵抗値は下記以上の値であること。 （絶縁抵抗計の電圧は低圧回路500 V、高圧回路1000 V） (1) 低圧屋内、屋側電線 開閉器で区切ることのできる電路ごとに、開閉、対地および線間共5MΩ以上とする。 (2) 低圧の架空及び地中電路 線間及び対地間絶縁抵抗値は、使用電圧に対する漏えい電流の最大供給電流の1000分の1を超えない値であること。 ただし、各引込口ごとに0.1MΩ以上とする。 (3) 高圧の電路 対地間、対地間及び高圧と低圧間は30MΩ以上とする。
	(3) 照明器具の取付	(1) 吊ボルト（9㎜φ棒鋼）により堅固に支持すべき器具は下記のものとする。 けい光灯……露出型で重量5kg以上の器具（けい光灯については40W×2灯以上）、埋込型器具および半埋込型器具。 水銀灯……図面特記または監督員の指示による。 その他の器具……監督員の指示による。 (2) 吊ボルトは垂直に器具を吊るものとし、インサート位置の心出し誤差は5㎜以内とする。5㎜を超える誤差を生じたときはインサート調整金具等により吊ボルト位置の調整をする。
電力設備工事	(4) 電線等の長さ	別に定める「電線等の長さの設定基準」による。
	(5) 電線および電線管	図面に電線サイズおよび電線管サイズの記入または特記ないとき下記による。 電灯回路……ビニル電線1 V 1.6 ㎜ 2本と隣接電線管19φ コンセント回路……ビニル電線1 V 2.0 ㎜ 2本と隣接電線管19φ
	(6) 配線器具	図面に特記ないかぎり丸角連用埋込型とする。
	(7) 位置ボックスおよびジョイントボックスなど	図面に明記ないかぎり位置ボックスなどは下記による。 (1) 埋込またはいんぺい配管 取付位置：配管状況：ボックスの種別 天井スラブ：22φまたは25以下：4φ以下：中形四角C、B54 壁・柱：25以下：5φ以下：大形四角C、B54 ボックス：28または31以下：4φ以下 ：36または51以下：6φ以下 スイッチおよびコンセントボックス：露出スイッチボックス（又は中形四角O、B40）：2個以下：2φ以下：スイッチボックス ：2個を超え3個以下：3φ以下：3スイッチボックス ：4個以上：4φ以下：4スイッチボックス 電灯コンセント兼用ボックス：図記号：配管状況：ボックスの種別 ：露出又は埋込：25以下：5φ以下：中形四角C、B54 ：36または51以下：6φ以下：大形四角C、B54 (2) 露出配管（2.2.2 表） 取付位置：配管状況：ボックスの種別 電灯位置ボックス：22φまたは25以下：4本以下：丸形露出ボックス（器具個数） ジョイントボックス：28または31以下：4本以下：丸形露出ボックス（直径100） スイッチコンセント用の位置ボックス：適用形3ケ以下：露出1個用スイッチボックス ：適用形6ケ以下：露出2個用スイッチボックス ：適用形9ケ以下：露出3個用スイッチボックス (3) アウトレットボックスを用いるプルボックス、ジョイントボックスの盲プレートは、原則として丸プレートとする。 (4) プルボックス、ジョイントボックスは、そのプレート装着に用途を示す文字を次記載のプレート等の斜印基準により表示する。 (5) 天井又は壁埋込みの場合、ボックスを埋込みすぎないように、塗りしろカバーと仕上がり面とが約10㎜程度以上埋込みする場合は敷ぎわくを使用すること。
	(8) 機器の取付高さ	(1) 各機器の取付高さは、原則として下記による。 品名：中心高さ(mm) 分電盤、操作盤等：床上1,500または壁上端1,900以下 タンプラスイッチ、押釦：床上：1,200 手元開閉器、マグネット押釦：〃：1,500 弱点開閉器：地上：2,000 屋外露出：〃：3,500 自動点滅器：〃：4,000 コンセント：一般室（事務室等）：床上：300 工場作業室、医療室等：〃：750 電灯分、作業台上：台上：200 機等の臨時分：床上：650 和室内：タタミ：200 (2) 上記高さに取付困難な場合は監督員の承認を得ること。
	(9) 分電盤制御盤	(1) 分電盤、制御盤は共通仕様書による。 制御盤は、原則として扉出型とする。 (2) 主幹用配線用しゃ断器（漏電しゃ断器の場合も含む）のしゃ断機は、特記のない場合は5000 A以上とする。なお、漏電しゃ断器は「ＩＳマーク表示品とする。 (3) 自立形の場合の盤表 ●塗 不塗 制御盤、配電盤などの表示灯用ランプ、ヒューズ類の予備品は、キャビネットごとに段用数の20%とし、個別ごとに最低1個を具備する。 ただし、電力ヒューズについては1個を1組と読み替えるものとする。
	(10) ヒューズ等の予備数	
	(11) 配線および接柱材料	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書によるほか下記による。 (1) 電 柱 木柱（注入柱） ●コンクリート柱 (2) 接柱材料 鉄 金……●鉄鋼金 支 線……亜鉛メッキ鋼撚線で次のサイズのもの 22㎟， ●38㎟， 55㎟ 根開材料……下記による。 木 柱 用……根開九寸 ●1.2 m， 1.5 m， 1.8 m コン柱用……コン根開 ●1.0 m， 1.5 m (3) 支 線 支線カバーを取りつけること。
自家発電設備工事	(12) 照明器具	けい光灯の端子を収容する鋼板製の埋込型附仕を原則とする。 白熱灯器具、水銀灯器具およびその他の器具は、共例および個別図による。
	(13) ボックスの絶縁塗装	各種位置ボックス、プルボックスおよびジョイントボックスの内面に施す絶縁塗装は下記による。なお絶縁塗装はむらず入念塗布に行なうこと。ただし、鋳付塗装済みのボックスはこの限りでない。（ＷＪ－10 ）
	(14) 避雷針避雷接地線	図面に特記ないかぎり次表による。 (1) 避雷突針：●ＪＩＳ大、ＪＩＳ中、ＪＩＳ小、日本住宅公団S (2) 避雷導針：銅より線 30㎟ ●38㎟ 40㎟ (3) 避雷保護管：銅製管、●絶縁ビニル管 (4) 測定端子函：銅製製函 ●合成樹脂製 (5) 接地極（接地抵抗値はおおむね5Ω以下とする） ア 主 板…銅板15×1,000×1,000 以上のもの1枚 イ 補助板…銅棒（16㎜φ×2,000㎜以上） (6) 導線と接地極及び地中部分の接続は、原則として異銅ろう付以上とする。
	(15) 接地工事および接地線	(1) 接地極のサイズ 第1種接地極（2・14・1） 接地母線及び避雷器…1.6㎜² 以上 その他の場合……3.5㎜² 以上 第2種接地工事（2・14・1表） 5.5㎜² 以上 第3種、特別第3種接地工事 （2・14・2表） 2.0㎜ 以上 (2) 接地線は銅線以上とする。（ポリ・ビニル・ポリエチレン） (3) 接地抵抗値については、おおむね1種5Ω、3種500Ωを目標とする。 (4) 共通仕様書の（2・14・5～2・14・7）による接地工事の簡略等を適用する場合は、必らず監督員の承認を得ること。
	(16) 金属管配線	(1) アースボンド線の太さは共通仕様書（2.2.3表）および（2.2.4表）による。 ただし、ライクウエル圧接によるときは、表中2.0㎜以上とあるのは2.6㎜以上と読み替えるものとする。 (2) アースボンドは原則として テイカウエル圧接による。ただし、監督員の指示によるときは他の工法によることができる。 (3) アウトレットボックスを用いるプルボックス、ジョイントボックスの盲プレートは、原則として丸プレートとする。 (4) プルボックス、ジョイントボックスは、そのプレート装着に用途を示す文字を次記載のプレート等の斜印基準により表示する。 (5) 天井又は壁埋込みの場合、ボックスを埋込みすぎないように、塗りしろカバーと仕上がり面とが約10㎜程度以上埋込みする場合は敷ぎわくを使用すること。
	(17) 他の色別	高圧電線の ついてもしくはケーブルより色別する。色別の色は、本特記仕様書電力設備工事の1項の3による。
	(18) 高圧母線のサイズ	図面に特記ないときは下記による。 ○丘 5㎜² 14㎜² ●22㎜²
	(19) 受配電盤	機能自立鋼鈑製を原則とする。
	(20) 開閉器配電盤	(1) 機能製材付とし充分なる検知口を右し、内部照灯付とする。 (2) 共通仕様書によるほか、屋外形にあっては機能が投入し難い構造とする。
	(21) 柱上変電設備	図面仕様によるほか、九州電力外線工事要領および柱上設計書（架空配線）による。
	(22) 接地工事および接地線	本特記仕様書電力設備工事の15項による。
	(23) 弱電線相互の間隔	(1) 強弱線相互の間隔及び機器線とそれを支持する造営材との離隔距離の標準及び最小値は、共通仕様書（2.2.1 表）による。 (2) 開閉配電盤及び半開閉配電盤の高圧配線離隔距離は共通仕様書（1.1.2表）による。 ヒューズ等の予備数は電力設備工事の10項による。
	(24) ヒューズ等の予備数	
	(25) 絶縁抵抗値	本特記仕様書電力設備工事の2項による。
	(26) 発電装置	図面仕様によるほか下記による。 (1) 発 電 機 通風方式 ●自己通風式、強制風冷式 (2) ディーゼル機関、タービン機関 共通台床式で防振装置付とする。 始動方式 ●電気式 圧縮空気式 (3) 充電装置 充電器は自動定電圧装置および過充電防止装置付とする。
	(27) 電線の色別	本特記仕様書電力設備工事の1項による。
	(28) 防災用非常電源	消防法等による非常電源としての発電設備は、自家発電設備認定委員会の認定証類が添付されたものとする。
通信設備工事	(1) 電 線	原則として600 V ビニル電線を使用する。 ただし、通信ケーブル等の使用をさまたげない。
	(2) 電線の色別	ビニル電線の色別は下表による。 配線種別：マイナス または共通：電 圧 側 電気時計：赤又は黒：男 拡 声：白：黒、青または赤 火災報知設備：火災報知：白：赤（表示線）、黒（電鈴線）、青（ベル線）、黄（確認ランプ） 盤 内 線：緑又は緑／黄：黄（確認ランプ） 接 地 線：緑又は緑／黄
	(3) 端子盤	図面仕様の端子を収容する鋼鈑製の埋込型附仕を原則とする。 白熱灯器具、水銀灯器具およびその他の器具は、共例および個別図による。
	(4) 電気時計装置	図面仕様に明記ないときは下記による。 親時計：●壁掛型 据置型 親モニタ ●卓先形 角形 副時計：数 ●不要 故障発表装置：●要 不要 時刻規正機構：●要 不要
	(5) 拡声装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
	(6) 非常放送装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。 下記については非常用放送設備委員会の合格ラベルが貼赤されたものを使用すること。 ア 増幅器及び操作装置 イ 遠隔操作盤 ウ 非常用電源機器・子機
	(7) 表示装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
	(8) インターホン装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
	(9) テレビ共聴受信装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
	(10) 火災報知装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。 下記については、日本消防検定協会の検定合格証票が貼赤されたものを使用すること。 ア 受信機 イ 発信機 ウ 感知器
	(11) 自動開閉装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。 下記については、（財）日本建築センターの防災性能評定マークが貼赤されたものを使用すること。 ア 連動制御盤 イ 自動開閉装置
	(12) 非常警報装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。 下記については、非常警報設備認定業務委員会の認定証票が貼赤されたものを使用すること。 ア 非常ベル イ 表示灯 ウ 起動装置 エ 操作装置（電鈴形） オ 一体形及び複合装置
	(13) ガス漏れ警報装置	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。 使用機器は下記各検定協会の検定合格品を使用すること。 ア 受信機、中継器～日本消防検定協会 高圧ガス保安協会（液化石油ガス用） イ 検知器～（財）日本ガス機器検定協会 高圧ガス保安協会（液化石油ガス用）
	(14) 電柱及び接柱材料	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書によるほか下記による。 ア 電 柱 木柱 ●コンクリート柱 鋼管柱 イ 接柱材料： 電力設備工事11．(2)による。
	(15) 接地工事および接地線	接地工事を施す機器および接地抵抗値などは、共通仕様書第5編の（第13節）による。接地抵は、本特記仕様書電力設備工事の15項(2)による。
	(16) ヒューズ等の予備品	図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
	(17) 機器の取付高さ	(1) 各種機器の高さは、原則として下表による。 品名：中心高さmm 電話用位置ボックス：床上300または タタミ上150 親時計：床上1,800 子時計：床上2300 スピーカー：床上2300 音量調整器：床上1,300 表示器・電鈴：床上2300 全上操作スイッチ等：床上1300 インターホン：床上1500 テレビアンテナ端子：床上300または タタミ上150 端子盤：床上750または 1,500 火災報知設備：P型受信機：床上1,400 ：聯動P：（同上）：床上1800 ：電鈴（同上）：床上2300 ：分布型感知器（同上）：床上1800 ：総合盤：床上1400 ：受信機操作台：床上800～1,500 ：副受信機：床上800～1,500 (2) 上記高さに取付困難な場合は監督員の承認を得ること。
	(18) 位置ボックスおよびジョイントボックス	図面仕様に明記ないかぎり位置ボックスは下記による。 (1) 埋込またはいんぺい配管 取付位置：配管状況：ボックスの種別 天井スラブ：22φまたは25以下：4φ以下：中形四角C、B54 壁・柱：25以下：5φ以下：大形四角C、B54 ボックス：28または31以下：4φ以下 ：36または51以下：6φ以下 スイッチおよびコンセントボックス：露出スイッチボックス（又は中形四角O、B40）：1個用：2φ以下：スイッチボックス ：2個以下：3φ以下：2スイッチボックス ：3個以下：4φ以下：3スイッチボックス ：4個以上：4φ以下：4スイッチボックス 電灯コンセント兼用ボックス：図記号：配管状況：ボックスの種別 ：露出又は埋込：25以下：5φ以下：中形四角C、B54 ：36または51以下：6φ以下：大形四角C、B54 (2) 露出配管 取付位置：配管状況：ボックスの種別 位置ボックス：22φまたは25以下：4本以下：丸形露出ボックス（器具個数） ジョイントボックス：28または31以下：4本以下：全上 100 ：スイッチ1個：露出1個用スイッチボックス ：2個以下：露出2個用スイッチボックス ：3個以下：露出3個用スイッチボックス ：4個以上：スイッチなどの数に応じたスイッチボックス
	(19) 絶縁抵抗値	(1) 屋内、屋側電線（250 Vのメガー使用）1回路又は1系統当り、絶縁抵抗値5 MΩ以上とする。 (2) 架空、地中電線（250 Vのメガー使用）1回路又は1系統当り、絶縁、絶縁抵抗5 MΩ／km以上とする。 (3) 機器取付後の絶縁抵抗値は、上記1/2Ωの1／5以上とする。
構内交換設備工事		図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
中央監視制御設備工事		図面仕様に明記ないときは、共通仕様書による。
その他	1. 製造所の指定	下記資材については、本項にあいて製造所の指定をするときは本項特記による。 品名：製造所の名称

図面番号
3
17

注記

1. 図中特記なき埋設深さは GL−1200 とする。
2. 図中埋設管のとおりは GL−300 mm 位置に ケーブルシート布設のこと。
3. BMH の蓋材 プロークマンホール 又は 表記による 又 直径 600 φ 鉄筋蓋 または 防水型 マンホールとする。
   基礎は スベリ止め 防止 措置すること。

附近見取図


8号棟
20戸
7号棟
25戸
9号棟
12戸
10号棟
30戸
CV 38sq-3C (HIVE 22)
CV 60sq-3C (HIVE 22)
CV 100sq-3C (HIVE 22)
CV 150sq-3C (HIVE 22)
CV 325sq-3C (HIVE 22)
CV 38sq-3C (HIVE 22) GL-600
CV 325sq-3C (HIVE 22) GL-600
CV 325sq-3C (HIVE 22) GL-600
CV 325

凡例表

記号	名称	備考
S	引込開閉器箱	別紙結線図参照
	分岐開閉器箱	〃
回	電力量計取付板	1φ 3W用 樹脂プレート取付
	各戸分電盤	別紙結線図参照
	蛍光灯照明器具	別紙姿図参照
	〃	〃
	外灯	〃
●	天井連用スイッチ 1P 15A×1	ステンレスプレート (WPは防水型
$●_3$	〃 3W 15A×1	〃 〃
$●_4$	〃 4W 15A×1	〃 〃
$●_{AS}$	自動点滅器 100V 3A	プラライト
	電気器具収納箱	別紙姿図参照
	端子箱	〃
⊙	壁埋用アウトレット	角型リスルプレート 別印付
⊙	〃	丸型リスルプレート 別印付
	ニンビワンチャ	特記仕様参照
	テレビ機器収納箱	別紙姿図参照
	直列ユニット	JV-SU-37-7
$_R$	〃	JV-SU-37-R
⊘	角型引掛シーリング	
○	自熄灯照明器具	別紙姿図参照
	蛍光灯照明器具	〃
$⊘_A$	コンセント付引掛ローゼット	
●	天井連用スイッチ 1P 15A×1	樹脂プレート
$●_P$	〃 1P 15A×1	〃 位置表示灯付
$●_L$	〃 1P 4A×1	〃 確認表示灯付
$⊖_2$	天井連用コンセント 2P 15A×2	〃 〃
$⊖_E$	〃 2P 15A×1 E付	〃
$⊖_{2E}$	〃 2P 15A×2 E付	〃
	浴室ユニット用押釦スイッチ	10A 300V 防水型
	玄関チャイム	100V 2音打 音量調整付
	換気扇 25cm	金属製・電動式シャッター付 樹脂製ウェザーカバー付
◇	回路番号	
○	ボックス番号	ボックス番号表参照
	プルボックス	特記仕様参照
	ジョイントボックス	0B天端C付, WPは防水パッキン付
■	埋設埋庄	コンクリート製
——	天井いんぺい配線	配管・配線
——	壁いんぺい配線	〃
—·—	地中埋設配線	〃
—···—	ケーブルこうがし配線	〃
	立ヒガ・素通し・立下ガ	
$⏚_{E3}$	接地工事	第3種
	ハンドホール	特記参照

ボックス番号表

ボックス記号	名称	備考
①	コンクリートボックス	角 75/m/m 連代カバー付
②	アウトレットボックス	浅中浅 44/m/m (〃)
③	〃	〃 中深 54 〃 (〃)
④	〃	〃 天浅 44 〃 (〃)
⑤	〃	〃 天深 54 〃 (〃)
⑥	スイッチボックス	1ヶ用 44 〃 (〃)
⑦	〃	5ヶ用 54 〃 (〃)
◯-1	各ボックス + 樹脂プレート	角型
◯-2	〃 + リスルプレート	角型
◯-3	〃 + 鋼プレート	丸型 (但しスピーカー用は角型)

註記

1 住戸内配線器具用プレートは天角プレート(樹脂製)とする。又非用部分のジョイントボ…
ス用蓋プレートはステンレス製とし、配線外取付部分に限りにはゴムパッキン付とする。

2 空配管には呼線を挿入し、行先表示をさせること。
屋内 1.2/m/m ビニール被覆鉄線
屋外 1.6/m/m IV線 (黒色)

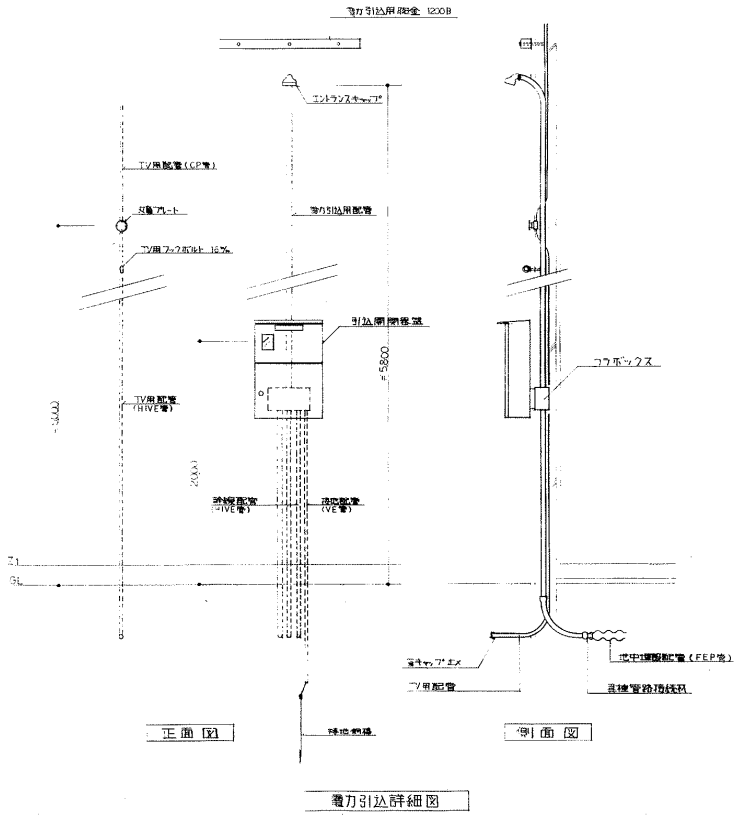
3 隔壁に取付ける配線器具については詳細図参照のこと。

4 特記なき配線サイズは下記の通りとする。
—— 1.6×2 (19) —— --- VVF 1.6 - 2C
—— 1.6×3 (19) —— --- VVF 1.6 - 3C , (19)(25)
—— 1.6×4 (25)
備考 》内配管は別途パネル工事とする。

5 器具取付高さは和室に於ては 2/m/m とし、その他は床上より親ボックス中心までを示し
特記なき仕様書による。 コンセント = 200, スイッチ = 1300 〃
身障者住戸 コンセント = 300.

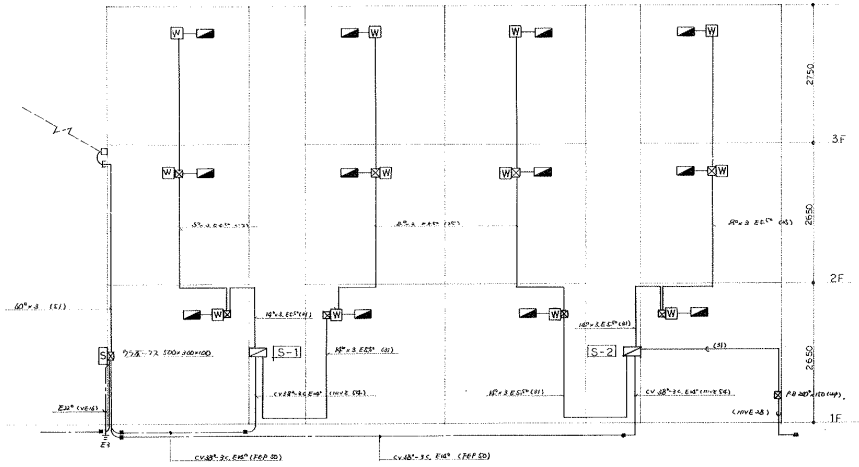
6 図中 ※ 印は部分詳細図参照のこと。

7 —3— 天井出し 3m エキ受け出し配管 (19)×4(25)とする。



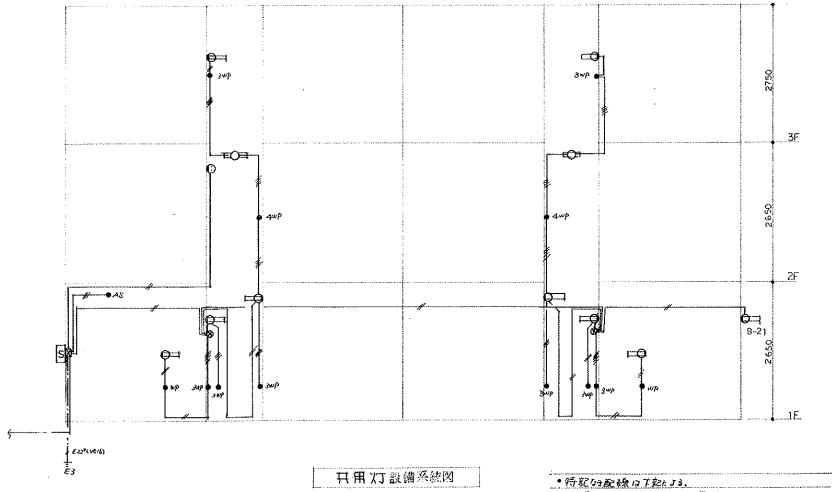
電力引込詳細図

図面番号
5/17



幹線設備系統図

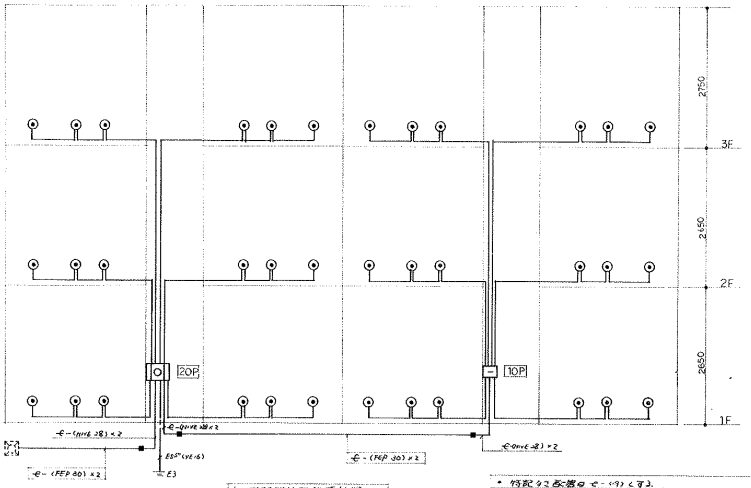
- 特記なき配管は 63×3 E.P (VE) とする。
- ■印部分は 乗務員控室 にて 独立 する。
- 特記なき プルボックス は 400×300×100 とする。



共用灯設備系統図

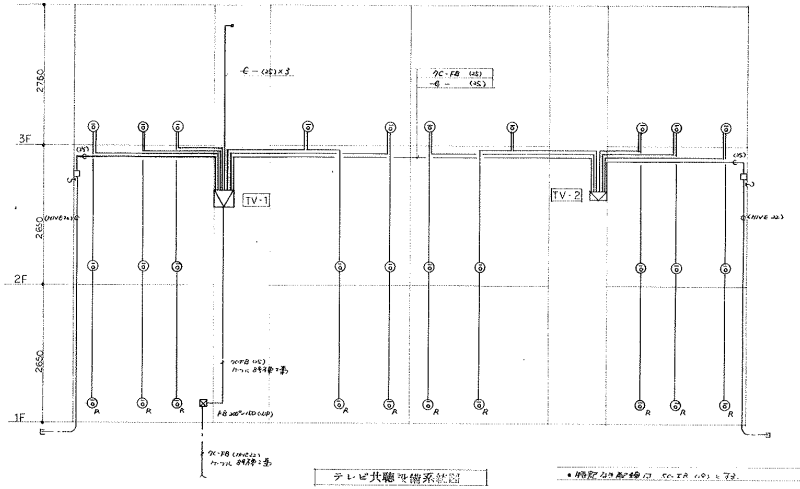
- 特記なき配線は下記とする。
  - 20×2 (19) 20×3 (19)
  - 20×4 (25) 20×5 (25)
- 特記なき 照明器具 は B-11 とする。

	図面番号 G 17



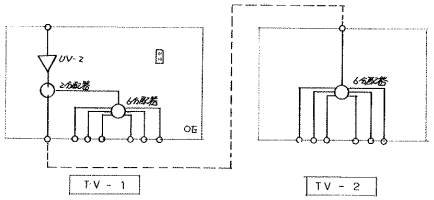
電話配管設備系統図

- 特記なき配管は E-19 とする。
- ■ 印 動力用 整備室接続箱にて終とすること。
- 配管内の引通線 ハウカムを挿入すること。

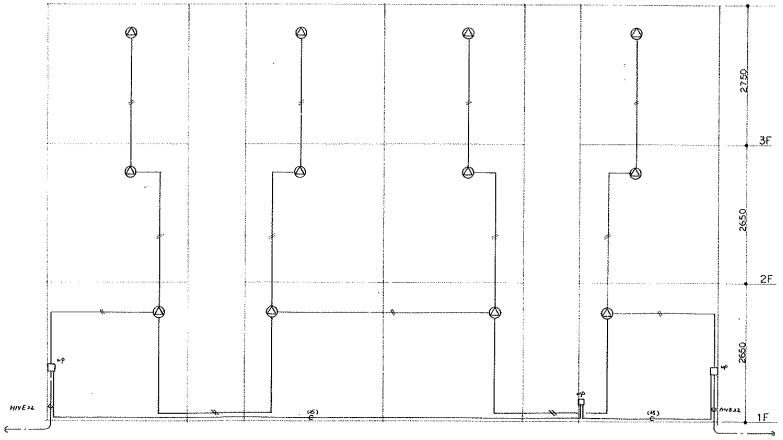


テレビ共聴設備系統図

- 特記なき配線は 5C-2V とする。



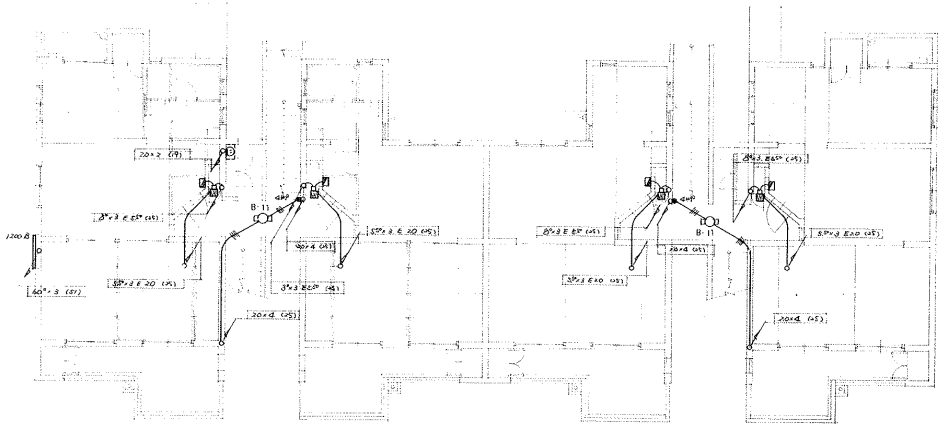
機器収納箱 詳細図



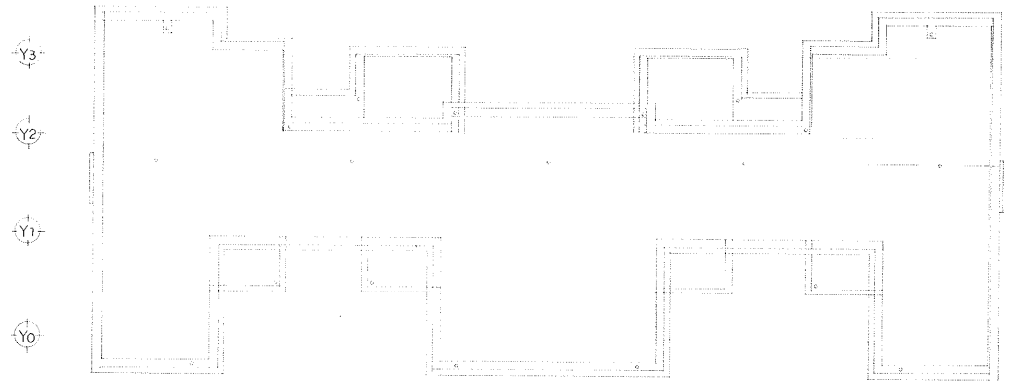
有線放送設備系統図

- 特記なき配線は 1.2mm-(9) とする。
- ◎ スピーカ引通 ボックス80角ブルートは学工事とする。

図面番号
7/17



2 階平面図



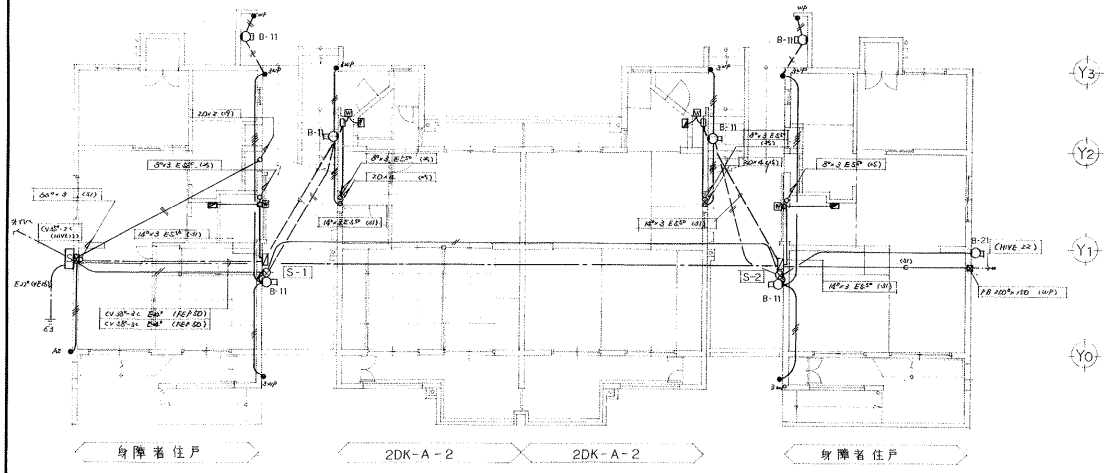
註記

1. 図中特記なき配管 配線は下記の通りとする。

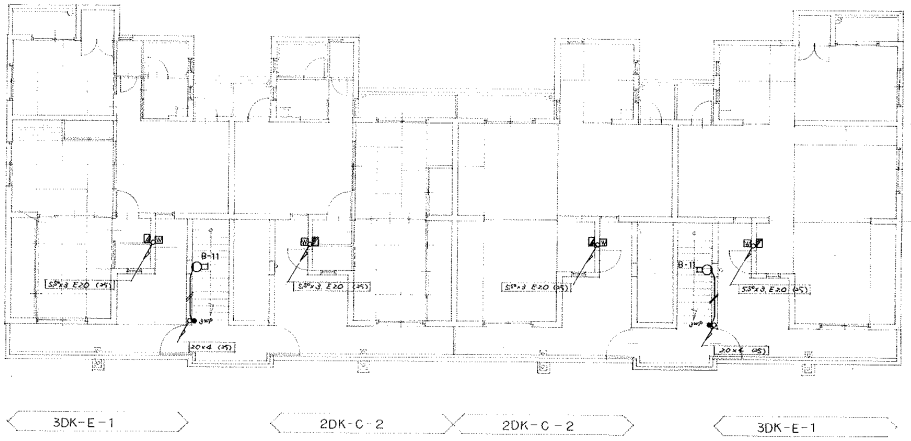
幹線 ——— 5m×3 E20 (45)

天用灯 —— 20×3 (19) ——// 20×3 (19)

——// 20×4 (25) ——// 20×5 (25)

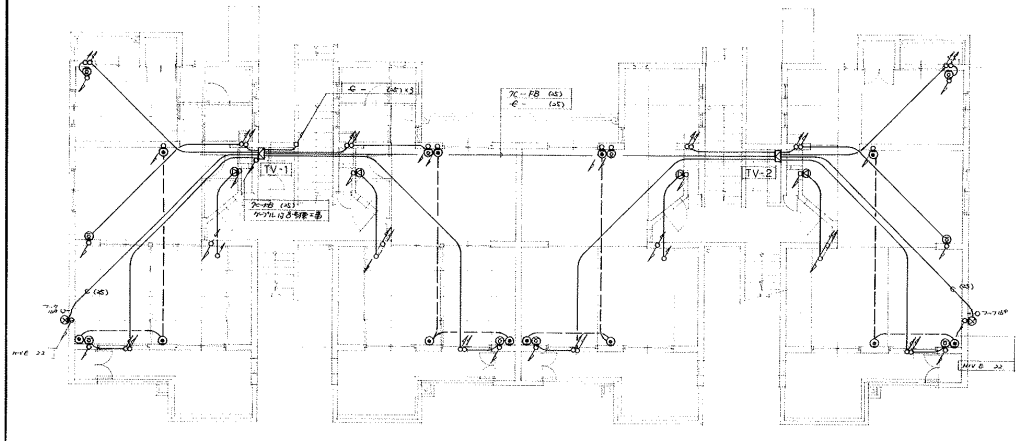


1 階平面図

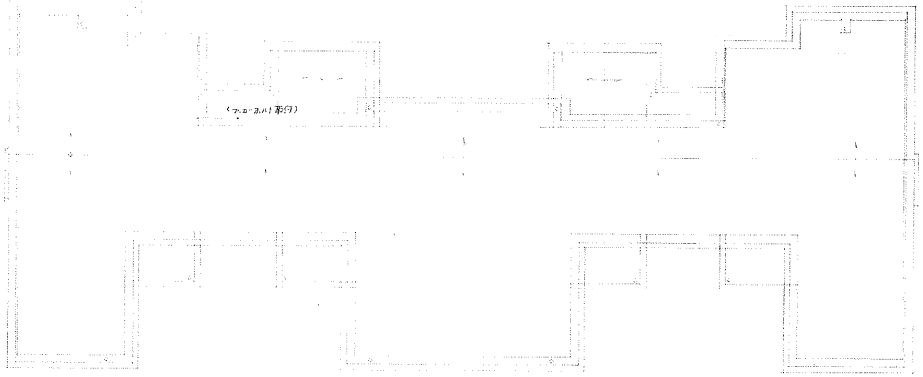


3 階平面図

図面番号
8
17



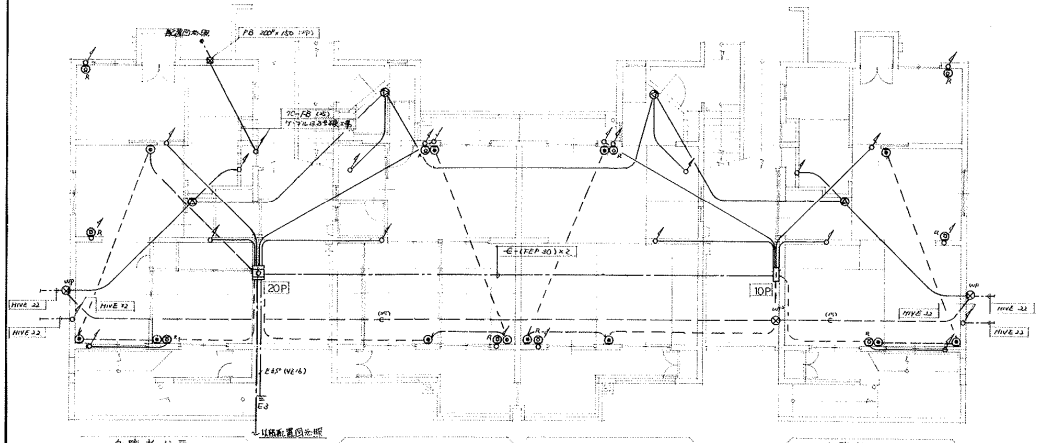
2 階平面図



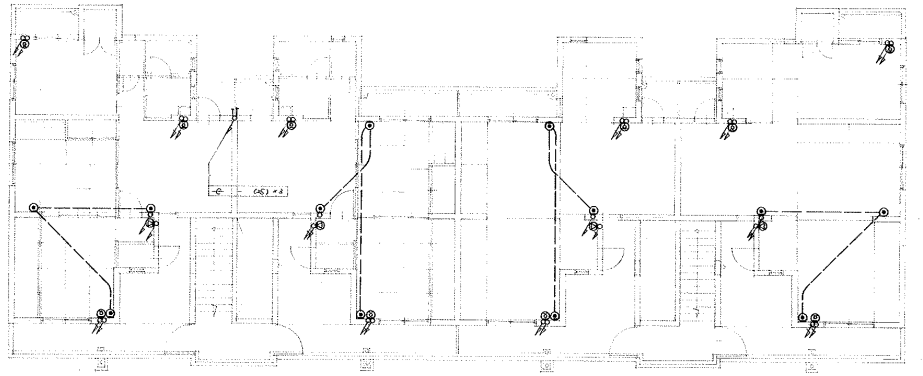
屋上平面図

註記

1. 図中特記なき配管 配線は下記の通りとする。
   - 給排 ——— ——— ——— VE-(PS)
   - テレビ共聴 ——— SGC-FB (PS)
   - 動力 ——— ——— ——— (F)
2. アルミカバー内の用途名のアルファベットは表示事項として記入のこと。



1 階平面図



3 階平面図

図面番号
9
17

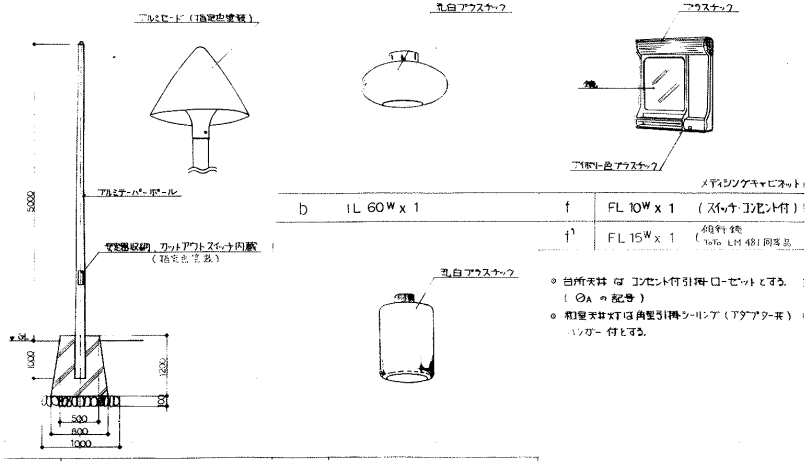


a　IL 60W x 1　（防水型）　d　IL 40W x 1



B－11　FL 10W x 1（防水型）FBC1RP・101

B－21　FL 20W x 1（防水型）FBC1RP・201　g'　IL 60W x 1　（防水型）　e　FL 15W x 1

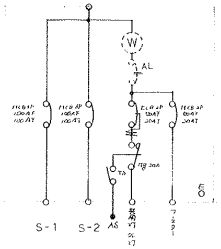


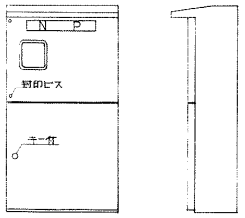
b　IL 60W x 1　f　FL 10W x 1　（スイッチ・コンセント付）

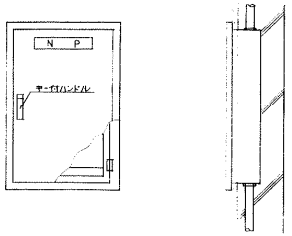
f'　FL 15W x 1　（　）

○ 台所天井 は コンセント付引掛ローゼットとする。
（ ⊘A の記号 ）
○ 和室天井灯は角型引掛シーリング（アダプター共）
ハンガー 付とする。

外　灯　NF 180W x 1　（高力率安定器）　C　IL 40W x 1

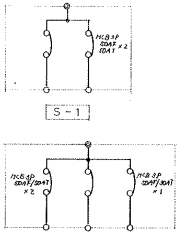


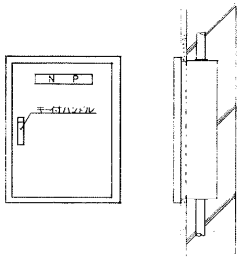


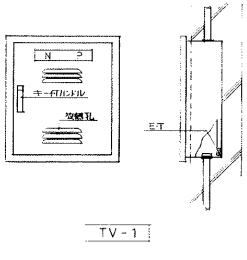


符号	盤名称	灯数	盤寸法
9	保安器箱	20P	600×600×140
	時計盤	10P	600×400×140

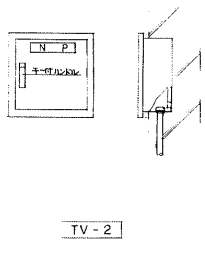
引込開閉器盤　姿図 および 結線図　（屋外・防水型）







TV－1



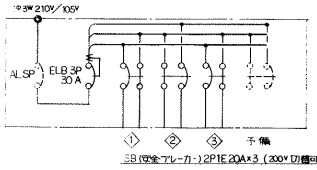
TV－2

看護用保安器収納箱・端子盤　姿図　（屋外・防水型）

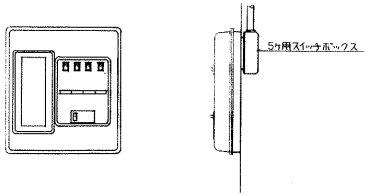
符号	盤名称	収納機器	盤寸法
TV－1	UVフィルター（BL）＋小形埋込 ＋ 6分配器	600×700×150
TV－2	6分配器	450×300×120

分岐開閉器盤　姿図 および 結線図　（屋外・防水型）

テレビ機器収納箱　姿図

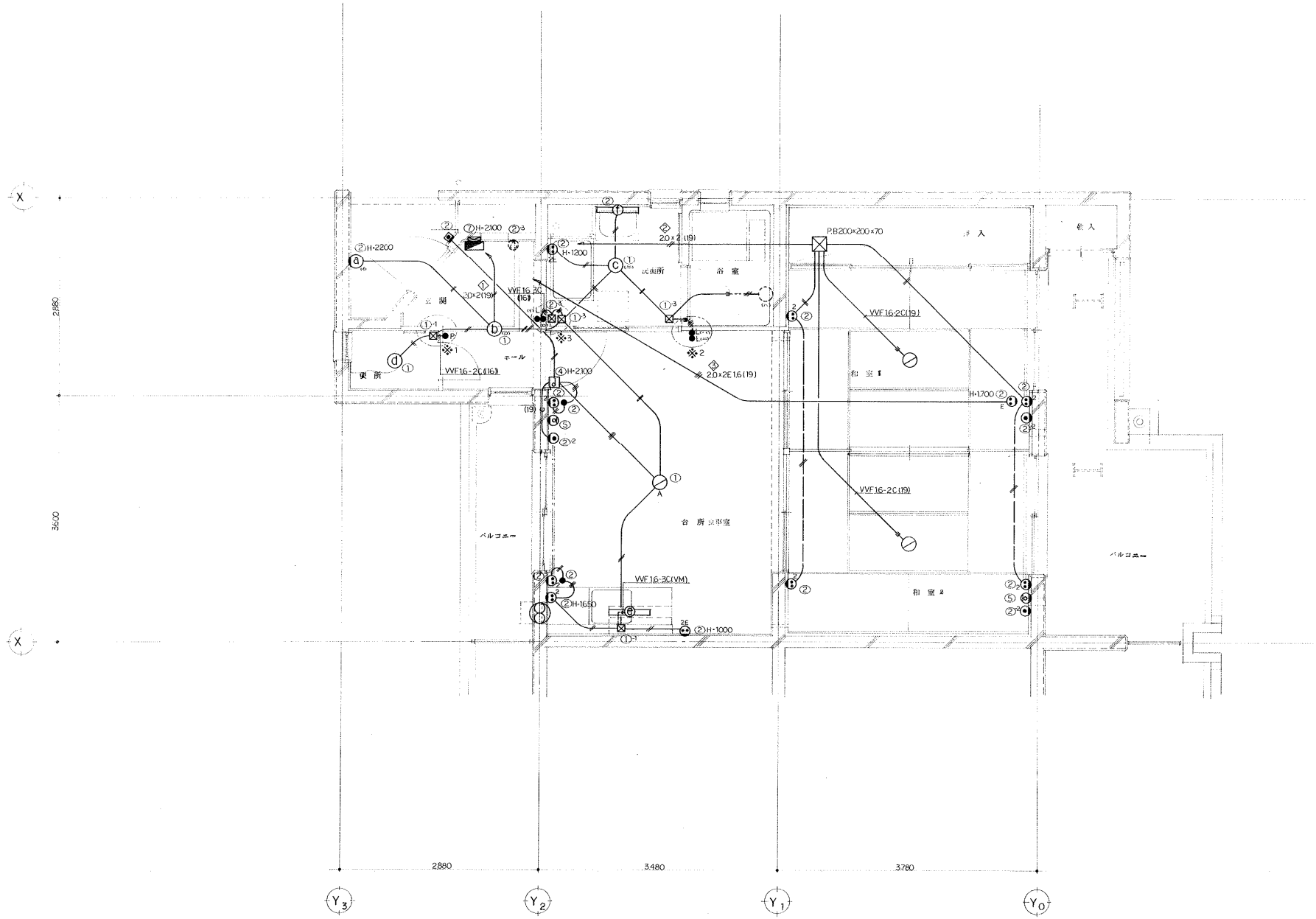


EB（安全ブレーカー）2P1E 20A×3（200V 切替可能1回路）

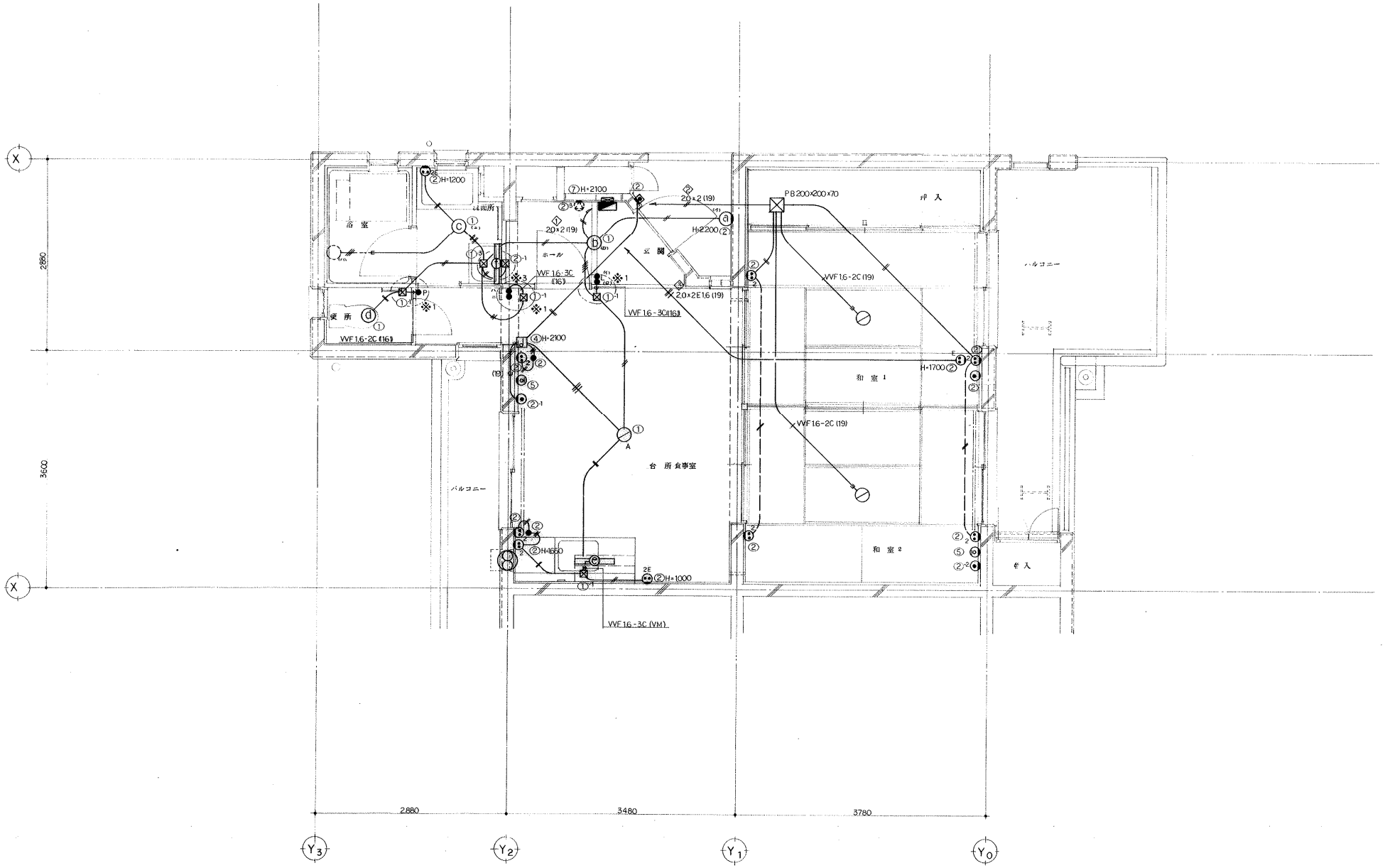


住戸分電盤　姿図 および 結線図　（キャビネットは合成樹脂製（自消性）とする。）

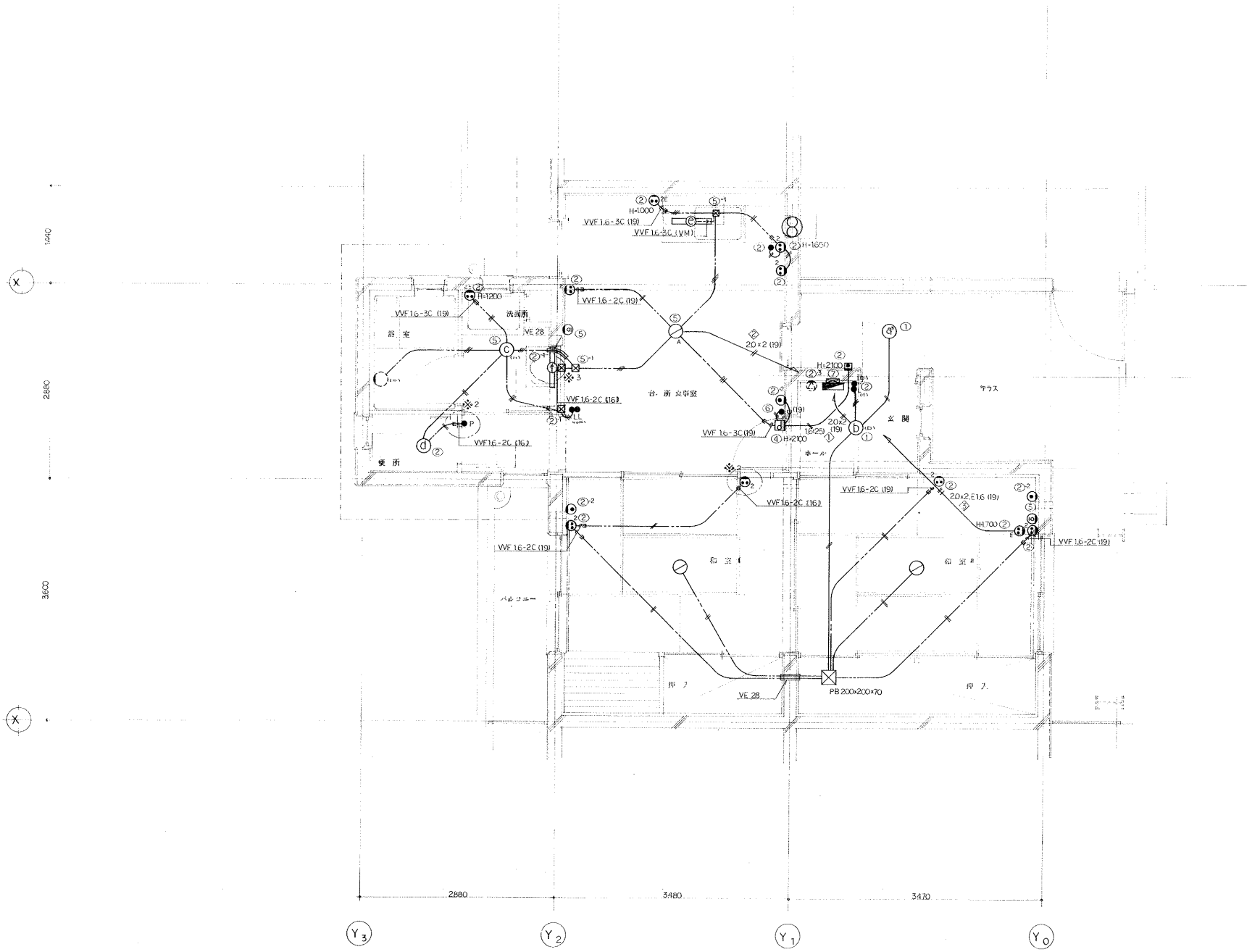
図面番号
10
17


X
X
2880
3600
玄関
便所
洗面所
浴室
ホール
台所兼食事室
和室1
和室2
バルコニー
バルコニー
収入
収入
②H=2200
⑦H=2100
②H=1200
20×2(19)
P.B200×200×70
VVF16-2C(16)
VVF16-2C(19)
2D×2(19)
2.0×2E1.6(19)
④H=2100
H=1700
VVF16-2C(19)
VVF16-3C(VM)
②H=1650
②H=1000
2880
3480
3780
Y3
Y2
Y1
Y0

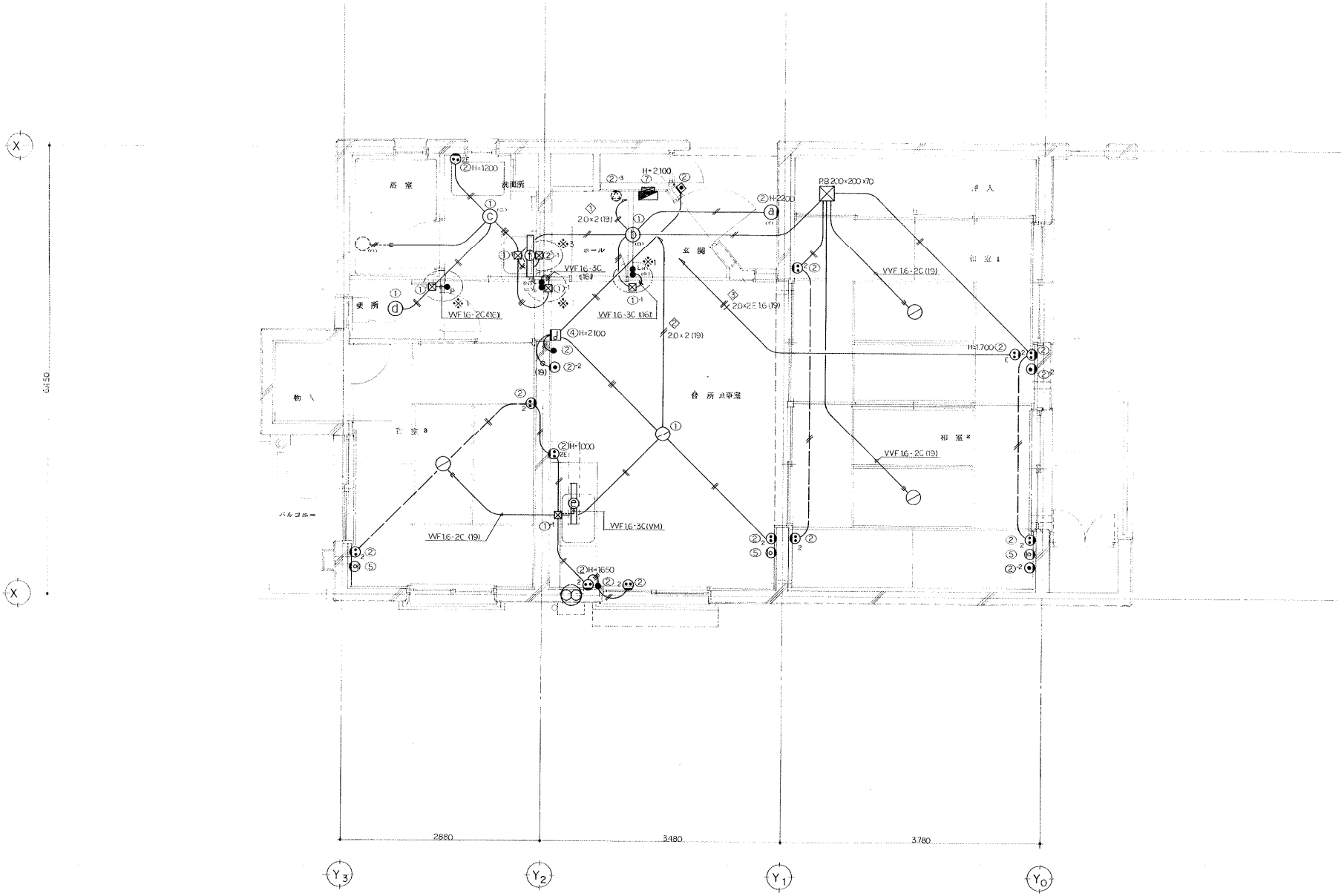
図面番号
11
17


X
X
2890
3600
洗面所
浴室
ホール
玄関
便所
台所食事室
和室1
和室2
押入
バルコニー
バルコニー
押入
H=1200
H=2100
H=2100
H=1700
H=1650
H=1000
H=2200
20×2 (19)
20×2 (19)
PB 200×200×70
VVF 1.6-2C (19)
VVF 1.6-2C (19)
VVF 1.6-3C (16)
VVF 1.6-3C (16)
VVF 1.6-2C (16)
2.0×2E 1.6 (19)
VVF 1.6-3C (VM)
2880
3480
3780
Y3
Y2
Y1
Y0

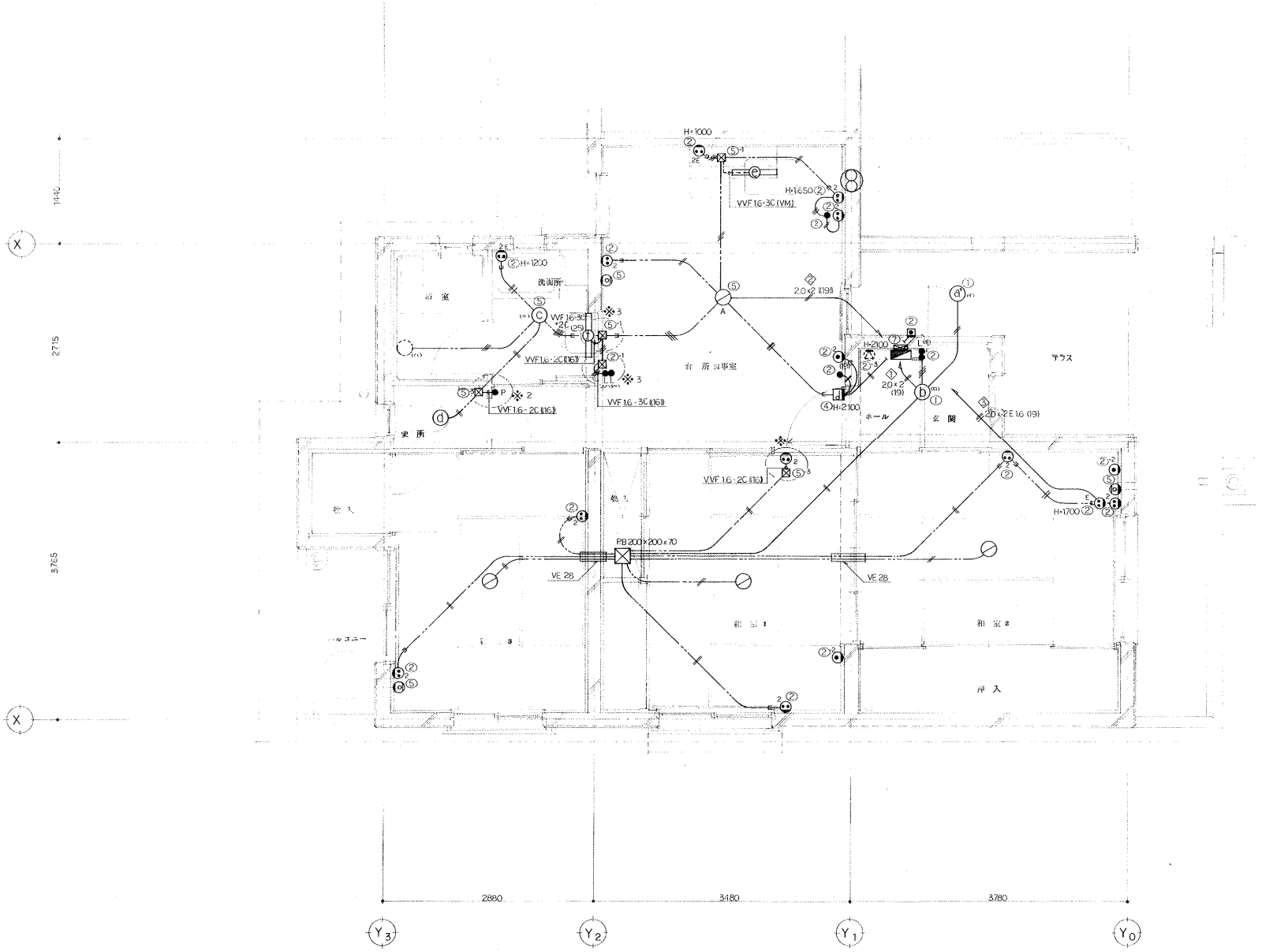
図面番号
12
17


VVF 1.6-3C (19)
VVF 1.6-3C (VM)
H-1000
H-1650
H-1200
VVF 1.6-2C (19)
洗面所
浴 室
VE 28
20×2 (19)
H-2100
台 所 食事室
テラス
玄 関
VVF 1.6-2C (16)
便 所
ホール
20×2 (19)
VVF 1.6-3C (19)
H-2100
VVF 1.6-2C (16)
VVF 1.6-2C (19)
20×2 E16 (19)
H-700
VVF 1.6-2C (19)
VVF 1.6-2C (19)
和 室 1
和 室 2
バルコニー
押 入
押 入
VE 28
PB 200×200×70
1440
2880
3600
2880
3480
3470
X
X
Y3
Y2
Y1
Y0

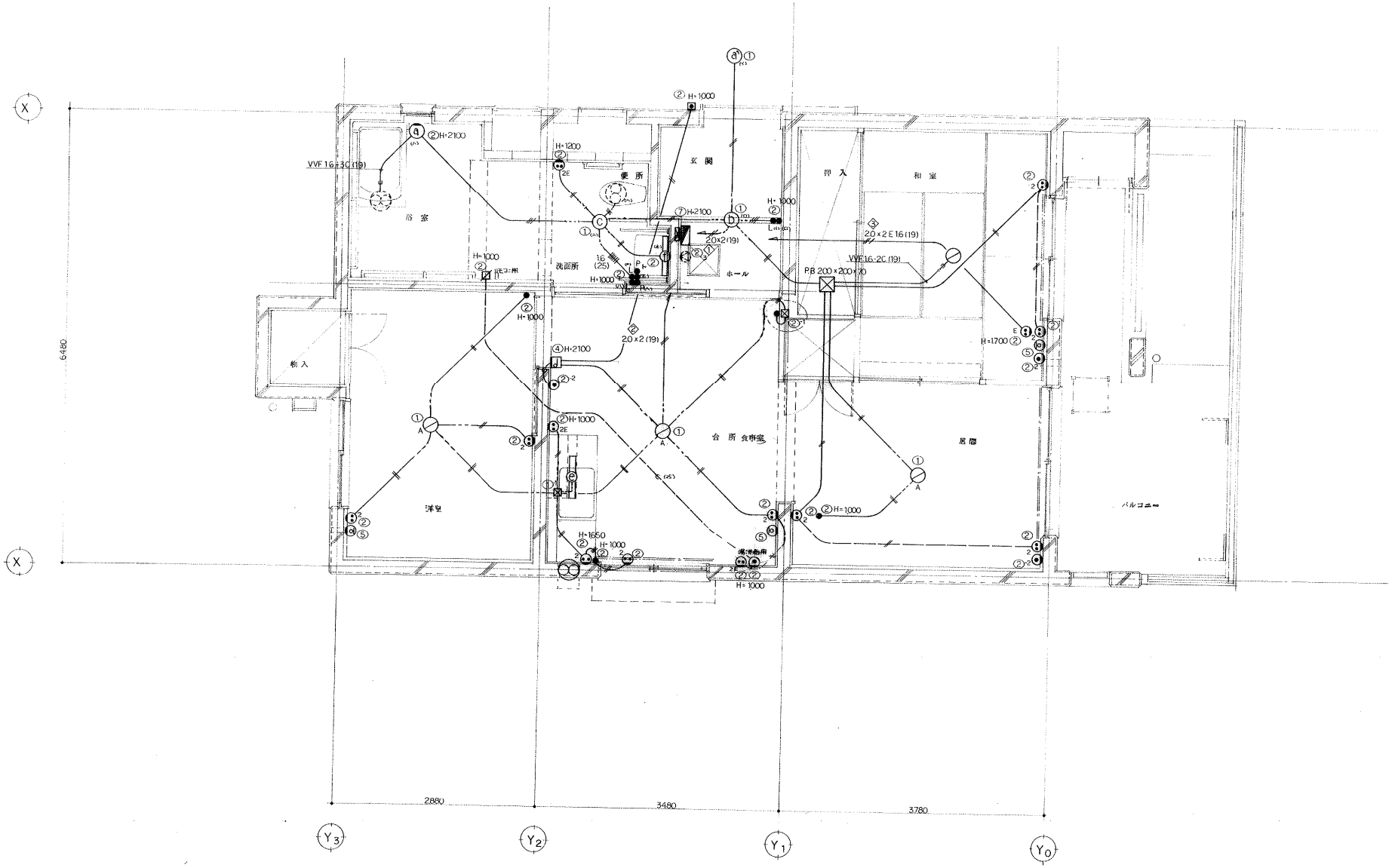
図面番号
13
17


浴室
洗面所
ホール
玄関
便所
物入
台所兼食堂
和室1
和室2
和室3
バルコニー
VVF1.6-3C (16f)
VVF1.6-2C (16f)
VVF1.6-2C (19)
VVF1.6-3C(VM)
2.0×2 (19)
2.0×2 E 1.6 (19)
PB 200×200×70
H=2100
H=2200
H=1200
H=1700
H=1000
H=1650
6450
2880
3480
3780
X
Y3
Y2
Y1
Y0

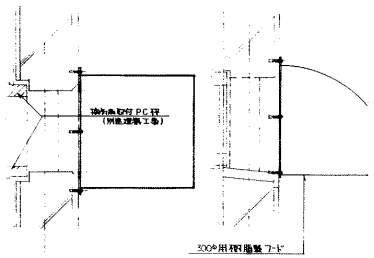
図面番号
14
17

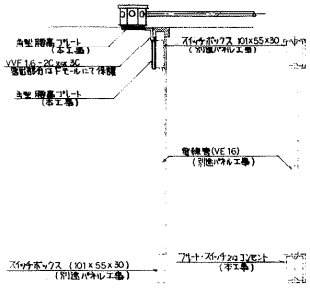

H=1000
H=1650
VVF 1.6-3C (VM)
H=1200
洗面所
浴室
台所
食事室
2.0×2 (19)
VVF 1.6-3C (16)
VVF 1.6-2C (16)
H=2100
テラス
ホール
玄関
2.0×2 E 1.6 (19)
H=1700
PB 200×200×70
VE 28
和室1
和室2
押入
ベランダ
更所
1440
2715
3765
2880
3480
3780
X
Y3
Y2
Y1
Y0

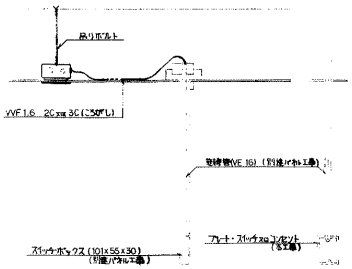
図面番号
15
17

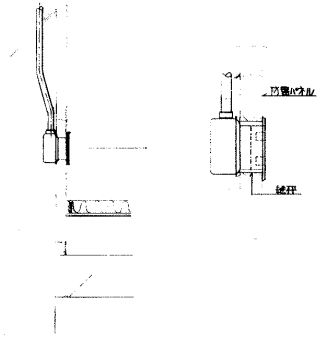

X
X
6480
浴室
洗面所
便所
玄関
押入
和室
ホール
物入
台所
食事室
居間
洋室
バルコニー
VVF 1.6-3C (19)
VVF 1.6-2C (19)
PB 200×200×70
2.0×2 (19)
2.0×2 E 1.6 (19)
H=1000
H=1200
H=2100
H=1700
H=1650
2880
3480
3780
Y3
Y2
Y1
Y0

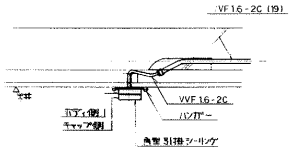
図面番号
16
17

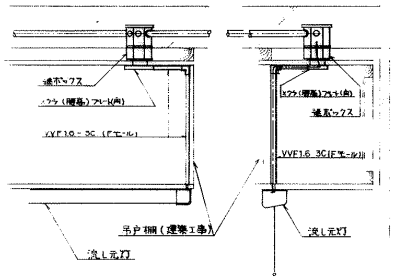


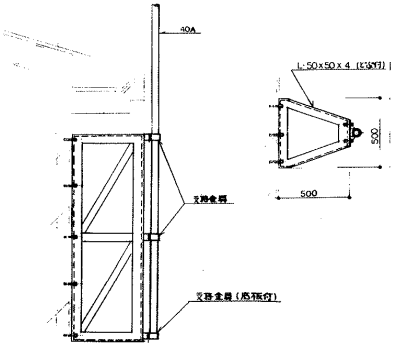


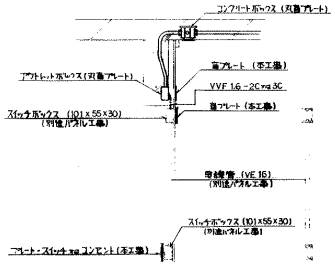


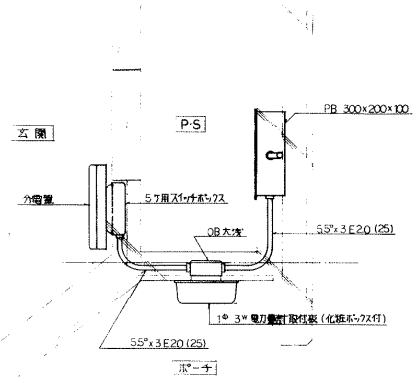




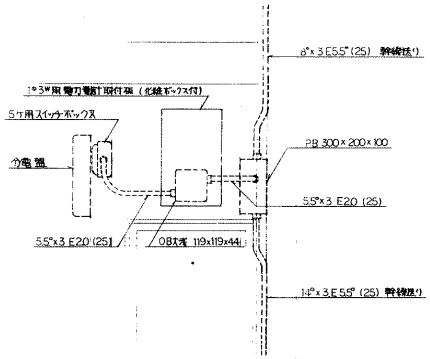








平面図



立面図

メーター廻り詳細図 1:10

図面番号
17
17

公営住宅２種中耐平和団地
９号棟　給排水衛生工事

図　面　目　録

図面番号	図　面　名　称	縮　尺
1	タイトル	
2	図面目録	
3	特記仕様書	
4	全体配置図、凡例	1：500
5	配置図、洋リスト	1：300
6	系統図、器具表	
7	1～3，R階平面図	1：100
8	住戸　平面詳細図　2DK－A－2	1：30
9	住戸　平面詳細図　2DK－B－2	1：30
10	住戸　平面詳細図　3DK－C－1	1：30
11	住戸　平面詳細図　2DK－C－2	1：30
12	住戸　平面詳細図　3DK－E－1	1：30
13	身障者住戸平面詳細図	1：30
14	便所廻り断面詳細図	1：10
15	洗面所廻り断面詳細図	1：10
16	浴室廻り断面詳細図	1：10
17	流し廻り断面詳細図	1：10
18	メーターボックス詳細図（1）	1：10
19	メーターボックス詳細図（3）	1：10
	~~メーターボックス詳細図~~	

図面番号 2

設備番号

設計年月日　昭和 61 年 6 月 日

工事名称　公営住宅第 種中耐平和団地 9 号棟 給排水衛生工事

種別　特記仕様書

検印　課長　補佐　係長　設計

特記仕様書

給排水衛生工事	空気調和工事
● 衛生器具工事	○ 空気調和工事
● 給水工事	○ ボイラー及び付属機器
● ㋑ 屋内給水	○ ㋑ 冷凍機
● ㋺ 屋外給水	○ ㋺ 空気調和機器
● 排水工事（含通気）	○ ㋩ 風道
● ㋑ 屋内排水	○ ㋺ 配管
● ㋺ 屋外排水	○ ㋩ 自動制御
● 給湯工事	○ ㋥ 総合調整
○ 消火工事	● 換気工事
○ ㋑ 屋内消火	○ ㋑ 機器
○ ㋺ 屋外消火	○ ㋺ 風道
● ガス工事	○ 排煙工事
● ㋑ 屋内ガス	○ ㋑ 機器
● ㋺ 屋外ガス	○ ㋺ 風道
○ 浄化槽工事	○
○ 厨房器具工事	● 運搬費
	● 仮設費
○	● 諸経費

Ⅰ 一般事項

1. 本工事は、本特記仕様書によるほか、建設大臣官房庁営繕部監修の機械設備工事共通仕様書（昭和60年版）又は、建設省住宅局監修の公共住宅建設工事共通仕様書（昭和57年版）（以下共通仕様書という）による。
2. 本工事の使用資材の品質、規格、種別等は本特記による。
3. 本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続等の費用はすべて請負業者の負担とする。
4. 施工計画書は、着工に先だち、別に定める様式により作成し、監督員に提出する。
5. 本工事に下記の当該職特技者を適用させる。（但し◎印のみ）（P－7 1.5.2）
（共仕・標図の参考頁）
・配管技能士　・ダクト板金技能士
・熱絶縁施工技能士　・冷凍、空気調和機器施工技能士
6. 本工事で、特記事項に定める「立会検査を要する施工工程」に達するときは、事前に監督員に連絡して立会検査をしもしは指示に従うこと。（P－7 1.5.4）
7. 設計図書に明記なくとも関係法令上または機器の機能上当然必要となるものについては、設計として請負金の範囲内で施工する。
8. 発注材の給置については、監督員の指示によること。
9. 本工事の施工に伴う既設建物の破損箇所は原状になない復旧する。

Ⅱ 特記事項

区分	項目	特記事項
共通	1. 特殊な材料と工法	共通仕様書に記載されていない特殊な材料による施工する場合は監督員の承認を得ること。なお、特殊な材料による施工は当該製品の指定工法による。
	2. 雑設工事との取合	壁面、天井面等に機器取付のため必要な開口部等を設ける場合の施工の範囲は、設計図書等に明記のない場合は監督員の指示によること。
	3. 別契約の関係工事	別契約の関係工事については、当該工事関係者と協力し、工事の円滑な進ちょくを図るものとし、疑問が生じたら監督員の指示によること。
	4. 施工過程における調整	工事現場進行の過程における調整については、支庁、土木事務所建築課長（又は担当建築技師）と充分に打合せを行い、指導を受けること。
	5. 完成図	設計図図を施工現場と一致するよう必要な訂正をした後、青写真に複写し B－5 版サイズに製本したもの2部、円径3.8cm、および既存マイラーベース（アセテート系）B－4 版1部を提出する。訂正した原図は監督員に返納する。完成図の提出期限は、工事契約期間の終了する日以内とする。（P－8 1.6.2）
	6. 試験成績書	都市ガス設備、液化石油ガス設備は、ガス供給事業者の規定するガス製定試験成績書を2部提出する。県指定様式による。その他の試験成績書は監督員の指示による。（P－7 1.5.6）（P－8 1.6.1）
	7. 申請書類	本工事の施工に必要な官公署等への申請書類は原本または その写しを2部つづり作成し、完成図と一緒に提出する。（P－1 1.1.7）
	8. 保守指導書内容	本工事の機械設備について保守管理上必要な事内容をタイプ複写にて2部作成し、完成図と一緒に提出する。
	9. 工事報告	工事報告は、別に定める工事出来高報告書によりり毎月末現在の出来高等を当月の25日までに監督員に提出する。
	10. 工事写真	完成写真は、工事完成時に撮影し、一部作成して工程写真と共に提出する。（写真はすべてカラーとする）施工された設備の全形もしくは一部が地中又は水中に埋没、埋没あるいはコンクリートに埋込まれる設備は写真で確認できる様にすること。なお、必要に応じスケール写し込みとする。（P－8 1.6.1）

Ⅲ 特記仕様（下記項目および特記事項中●印を付けたものを本工事に適用）

項目	特記事項

① 衛生器具設備　（P 79. 2 1. 1）

①	大便器用自動洗浄弁	○・ウォームブレーカー付フラッシュバルブ（ノンホールディング機構付）●ロータンク（防露型）洗浄管は固定。（P－46～114）（P－85）
②	小便器自動洗浄方式	○フラッシュバルブ　○パイタンク　○水栓
③	標示板	陶器製とし、取付けは大便器および小便器各1組に1個とする。（参）大便用 A21 L 6．小便用 A21 L 3（大人）、A21 L 9（生徒）
④	汚物入	プラスチック製とし、大便器1組に1個とする。
⑤	紙巻器	クロームメッキ製とする。（P－44）
⑥	水栓類	原則として JIS 規格、JWWA 規格（日水協）適合品とし、鉛水でまみすな。（P－46 1.1.9）

② 屋内給水設備

①	給水方式	○公設水道直結式　●重力（高置水槽）方式　○圧力水槽方式　○加圧送水方式
②	管種	○水道用亜鉛鋼鋼管　●塩ビライニング鋼管（◎黒●白）○内外亜塩ビライニング鋼管（専用継手を使用）（P－67. P－63）
③	井水	水槽以降の配管には5kg／cm² 型とし、その他は10kg／cm² 型とする。（JIS 規格）逆止弁は呼び径50以下の揚水ポンプ付属逆止弁もバイパスすけさない。呼び径65以上の仕切弁、逆止弁はライニング弁とする。（P－71 1.7.2）
④	高置水槽	FRP 製（○一体型○組立型○単板構造◎保温構造）設計用水平震度は 1.0 G とする。2 m²以上は内外ハシゴ付。（P－62）
⑤	ポンプ電動機	全閉防まつ形とする。（P－39）
⑥	ボールタップフロート（定水位子弁含）	○銅板製　○ポリエチレン製（P－72）

③ 屋外給水設備

①	管種	○水道用亜鉛鋼管　○内外面塩ビライニング鋼管（専用継手を使用）●HIVP　○SGP－VB。（P－67. P－63）
②	継手材	専用継手としまジ部にコンパウンド、継手受口端部に専用テープを使用すること。
③	仕切弁弁	呼び径32までは VC－1（180×180×550 H フタ B 1），呼び径40～65までは VC－3（300×300×700 H フタ B 2－A）とする。呼び径80からは VC－5（450×450×1200 H フタ B 2－R）よすん。（図 P－58 機材33）（図 P－59. 機材34）
④	量水器	積材デジタル型 親メータ（◎貸与　○買取り）子メータ（◎貸与　○買取り）
⑤	量水器桝	呼び径32までは MC－1（430×310×550 H フタ MB－1），呼び径40～75までは MC－2（710×510×750 H フタ MB－2）とする。呼び径100からは MC－3（1100×710×750 H フタ MB－3）とする。（図 P 61，機材36）
⑥	標準埋設深さ	ビニル管（一般450 H ・車線900 H）　鋼管（一般300 H ・車線750 H）
⑦	伸縮ジョイント	鋼管とビニル管の接続箇所には、エラス（又はフリー）ジョイントを使用する。

④ 屋内排水設備　（P 88）

①	汚水管	○排水用鋳鉄管（メカニカルジョイント型）●硬質塩化ビニル管（VP）
②	雑排水管	●配管用炭素鋼ｎ管（白）●硬質塩化ビニル管（VP）
③	洗面器等の排水管	洗面器および手洗器に直結する排水立管寸法は器具トラップよりワンサイズアップとする。
④	床上掃除口直下の曲管	汚水系統に取り付ける床上掃除口直下の曲管は90°長曲管とする。
⑤	器具との接続	鉛管、MY ジョイント接続とする。（手洗い、洗面器の配管接続はハンダ付とする）洗し等の排水接続は配管接続とする。（ジャバラは不可）
⑥	通気金物	●アルミ（耐鉛製）●ビニル製
⑦	排水金物	ネジ込型（掃除口は差込型とする）

⑤ 屋外排水設備　（P 77）

①	管種	○ヒューム管（外圧1種B）●硬質塩化ビニル管（◎VP　○VU）　○HIVP　○陶型管
②	マンホールふた	●鋳鉄製（◎MHA 形、◎MH B形）　名称入り、蓋鋼付とする。
③	汚水・雑排水桝	鉄製コンクリート桝使用可。深さ1m以上の桝には足掛金物（中心150装備付）を取り付けること。（図P 64　機材39）

⑥ 給湯設備　（P 51. P 91）

①	管種	○鋼管　○本通用亜鉛鋼鋼管　●耐熱塩ビライニング鋼管（黒）　○被覆銅管　○耐熱ビニル管
②	貯湯槽の材質	○ステンレス鋼板製（電気防食装置付）　○ステンレスクラッド鋼板製（電気防食装置付）　○鋼板製
③	給湯水槽の保温	ロックウール2号 50 t，外装はステンレス鋼板（0.3 t）

⑦ 消火設備　（P 57. P 93）

①	管種	○配管用炭素鋼ｎ管（白）　○外部ライニング鋼管（白）　○HIVP
②	屋内消火栓箱	ホース掛型とする。鋼製 t＝1.6 m／ｍ扉面積 0.7 m² 以上　但し連結送水管用放水口併設 0.8 m² 以上　操作方法表示付
③	弁	10kg／cm² 型とする。（JIS 規格）○並型　○定圧定流量型
④	ポンプ電動機	全閉防まつ型とし、出力11 KW 以上（スターデルタ起動）の場合は端子ボックス（参 200×200×100 H）を取り付けること。

⑧ ガス設備　（P 191～201，図P 120，P 121）

①	種類	○都市ガス（発熱量　Kcal／m³）　●液化石油ガス（プロパン）発熱量 12000 Kcal／kg
②	管種	●配管用炭素鋼ｎ管（白）　○鋼管　●外面塩ビライニング鋼管（黒）
③	ガスメータ	●貸与品　○買取り
④	接合材	ガス専用接合材を使用すること。
⑤	継手	専用継手としまジ部にコンパウンド、継手受口端部に専用テープを使用すること。
⑥	転倒防止鋼	本工事に含む。
⑦	絶縁継手	外部から建物内への配管部に絶縁継手を設ける。
⑧	施工	有資格者の責任施工とする。

9. 屋探浄化槽設備　（P 207～218）

1.	型式	建設省告示 1292 号に指定する構造とする。（　の　） 処理対象人員（　　）人　処理水量（　　）m³／日 ○単独処理　●分離接触ばっき方式　○分散ばっき方式　○散水濾床方式 ○合併処理　○接触ばっき方式　○散水濾床方式　○回転板接触方式　○長時間ばっき方式　○標準活性汚泥方式
2.	マンホールふた	○MH A 型　○MH B 型　○GRC 型　○鋳鋼板（4.5 t）
3.	放流水質（BOD）	○60mg／l　●60mg／l　○30mg／l　○他（　　）mg／l
4.	金物類	支持金物、ボルトナット、その他すべてステンレス鋼製とする。（P－215 2.1.24）
5.	水質検査（合併処理）	浄化槽使用開始後6～8ヶ月内に1回放流水質検査を行い報告書を監督員に提出する。（浄化槽法第7条に基づく8項目＋大腸菌群数）

⑩ 暖房・冷房・空気調和・換気設備

1.	方式	○直接暖房　○蒸気　○温水 ●冷暖房　○空冷冷房専用　○空冷ヒートポンプ ○空気調和（　　）										
2.	設計条件		外気		室内							
					一般系統							
			温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）	温度（DB）	湿度（RH）		
		夏季	℃	％	℃	％	℃	％	℃	％		
		冬季	℃	％	℃	％	℃	％	℃	％		
3.	機器付属の制御盤	共通仕様書第1編2.9.3に従よ。 遠心冷凍機の主制御器は気中式とする。										
4.	ボイラ	燃料（○灯油　○A重油　●B重油　○ガス）										
5.	煙突温度計	○設ける。電熱ばバーナ電源（2次）側より取出すものとして配管配線を含む。（P－100 1.1.9）										
6.	ばいじん量測定孔	●煙道の直線部に径150 φの孔										
7.	煙道	鋼板厚3.2 ㎜（P－100 1.1.8）										
8.	風道	風速（○低速　○高速）（P－143～145） フランジ部のダクト端折り返しは5㎜以上とし、ダクト折り返し部の四隅には・ールを施す。（P－161） 厨房、浴室などの多湿箇所の排気送過は、その継目及び継手を外部よりシール材でシールを施すか、又はふだ付けれ施し、必要により水抜管を設ける。（P－160～166） ●シール材　シリコンゴム系又はニトリルゴム系を基材としたもので、風道材質に悪影響を与えないものとする。（P－144 シール材）										
9.	フレキシブルダクト	建築基準法施行令第108条の2の規定により、不燃材料の認定を受けたもので、十分な可撓性と耐圧強度及び耐食性を有するもとし、冷暖房に用いる場合は熱絶縁性の優れたものとする。（P－145 1.11.4）										
10.	風量測定口	取付箇所（○送風機に直接した部分　○外気取入付近　○取付を投示されたダンパー近接部分） ●取付辺300未満は1箇、300以上700未満は2箇、700以上は3箇とする。（P－148 1.11.17）										
11.	チャンバー	内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外寸を示す。 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバ及びルーバには、管を設け最寄りに排水する。（P－145 1.11.5）										
19.	防火ダンパー 防煙ダンパー 防火防煙ダンパー	共通仕様書によるほか下記による。 遮蔽方式（○遮蔽式　●可動式、定格入力DC24V，0.5 A以下　○手元式） 操作方式（○瞬時通電式又は可動式、定格入力DC24V，0.5 A以下） 自動方式（●煙送り閉鎖機構　○同時閉鎖機構） 表示用端子（○設ける ●（財）日本建築センター許定品を使用する。（P－147）										
13.	配管材料	冷温水管（○配管用炭素鋼鋼管：白管　○　　） 冷却水管（○ライニング鋼管：VA　○　　） 蒸気管　配管用炭素鋼鋼管：黒管 油　管　配管用炭素鋼鋼管：黒管 冷媒管　銅管 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラへの給水管は、配管用炭素鋼鋼管（白管）とする。											
14.	可撓継手（鋼製フランジ付）	ステンレス製	一般配管用	管径	25 以下	32 ～ 50	65 ～ 150	200以上	（P－73 1.7.9）			
				全長㎜	300	500	800	1000				
			油配管用	管径	25 以下	32 ～ 40	50 ～ 80	（P－151 1.12.10）				
				全長㎜	300	500	800					
		ゴム製		管径	40 以下	50 ～ 80	100 以上					
				全長㎜	300	500	700					
15.	防振継手	鋼製フランジ付　・振動の出る機器については防振吊りを施すこと。（P 73 1.7.9）										
16.	弁類	JISの呼び圧力5kg／cm²とする。ただし、特記部分は JIS の呼び圧力10kg／cm²とする。 65 t 以上の冷却水配管の弁は、ライニング弁とする。 屋内貯油槽及び油サービスタンクの最高液面以下に設ける元弁及びドレンバルブは JIS B 2073（鋳鋼10kg／cm² フランジ形外れ止仕切弁）によるものとする。										
17.	サービスタンクの油面計	ゲージ式（例圧式）（P－153 1.13.4.）										
18.	多翼形送風機の基礎	○標準基礎　○防振基礎（A形）　○防振基礎（B形）（P－158 図P－129～130 施工21～22）										
19.	ポンプ基礎	○標準基礎　○防振基礎（A形）　○防振基礎（B形）（P－155 図－128 施工20）										
20.	遠心冷凍機の基礎	○標準基礎　○防振基礎（図P－131 施工23）										
21.	チラーユニットの基礎	○標準基礎（A形）　○標準基礎（B形）　○防振基礎（図P－132 施工24）										
22.	ユニット型空気調和機の基礎	○標準基礎（A形）　○標準基礎（B形）　○防振基礎（図P－132 施工24）										
23.	パッケージ型空気調和機基礎	○木台（防振パット共）　○コンクリート（防振パット共）										
24.	吹出口	アルミニウム製										
25.	温度計	共通仕様書によるほか、下記の箇所に取付ける。 ○温水ボイラの温水入口 ○空気調和機廻りの給気温湿、還気温湿及び外気温湿 ○冷温水管寄せ（往）及び冷温水管寄せの各連り管										
26.	瞬間流量計及び流量測定口	共通仕様書によるほか、下記の箇所に取付ける。　○瞬間流量計　○流量測定口 冷凍機の冷水出口 ボイラ又は熱交換器の温水出口 冷温水管寄せの各送り管（P－148 1.11.17.） ●測定用タッピングは32φピトー管流量計用とする。（P－154 1.13. 7.）										
27.	膨張水槽の保温	ロックウール保温板（2号）50 t を使用し、外装はステンレス鋼板0.3 t とする。										
28.	隠ぺい風道の保温	フランジ部は保温材2枚裏おとする。										
29.	パッケージ型空調機	屋外機カバー（○要　○不要）　材質はナイロンターポリン0.34 t とする。 耐塩処理（○要　●不要） 三乗電機－簡易仕様（但し屋外機鋼管個所塩処理）、東芝－害塩害仕様 ダイキン－塩害対策形（E_1型），松下－重塩害対策仕様、日立－耐塩標準品（但し、底板を樹脂系塗装処理），三菱重工－中耐塩											

⑪ 各種試験，調整

給水設備	(1)	給水装置に該当する管は、水道事業者の規定圧力。ただし、最小圧力175kg／cm²，ピニール管10kg／cm² とする。
	(2)	器水管は当該ポンプの全揚程に相当する圧力の2倍の圧力。（最小7.5kg／cm²）
	(3)	高置水槽以下の配管は、給水栓に相当する圧力の2倍の圧力。（最小7.5kg／cm²）（P－87 2.2.4）
消火設備		消防用設備等試験結果報告書の記入にあたって行う。消防用設備等の機能等についての試験結果に基づく外観試験及び性能試験を行う。（P－94 2.5.4）
給湯設備		給水設備の試験に準ずる。
ガス設備	(1)	気密試験及び点火試験とする。（高圧側 156kg／cm²，低圧側 840 ㎜H₂O）（P－197 2.2.5）
	(2)	点火試験は、ガスメーター取り付後、管内の空気を排去して行う。（P－201 3.2.5）
総合調整		各種機器調整及び風量、風速、騒音、温度、湿度の測定等。

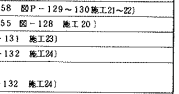
⑫ 保温工事　（P26～38）

単位：㎜

番付	呼び径	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300 以上	保温材仕様	区分
給水・排水・消火及び通気管							20									フォーム的スチレン	ア
給湯管（屋内管）				20							25		40		50	グラスウール	イ
冷温水（屋内管）		30				40									50	グラスウール	ウ
冷却水		30				40									50	フォームポリスチレン	エ
冷温水管（屋外管）				20					25		40		50			グラスウール	オ
蒸気管		25			30			40					50			グラスウール	カ
一般風道		屋内露出部50，屋内隠ぺい部25														グラスウール	キ
冷媒管							20									ロックウール	ク

施工箇所及び管種用途		防露保温等施工順序	保温材（下地含）	粘着テープ（60）	ポリエチルム	アスファルトフェルト	アスファルトルンド	鉄線	鉄網	ビニルテープ	綿布	アルミガラスクロス	防水麻布	ステンレス鋼板	塗装（下地含）	プライマー	保温厚仕様区分
屋内露出	給水・消火管	筒	○						○		○			○			ア
	排水管	筒							○		○			○			ア
	給湯管	筒						○	○		○			○			イ
	冷温水管	筒		○	○			○	○		○			○			ウ
	冷却水管	筒							○		○			○			エ
	温水管	筒						○	○		○			○			オ
	蒸気管	筒						○	○		○			○			カ
	冷媒管	筒						○	○		○			○			ク
	矩形風道	板												○注2			キ
	円形風道	巻						○						○注2			キ
屋内隠ぺい	給水・消火管	筒	○						○		○						ア
	排水管	筒	○						○								ア
	給湯管	筒							○		○						イ
	冷温水管	筒			○	○			○		○						ウ
	冷却水管	筒							○		○						エ
	温水管	筒							○		○						オ
	蒸気管	筒							○		○						カ
	冷媒管	筒						○	○		○						ク
	矩形風道	板	○								○						キ
	円形風道	巻	○								○						キ
床下及び暗渠内	給水・消火管	筒	○						○				○		○		ア
	トレンチ・ピット内の排水管	筒	○						○				○		○		ア
	給湯管	筒							○				○				イ
	冷温水管	筒			○				○				○				ウ
	冷却水管	筒							○				○				エ
	温水管	筒							○				○				オ
	蒸気管	筒							○				○				カ
	冷媒管	筒						○	○				○				ク
	矩形風道	板	○										○				キ
	円形風道	巻	○										○				キ
屋外露出及び多湿箇所	給水・消火管	筒	○						○					○			ア
	排水管	筒							○						○		ア
	給湯管	筒							○					○			イ
	冷温水管	筒			○				○					○			ウ
	冷却水管	筒							○					○			エ
	温水管	筒							○					○			オ
	蒸気管	筒							○					○			カ
	冷媒管	筒						○	○					○			ク
	矩形風道	板	○											○			キ
	円形風道	巻	○											○			キ

参考）冷媒管の防露・保温要領



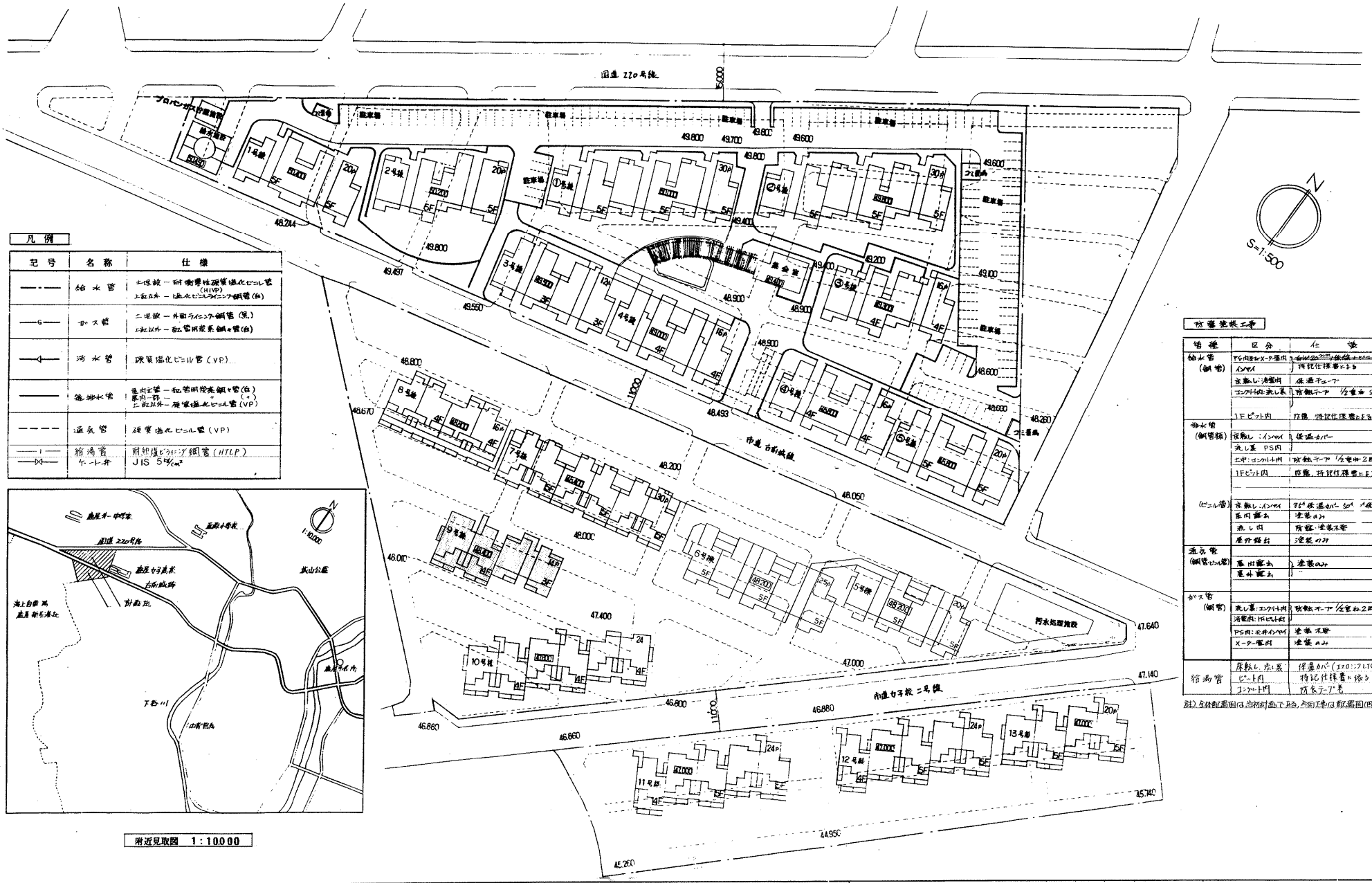
参）保温カバー（チューブ）
発泡ポリエチレン又は架橋ポリプロピレン製
軟質塩ビフィルム被覆、接着剤付
厚さ 7.0～10.0㎜
被管　耐熱温度　120℃
ガス管　〃　80℃
成形に支障ある場合はロックウール保温材を成形補助材として使用する。

注）1 屋外露出の外装材には、保温内に水が浸入しないよう必要に応じてシールする。
2 屋内露出風道のステンレス鋼板は亜鉛鋼板又は着色亜鉛鋼板に読み変える。
但し、各機械室の仕上げはフルミガラスクロスに金網押えとする。
3 冷水管の保温筒の継目は接着剤で貼合す。

⑫ 共通事項

①	機材	使用機材は、九州地方建設局営繕部設備機材製造者等指定名簿（最新版）記載品、または同等品以上のものとする。
②	防火区画貫通部	区画貫通の管種は、建築基準法に従い施工する。なお、その際の保温材・充填材は全てロックウールとし、共通仕様書に準じ施工する。（P－65 2.2.3(6)）
③	機物導入部の配管	管のたわみ性を利用した方法で施工する。（P－85 2.2.3(6) P－196(0) 図P－149）
④	標識その他	機器類・弁類・保守工具及び配管等には適宜その名称、内容及び矢印等を記入　もしくはプラスチック製札を胴印したものを指示により取付ける。必要に応じ、消防法などによる標識（危険物・火気厳禁他）を設置する。（P－ 1.6.3. 1.6.4）
⑤	配管用のスリーブ	原則として、亜鉛鋼製とする。（P－74 1.7.13）
⑥	防食コア	内面をライニングした管の使用にあっては、必ず管端に防食コアを装着す。
⑦	支持金物類	屋外、ピット内及び多湿箇所の支持金物類はステンレス鋼製とする。
⑧	はぜ折り	ラッキングはボタンパンチスナップはぜとする。ダクトの はぜ折り寸法は6㎜以上とする。
⑨	弁	呼び径65以上の弁はFJ 式とす し。（P－71 1.7.2）
10.	屋外露出の弁類	防錆・保温の上ステンレス鋼板により外装を施し、弁棒はグリスアップする。
11	専用工具の使用	外面被覆鋼管の施工にあ っては、必ず専用工具を使用する。（P－83 (4)）
12	器具類の隔開処理	洗面器等の取付壁面との隔開はシリコン材でシールする。（P－79 (5)）
13	鉛管及びコンクリート埋設鋼管	防食用ビニルテープでしり2重ね2回巻を行なう。（P－18 (5) P－26 7.）
14	土中埋設鋼管継手	外面を被覆してない鋼管は、ペトロタム系ペーストを塗布のうえ、ペトロタム系防食テープ1／2重ね1回巻を行ない、さらに防食用ビニルテープ（JISZ 1901 厚さ 0.4㎜）1／2 重ね1回巻を行う。但し、井、雑排等の部分はペトロタム系防食シートで包み込み、さらに防食用ビニルテープを巻く。（施工手順を撮影の上 工程写真に表わす）（P－18 (4)）
15	埋設管の標示テープ	下記の埋設管には、管頂部全長にわたって、埋設表示標示テープを貼り付ける。 直結給水管（市水本管接続部）　<緑色>　給水管（水槽以降）　<空色> 排水管（受水槽～高架水槽間）　<茶色>　井水管　<白色> 消火管　<橙色>　ガス管　<緑色>
16	埋設標	原則として、主中埋設のガス管、給水管及び排水管の分岐点り形には アルミ製ネル蓋をコンクリート（200 ㎝×300 H）で色込み、配管とステンレス鋼で緊結の上設置する。（P－86 (6)　P 196 (4)）
17	既製コンクリート桝	厚さ100㎜とする。但し、点検用桝及び300□は厚さ60㎜でり。

図面番号 3



凡例

記号	名称	仕様
—·—·—	給水管	土埋設 — 耐衝撃性硬質塩化ビニル管(HIVP) 上記以外 — 塩化ビニルライニング鋼管(白)
—G—	ガス管	土埋設 — 外面ライニング鋼管(黒) 上記以外 — 配管用炭素鋼鋼管(白)
—·—·—	汚水管	硬質塩化ビニル管(VP)
———	雑排水管	屋内立管 — 配管用炭素鋼鋼管(白) 屋内一部 〃 (〃) 上記以外 — 硬質塩化ビニル管(VP)
- - - -	通気管	硬質塩化ビニル管(VP)
—I—	給湯管	耐熱塩ビライニング鋼管(HTLP)
—⋈—	ケーキ弁	JIS 5kg/cm²

附近見取図 1:10,000

防蝕塗装工事

箇所	区分	仕様
給水管 (鋼管)	下記以外のメーター廻り	~~ポリスリーブ被覆+ビニルテープ~~
	メンバイ	特記仕様書による
	床埋し・壁際	保温チューブ
	コンクリート内・床下	防蝕テープ 1/2重巻 2回巻
	1Fピット内	防錆、特記仕様書による
排水管 (鋼管類)	床埋し・メンバイ	保温カバー
	洗し場 PS内	
	土中・コンクリート内	防蝕テープ 1/2重巻 2回巻
	1Fピット内	防錆、特記仕様書による(ビニル管共)
(ビニル管)	床埋し・メンバイ	75φ 保温カバー 50t メ保温チューブ
	屋内露出	塗装のみ
	洗し内	防錆・塗装不要
	屋外露出	塗装のみ
通気管 (鋼管・ビニル管)	屋内露出	塗装のみ
	屋外露出	
ガス管 (鋼管)	洗し場・コンクリート内	防蝕テープ 1/2重ね 2回巻
	浴室内・1Fピット内	
	PS内・天井メンバイ	塗装不要
	メーター廻り	塗装のみ
給湯管	床埋し・洗し場	保温カバー(エコロフトQ同等)
	ピット内	特記仕様書による
	コンクリート内	防食テープ巻

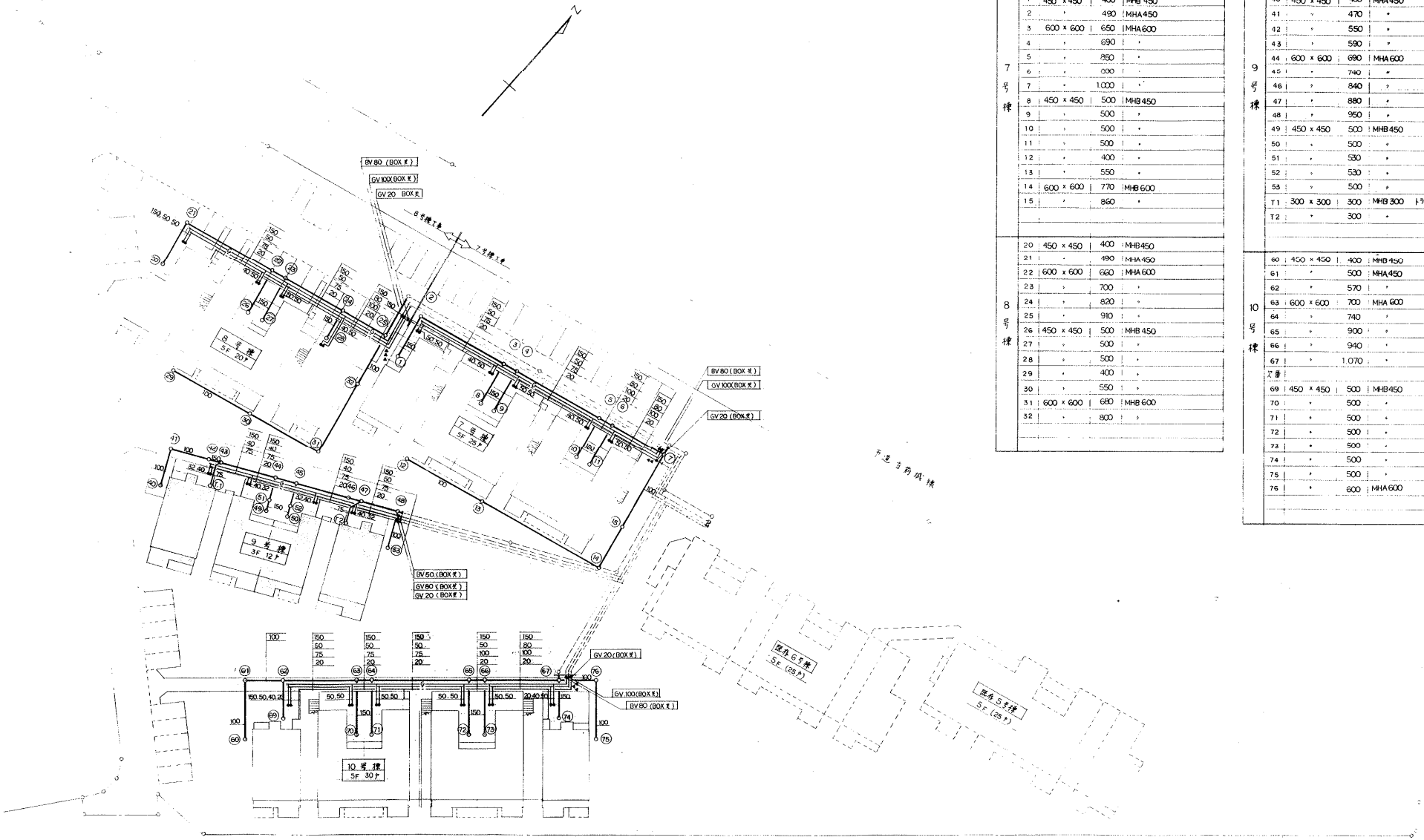
注) 全体配置図は当初計画であり、今回工事は配置図(図面5)とする。

図面番号
4

桝リスト

号棟	桝NO.	大きさ	参考深さ	マンホール 名称
7号棟	1	450 x 450	400	MHB 450
	2	〃	490	MHA 450
	3	600 x 600	650	MHA 600
	4	〃	690	〃
	5	〃	850	〃
	6	〃	890	〃
	7	〃	1,000	〃
	8	450 x 450	500	MHB 450
	9	〃	500	〃
	10	〃	500	〃
	11	〃	500	〃
	12	〃	400	〃
	13	〃	550	〃
	14	600 x 600	770	MHB 600
	15	〃	860	〃
8号棟	20	450 x 450	400	MHB 450
	21	〃	490	MHA 450
	22	600 x 600	660	MHA 600
	23	〃	700	〃
	24	〃	820	〃
	25	〃	910	〃
	26	450 x 450	500	MHB 450
	27	〃	500	〃
	28	〃	500	〃
	29	〃	400	〃
	30	〃	550	〃
	31	600 x 600	680	MHB 600
	32	〃	800	〃

号棟	桝	大きさ	参考深さ	マンホール 名称
9号棟	40	450 x 450	400	MHA 450
	41	〃	470	〃
	42	〃	550	〃
	43	〃	590	〃
	44	600 x 600	690	MHA 600
	45	〃	740	〃
	46	〃	840	〃
	47	〃	880	〃
	48	〃	950	〃
	49	450 x 450	500	MHB 450
	50	〃	500	〃
	51	〃	530	〃
	52	〃	530	〃
	53	〃	500	〃
	T1	300 x 300	300	MHB 300 トラップ桝(宮トラップ)
	T2	〃	300	〃 〃
10号棟	60	450 x 450	400	MHB 450
	61	〃	500	MHA 450
	62	〃	570	〃
	63	600 x 600	700	MHA 600
	64	〃	740	〃
	65	〃	900	〃
	66	〃	940	〃
	67	〃	1,070	〃
	立管			
	69	450 x 450	500	MHB 450
	70	〃	500	〃
	71	〃	500	〃
	72	〃	500	〃
	73	〃	500	〃
	74	〃	500	〃
	75	〃	500	〃
	76	〃	600	MHA 600

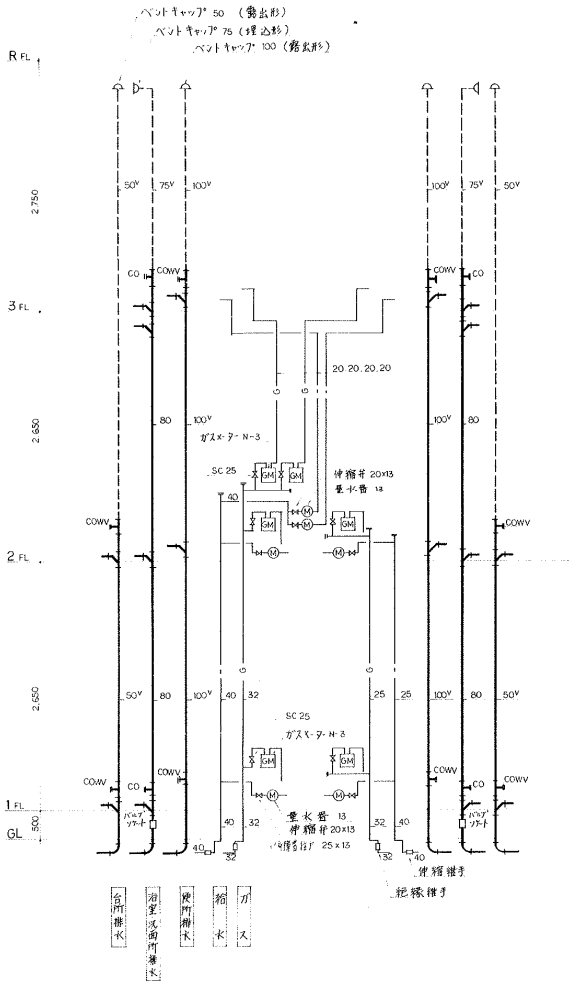


配置図 S=1:300

→ は GV, BV を示し、引込先は別紙に従う

▲ は 汚設桝を示す。

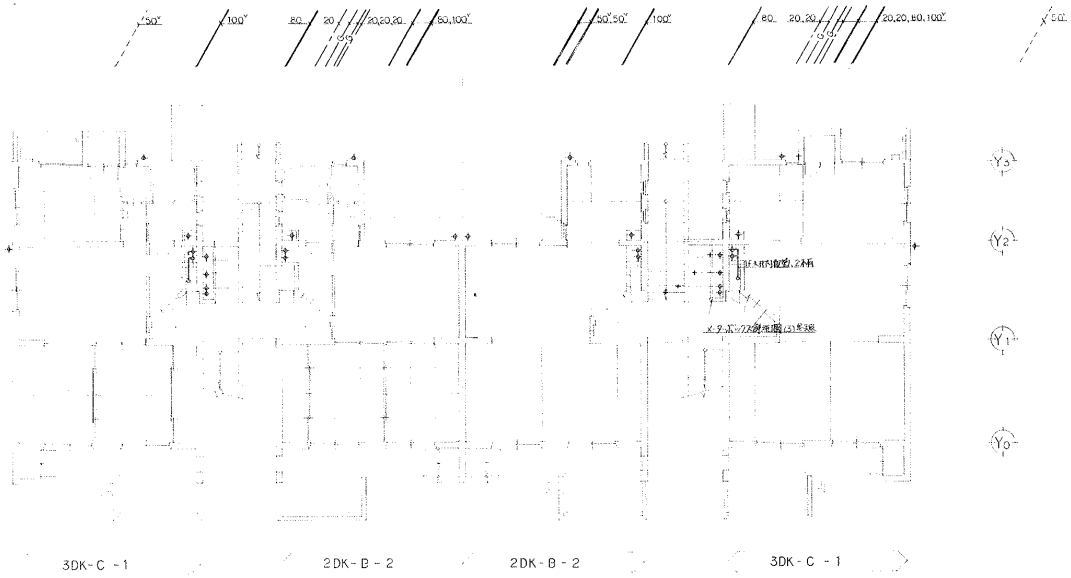
図面番号
5



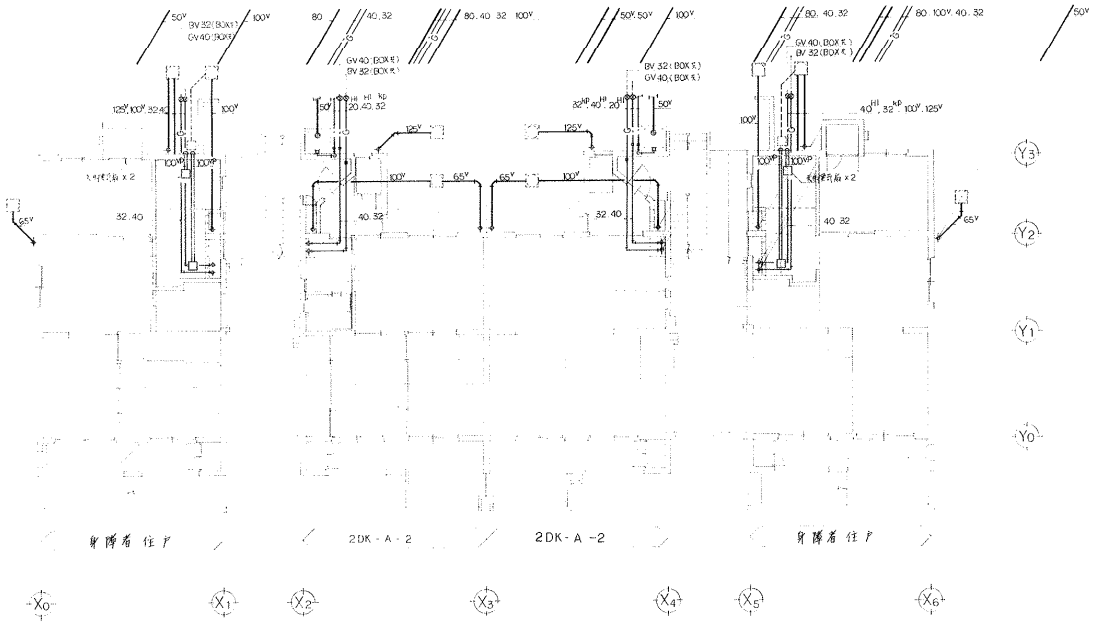
系　統　図　(1階段分)

器　具　表

器具名称	器具型番	住戸当	9号棟 (12戸) 2DK A-2	2DK B-2	3DK C-1	2DK C-2	3DK E-1	車椅子住戸	合計	備考
洋風便器	BL 発品	1	2	2	2	2	2		10	節水型、密結ロータンク(防露付)
洗面器	VL 630	1	2	2	2	2	2		10	Sトラップ止水栓(アングル型・ストレート型)
洗濯機パン	900×640×85H	1	2	2	2	2	2		10	横引きトラップ、止め金具付
自在水栓	T30AR13	1	2	2	2	2	2		10	浴室用
〃	T31S13 ⊕TN52A13	1	2	2	2	2	2		10	台所用
万能ホーム水栓	T200BS13	1	2	2	2	2	2	2	12	洗濯機パン用
アングル形止水栓	T4A	1	2	2	2	2	2		10	浴室バランス釜用
クロムメッキプラグ	15A	1	2	2	2	2	2		10	台所湯沸器用(W文字入)
〃	15A	1	2	2	2	2	2		10	〃 (G文字入)
ヒューズホースコック	L-184 (Y型)	1	2	2	2	2	2	2	12	台所レンジ用
ヒューズコンセントコック	L 194 (LA型)	1	2	2	2	2	2	2	12	台所炊飯器用
可とう管コック	N-144A (L型)	1	2	2	2	2	2		10	浴室バランス釜用
量水器	13㎜ (貸与品)	1	2	2	2	2	2	2	12	
伸縮管	20×13	1	2	2	2	2	2		10	
	25×13							2	2	
ガスメーター	N-3 (貸与品)	1	2	2	2	2	2	2	12	
サービスコック	SC 25	1	2	2	2	2	2	2	12	ロック装置付
手付眼長ホーム水栓	T200BCS13								2	足洗場用
排水目皿	50A								2	〃
身障者便器	C48AR T4 ⊕S31	1						2	2	
身障者洗面器	L 103CF	1						2	2	シングルレバー混合水栓、止水栓2
湯水混合栓	TF 21AHN	1						2	2	台所用 シングルレバー混合栓
〃	T33BDS13(レバーハンドル)	1						2	2	浴室
シャワーバス水栓	TM115CDS(レバーハンドル)	1						2	2	〃
床排水トラップ	T5A50	2						4	4	浴室・便所
洗濯機トラップ	50A	1						2	2	
給湯器	比例制御16号	1						2	2	強制給排気式、ツインコン、トップ式 PH 16CCPT 相当品
天井換気扇	15㎝ 30㎥/H	2						4	4	アルミ製ベントキャップ100ヌ

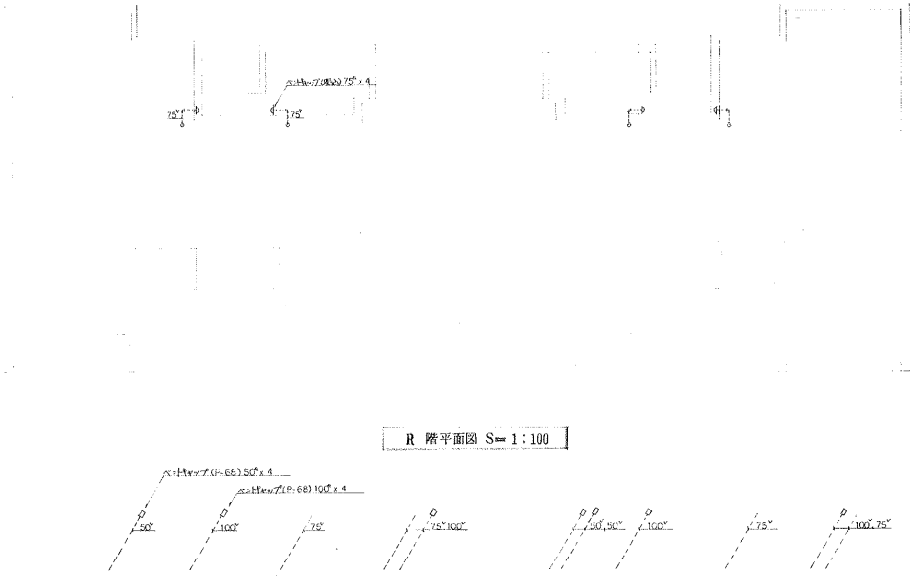


2 階平面図 S=1:100

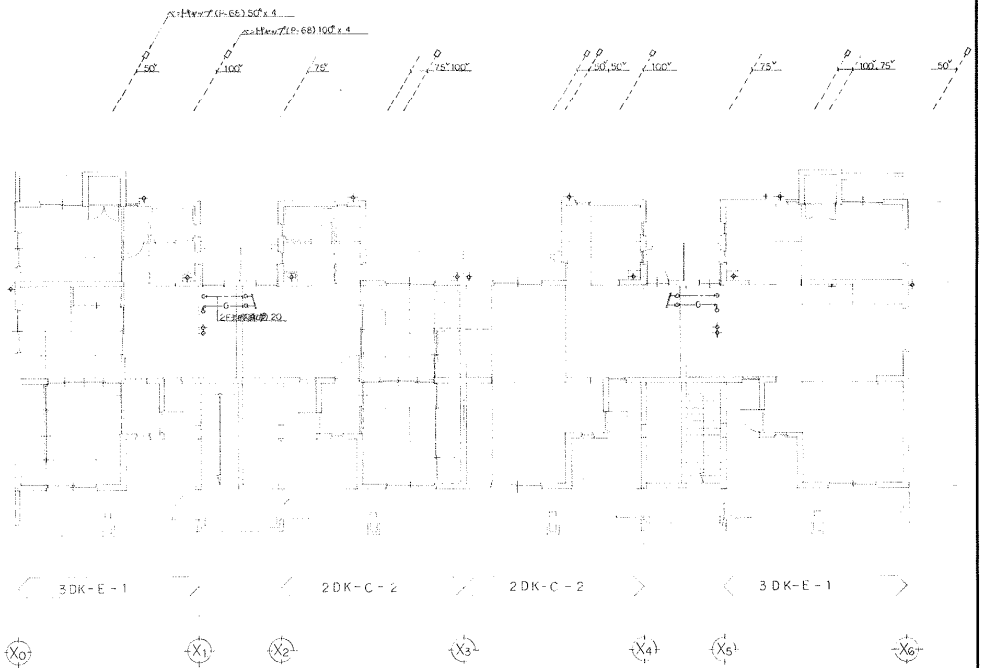


1 階平面図 S=1:100

□ ヒートを示す

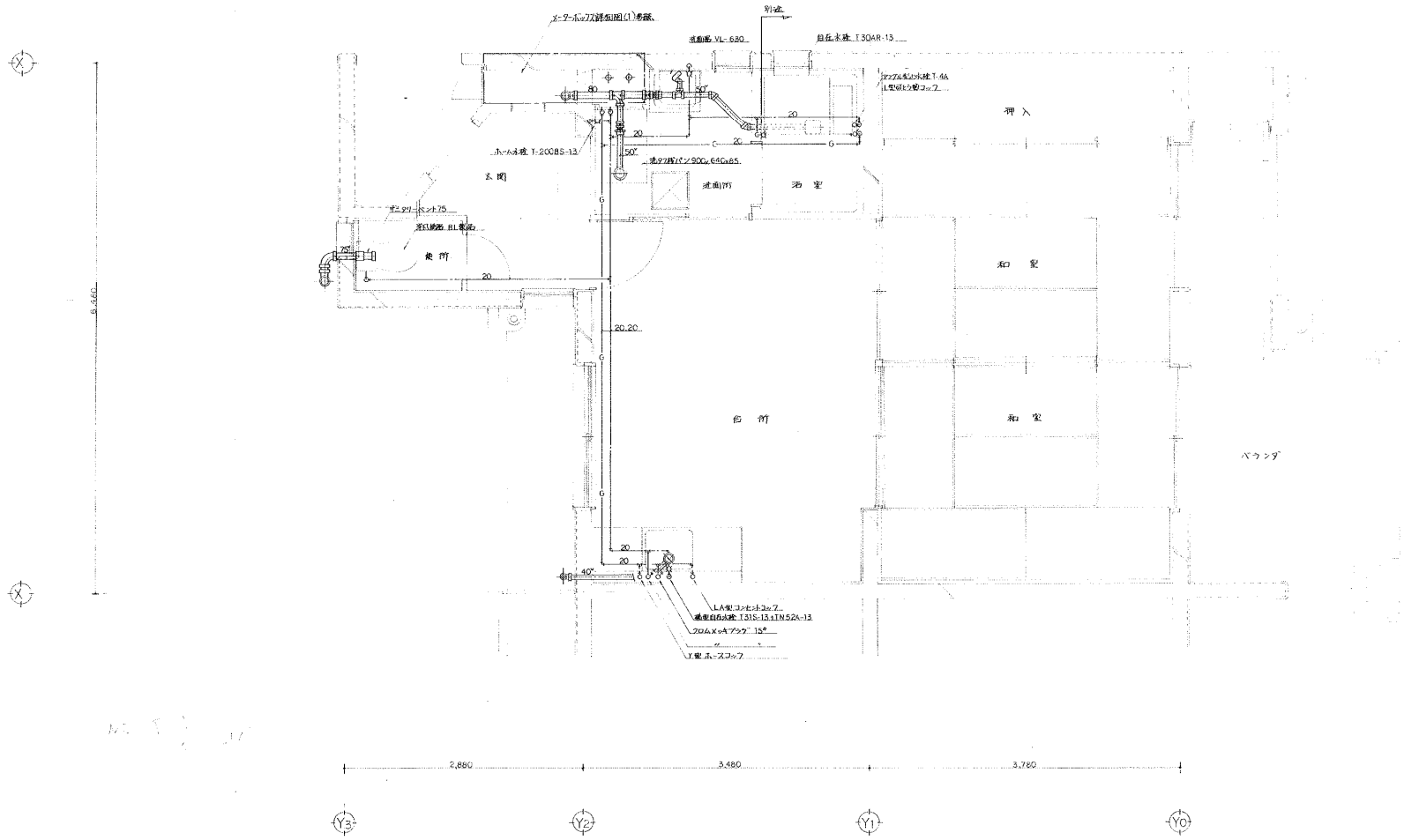


R 階平面図 S=1:100

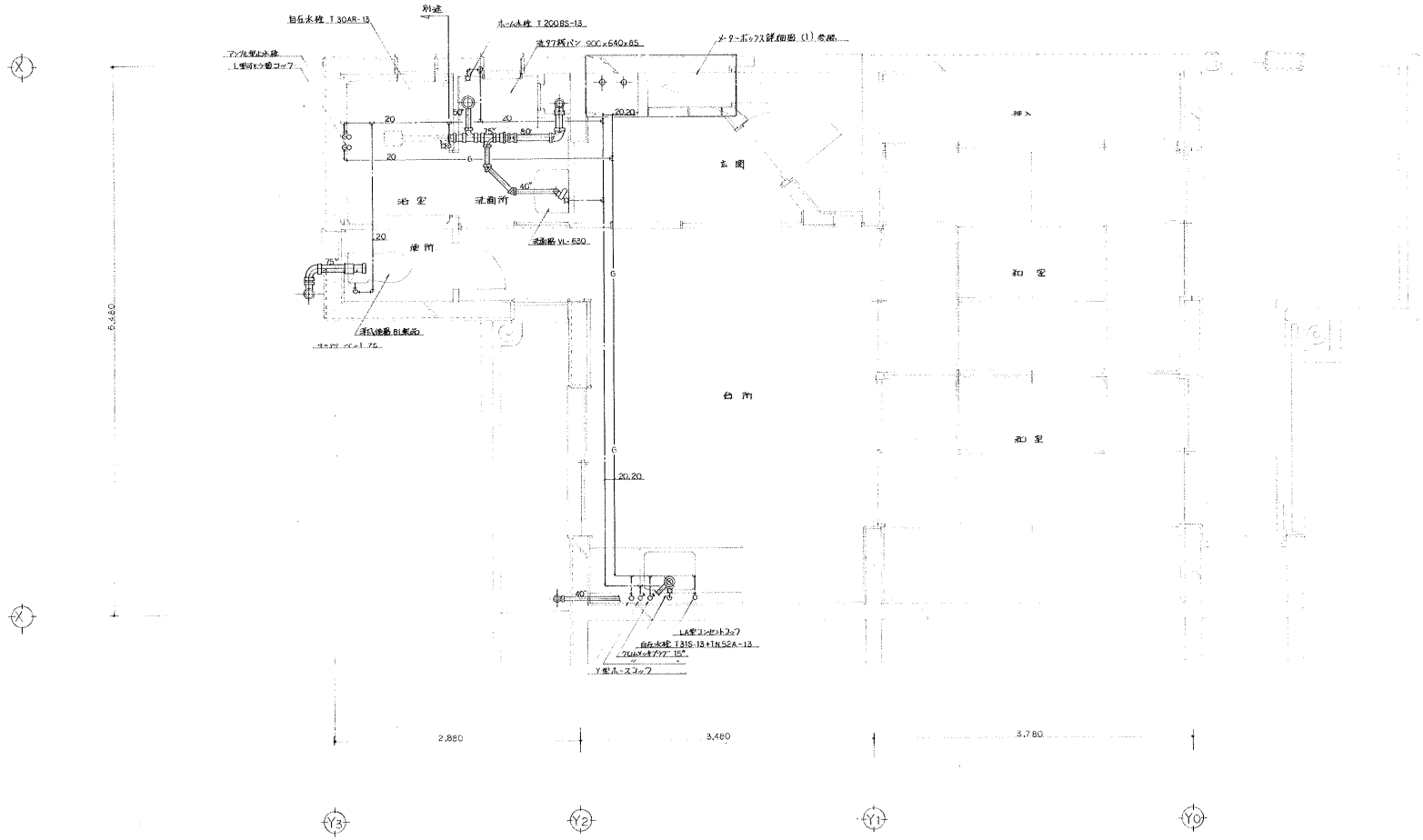


3 階平面図 S=1:100

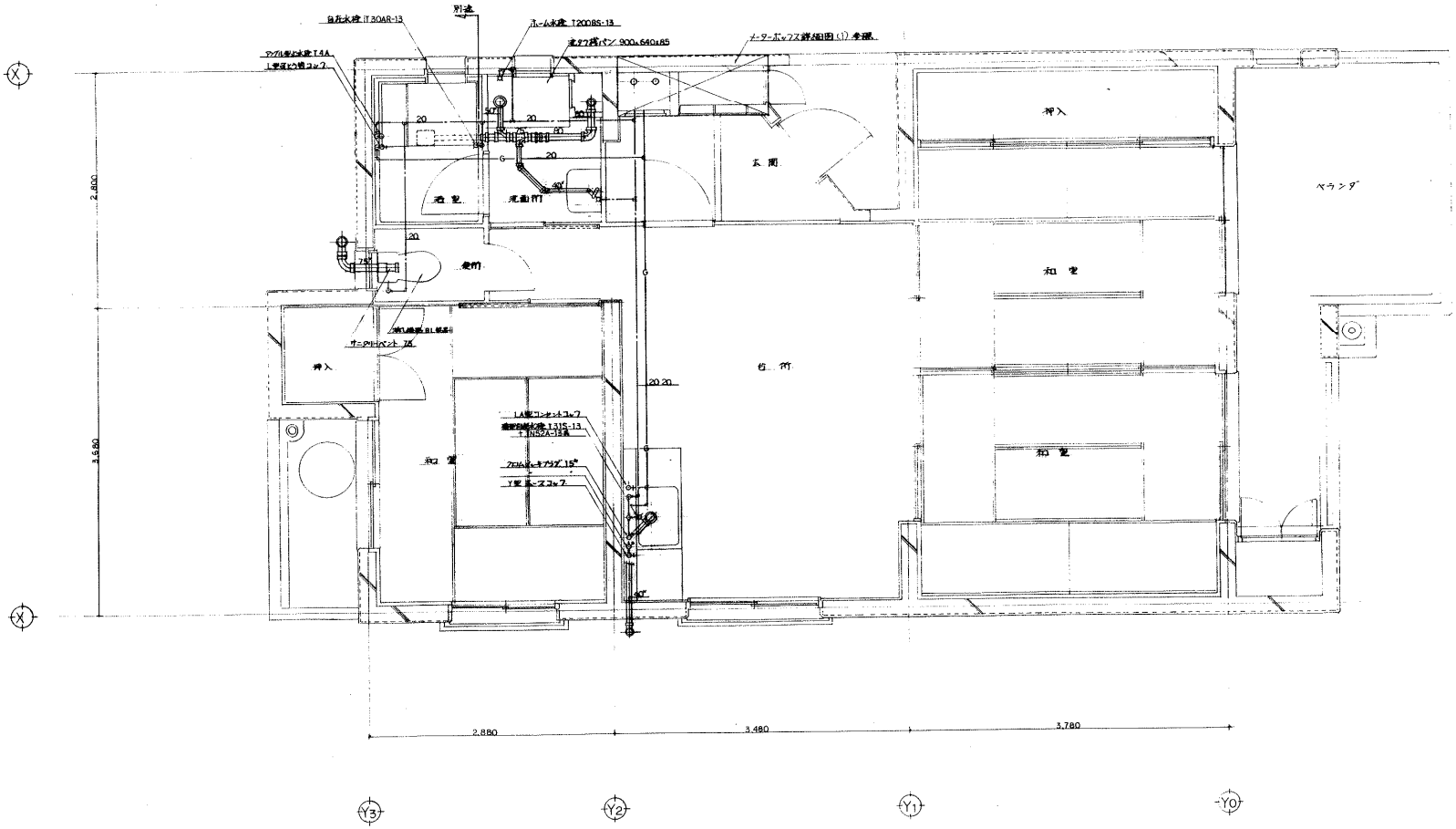
図面番号 7


メーターボックス詳細図(1)参照
引込
通風筒 VL-630
自在水栓 T30AR-13
ダブル6穴立水栓 T-4A
L型ロとう製コック
押入
ホース水栓 T-200BS-13
洗タク排パン 900φ 640φ 85
玄関
通風筒
浴室
ポケット 75
便所
和室
20,20
台所
和室
ベランダ
LA型コンセントコック
逆型自在水栓 T31S-13+TN52A-13
クロムメッキプラグ 15°
T型ホーススコック
2,880
3,480
3,780
Y3
Y2
Y1
Y0
X
X

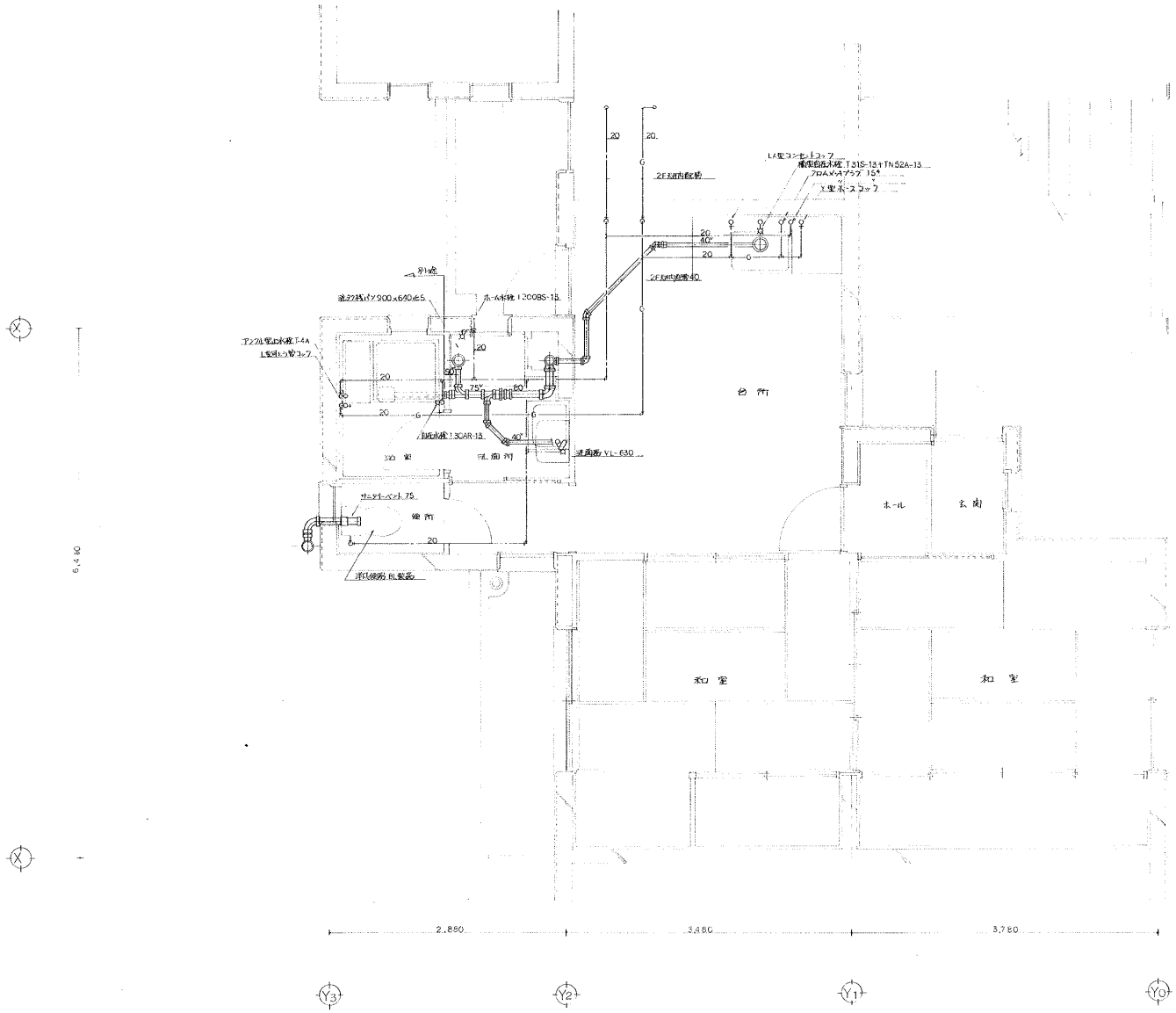
図面番号
3


別途
自石水栓 T 30AR-13
ホース水栓 T 200BS-13
逆ワク洗パン 500×540×85
メーターボックス 詳細図 (1) 参照
アングル型止水栓
L型同ネジ逆コック
20
50°
75°
40
20
20
20
40°
浴室
洗面所
便所
玄関
和室
和室
台所
洗面器 VL-620
20.20
20.20
75°
40°
L4型コンセントエルフ
自石水栓 T31S-13+LN52A-13
クロムメッキパイプ 15°
Y型ホースエルフ
5,460
2,880
3,460
3,780
Y3
Y2
Y1
Y0
X
X

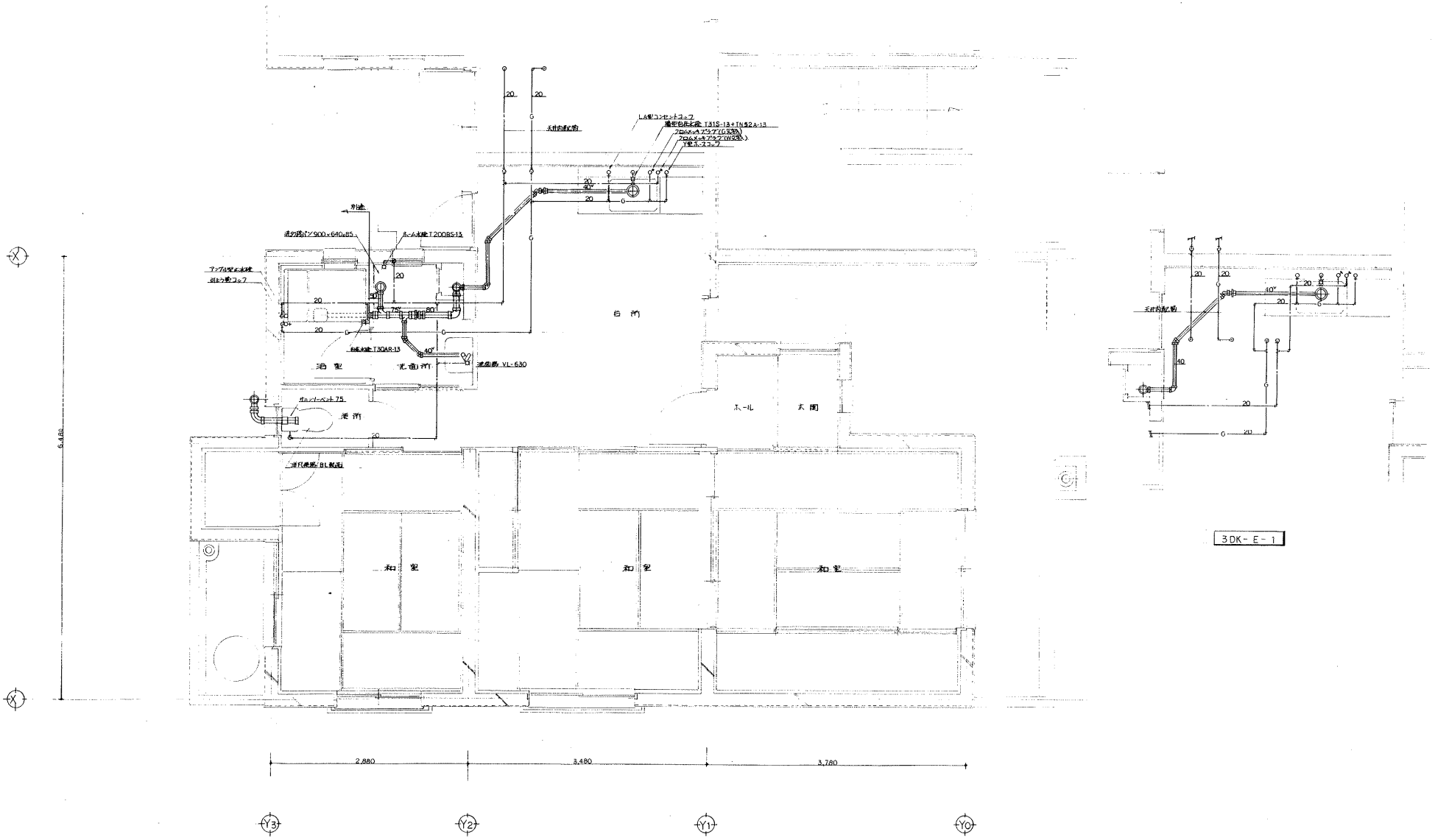
		図面番号 9


別途
自在水栓 iT30AR-13
ホーム水栓 T20085-13
ナーターボックス詳細図(1)参照
玄関
押入
ベランダ
和室
洋室
洗面室
便所
浴室
収納
2,800
3,580
2,880
3,480
3,780
X
Y3
Y2
Y1
Y0

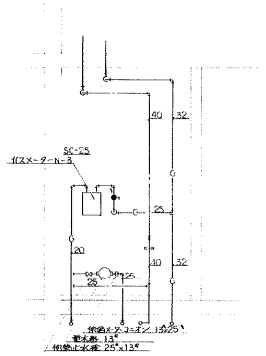
図面番号
10


LA型コンセットコア
複合自在水栓 T31S-13+TN52A-13
フロAX-Aアダプ 15A
2F天井点検口
2F天井点検口
ホ-AA栓 1200BS-13
ア2九型止水栓 T-4A
L型ホルダコア
75V
60
40
自在水栓 13CAR-13
洗面所
洗面所
洗面所 VL-630
サニタリーベント 75
建具
20
浴室
台所
ホール
玄関
和室
和室
2,880
3,880
3,780
5,460
Y3
Y2
Y1
Y0
X
X

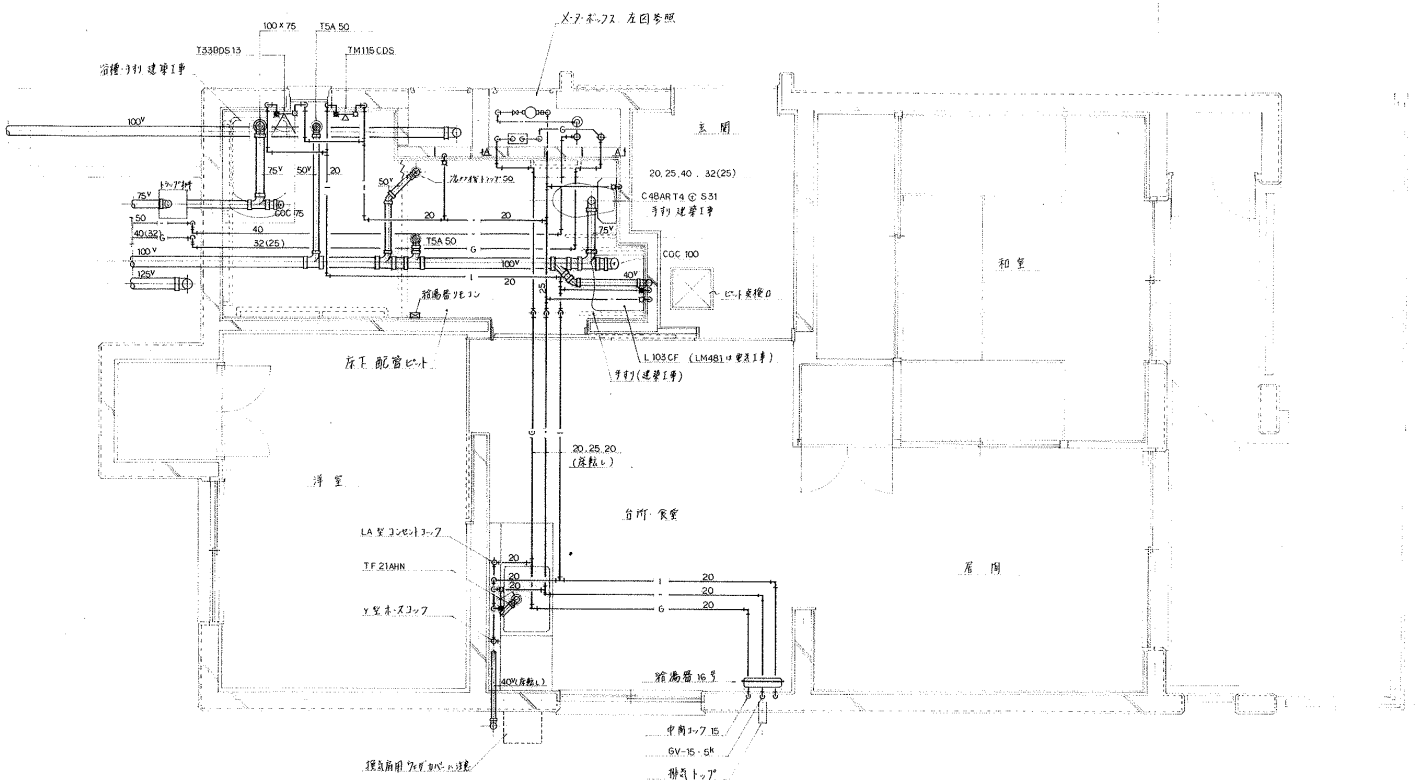
図面番号
11


LAN用コンセントユニット
天井内配管
浴室
洗面所
トイレ
ホール
玄関
和室
和室
和室
2,880
3,480
3,780
6,480
3DK-E-1

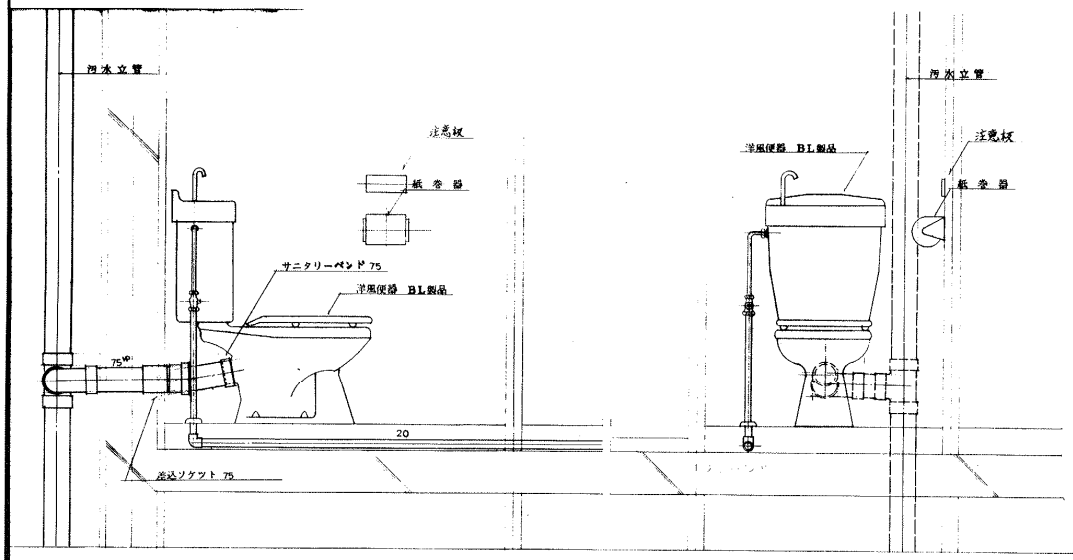
	図面番号 12



A－A 断面図 S=1/50

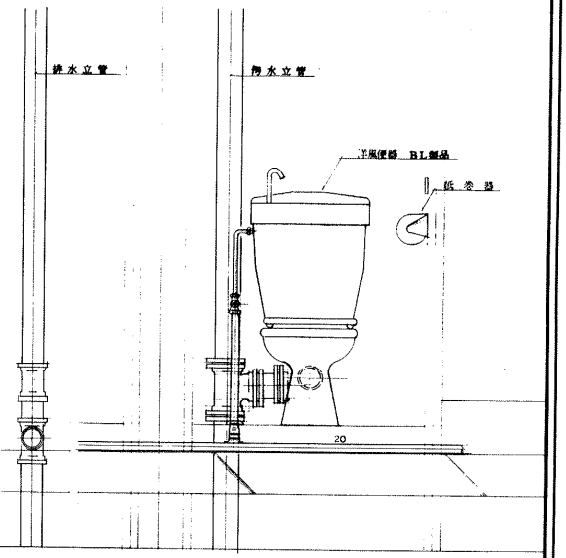


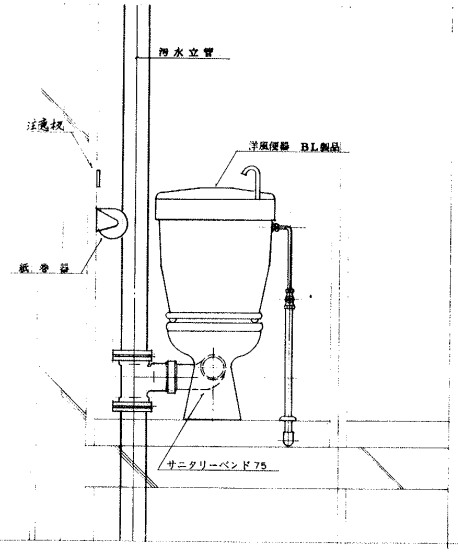
図面番号
13

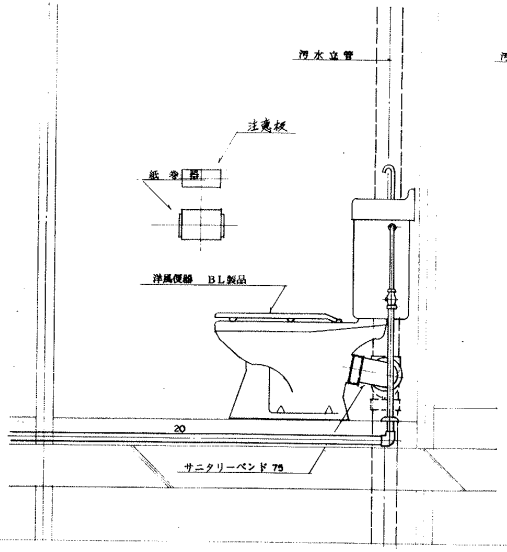


2DK-A.B.C

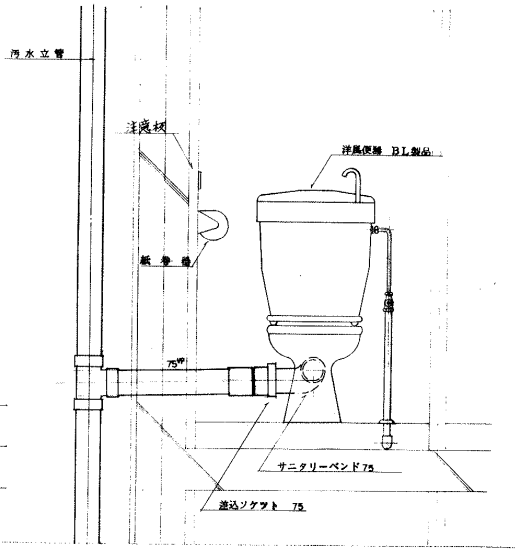
3DK—A·C·E





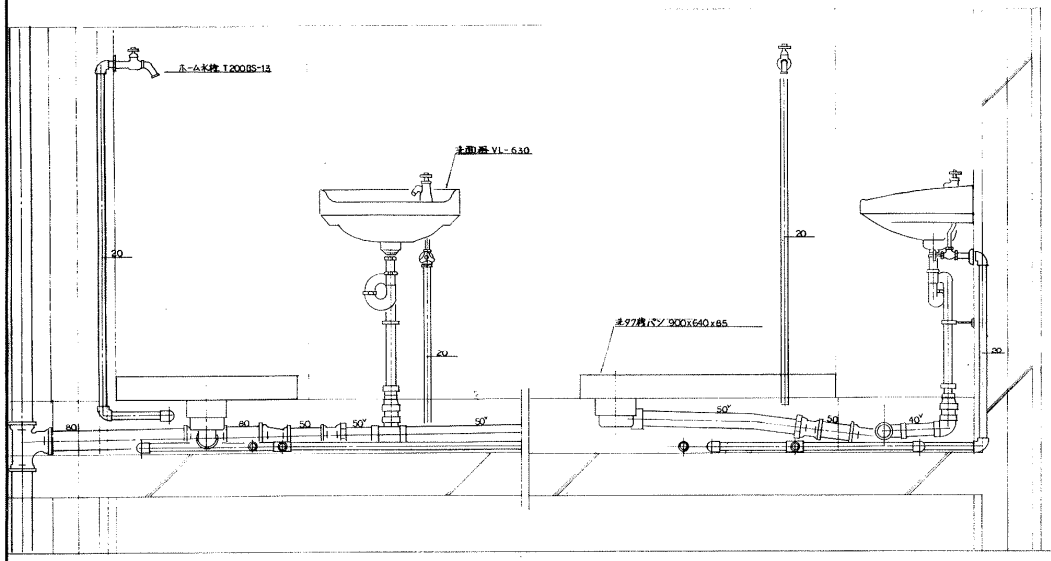


2DK- F

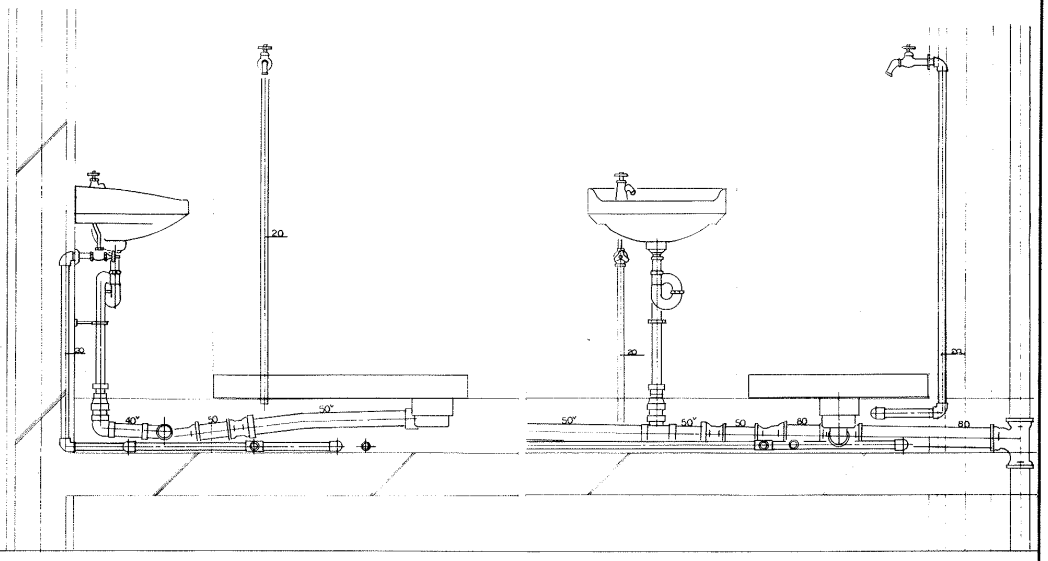


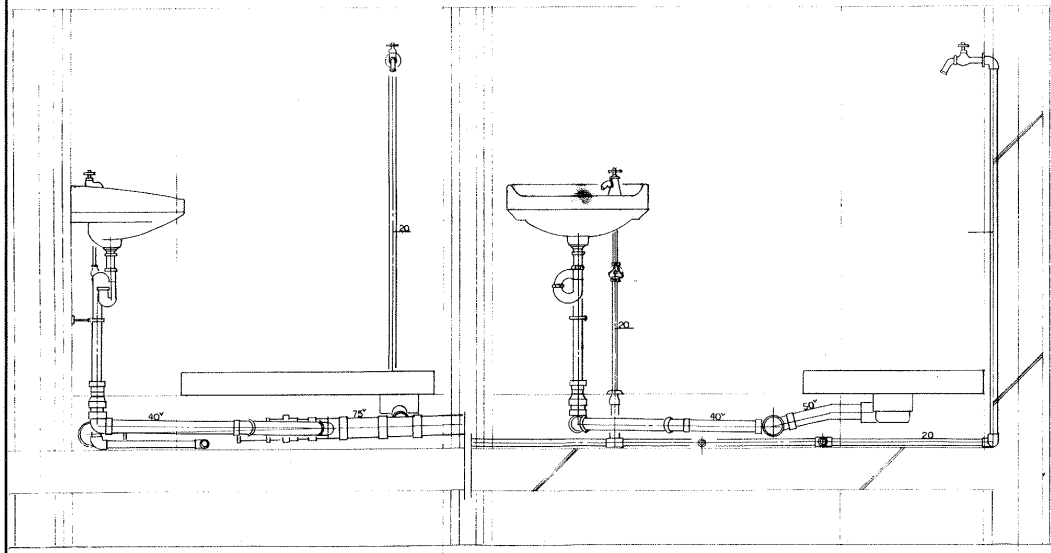
3DK-B.D.F.J

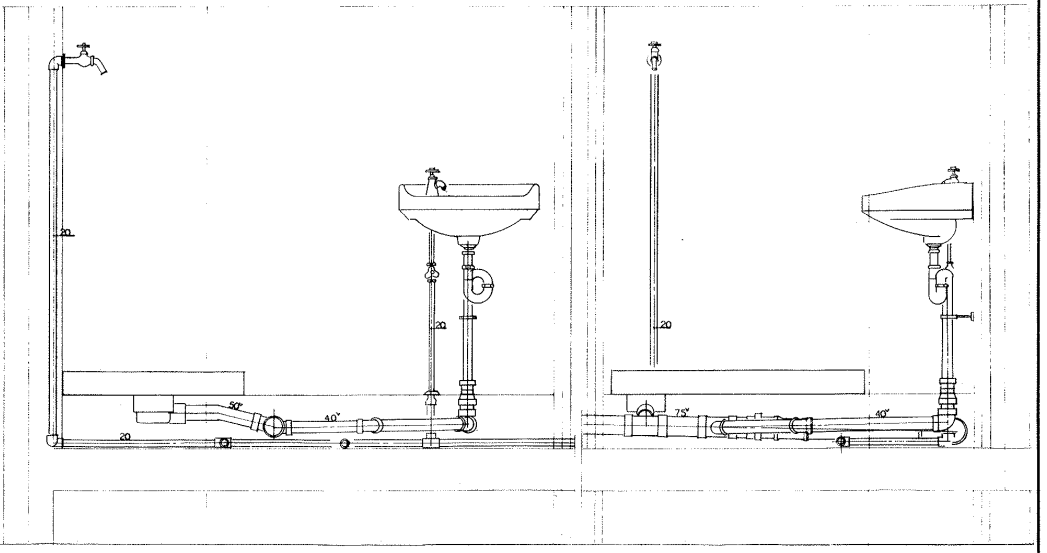
図面番号
14



2DK-A-2.

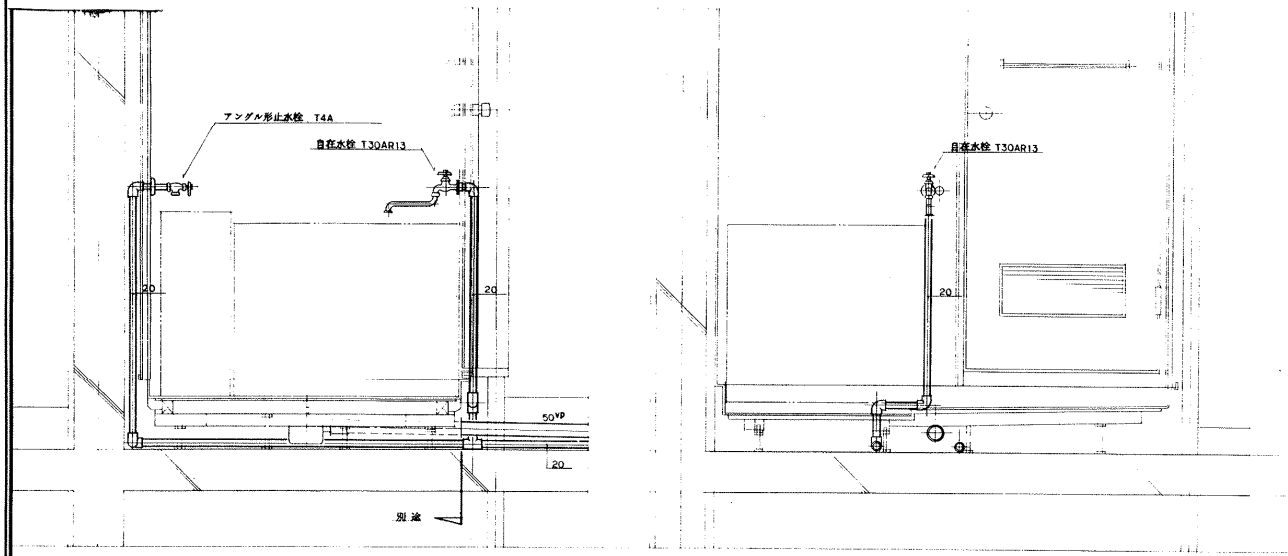




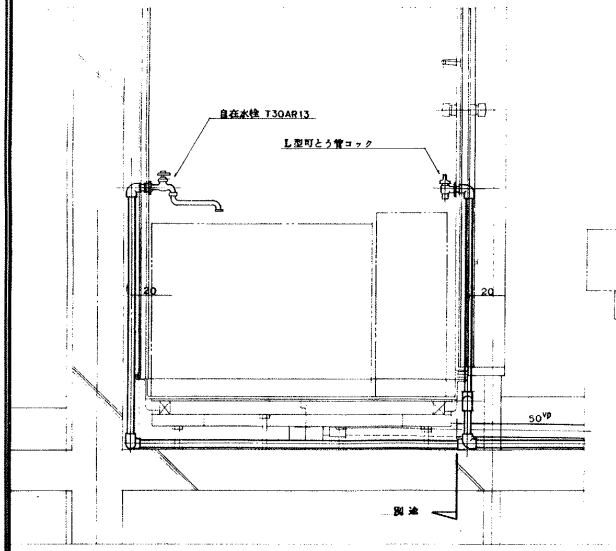


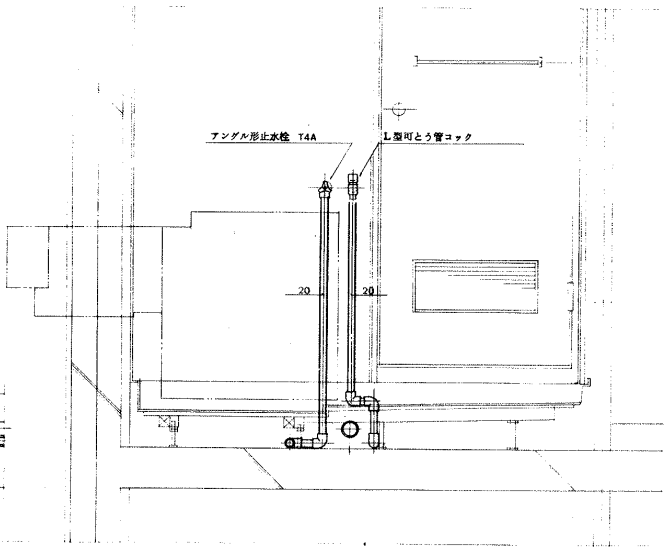
2DK-B-2.C-2. 3DK-C-2.E-1

	図面番号 15

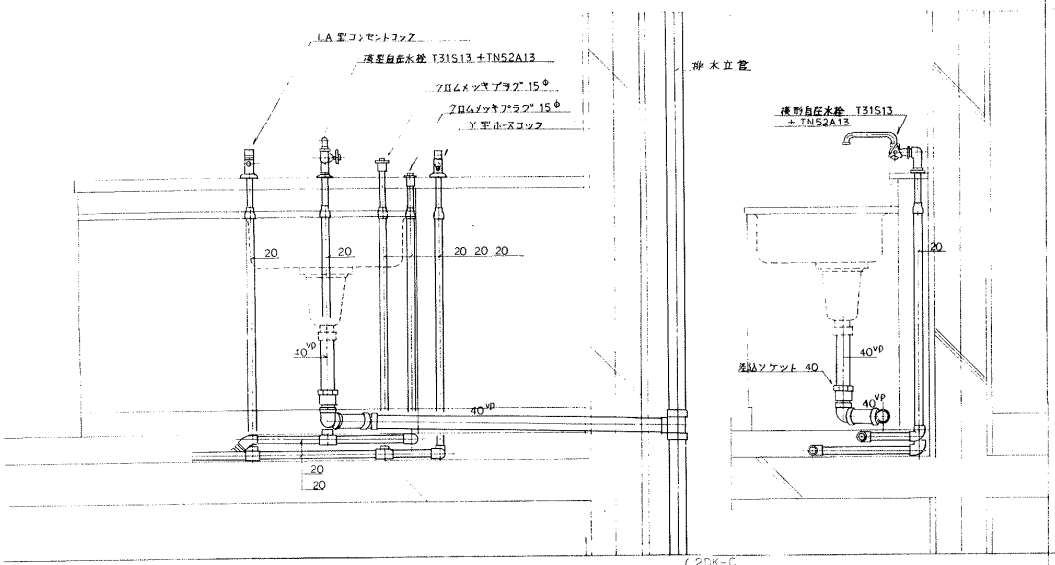


全タイプ共通

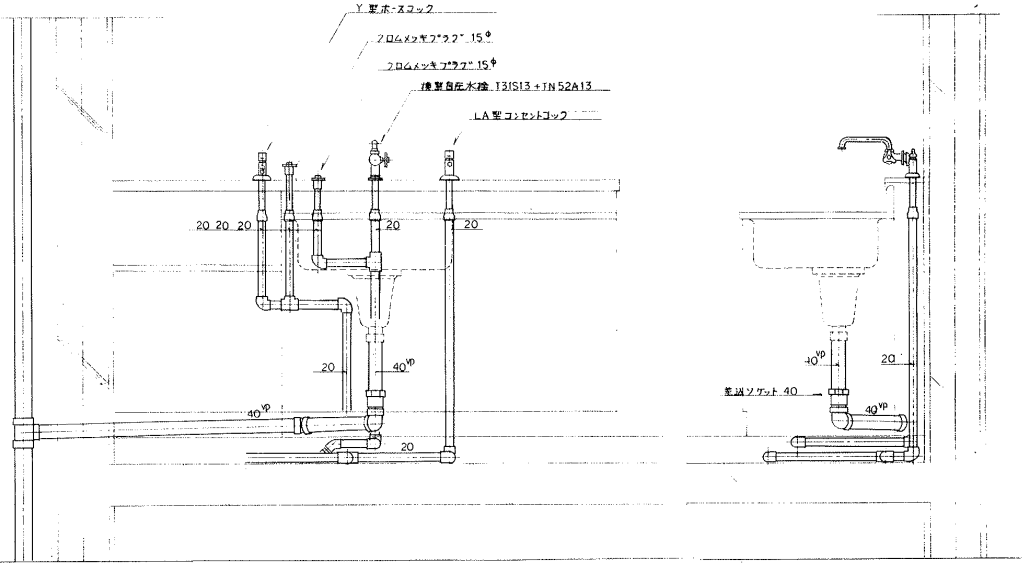




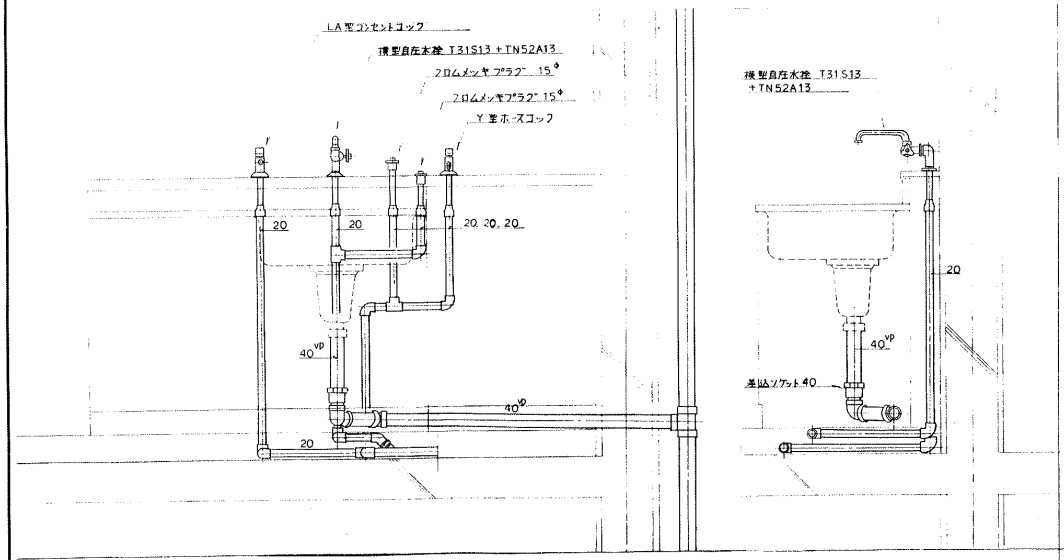
図面番号 16

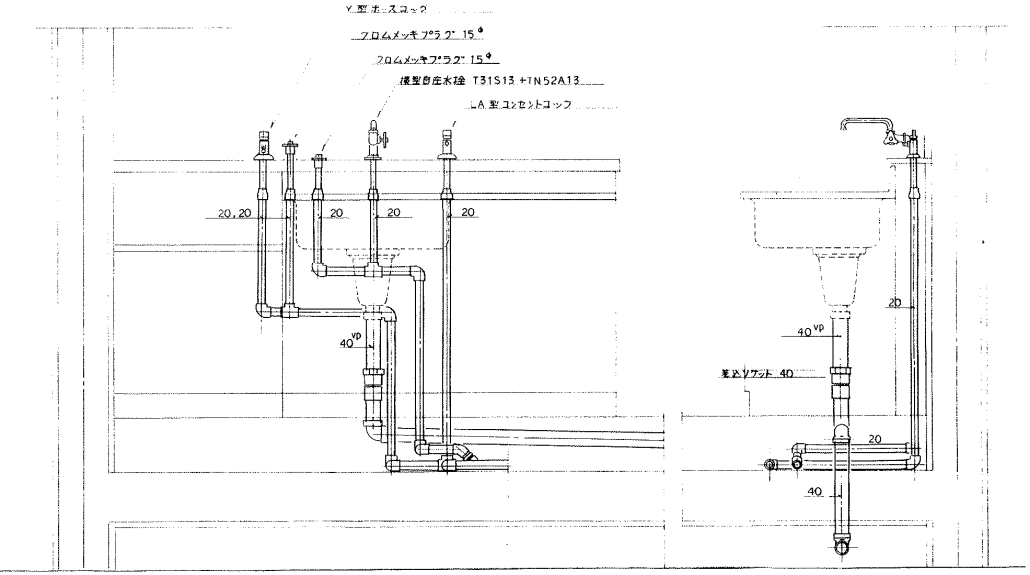


2DK-A-2, E-2, C-2　　3DK-E-1　（2DK-C
（3DK-Eの排水管は3DK-Cに準ずる）

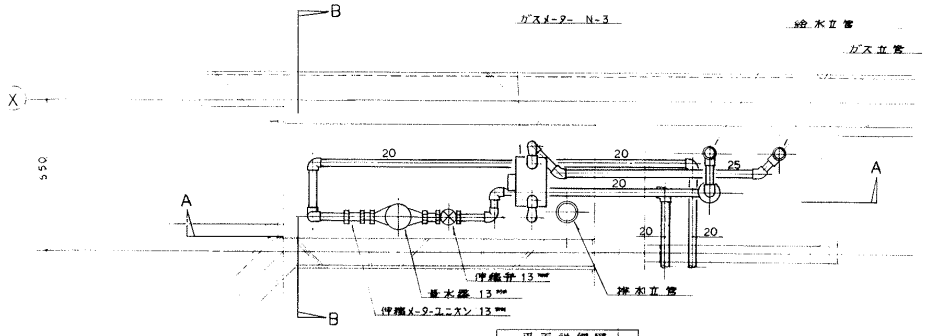


3DK-Cの排水管

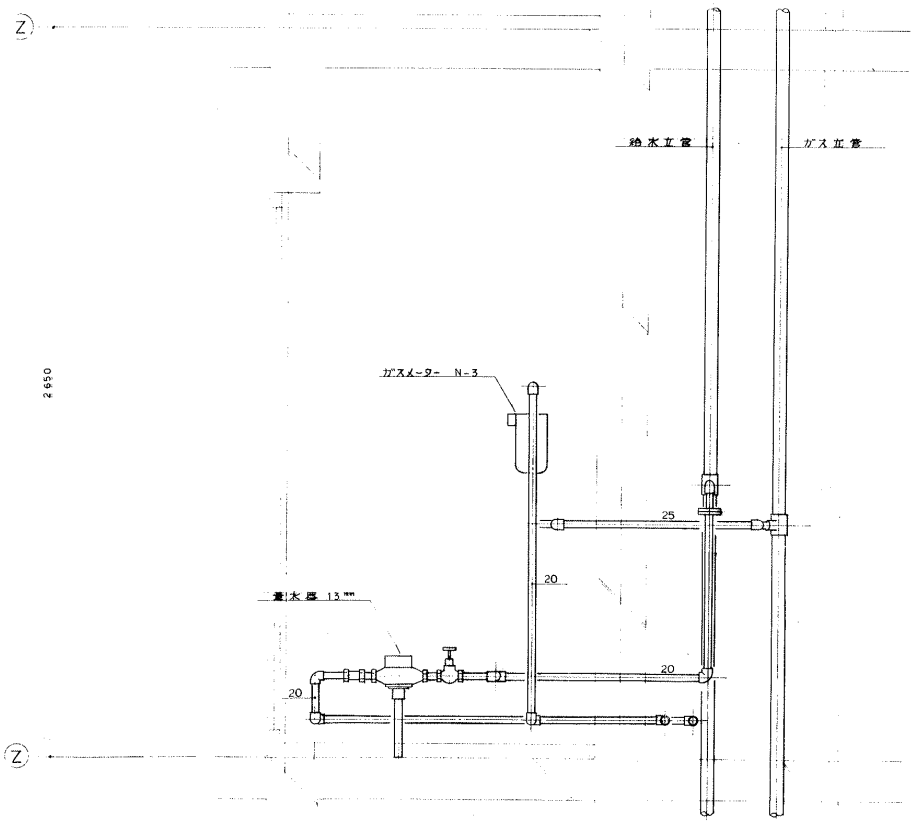




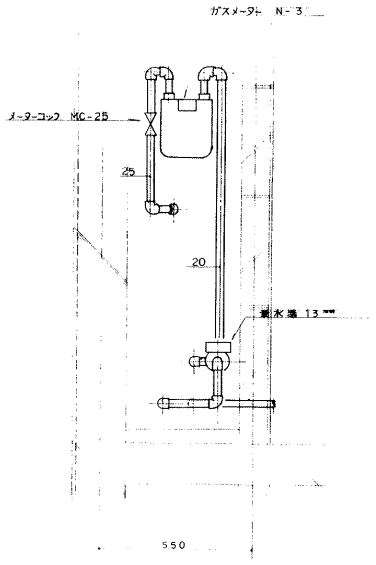
図面番号
17



平面詳細図

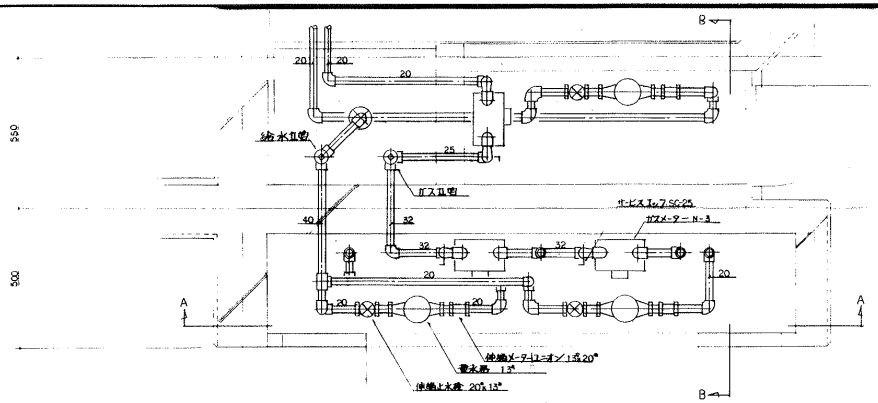


A－A 断面図

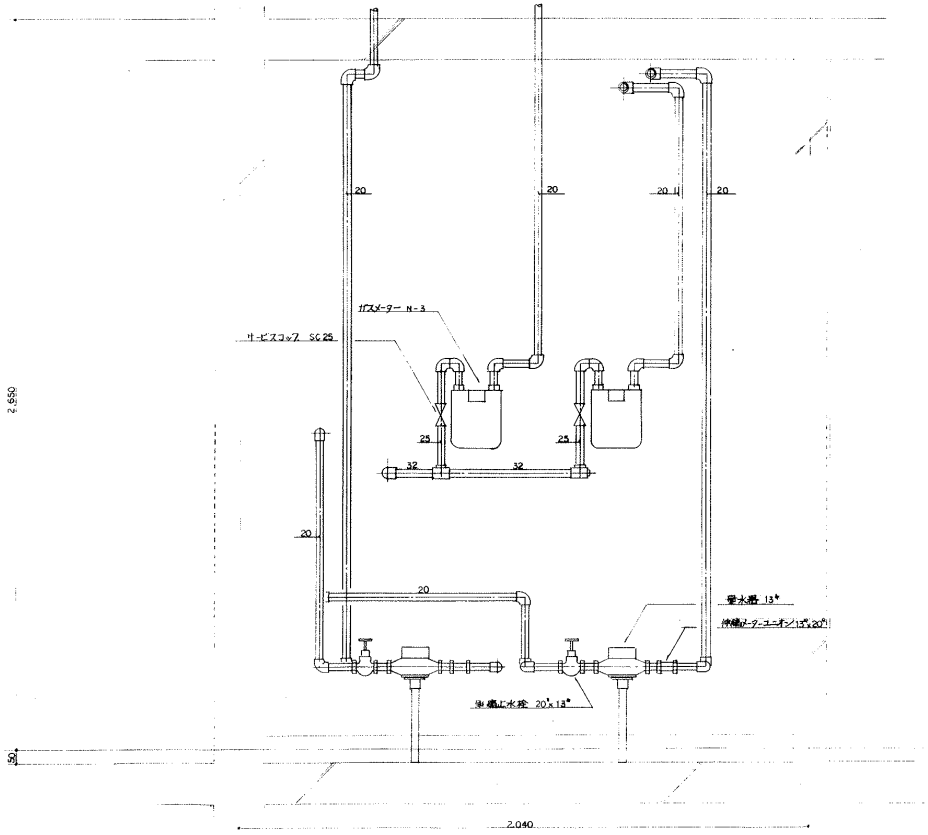


B－B 断面図

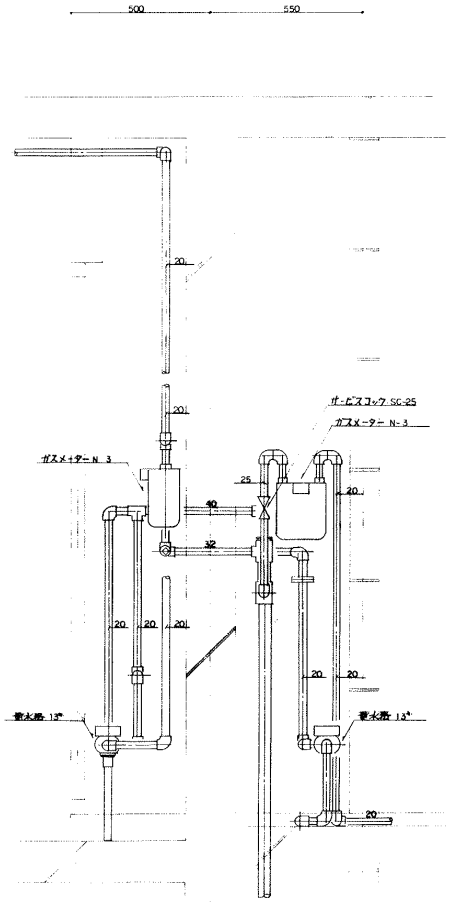
図面番号
18



平面詳細図



A-A 断面図



B-B 断面図

		図面番号 19